

2013(平成25)年9月 実施

第42回 足立区政に関する世論調査

定住性／大震災などの災害への備え／区の情報発信のあり方／
健康／ビューティフル・ウィンドウズ運動／
環境・地域活動／「孤立ゼロプロジェクト」など／ユニバーサルデザイン／区取り組み



2014(平成26)年3月

足立区

は じ め に

区の「重点プロジェクト」の進行状況を評価いただく区民評価委員の皆様から、「事業の周知が十分でなく、区民に情報が行き届いていない」と毎回ご指摘をいただいております。区でも平素から、テレビ・新聞・広報紙・ホームページ・Aメール・ツイッターなど、あらゆる媒体を通じて情報発信に努めておりますが、決して十分とはいえない状態です。そこで毎年3千人の区民の皆様にご協力をいただき、「足立区政に関する世論調査」を行い、実態の把握に努めております。

この度、調査結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。今後とも誇りや愛着を持って、区民の皆様から「住み続けたい」と思われるまちづくりに一層力を注いでまいりますので、皆様のご理解ご協力、何よりもご参画をよろしくお願い申し上げます。

平成26年3月

足立区長 近藤 やよい

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 調査ブロック	4
5. 調査方法	5
6. 回収結果	5
7. 報告書の見方	7
8. 標本構成	10
第2章 調査結果の要約	15
1. 定住性	17
2. 大震災などの災害への備え	18
3. 区の情報発信のあり方	19
4. 健康	20
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	21
6. 環境・地域活動	22
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	23
8. ユニバーサルデザイン	24
9. 区の取り組み	25
第3章 調査結果の分析	27
1. 定住性	31
（1）居住地域の評価	31
（2）居住地域評価の経年比較	40
（3）地域の暮らしやすさ	45
（4）特に暮らしにくいと感ずること	50
（5）定住意向	53
2. 大震災などの災害への備え	63
（1）備蓄や防災用具などの用意	63
（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	67
（3）備蓄量	70
（4）災害発生時の水や食料の確保	75
（5）家具類の転倒・落下・移動防止対策	78
（6）対策をしていない理由	81
（7）家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知	83
（8）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと	87
3. 区の情報発信のあり方	93

(1) 区に関する情報の入手手段	93
(2) 区が発信する必要がある情報	96
(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況	98
(4) 区の情報が得られない理由	100
4. 健康	103
(1) 糖尿病の認知状況	103
(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識	105
(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知	107
(4) 1日野菜350g以上の摂取	109
(5) 体調や習慣	111
(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの	116
5. ビューティフル・ウィンドウズ運動	121
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	121
(2) 平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知	124
(3) 居住地域の治安状況	127
(4) 区内の治安が良いと感じる点	130
(5) 区内の治安が悪いと感じる点	132
(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと	134
(7) 駐輪時の鍵かけ状況	137
6. 環境・地域活動	143
(1) 環境のために心がけていること	143
(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向	145
(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価	150
7. 「孤立ゼロプロジェクト」など	155
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	155
(2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路	158
(3) 「地域包括支援センター」の認知状況	159
(4) 「地域包括支援センター」の認知経路	162
(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	163
(6) 協力意向がある活動内容	166
(7) 「成年後見制度」の認知状況	167
8. ユニバーサルデザイン	171
(1) ユニバーサルデザインの認知状況	171
(2) ユニバーサルデザインへの関心度	173
(3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み	175
(4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み	176
9. 区の取り組み	181
(1) 満足度と重要度	181
(2) 区政への区民意見の反映度	193
(3) 区に対する気持ち	196
(4) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	206

（５）本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	210
----------------------------	-----

第４章 使用した調査票	213
-------------	-----

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の内容

今回の調査では9項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 区の情報発信のあり方
- (4) 健康
- (5) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (6) 環境・地域活動
- (7) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (8) ユニバーサルデザイン
- (9) 区の取り組み

3. 調査の設計

- | | |
|--------------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 平成25年9月1日（日）～9月25日（水） |
| (6) 調査機関 | （株）サーベイリサーチセンター |

4. 調査ブロック

図1 ブロック区分図

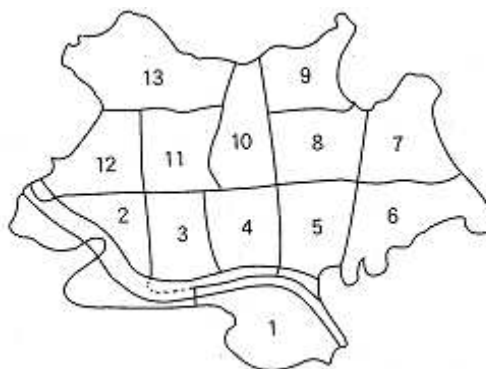


表1 調査ブロックー町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

5. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法（依頼状、督促状ともに1回）
 (2) 調査票 4章の調査票を使用

6. 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回収数 1,962票 有効回収率 65.4%
 (3) 回収不能数 1,038票 回収不能率 34.6%

- (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロックー地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区 全 体	557,879人	100.0%	3,000票	1,962票	65.4%
第1ブロック	62,557	11.2	331	215	65.0
第2ブロック	39,640	7.1	214	148	69.2
第3ブロック	35,552	6.4	192	121	63.0
第4ブロック	47,132	8.4	255	158	62.0
第5ブロック	51,462	9.2	278	180	64.7
第6ブロック	60,738	10.9	329	205	62.3
第7ブロック	44,793	8.0	242	159	65.7
第8ブロック	36,505	6.5	197	136	69.0
第9ブロック	27,353	4.9	148	92	62.2
第10ブロック	47,307	8.5	256	164	64.1
第11ブロック	35,501	6.4	191	132	69.1
第12ブロック	29,851	5.4	162	111	68.5
第13ブロック	39,488	7.1	205	139	67.8

(20歳以上人口は平成25年8月1日現在)

※有効回収数のうち2票はブロック不明

第1章 調査の概要

(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000票	1,962票	65.4%
男性（計）	1,530	901	58.9
20 代	209	85	40.7
30 代	269	129	48.0
40 代	313	170	54.3
50 代	227	145	63.9
60 代	249	174	69.9
70歳以上	263	198	75.3
女性（計）	1,470	1,019	69.3
20 代	172	85	49.4
30 代	251	174	69.3
40 代	277	176	63.5
50 代	180	144	80.0
60 代	222	191	86.0
70歳以上	368	247	67.1
無 回 答		42	

(注) この表での無回答は「性」を回答していない数を掲載している。また、「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げても「性」（計）の数とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問1の〈居住地域の評価〉における『そう思う(計)』のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団（足立区在住の満20歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。」という質問に対して、「暮らしやすい」と答えた人は、1,962人のうち23.7%であった。回答者数が1,962人、回答率が20%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±1.81%であるから、「暮らしやすい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体（母集団）の21.89%から25.51%であると推定できる。

〈 標本誤差算出式 〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数（足立区の20歳以上人口）

n = 比率算出の基数（回答者数）

P = 回答の比率（0 ≤ P ≤ 1）

〈 早見表 〉

回答の比率(P) 基 数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,962	± 1.35	± 1.81	± 2.07	± 2.21	± 2.26
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00

〈 早見表 － 性・年代別 〉

回答の比率(P) 基 数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全 体	1,962	± 1.35	± 1.81	± 2.07	± 2.21	± 2.26
男性 (計)	901	± 2.00	± 2.67	± 3.05	± 3.26	± 3.33
20 代	85	± 6.51	± 8.68	± 9.94	±10.63	±10.85
30 代	129	± 5.28	± 7.04	± 8.07	± 8.63	± 8.80
40 代	170	± 4.60	± 6.14	± 7.03	± 7.51	± 7.67
50 代	145	± 4.98	± 6.64	± 7.61	± 8.14	± 8.30
60 代	174	± 4.55	± 6.06	± 6.95	± 7.43	± 7.58
70歳以上	198	± 4.26	± 5.69	± 6.51	± 6.96	± 7.11
女性 (計)	1,019	± 1.88	± 2.51	± 2.87	± 3.07	± 3.13
20 代	85	± 6.51	± 8.68	± 9.94	±10.63	±10.85
30 代	174	± 4.55	± 6.06	± 6.95	± 7.43	± 7.58
40 代	176	± 4.52	± 6.03	± 6.91	± 7.39	± 7.54
50 代	144	± 5.00	± 6.67	± 7.64	± 8.16	± 8.33
60 代	191	± 4.34	± 5.79	± 6.63	± 7.09	± 7.24
70歳以上	247	± 3.82	± 5.09	± 5.83	± 6.23	± 6.36

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

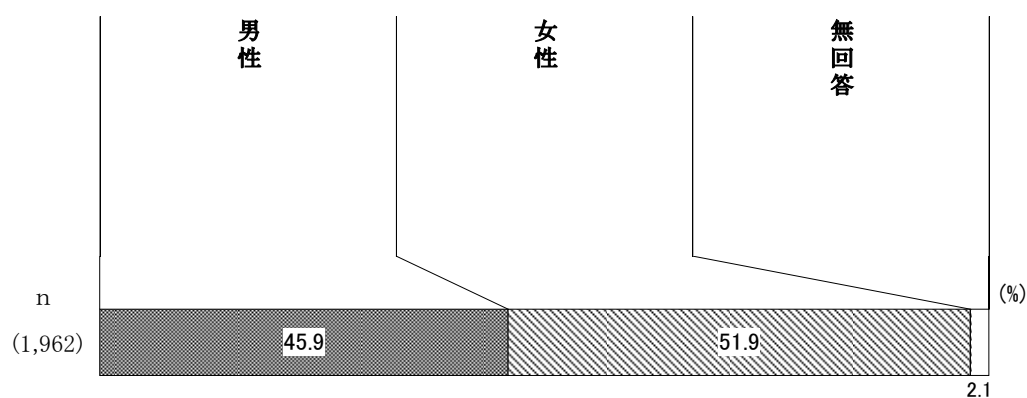
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別……（13カテゴリー）
- ② 性 別……（2カテゴリー）
- ③ 性・年代別……（12カテゴリー）
- ④ ライフステージ別……（7カテゴリー）
 - ・独身期 40歳未満の独身者
 - ・家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - （家族成長小学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - （家族成長中学校期） 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・高齢期 本人が65歳以上の人
 - （一人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - （夫婦二人暮らし高齢者） 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - （その他の高齢者） 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - （壮年独身者） 本人が40歳～64歳で独身
 - （壮年夫婦のみ者） 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別……（8カテゴリー）
- ⑥ 職業別……（8カテゴリー）
- ⑦ 就労（就学場所）別……（6カテゴリー）
- ⑧ 居住年数別……（5カテゴリー）

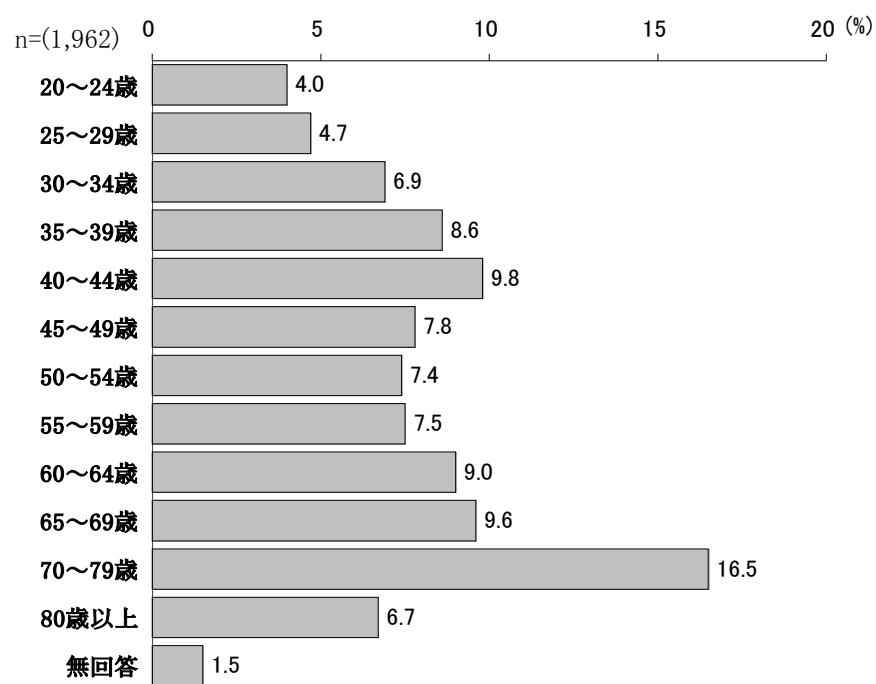
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

8. 標本構成

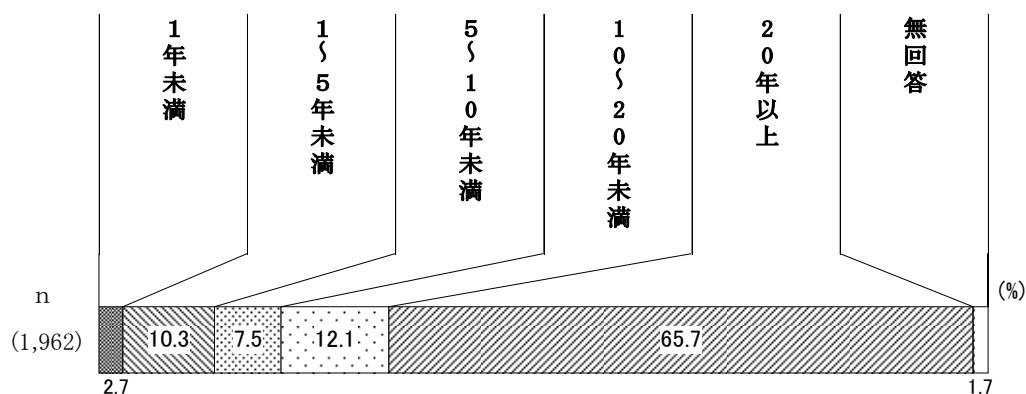
F 1 性別



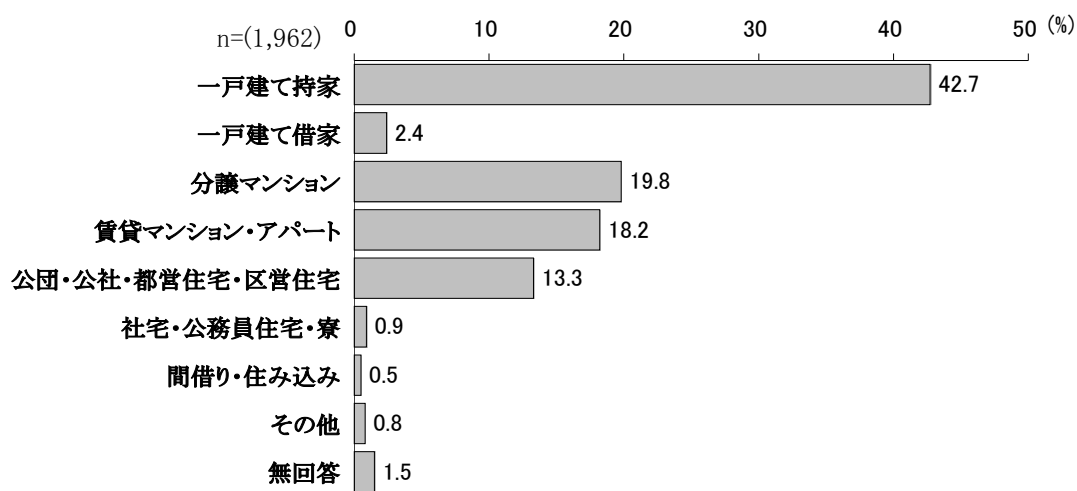
F 2 年齢



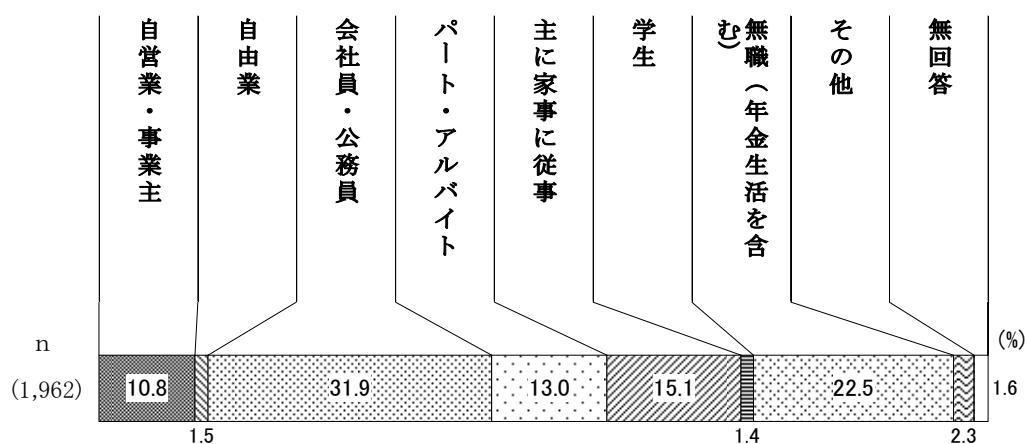
F 3 居住年数



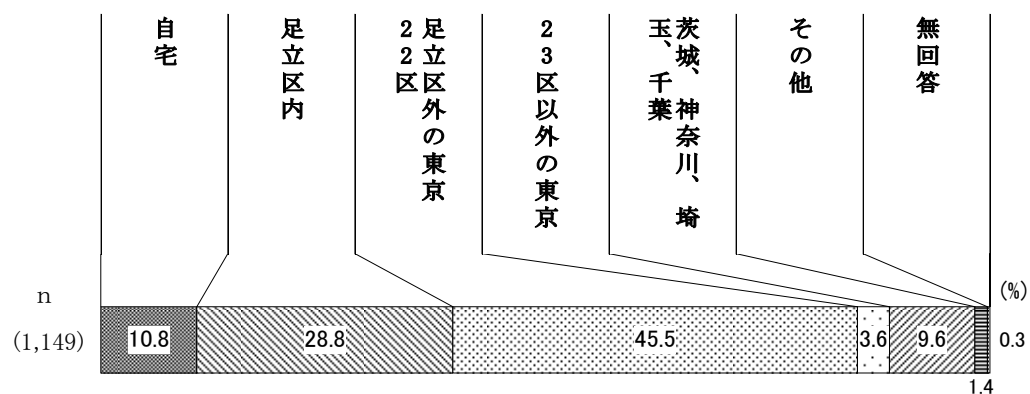
F 4 住居形態



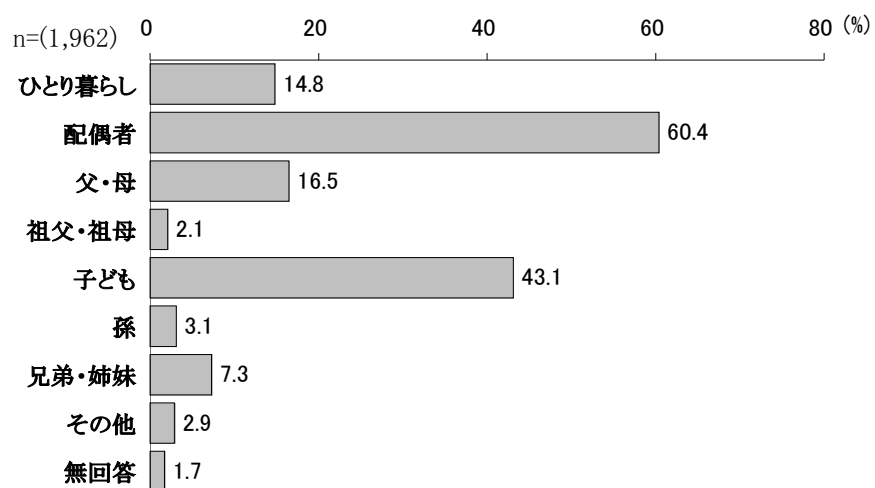
F 5 職業



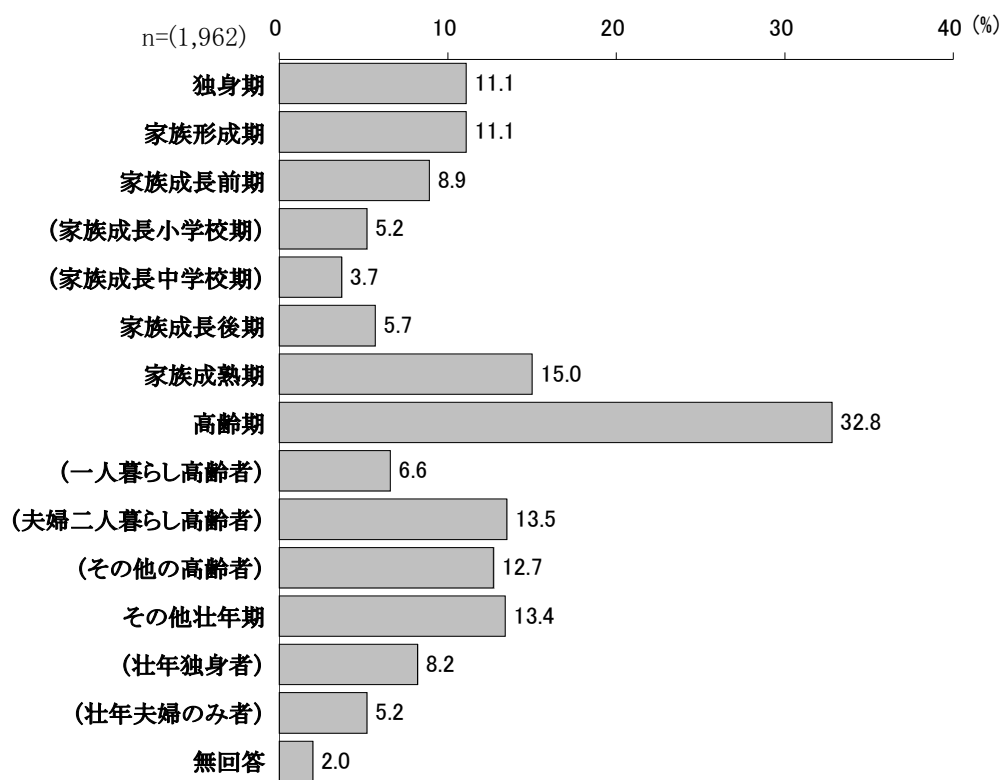
F 6 就労、就学場所



F 7 同居家族（複数回答）



F 8 ライフステージ



第2章 調査結果の要約

1. 定住性

居住地域の評価については、〈通勤や通学などの交通の便がよい〉〈普段の買い物が便利である〉など多くの項目で、平成24年度調査結果に比べて、肯定的な評価（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が増加しており、全体として区民の居住環境への評価は着実に高まってきている。しかしながら、〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉は、肯定的な評価が増加しているとはいえ、依然として、否定的な評価（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が6割を超えており、今後も区民のマナー意識の向上が求められる。

また、〈まちなかの花や緑〉や〈防犯パトロール〉など、環境面、防犯面については、平成24年度調査に比べて、【増えている】（「どちらかといえば増えている」＋「明らかに増えている」）が、いずれも今回20.0ポイント以上増加しており、取り組みの成果が顕著に現れた結果となっている。

一方、〈ごみやタバコのポイ捨て〉〈ペットの糞〉については、いずれも【減っている】（「明らかに減っている」＋「どちらかといえば減っている」）は、ほぼ横ばいとなっており、こうした区民のマナー意識の一層の向上が求められる。

このように、居住地域の利便性の良さ、環境面、防犯面の取り組みなどへの評価が高まる中であって、区の暮らしやすさへの評価は、今回も【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）との評価は8割近くを占めている。

しかしながら、地域ブロック別でみると、第2、第9、第12ブロックのように【暮らしやすい】がやや低く、【暮らしにくい】（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が、3割前後と他のブロックより高くなっている地域もあり、今後は、こうした地域差を解消していくことが重要である。

また、【定住意向】（「ずっと住みたい」＋「当分は住みたい」）についても、平成21年以降、毎年75.0%を超えて、高い水準で推移しており、暮らしやすさへの高い評価とほぼ対応した結果となっている。その一方で、第12ブロックのように、【定住意向】が7割を下回るブロックもある。

今後は、評価の低い分野への取り組みを一層強化し、地域の別なく、区の暮らしやすさへの評価を向上させ、区民の定住意向を強めていくことが課題である。

2. 大震災などの災害への備え

東日本大震災から約2年半が経過したが、区民の防災意識や日頃の備えはどのようなになっているのだろうか。

備蓄や防災用具、買い置きなどの用意については、【備蓄・買い置きあり】（「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」＋「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」）は、平成24年度調査結果の73.9%から、今回68.3%へと低下し、とくに「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が1割近く減少している。

このように、年月の経過とともに、区民の防災への意識がやや低下しており、今後も区民の防災意識を高めていくよう、日頃から啓発していくことが重要である。

備蓄や防災用具、買い置きなどの内容としては、「水」「食料」「あかり」が8割を超えて高くなっているのに対して、「医薬品（常備薬を含む）」は4割強、「救急セット」「簡易トイレ」は2割前後に留まっており、備蓄内容には大きな差がある。

また、水と食料の備蓄量については、いずれも「1日分以上3日分未満」が4割を超えて高くなっており、「3日分以上1週間分未満」は2割台、「1週間分以上」は1割前後に留まっている。

今後は、医療やトイレをはじめとして、備蓄内容をより充実させるとともに、水や食料の備蓄量についても、国の「最低3日分、可能であれば1週間」という目標に少しでも近づくよう、区民の取り組みを促進していくことが重要である。

とくに、災害時の水や食料の確保については、「考えていない」「通常どおりスーパーなどで購入する」と回答している人が、若い世代を中心として、かなりの数に上っている。こうした区民に対して、物流の停止など災害時にどのような事態が生じるのかについて、情報を提供し、日頃から災害への備えをしてもらうように働きかけていくことが必要である。

家具類の転倒・落下・移動防止対策については、【対策実施・多い】（「すべての家具類に対策を行っている」＋「対策をしている家具類が多い」）は、平成23年度調査結果の19.0%から、今回27.9%へと増加しているものの、依然として3割弱に留まっている。【少ない・行っていない】（「対策をしている家具類は少ない」＋「対策を行っていない」）人は、その理由として、「面倒である」や「建物の壁にキズをつけたくない」と回答する人が、いずれも2割を超えており、地震の際の家具転倒の危険性について十分に認識をもっていないことがわかる。

最後に、大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこととしては、「水・食料等災害用備蓄の充実」「ライフラインやエネルギーの確保」「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」の3項目が、いずれも5割を超えて、とくに高くなっている。この中で、「ライフラインやエネルギーの確保」は、行政の当然担うべき役割であるが、「水・食料等災害用備蓄」や「非常用トイレの確保など衛生対策」については、行政だけではなく、区民自身の取り組みも重要であり、区民と行政がそれぞれの役割分担を明確にしながら、連携して災害時の備えを充実させていくことが求められる。

3. 区の情報発信のあり方

区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が79.7%と際立って高くなっており、性・年代別にみても、男女各年代にわたって、高い比率を示している。また、中高年層を中心として、「町会・自治会掲示板・回覧板」も3割台から5割台と高くなっている。

その一方、30代、40代のとくに女性で、「インターネット」の比率が5割を超えている。

こうしたことから、「あだち広報」のような紙媒体の重要性を再認識し、その内容の一層の充実を図るとともに、インターネットを利用して、自ら積極的に情報を得ようとする区民に対しても、適切な情報を発信していくことが必要である。

次に、区が発信する必要がある情報としては、「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」「災害や気象に関する情報」の3項目が、いずれも5割を超えて、とくに高くなっている。書類手続きなどを別にすれば、区民の最大の関心事が、健康・福祉と防災にあることがわかる。

だが、こうした情報が必要な時に得られているか聞いたところ、【得られる】（「十分に得られている」＋「ある程度得られている」）が6割を超えているとはいえ、【得られない】（「得られないことが多い」＋「まったく得られない」）と「わからない」がいずれも2割近くを占めている。とくに、20代男女で「わからない」が4割前後と、区政への関心の低さをうかがわせる結果となっている。

また、【得られない】理由としては、「情報が探しにくい」が5割を超えている。

今後は、誰もが必要な情報を得られるよう、情報の発信方法を一層工夫していくとともに、区政に対する関心の低い層への情報提供のあり方を検討していくことが重要である。

4. 健康

糖尿病という病気についての認知度は、【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」）が98.6%と極めて高くなっている。性・年代別でも、性別、年齢にかかわらず、その認知度は極めて高い。

しかしながら、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいについては、「失明」が73.2%と高くなっているのをはじめとして、「足の壊疽」「口の渇き」「人工透析」については4割を超えているものの、「心筋梗塞」「脳梗塞」「網膜症」については3割前後に留まっている。こうしたことから、糖尿病という病気についての認識は広まっているものの、その合併症の危険性についての認識はまだ十分でないことがわかる。今後は、糖尿病のもつ恐ろしさについて、さらに情報の提供や啓発に力を入れていくことが重要である。

糖尿病の予防には、「食事の際に野菜から食べ始めることが効果的である」と言われているが、このことを【知っている】（「知っている」＋「詳しくは知らないが、聞いたことがある」）は72.5%、糖尿病の認知度と同様に、高い認知度を示している。しかしながら、性・年代別でみると、男女とも20代では、認知度が低くなっていることから、若い世代に糖尿病の予防の大切さや、その具体的な方法を伝えていくことが重要である。

また、野菜の摂取量については、「1日350g以上」が目標とされているが、実際に、【できている】（「できている」＋「まあできている」）は40.5%と5割以下になっており、とくに、20代から50代の男性、20代の女性で低くなっている。今後は、この年代を中心として、健康維持のための野菜摂取の重要性を啓発していくことが重要である。

次に、体調や習慣についてみると、〈現在の健康状態はよい〉〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉については、6割台半ばが「あてはまる」と回答しており、区民の多くは健康であり、医療環境にも恵まれていると考えていることがわかる。しかし、日頃の生活の中では、50代をはじめとして男性のすべての年代で、3割以上の人に喫煙習慣があるとの結果が出ている。

最後に、健康維持のために実行している、心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割を超えて高くなっている。

また、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」も45.1%と高くなっている。

しかしながら、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」は、平成24年度調査結果の52.0%から、今回42.0%へと10ポイント低下している。前述したように、「1日350g以上」の野菜を摂っている人が5割に満たない現状を考え合わせると、今後も野菜の摂取も含めて、バランスのとれた食生活を送ることの重要性を、さらに区民に周知させていくことが求められる。

5. ビューティフル・ウィンドウズ運動

ビューティフル・ウィンドウズ運動については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）は、平成22年度以降、毎年増加傾向にあり、この運動が徐々にではあるが着実に区民に認知されてきていることがわかる。

しかしながら、駅中心部に比べて周辺部で、また、男女とも20代、50代で認知度が低いという結果が出ていることから、町会・自治会の協力や各種情報媒体を通じて、さらにこの運動の周知をしていくことが求められる。

また、居住地域の治安状況については、平成24年度調査結果では、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）が、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）を僅かに上回っていたのに対して、今回は、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が、【悪い】（「悪い」＋「どちらかといえば悪い」）を10ポイント近く上回っており、治安に対する意識は改善されつつあることがわかる。

しかしながら、主要駅近くでは、依然として【悪い】との評価も高くなっていることから、引き続き、ビューティフル・ウィンドウズ運動や防犯パトロール等に取り組んでいくことが重要である。

治安対策として区に力を入れてほしいこととしては、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」「安全に配慮した道路、公園の整備」の3項目が、いずれも4割を超えて高くなっている。治安を【悪い】と感じる人では、「自転車盗難・空き巣などの多発」や「深夜の公園やコンビニでの若者のたむろ」を理由としてあげる人が多いが、こうした状況を改善するため、様々な取り組みを区民と行政、関係機関が協力してさらに推進していくことが求められる。

6. 環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が、平成22年度以降、毎年8割台半ばを超えており、こうした取り組みが、ほぼ区民の間に定着したことがわかる。また、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は、平成24年度調査結果の47.3%から、今回52.9%へと増加している。

しかしながら、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、平成24年度調査結果の67.4%から、今回57.1%へと10ポイント以上低下している。こうした背景には、震災をきっかけに省エネ行動の重要性を意識したものの、年月の経過とともに、こうした意識が薄れてきたことが考えられる。今後も、省エネルギーのための行動の大切さを、継続的に周知していくことが重要である。

また、性・年代別でみると「ごみと資源の分別を実行している」、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、男女とも20代から30代で比率が低下しており、若い世代に環境の維持のための取り組みを働きかけていくことが重要である。

次に、この1年間に参加した活動をみると、平成24年度調査結果に比べて、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は増加し、反対に、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は低下している。また、今後の参加意向をみても、この傾向は同様であり、地域の町会等の活動に対する区民の関心が低下していることがわかる。

とくに、20代の男女に、こうした傾向が顕著に現れており、町会等の催し物を区民誰にとっても魅力的なものへと変えていくことが必要と思われる。

最後に、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価については、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、平成24年度調査結果の20.2%から、今回30.0%へと増加している。しかしながら、「わからない」という回答が、5割近くを占めており、区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業の内容やその進捗状況を広く、区民に伝えていくことが重要であると考えられる。

7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況をみると、【知っている】（「知っていて、内容も概ね理解している」＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」）が29.8%と約3割を占めている。

地域ブロック別でみると、第5、第9ブロックでは【知っている】が約4割と高く、性・年代別でみると男女とも60代、70歳以上で高くなっており、地域や年齢によって、かなりの差がある。

その認知経路としては、「あだち広報」が7割近くを占め、際立って高くなっている。

今後は、「あだち広報」のみならず、町会・自治会、民生委員などと連携して、区民すべてに、このプロジェクトを認知してもらうことが重要である。

また、高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向をみると、【協力したい】（「積極的に協力したい」＋「負担にならない範囲で協力してもよい」）は約2割を占めている。地域ブロック別でみると、第5、第7ブロックでは【協力したい】が2割台半ばと、他のブロックより高く、性・年代別でみると、男女とも60代、70歳以上で2割を超えて、高くなっている。協力意向のある人では、「寄り添い支援活動」「居場所づくりや活動の場での協力」に協力したいという回答が、いずれも4割を超えている。

今後の地域福祉を推進する上で、地域の支え合いにより、高齢者や障がい者の孤立を防ぎ、様々な支援をしていくことは極めて重要なことであり、地域や年齢を問わず、広く区民にこの活動の内容とその意義を周知し、活動への参加を促進していくことが求められる。

また、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの人権を擁護するための成年後見制度が注目されている。この制度を【知っている】（「内容まで知っている」＋「名前は知っているが、内容はわからない」）は、平成24年度結果の40.8%から、今回55.1%へと大幅に増加しており、区民の関心の高まりを裏付ける結果となっている。

今後は、さらに成年後見制度の内容の周知と利用促進を図るとともに、成年後見人の育成と確保に力を入れることが重要である。

8. ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインについては、【知っている】（「具体的な取り組み事例なども知っている」＋「言葉の意味は知っている」＋「言葉を聞いたことがある」）は43.0%である。性・年代別でみると、男女とも20代から50代に比べて、60代、70歳以上の【知っている】が低くなっている。

また、ユニバーサルデザインへの関心度をみると、【関心がある】（「非常に関心がある」＋「少しは関心がある」）は30.4%であり、性・年代別でみると、認知度と同様に男女とも60代、70歳以上の関心度が低くなっている。

このように、近年、バリアフリーという考え方は広く浸透してきたものの、ユニバーサルデザインという考え方については、まだ広く区民に認知されておらず、関心度も高くないことがわかる。今後は、ユニバーサルデザインという考え方の重要性について様々な機会や場を通じて、啓発していくことが必要である。

とくに、ユニバーサルデザインに【関心がある】という人では、今後、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」や「地域の人と一緒に、日常生活上の不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい」が高くなっており、この考え方の広まりが、地域福祉の推進に大きな意味を持つことは明らかである。

最後に、ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組みを聞くと、「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」「UDに関する情報提供」「UDに関する教育や人づくり」が上位を占めており、ハード面の整備とともに、関連情報の提供と人材の育成が求められていることがわかる。

9. 区取り組み

これまでも、区政満足度を調査しているが、区政満足度だけをきくと、国政や都政の影響を避けられず、また不満、満足の理由もわかりにくいと、今回の調査から区政の各分野の満足度を尋ねた上で総合的な満足度を聞く形式に改め、調査を実施した。

区政の各分野への「満足度」と「重要度」の意識に得点をつけ、評価点を算出することにより、その時々々の区民の意識を明確に捉え、分析することができる。これにより、分野ごとの評価がどのように区政全体の満足度の評価に影響するかを把握し、その結果を今後の区政満足度向上に結びつけていく。

区政に対する【満足層】（「満足」＋「やや満足」）は、上記のように調査方法を変更したため、単純な比較はできないが、平成24年度調査結果の51.0%から今回59.1%へと増加しており、全体として、区政への満足度は高まってきているといえる。

しかしながら、このことは、区政のすべての分野について、区民が満足していることを示しているわけではない。

区の各分野への取り組みへの現状評価（満足度）と重要度の関係を数値化（算出方法の詳細は186頁を参照のこと）してみると、「重要度が平均値より高いが、現状評価（満足度）が、平均値より低い」分野、つまり、今後、重点的に取り組む必要のある分野は、「防災対策」「治安対策」「交通対策」「高齢者支援」であるとの結果が出ている。

前述した調査結果においても、区に対する災害への備えや治安向上に向けた取り組みへの要望、高齢者の孤立防止や見守り、日常生活での各種支援への関心の高まりは明らかのように、上記の結果は、区民が今、区政に何を求めているかを、端的に表しているといえるだろう。

また、区に対する気持ちを〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目に分けて聞くと、いずれの項目についても、【そう思う】（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が、ここ数年上昇傾向にあるものの、「愛着」（73.7%）の高さに比べて、「誇り」（45.2%）と「勧めたい」（42.6%）は5割以下に留まっている。

区政満足度が高まれば、区への愛着、誇り、そして「足立区を人に勧めたい」とも増加しており、両者の間の相関関係は明らかである。また、愛着度が高まれば、区への誇りも高まるという結果も出ている。

今後は、「防災対策」「治安対策」「交通対策」「高齢者支援」などの重点的課題の解決に積極的に取り組むことによって、区民の区政満足度をさらに向上させ、区民の誰もが足立区に愛着をもち、誇りをもって、足立区を人に勧められるような「まち」へと発展させていくことが、区民と行政の双方に求められているといえよう。

第3章 調査結果の分析

1 定 住 性

-
- (1) 居住地域の評価
 - (2) 居住地域評価の経年比較
 - (3) 地域の暮らしやすさ
 - (4) 特に暮らしにくいと感じること
 - (5) 定住意向
-

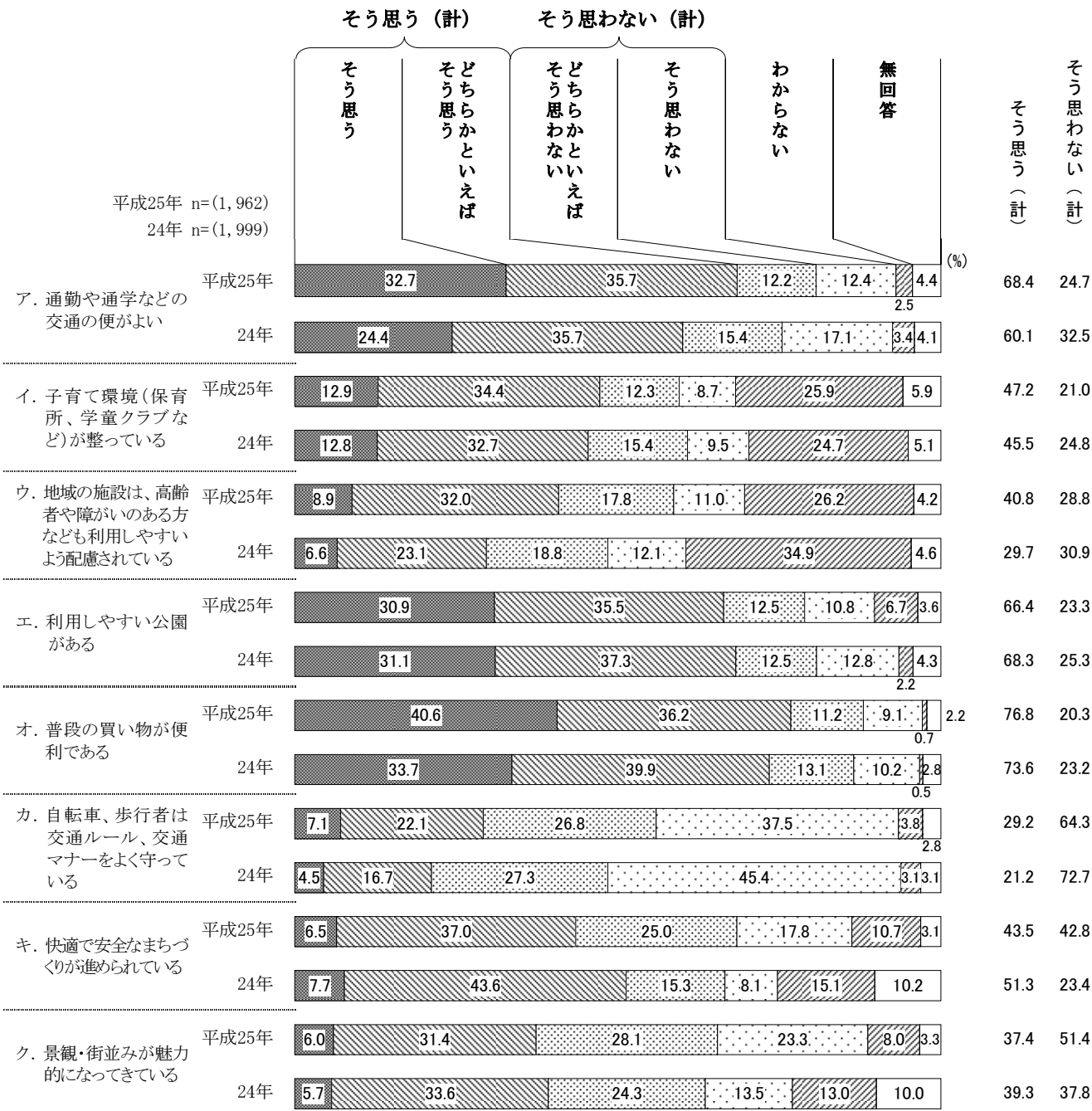
1. 定住性

(1) 居住地域の評価

■ 〈普段の買い物が便利である〉と感じている人が7割台半ば

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-1-1 前回調査比較／居住地域の評価



※ウは、24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。

住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が76.8%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉68.4%、〈利用しやすい公園がある〉66.4%の順となっている。

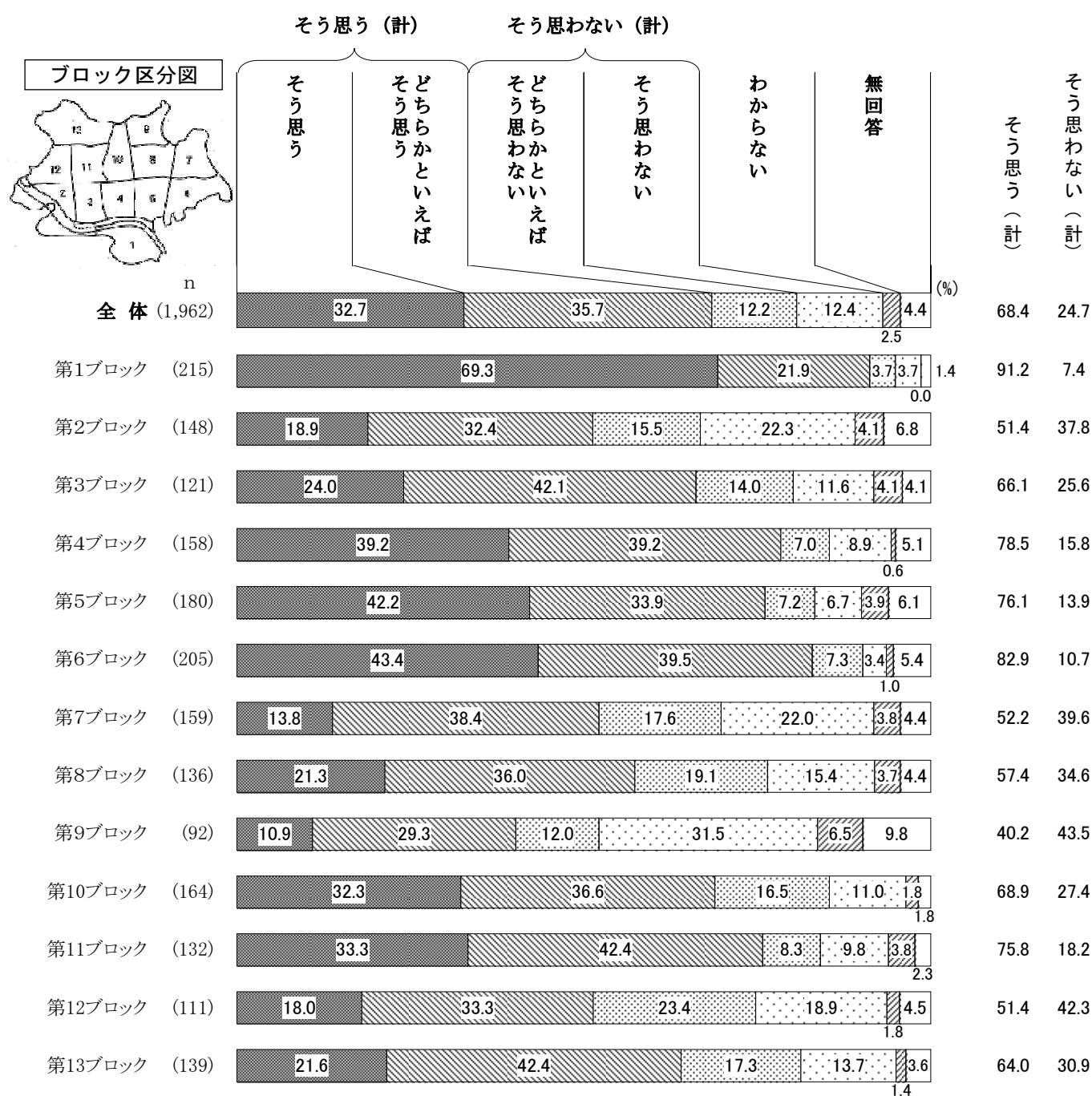
第3章 調査結果の分析

経年で比較すると、今回の調査では、8項目のうち5項目で【そう思う】が平成24年調査に比べて増加しており、とくに〈通勤や通学などの交通の便がよい〉は8.3ポイント、〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉は11.1ポイント上昇している。一方、〈快適で安全なまちづくりが進められている〉は、前回より7.8ポイント低下している。

次に、各項目について、地域ブロック別でみた。

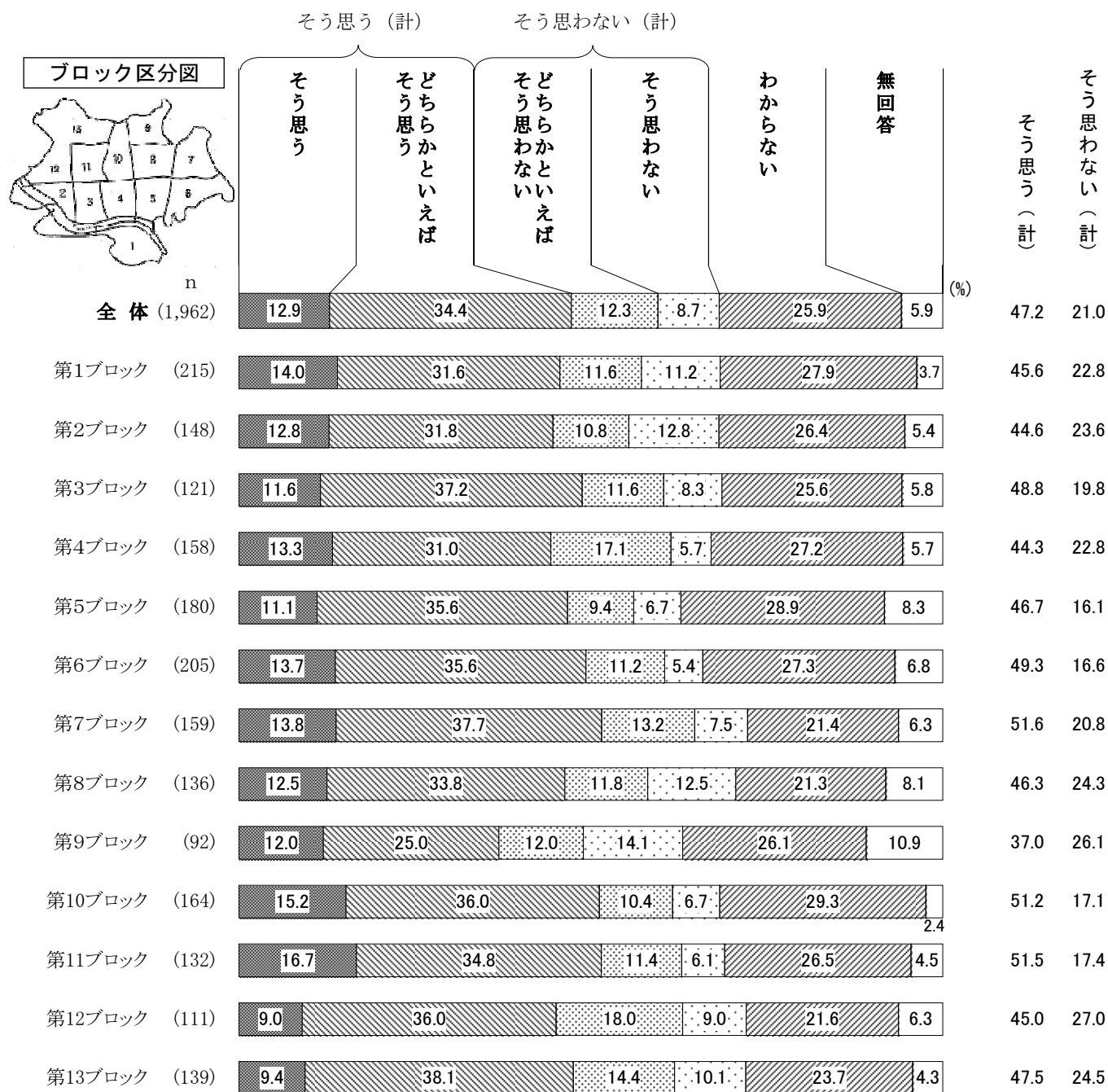
〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第1ブロックが91.2%と最も高く、次いで第6ブロックが82.9%となっている。【そう思わない】は第9ブロックと第12ブロックで4割を超え高くなっている。

図1-1-2-① 地域ブロック別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【そう思う】は第7ブロック、第10ブロック、第11ブロックで、それぞれ51.6%、51.2%、51.5%と、5割を超えている。
【そう思わない】は第9ブロックと第12ブロックで2割半ばを超え、高くなっている。

図1-1-2-② 地域ブロック別／居住地域の評価／子育て環境が整っている

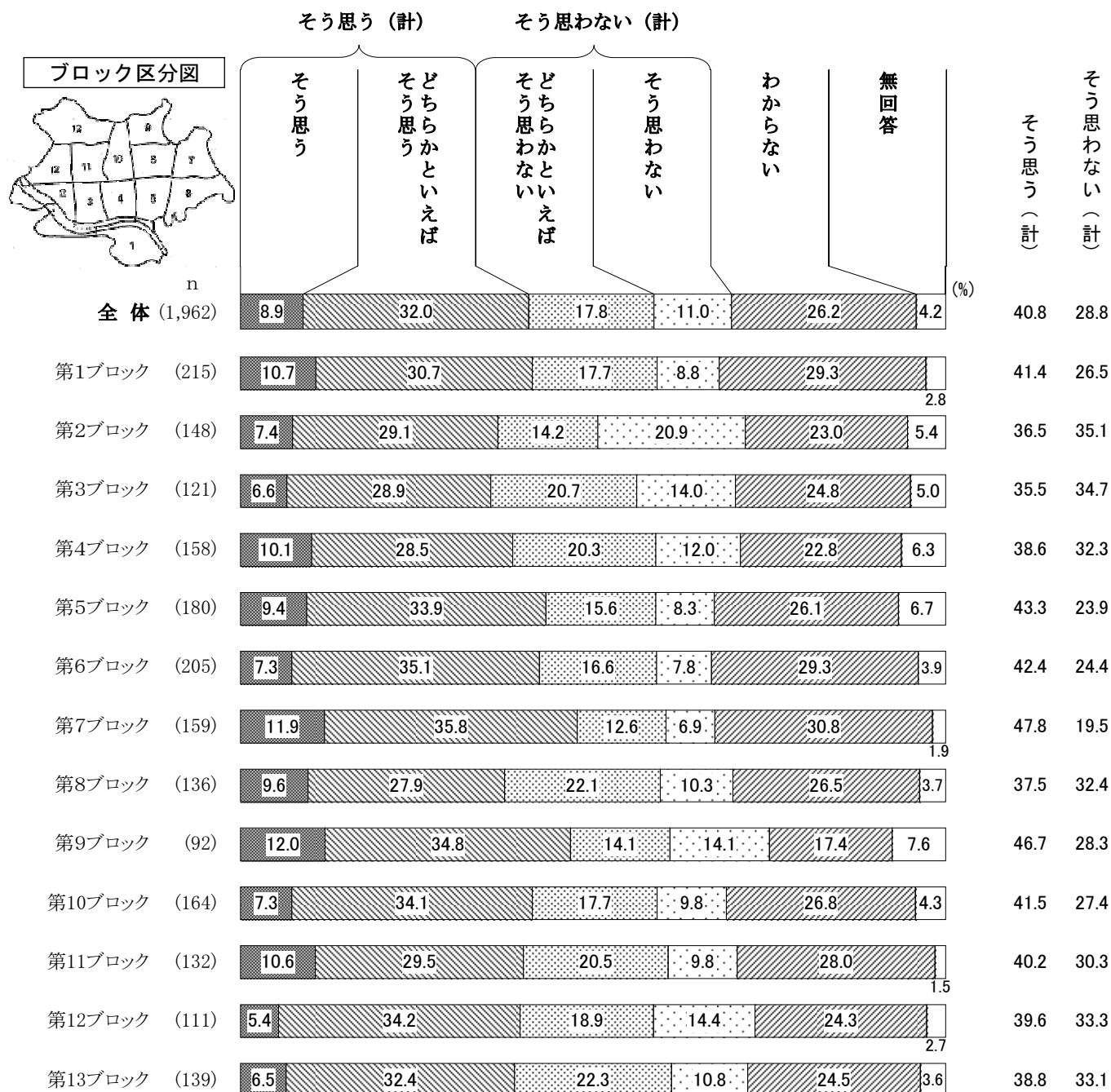


第3章 調査結果の分析

〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について
 【そう思う】は第7ブロックが47.8%で最も高く、次いで第9ブロックが46.7%となっている。
 【そう思わない】は第2ブロックで最も高くなっている。

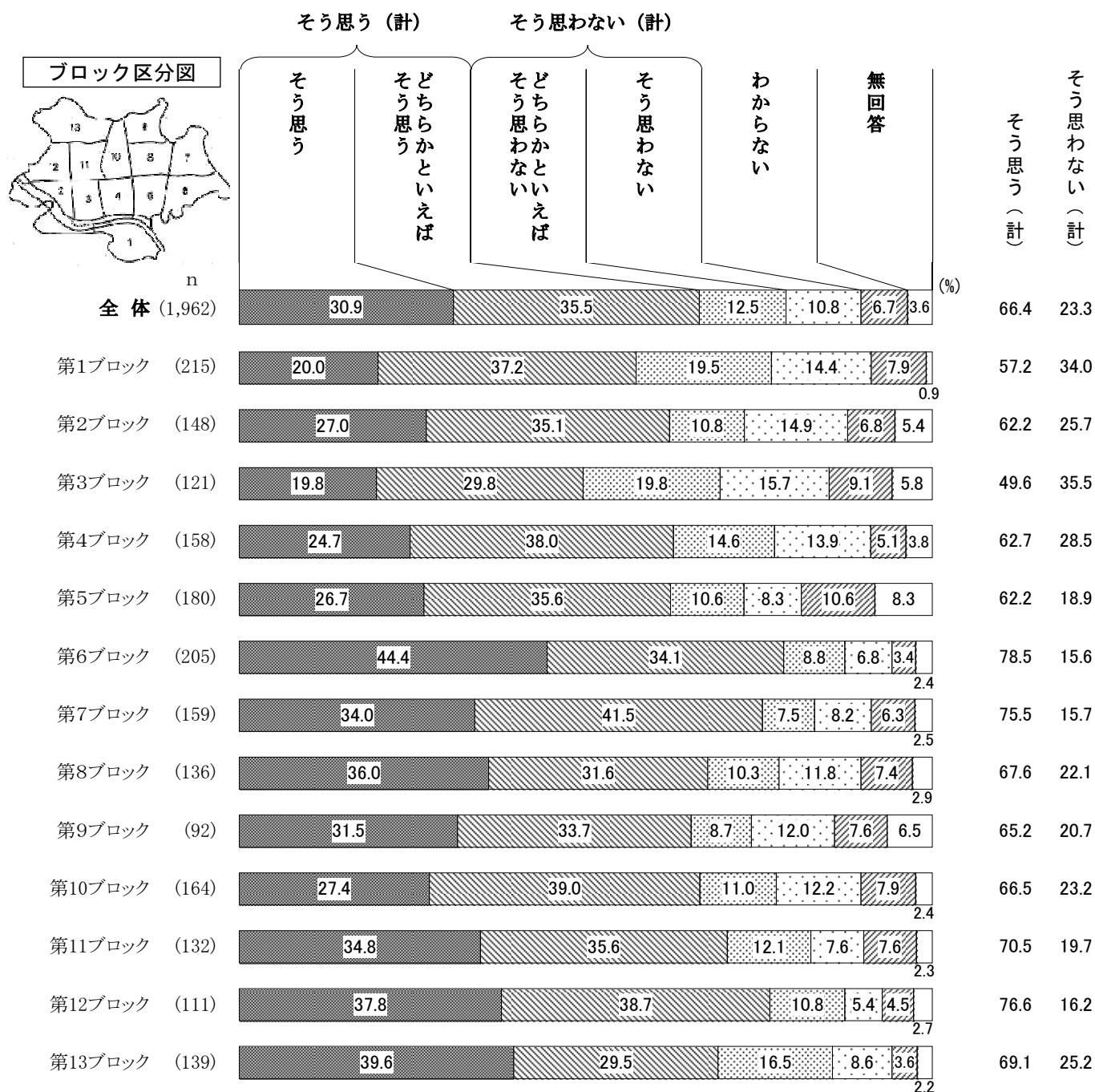
図1-1-2-③ 地域ブロック別／居住地域の評価

／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



〈利用しやすい公園がある〉について【そう思う】は第6ブロックが78.5%で最も高く、以下第12ブロック（76.6%）、第7ブロック（75.5%）の順となっている。【そう思わない】は第3ブロックで最も高くなっている

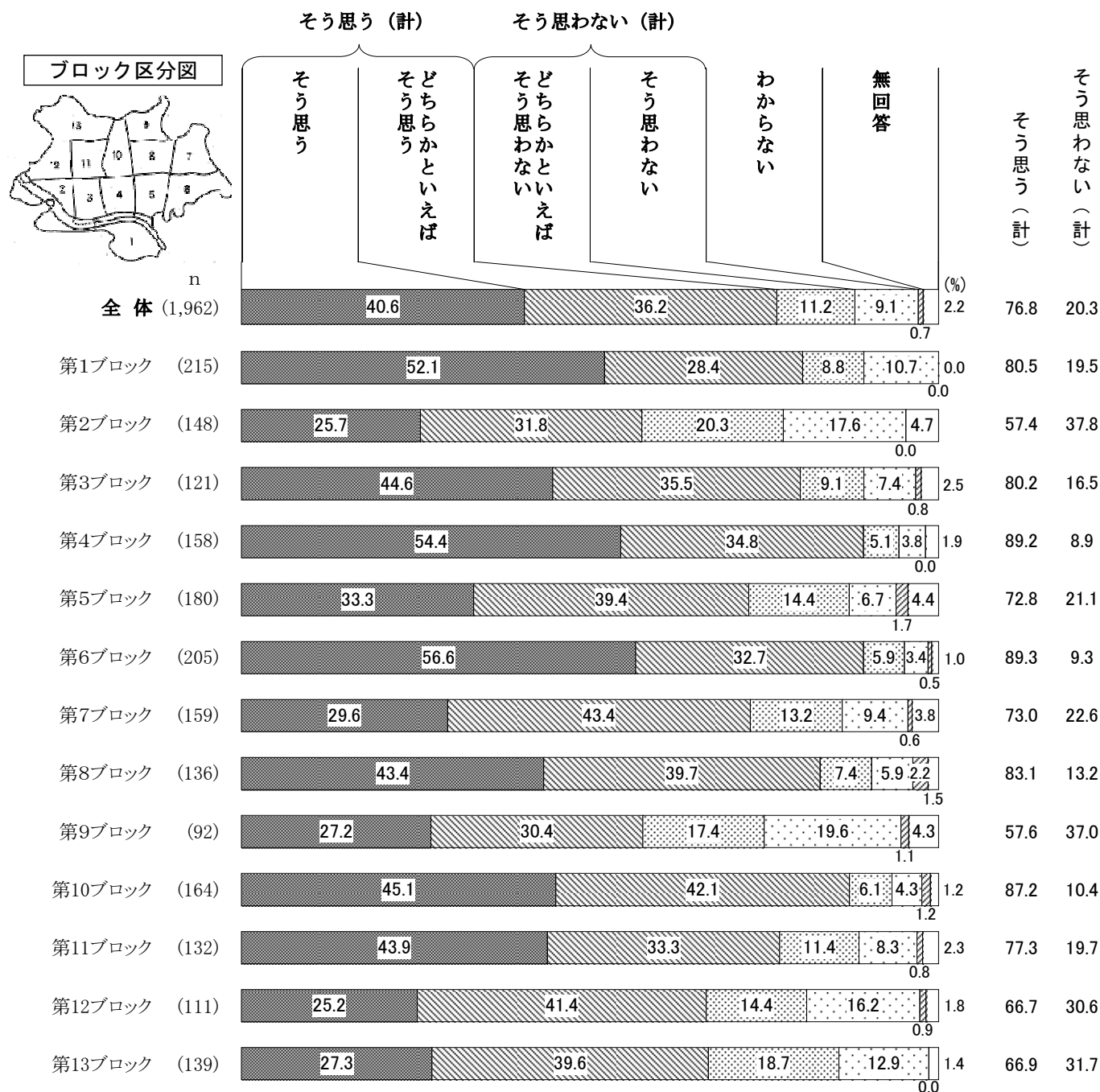
図1-1-2-④ 地域ブロック別／居住地域の評価／利用しやすい公園がある



第3章 調査結果の分析

〈普段の買い物が便利である〉について【そう思う】は、第4ブロック、第6ブロック、第10ブロックが、それぞれ89.2%、89.3%、87.2%と9割近くを占めて高くなっている。【そう思わない】は第2ブロックと第9ブロックで3割半ばを超え、高くなっている

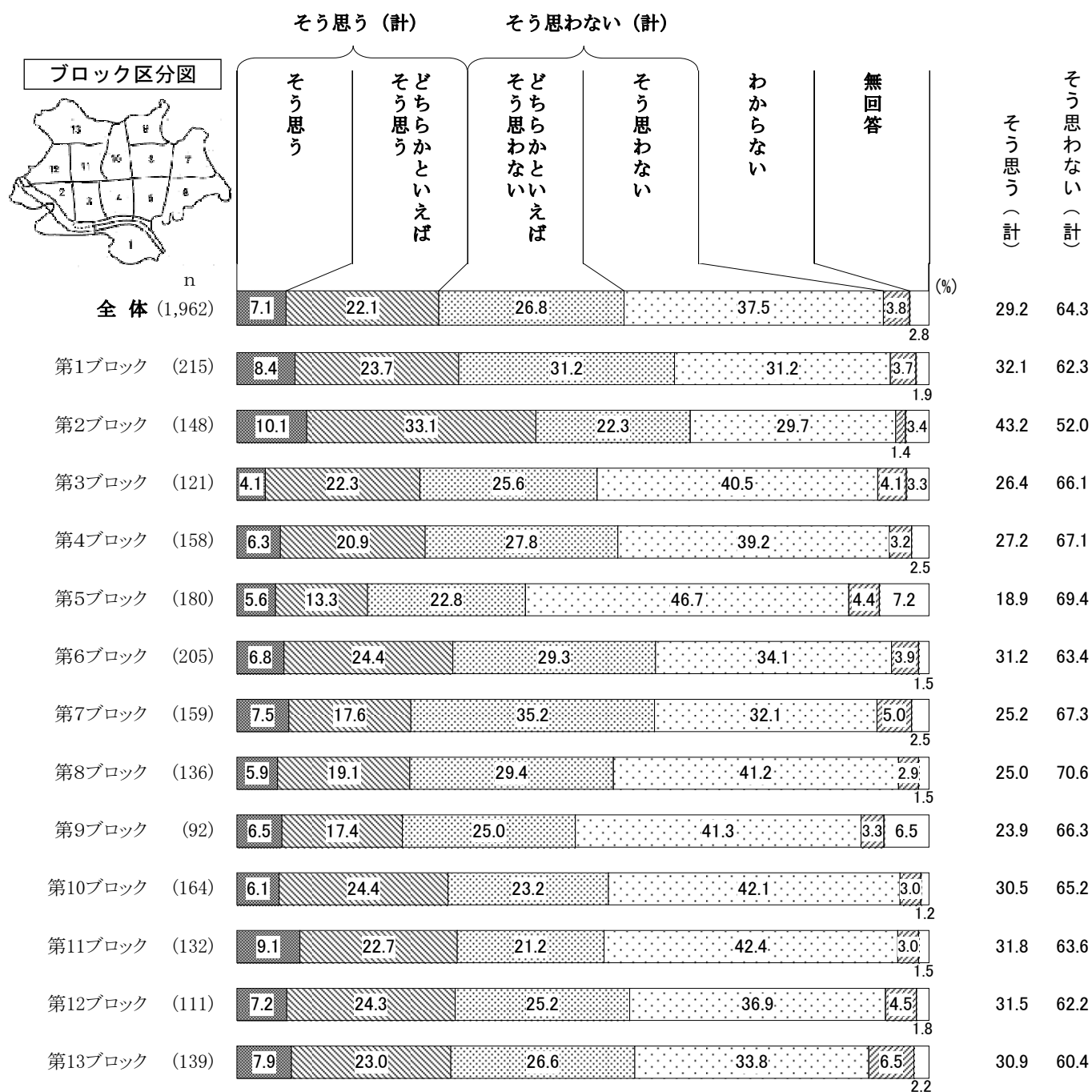
図1-1-2-⑤ 地域ブロック別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉について【そう思わない】は第4ブロック（67.1%）、第5ブロック（69.4%）、第7ブロック（67.3%）、第8ブロック（70.6%）で7割前後と高くなっている。【そう思う】は第2ブロックで4割を超え、高くなっている。

図1-1-2-⑥ 地域ブロック別／居住地域の評価

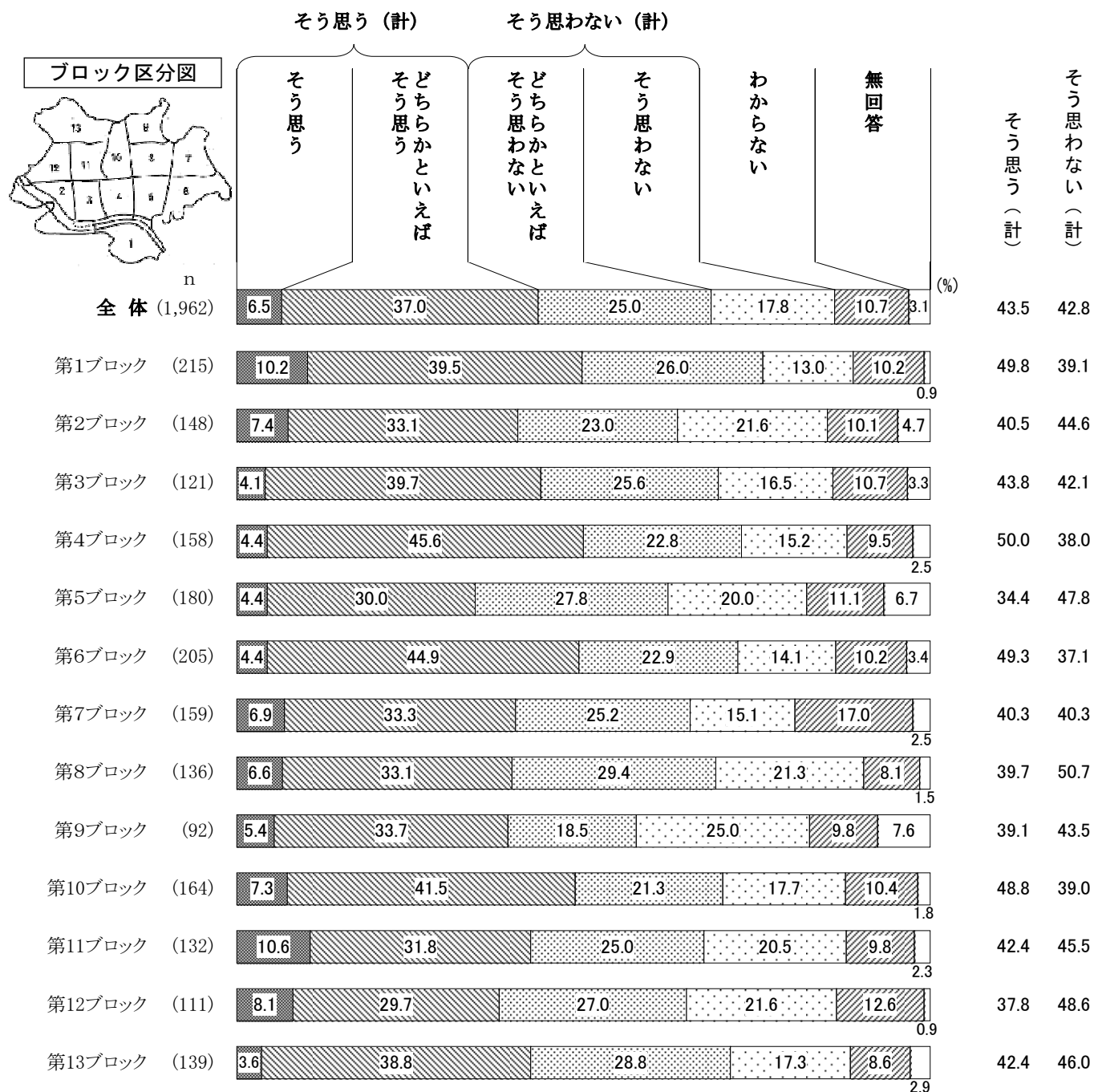
／自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



第3章 調査結果の分析

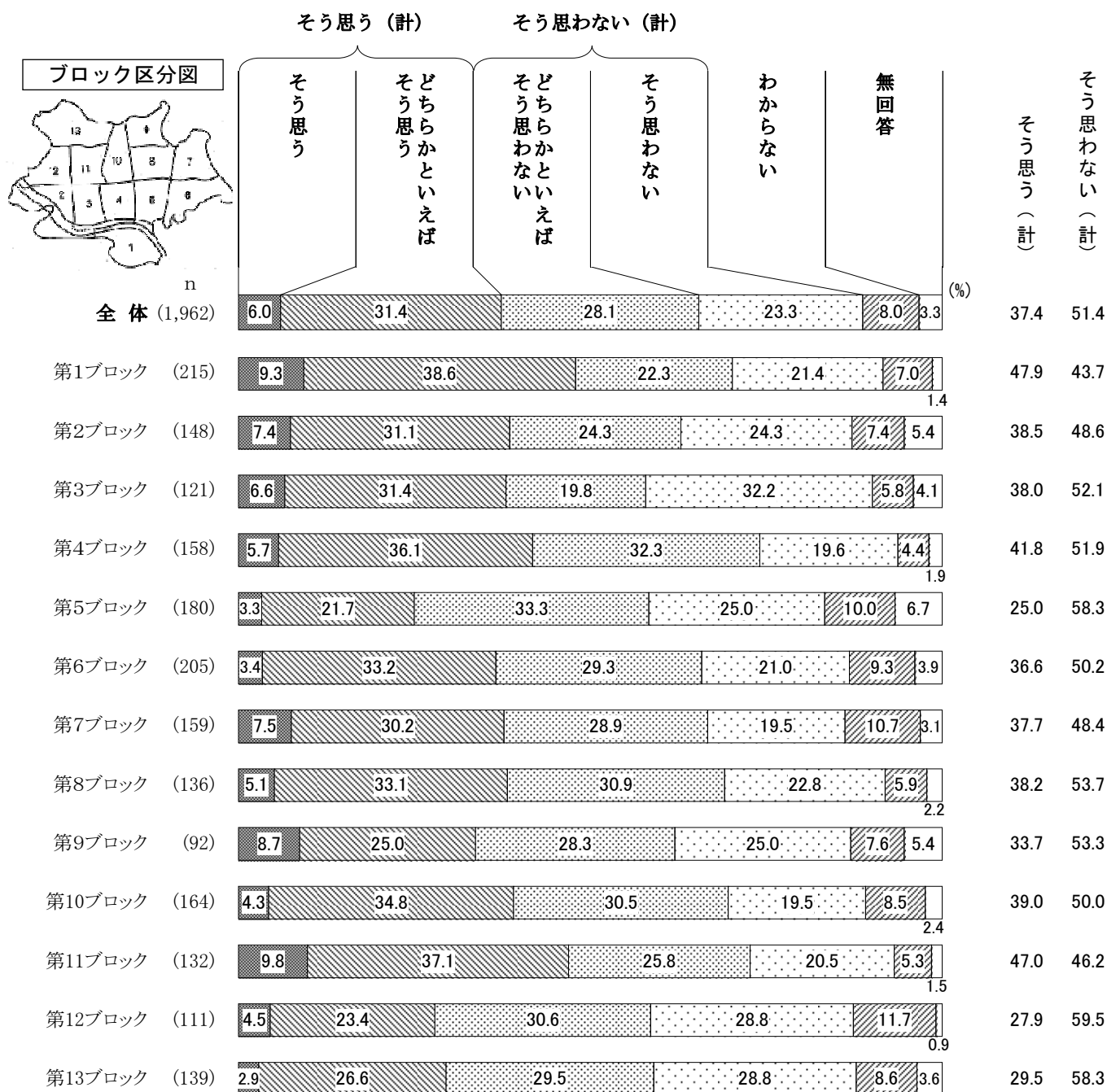
〈快適で安全なまちづくりが進められている〉について、【そう思う】は第1ブロック (49.8%)、第4ブロック (50.0%)、第6ブロック (49.3%)、第10ブロック (48.8%) で5割前後と高くなっている。【そう思わない】は第8ブロックで5割を超え高くなっている。

図1-1-2-⑦ 地域ブロック別／居住地域の評価／快適で安全なまちづくりが進められている



〈景観・街並みが魅力的になってきている〉について、【そう思わない】は第5ブロック（58.3%）、第12ブロック（59.5%）、第13ブロック（58.3%）で、6割近くと高くなっている。【そう思う】は第1ブロックと第11ブロックで4割半ばを超え高くなっている。

図1-1-2-⑧ 地域ブロック別／居住地域の評価／景観・街並みが魅力的になってきている

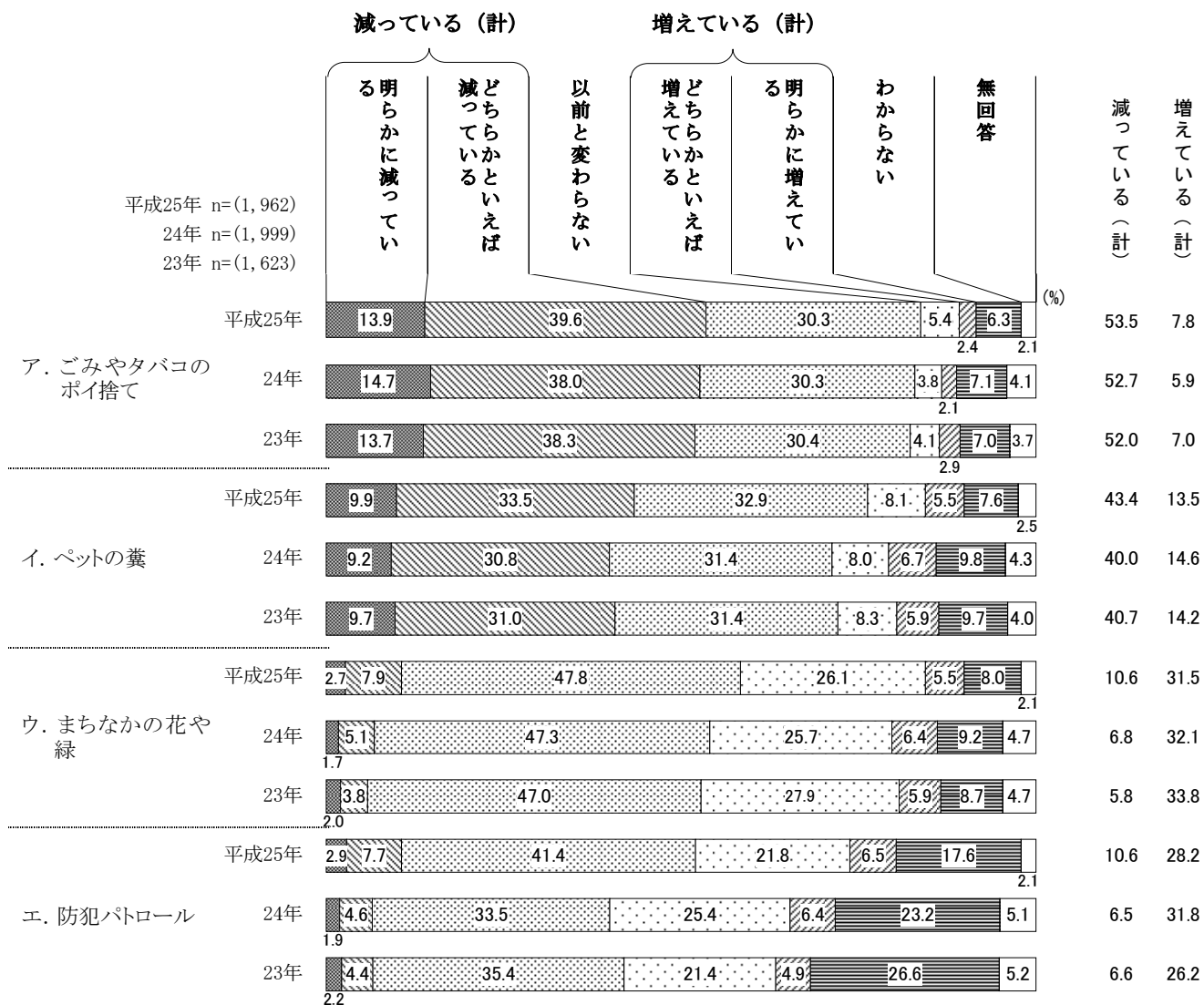


(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉は、半数の人が以前より【減っている】と感じている

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-2-1 経年比較／居住地域評価の経年比較



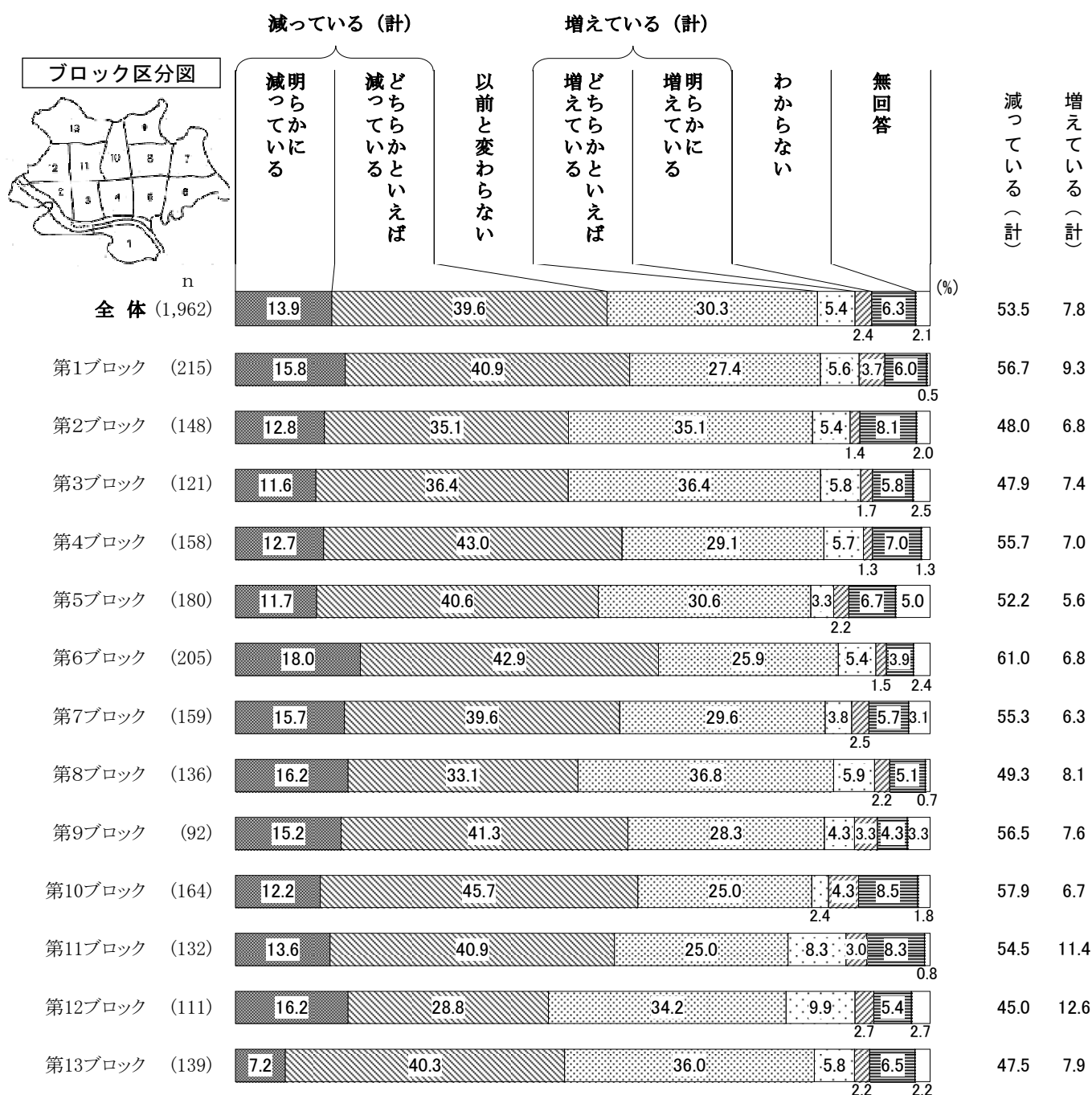
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】を高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が53.5%で最も高く、次いで〈ペットの糞〉の43.4%となっている。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】が、〈まちなかの花や緑〉が31.5%、〈防犯パトロール〉が28.2%と高くなっている。

経年で比較すると、〈ペットの糞〉〈まちなかの花や緑〉〈防犯パトロール〉は、【減っている】が前年より、それぞれ3.4、3.8、4.1ポイント上昇している。

各項目について、地域ブロック別でみた。

〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第6ブロックで61.0%と最も高く、以下第10ブロック（57.9%）、第1ブロック（56.7%）の順となっている。【増えている】は第12ブロック（12.6%）で最も高くなっている。

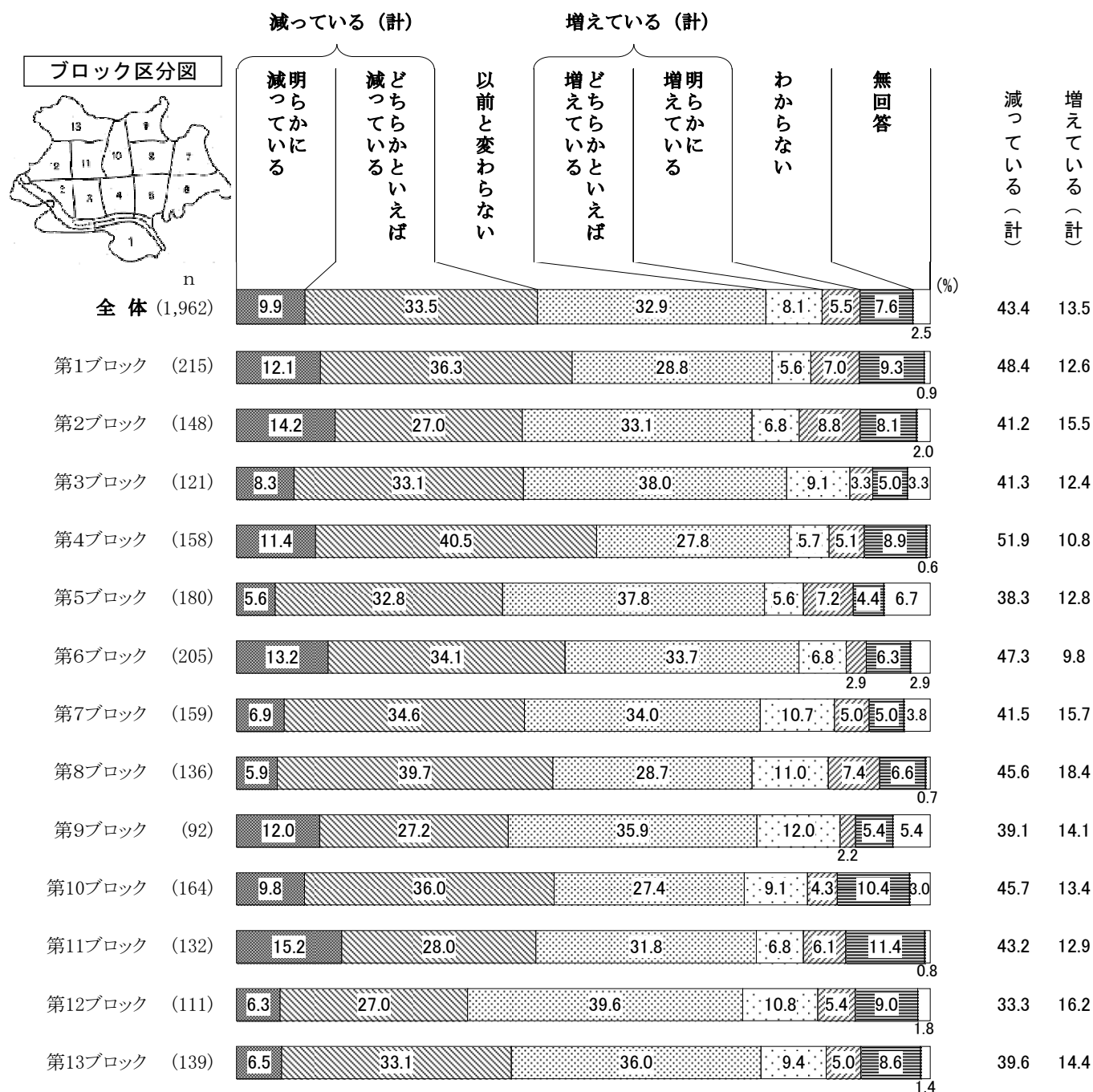
図1-2-2-① 地域ブロック別／居住地域評価の以前比較／ごみやタバコのポイ捨て



第3章 調査結果の分析

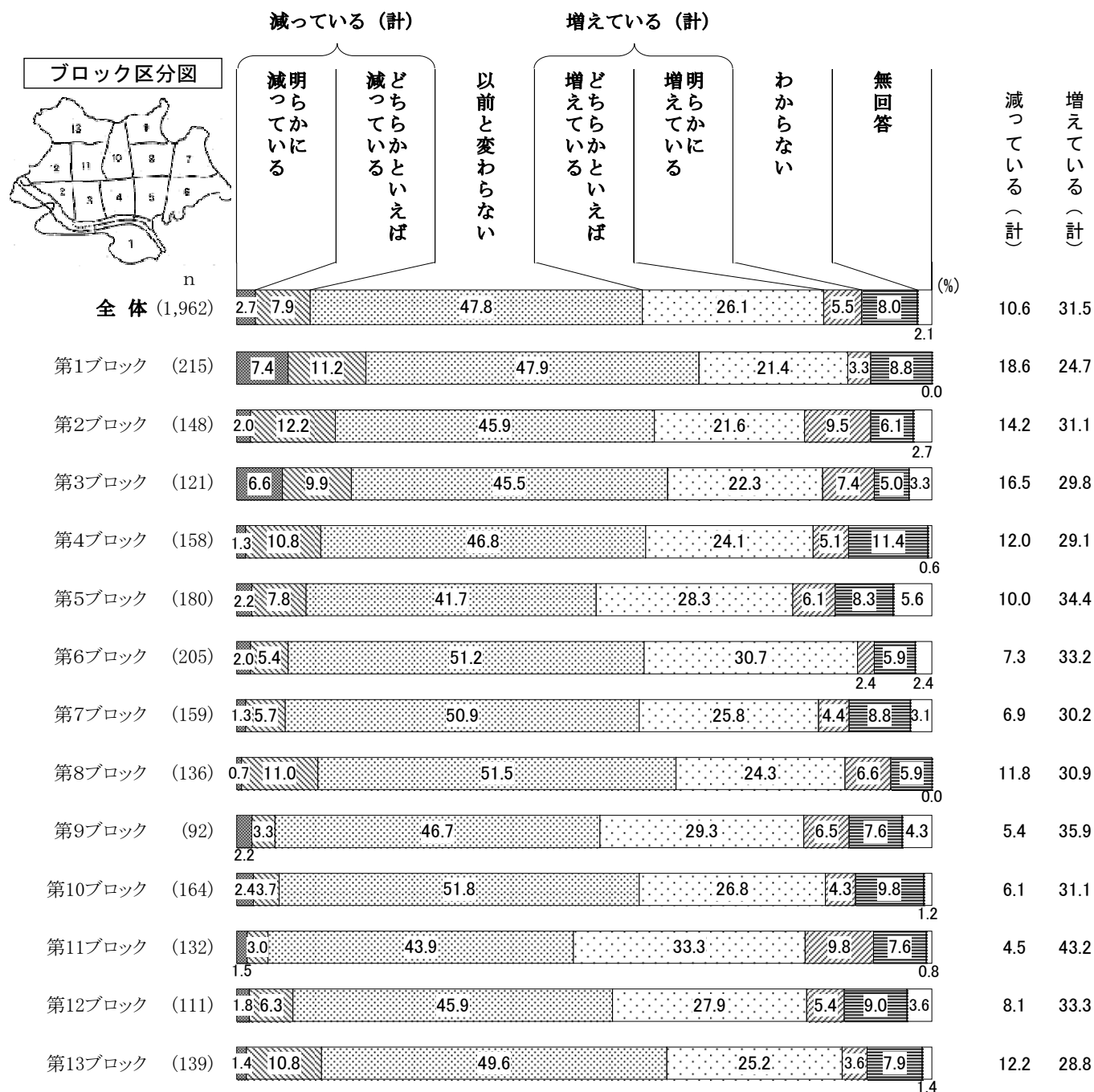
〈ペットの糞〉について、【減っている】は第4ブロックで51.9%と最も高く、以下第1ブロック（48.4%）、第6ブロック（47.3%）の順となっている。【増えている】は第8ブロック（18.4%）で最も高くなっている。

図1-2-2-② 地域ブロック別／居住地域評価の以前比較／ペットの糞



〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第11ブロックで43.2%と最も高く、以下第9ブロック（35.9%）、第5ブロック（34.4%）の順となっている。【減っている】は第1ブロック（18.6%）で最も高くなっている。

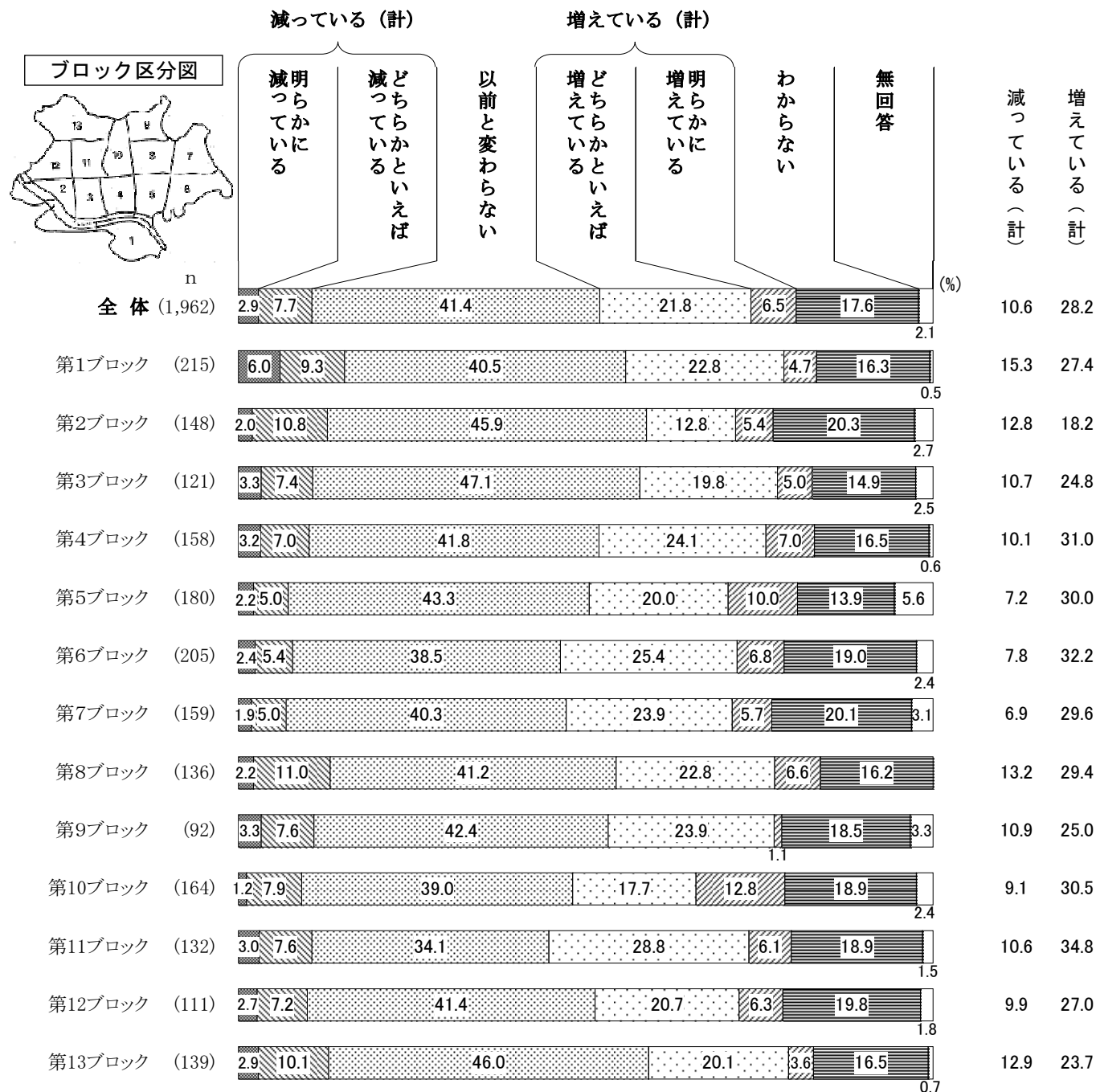
図1-2-2-③ 地域ブロック別／居住地域評価の以前比較／まちなかの花や緑



第3章 調査結果の分析

〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第11ブロックで34.8%と最も高く、以下第6ブロック（32.2%）、第4ブロック（31.0%）の順となっている。【減っている】は第1ブロック（15.3%）で最も高くなっている。

図1-2-2-④ 地域ブロック別／居住地域評価の以前比較／防犯パトロール

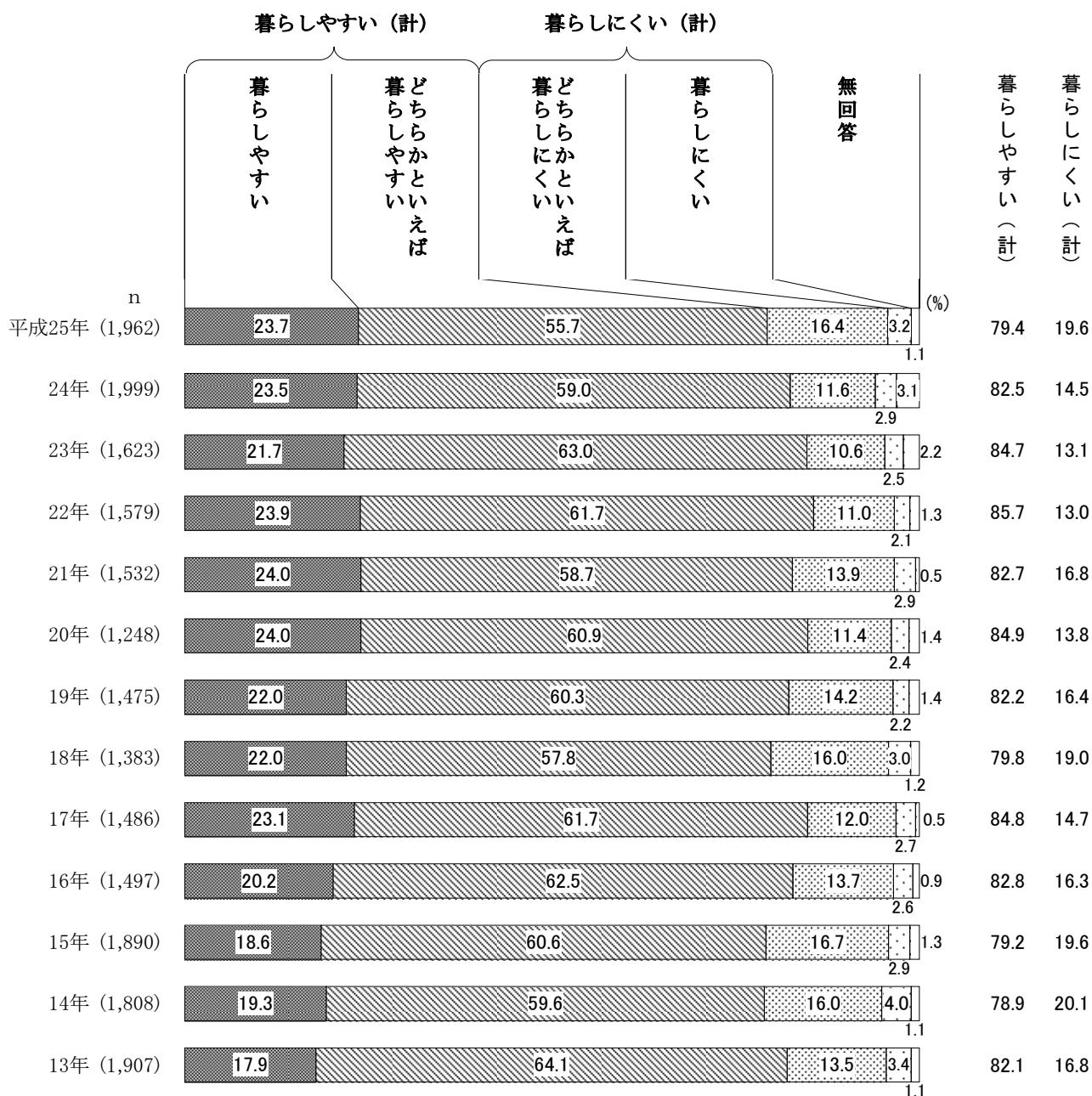


(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は、約8割を維持しているものの除々に低下

問3 問1、問2を踏まえてお聞きます。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(〇は1つだけ)

図1-3-1 経年比較／地域の暮らしやすさ

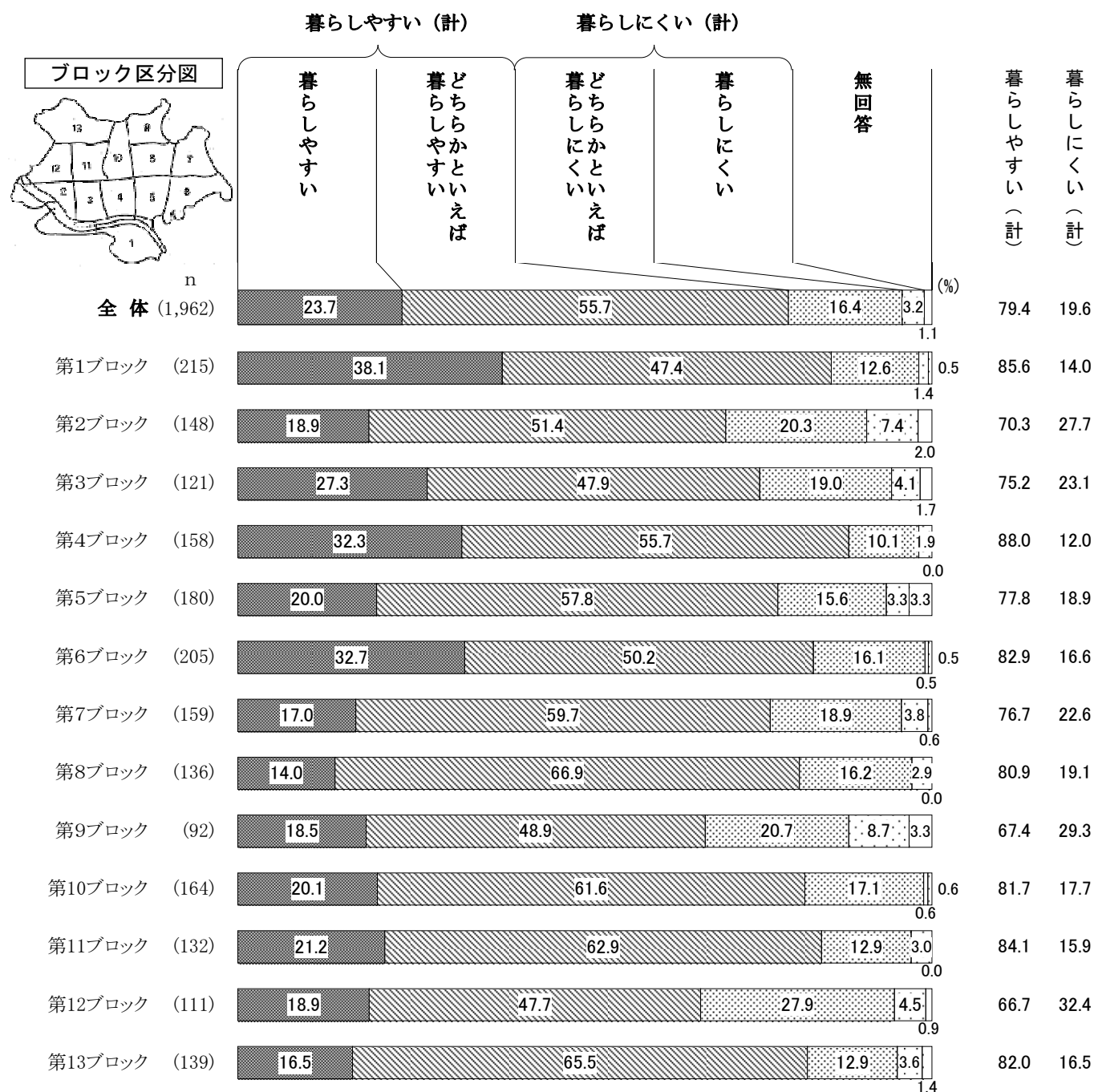


暮らしやすさを経年で比較すると、「暮らしやすい」と「どちらかといえば暮らしやすい」を合わせた【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%から微減傾向にあり、今回の調査では79.4%となっている。一方、「どちらかといえば暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、平成22年以降、微増傾向にあり、今回の調査では19.6%となっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、【暮らしやすい】は、第4ブロックで88.0%と最も高く、以下第1ブロック（85.6%）、第11ブロック（84.1%）の順となっている。一方、第2ブロック、第9ブロック、第12ブロックでは、【暮らしにくい】が、それぞれ、27.7%、29.3%、32.4%と他のブロックより高くなっている。

図1-3-2 地域ブロック別／地域の暮らしやすさ

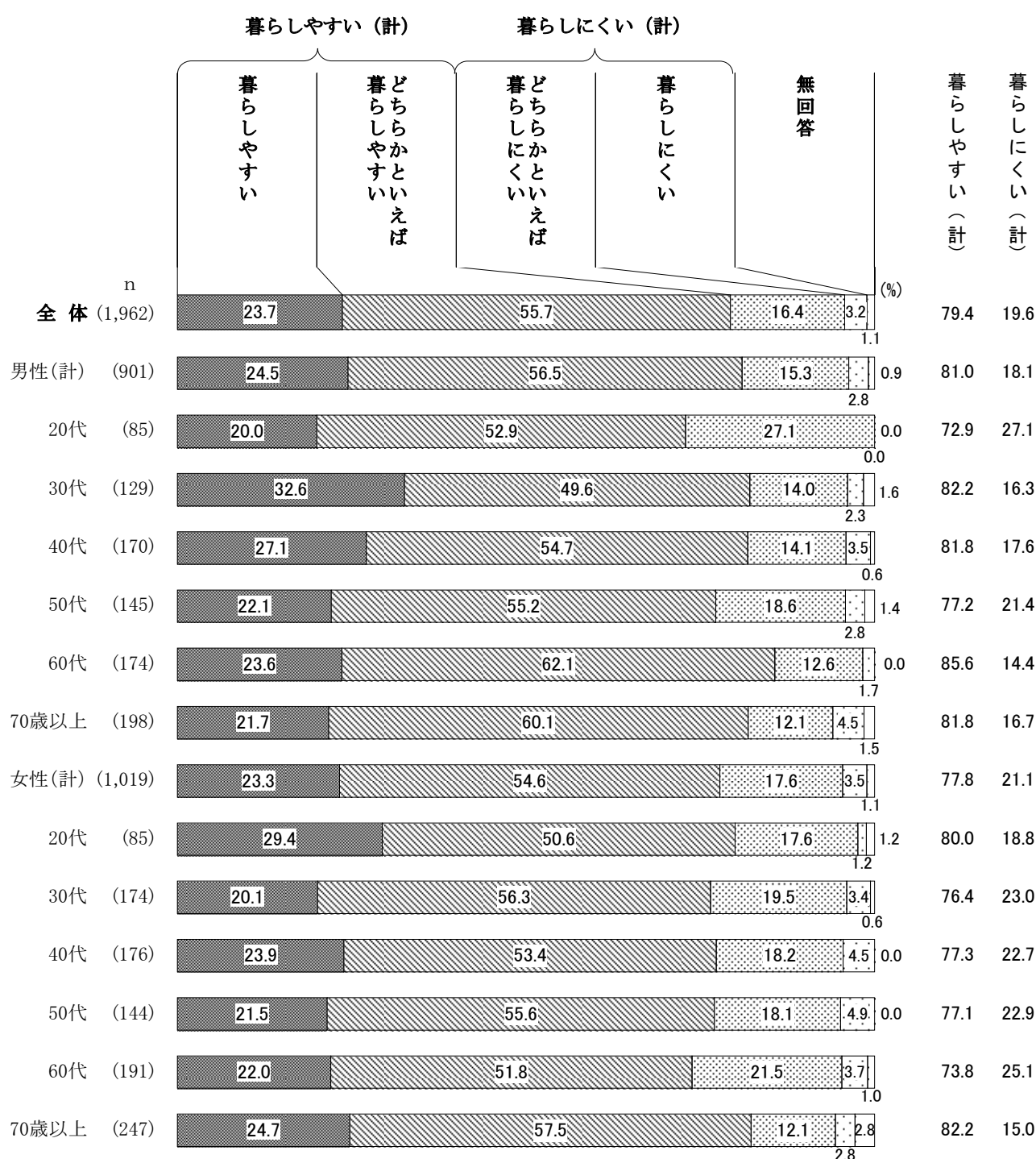


性別でみると、【暮らしやすい】は、男性81.0%、女性77.8%と大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代、40代、60代、70歳以上で【暮らしやすい】が8割を超えているが、20代では72.9%とやや低く、【暮らしにくい】が27.1%と全年代中で最も高くなっている。

女性では、20代、70歳以上で【暮らしやすい】が8割を超えている。また、【暮らしにくい】は、女性の60代で25.1%と高くなっている。

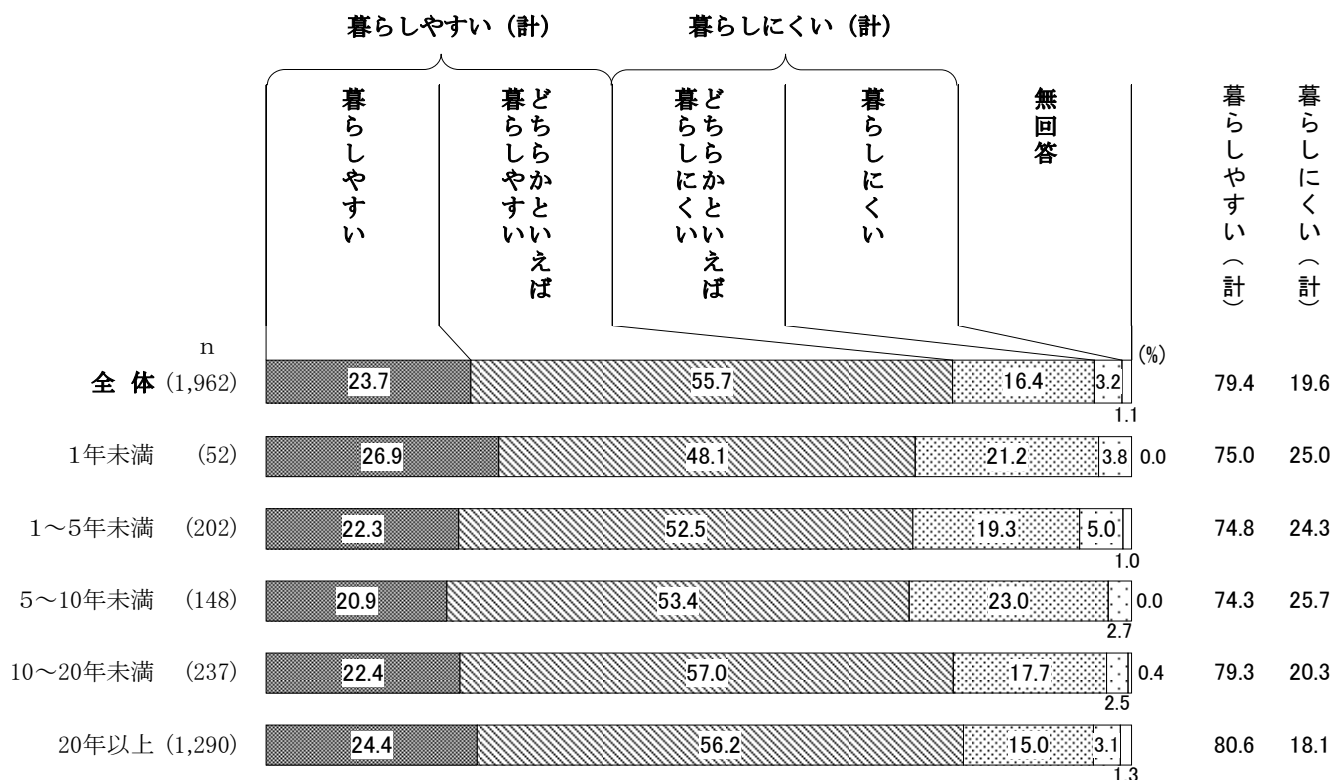
図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析

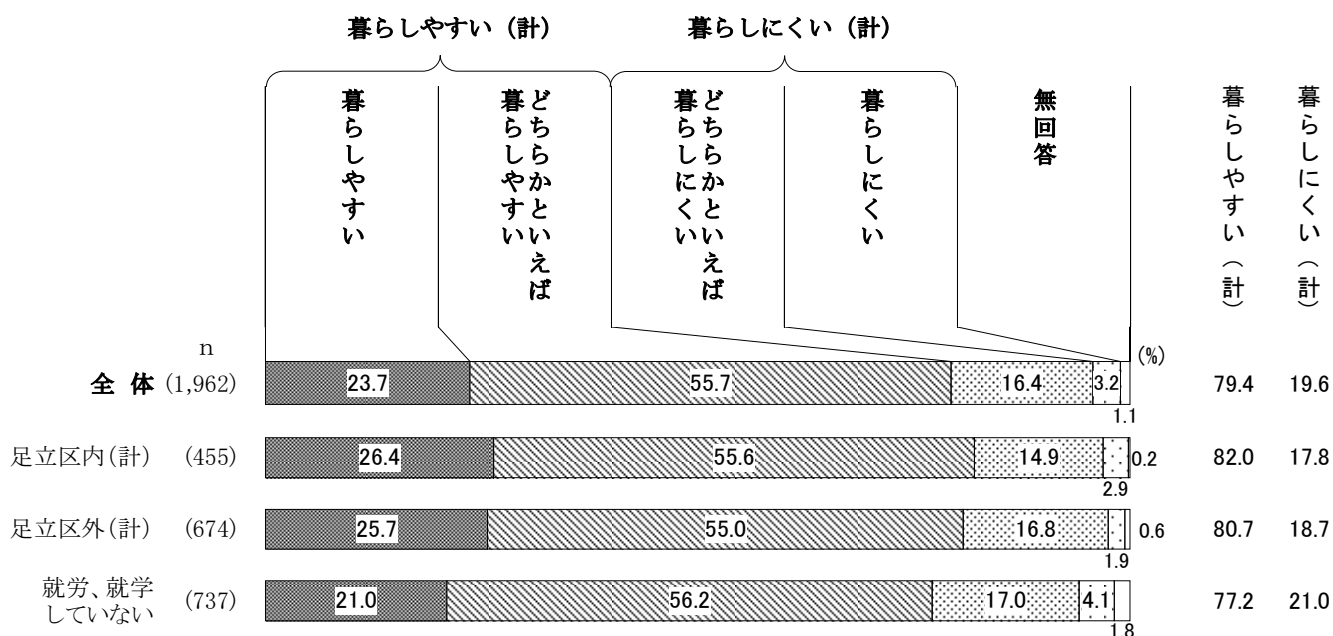
居住年数別でみると、〈10年未満〉では【暮らしやすい】が7割台半ばとなっているのに対して、〈10年以上〉では、【暮らしやすい】が8割前後となっている。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



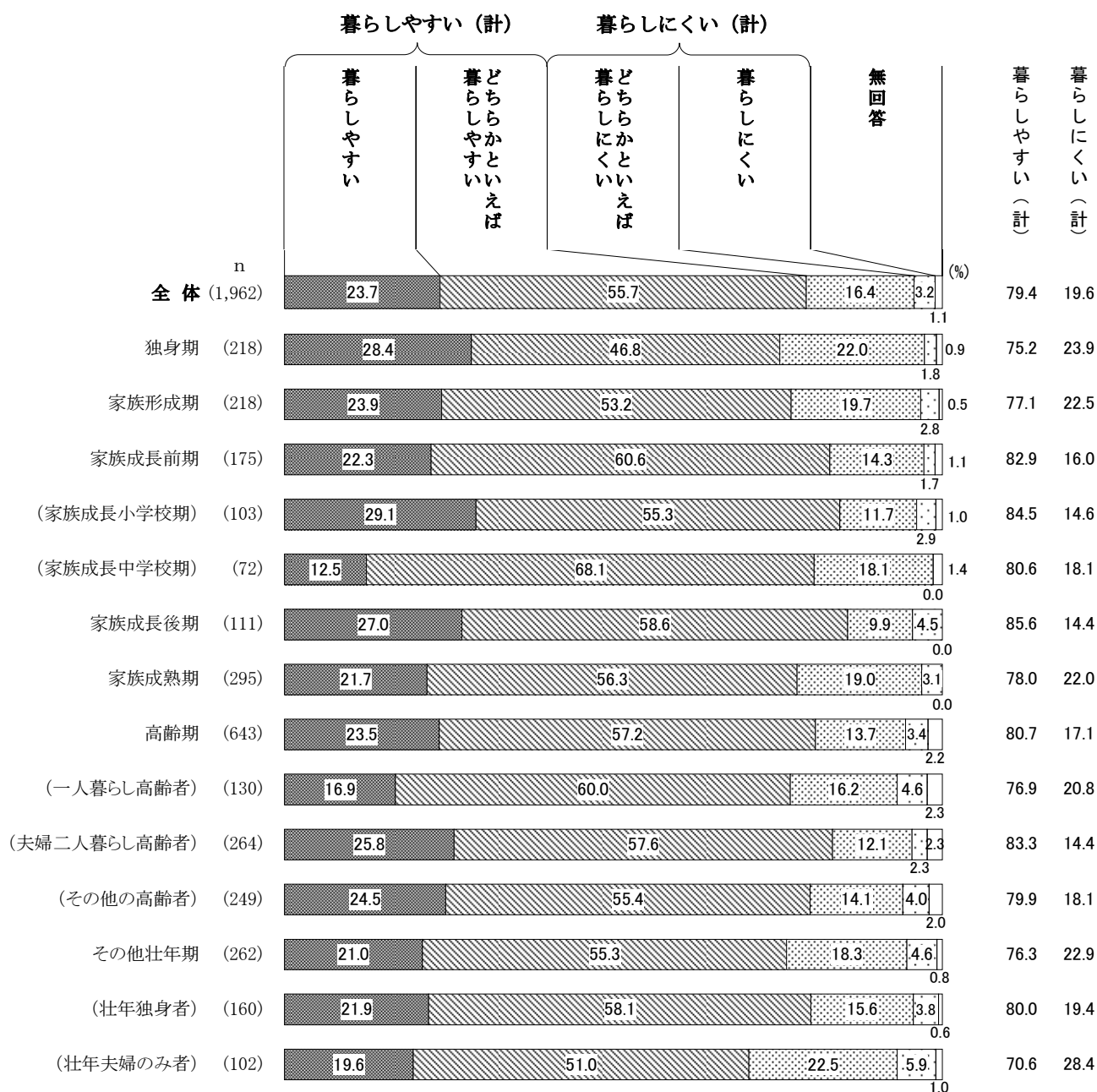
就労・就学場所別にみると、大きな差はみられない。

図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



ライフステージ別でみると、家族成長小学校期、家族成長後期で、【暮らしやすい】が、それぞれ84.5%、85.6%と高くなっている。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ

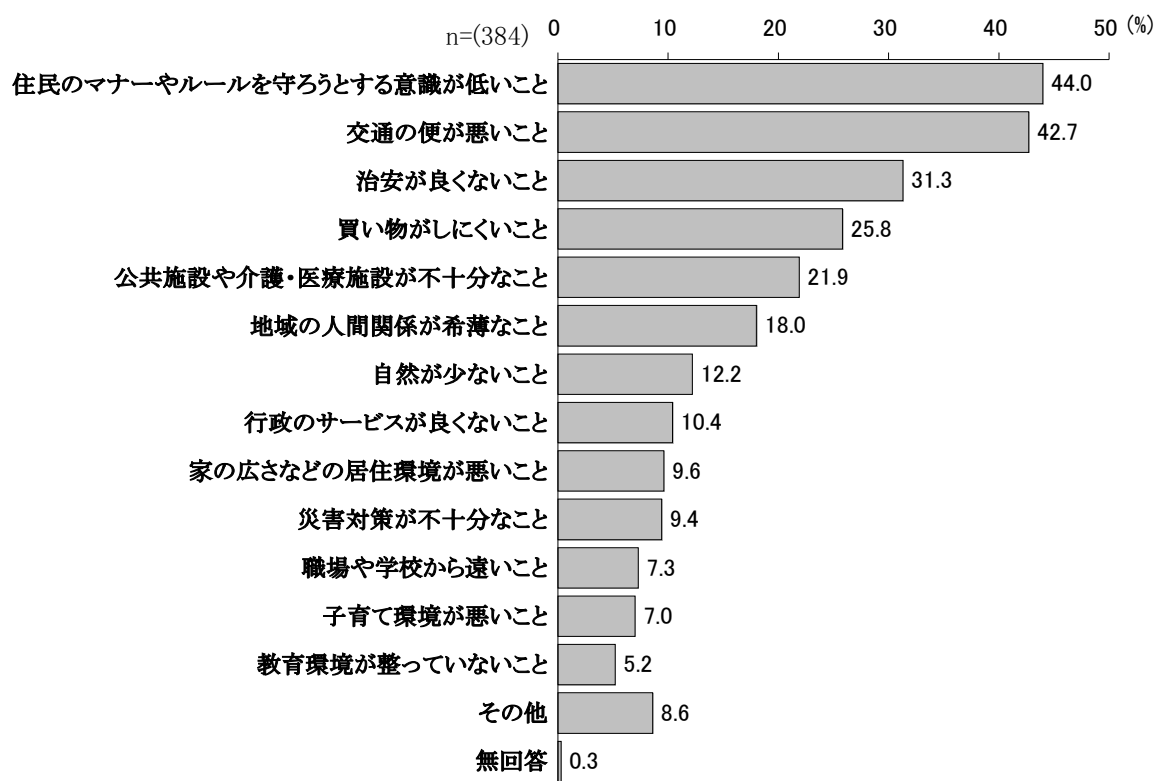


(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “マナーやルールへの意識の低さ” “交通の便の悪さ” が4割台

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に
問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(〇は3つまで)

図1-4-1 特に暮らしにくいと感じること



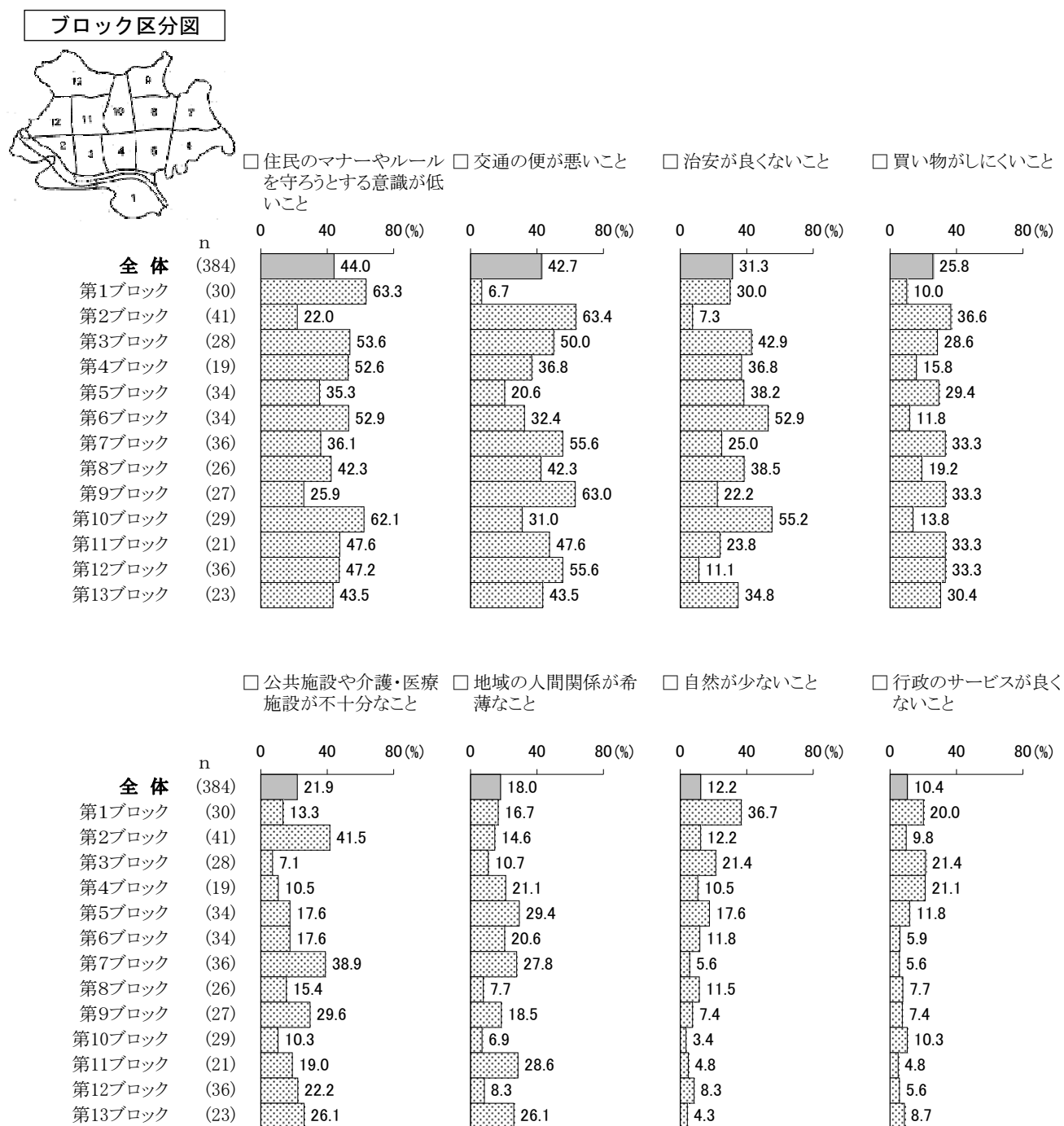
【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(44.0%)と「交通の便が悪いこと」(42.7%)の2項目が、いずれも4割を超えて、とくに高くなっている。

また、「治安が良くないこと」も31.3%と3割を超えている。

地域ブロック別でみると、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」については、第1ブロック、第10ブロックで、それぞれ63.3%、62.1%と高くなっている。「交通の便が悪いこと」については、第2ブロック、第9ブロックで、それぞれ63.4%、63.0%と他のブロックより高くなっている。

また、「治安が良くないこと」については、第6ブロック、第10ブロックで、それぞれ52.9%、55.2%と、いずれも5割を超えている。「買い物がしにくいこと」は、第2ブロック、第7ブロックで4割前後を占めて、他のブロックより高くなっている。

図1-4-2 地域ブロック別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目



第3章 調査結果の分析

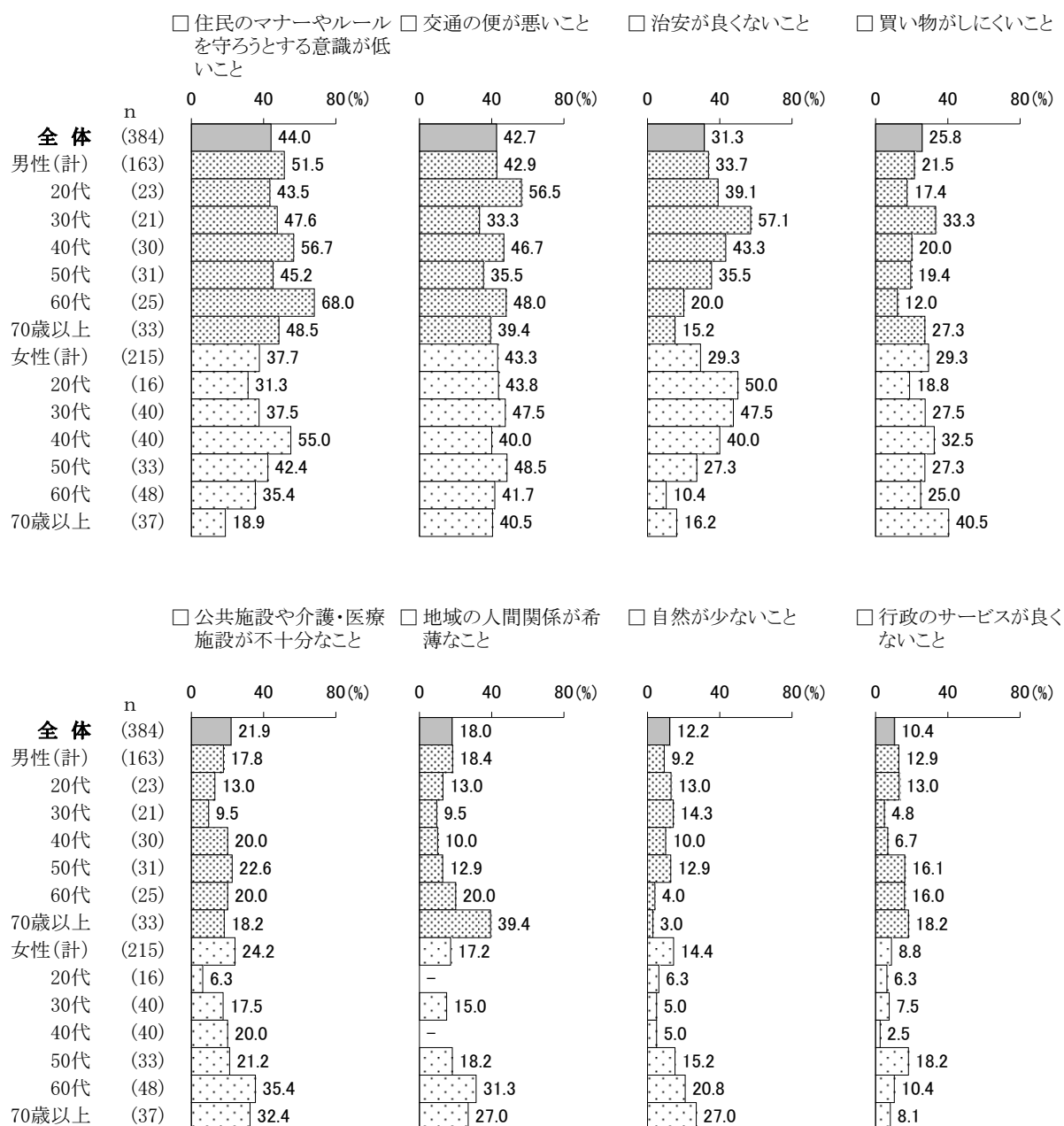
性別でみると、男性では「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が51.5%と、女性（37.7%）より高くなっている。一方、女性では「買い物がしにくいこと」が29.3%と、男性（21.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」について、60代で68.0%と高く、「交通の便が悪いこと」については20代で56.5%と高くなっている。

また、男性の30代では「治安が良くないこと」が57.1%と他の年代より高くなっている。

女性では、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」について、40代で55.0%と高くなっている。また、「治安が良くないこと」については、若い年代ほど数値が高い傾向にあり、30代では47.5%、20代では50.0%となっている。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

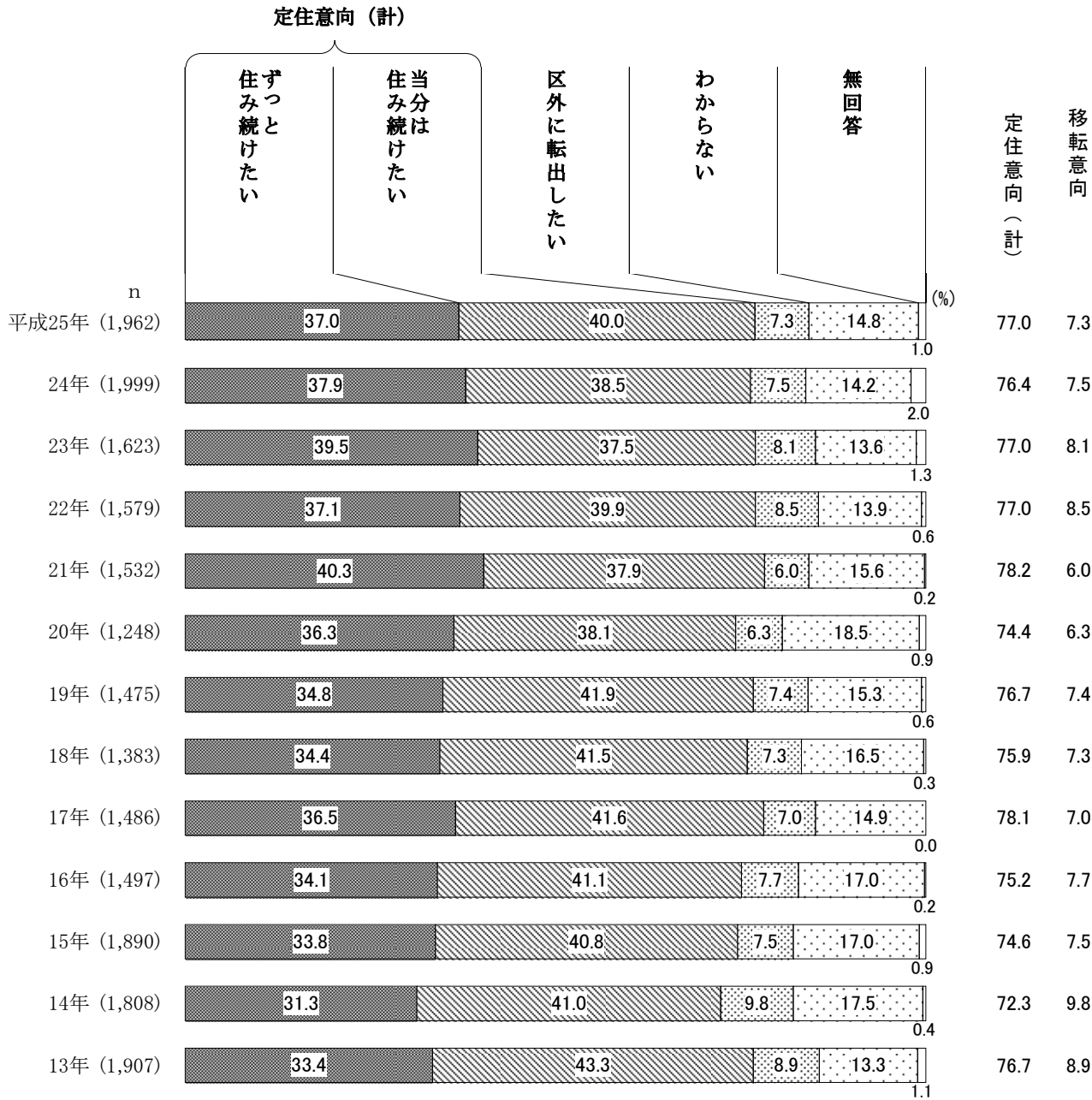


(5) 定住意向

■ 【定住意向】をもっている人は7割台半ば

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

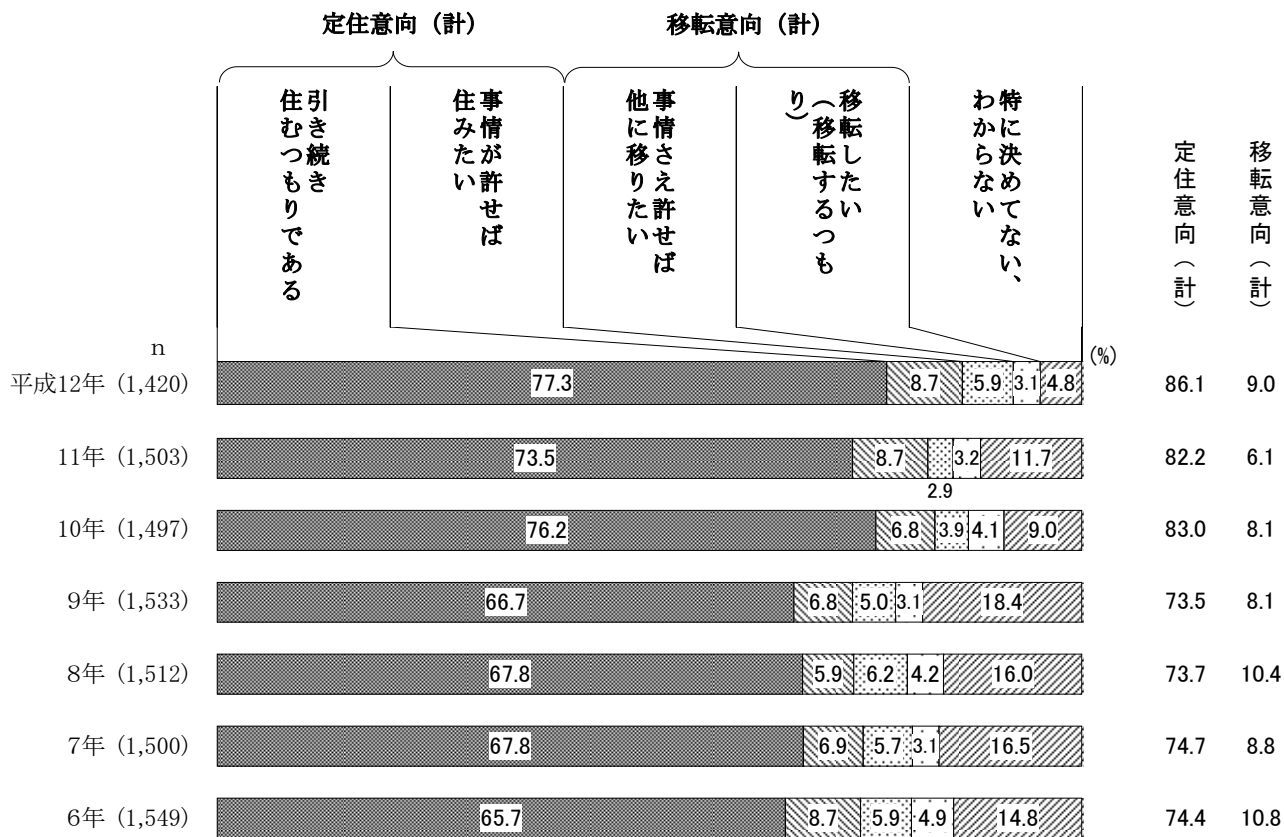
図1-5-1 経年比較／定住意向



足立区への定住意向を経年でみると、今回調査では、「ずっと住みたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた【定住意向】は77.0%となっており、ここ数年大きな変化はみられない。

参考／定住・移転意向の推移

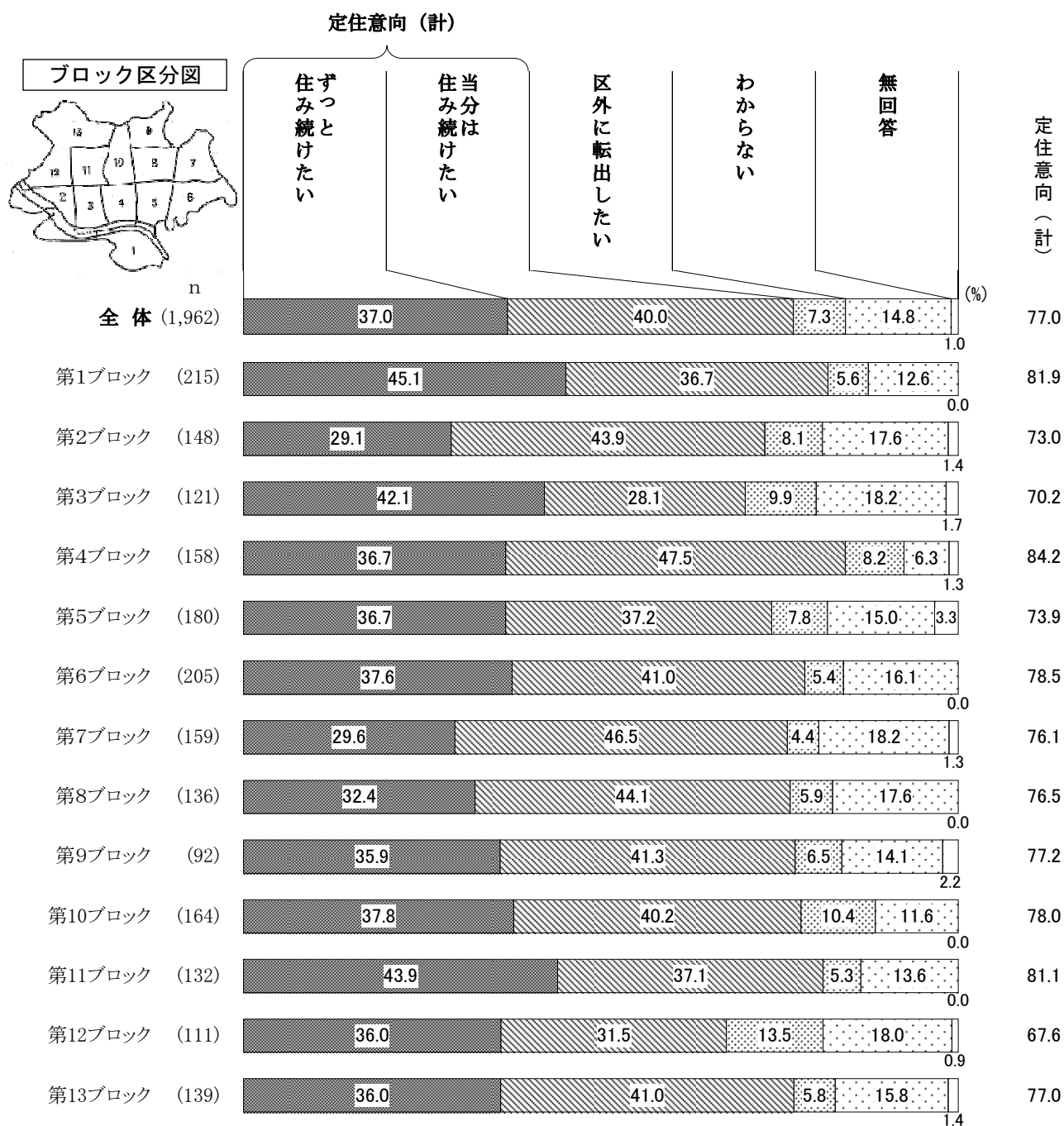
問 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。この中から1つにお答えください
(○は1つ)



※ 平成12年までと平成13年以降では、調査方法（平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、【定住意向】は、第4ブロックで84.2%と最も高く、以下第1ブロック（81.9%）、第11ブロック（81.1%）の順となっている。

図1-5-2 地域ブロック別／定住意向



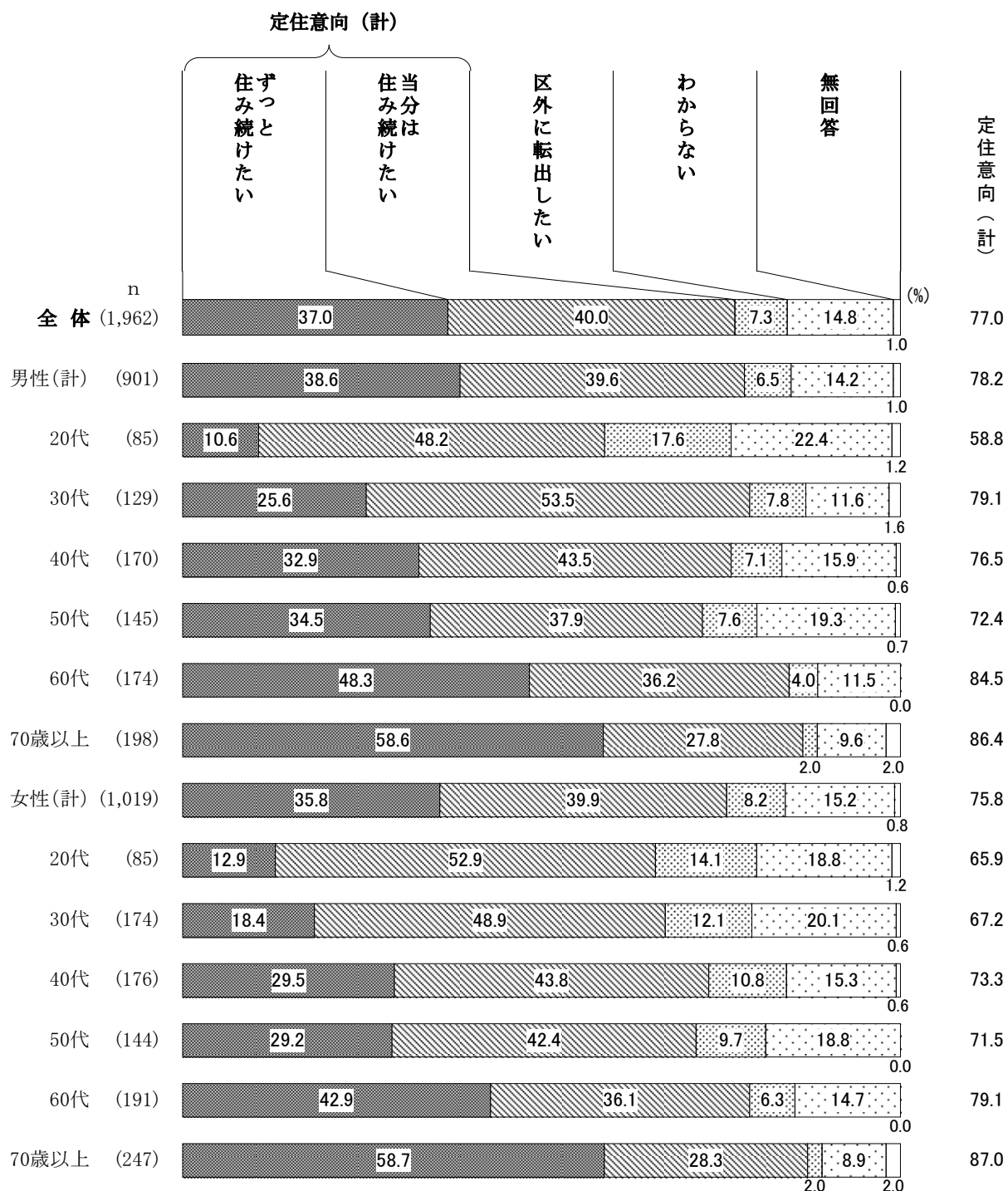
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【定住意向】は、男性78.2%、女性75.8%となっている。

性・年代別でみると、男性20代で【定住意向】は58.8%と最も低く、60代、70歳以上では、それぞれ84.5%、86.4%と8割を超え高くなっている。

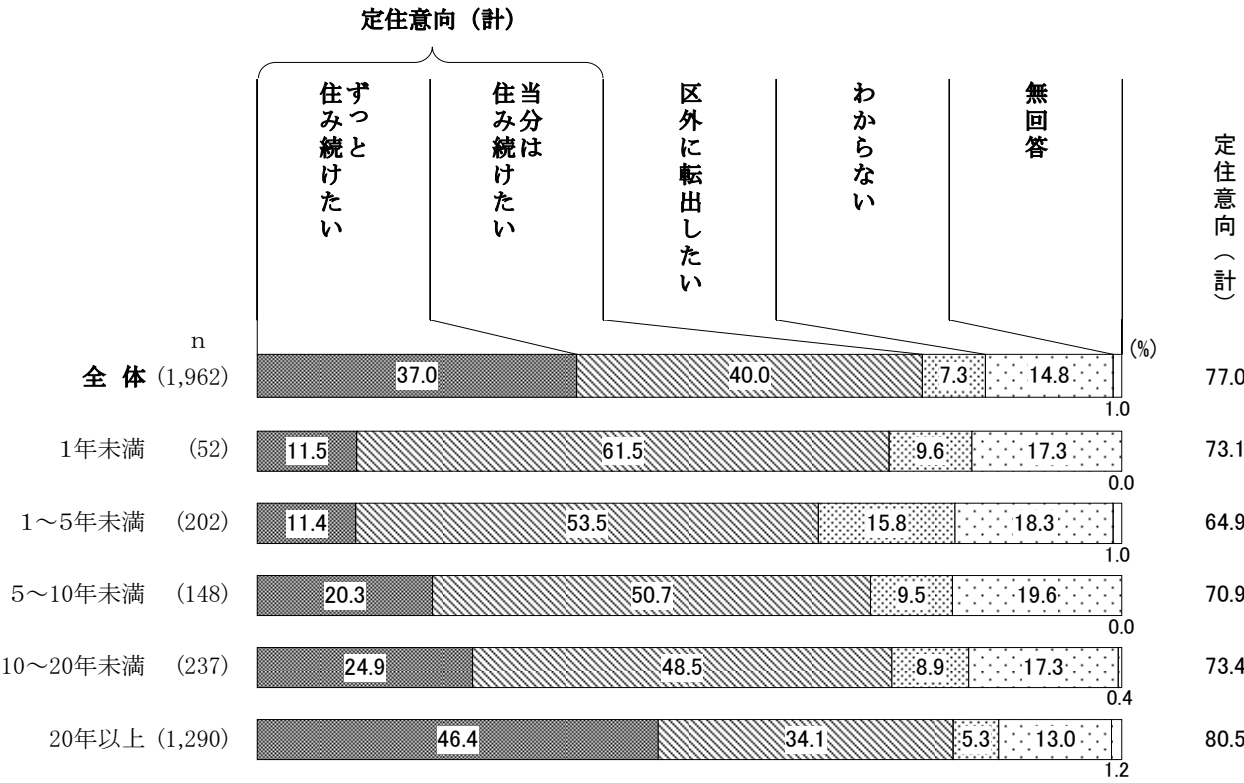
女性では、加齢とともに、【定住意向】は増加する傾向にあり、70歳以上では87.0%となっている。

図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向



居住年数別でみると、1～5年未満で【定住意向】はやや低下するが、〈5年以上〉では、居住年数が長くなるにつれて、増加する傾向を示している。

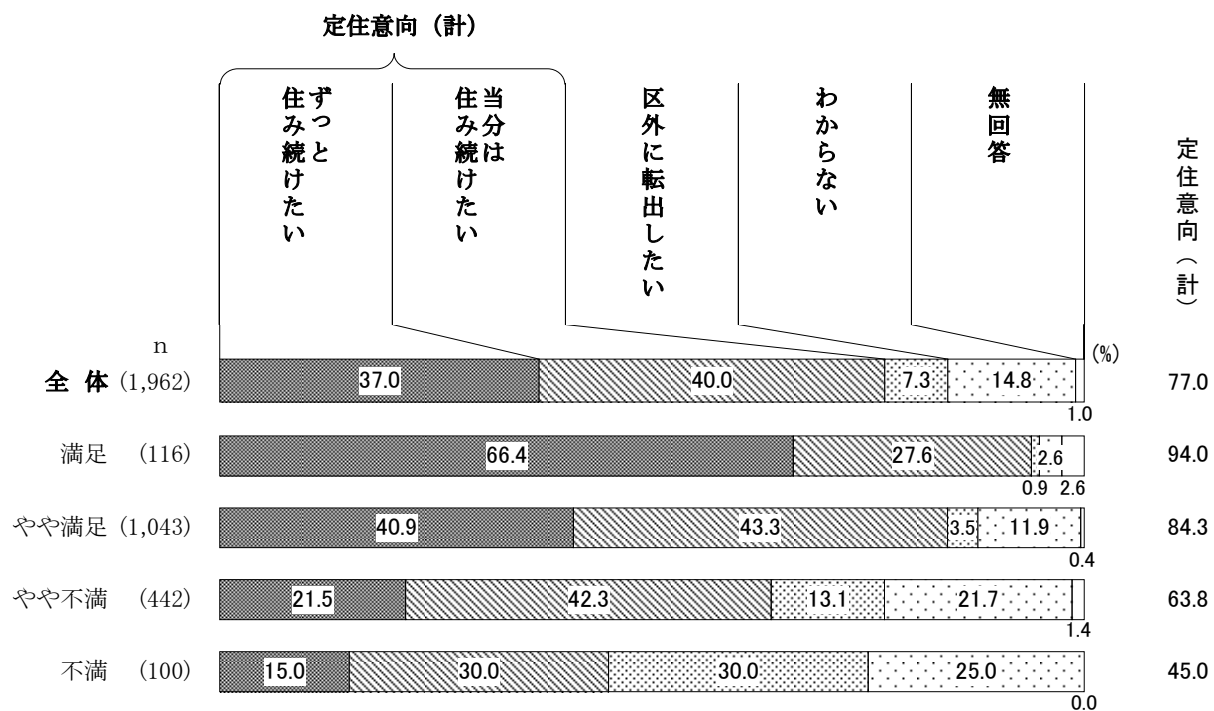
図1-5-4 居住年数／定住意向



第3章 調査結果の分析

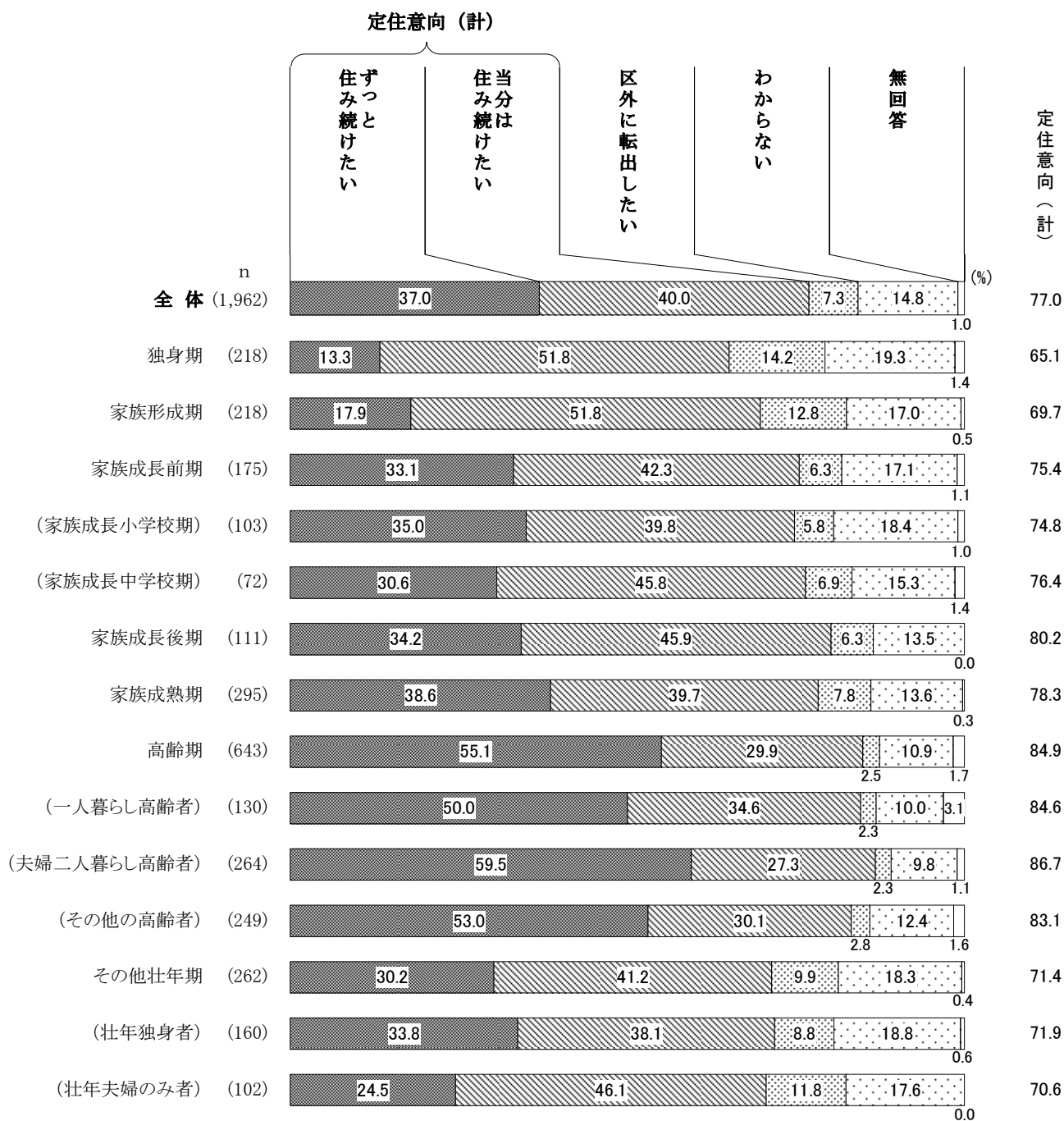
区政満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて、【定住意向】は高くなり、満足という層では94.0%となっている。

図1-5-5 区政満足度別／定住意向



ライフステージ別でみると、家族成長後期、高齢期で【定住意向】が、それぞれ80.2%、84.9%と高くなっている。

図1-5-6 ライフステージ別／定住意向



2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知
 - (8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

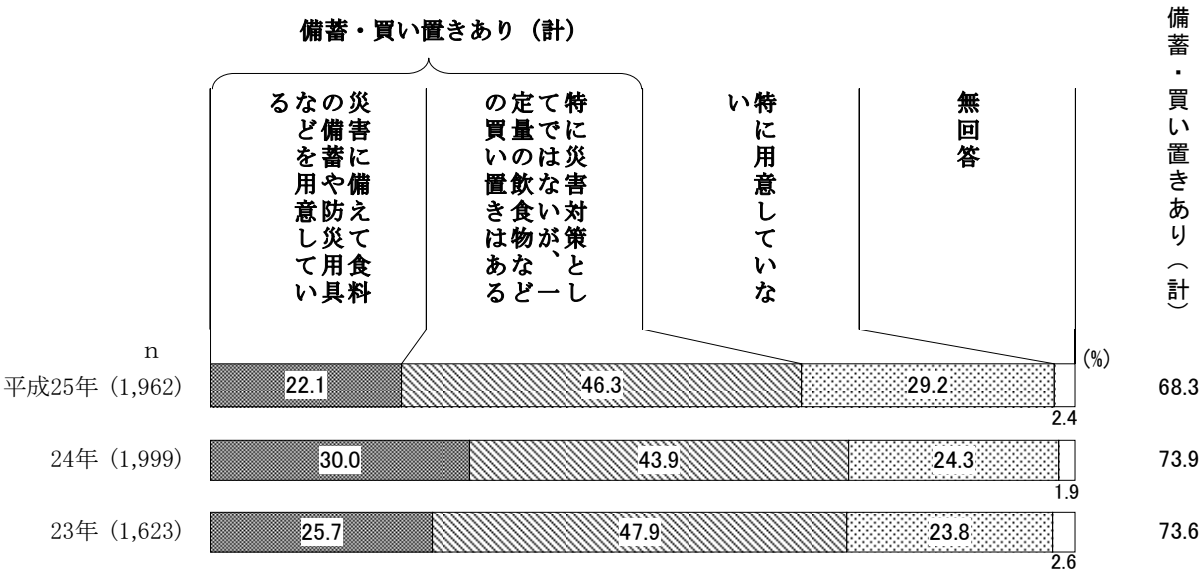
2. 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■ 家庭備蓄をしていない方が増加

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。(○は1つだけ)

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.1%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.3%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は68.3%となっている。一方、「特に用意していない」は29.2%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の30.0%から、今回22.1%と7.9ポイント低下している。一方、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、今回46.3%と、前回の43.9%より2.4ポイント微増している。

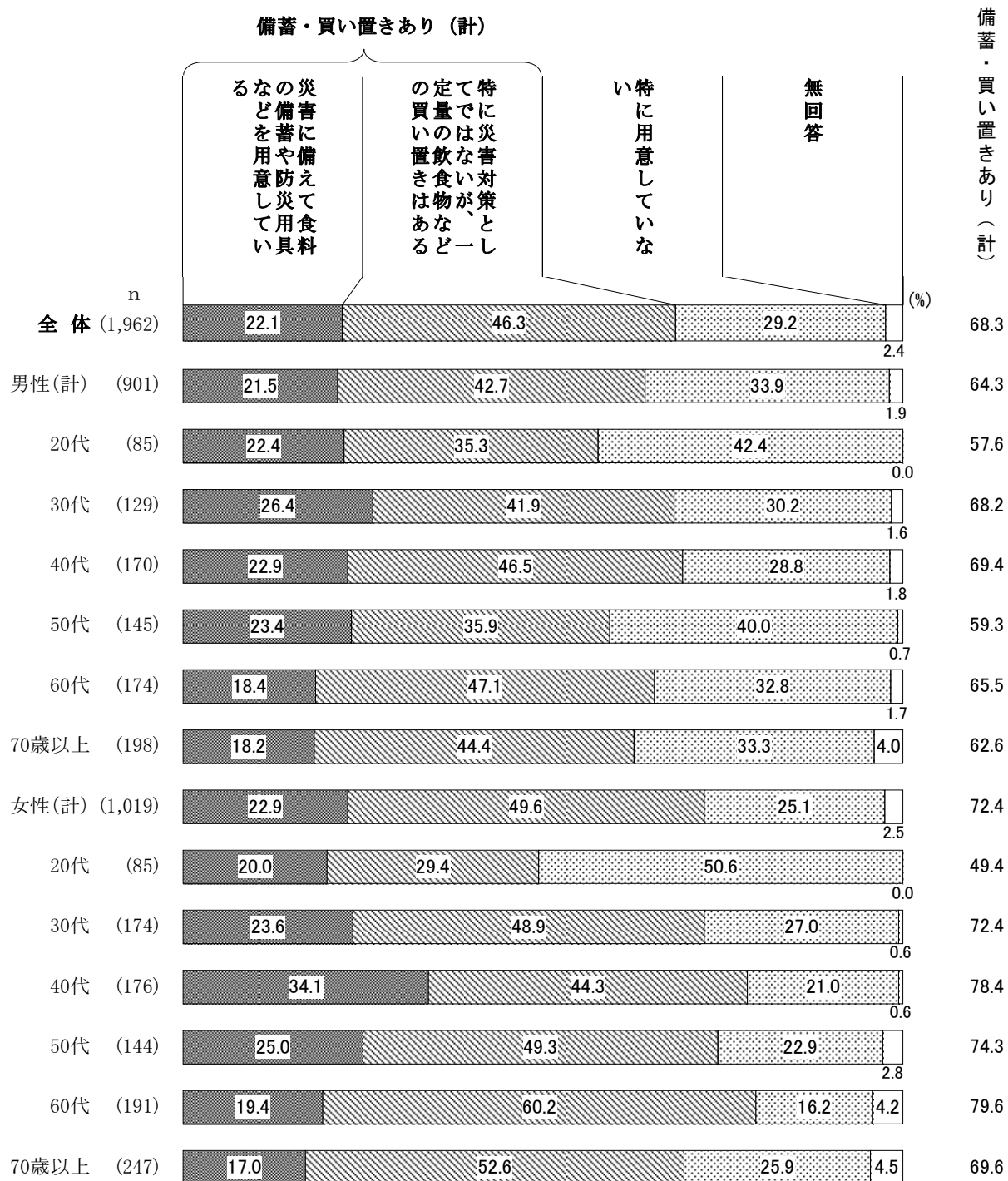
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は、男性64.3%、女性72.4%と女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、30代、40代で、【備蓄・買い置きあり】が7割近くを占め、他の年代より高くなっている。

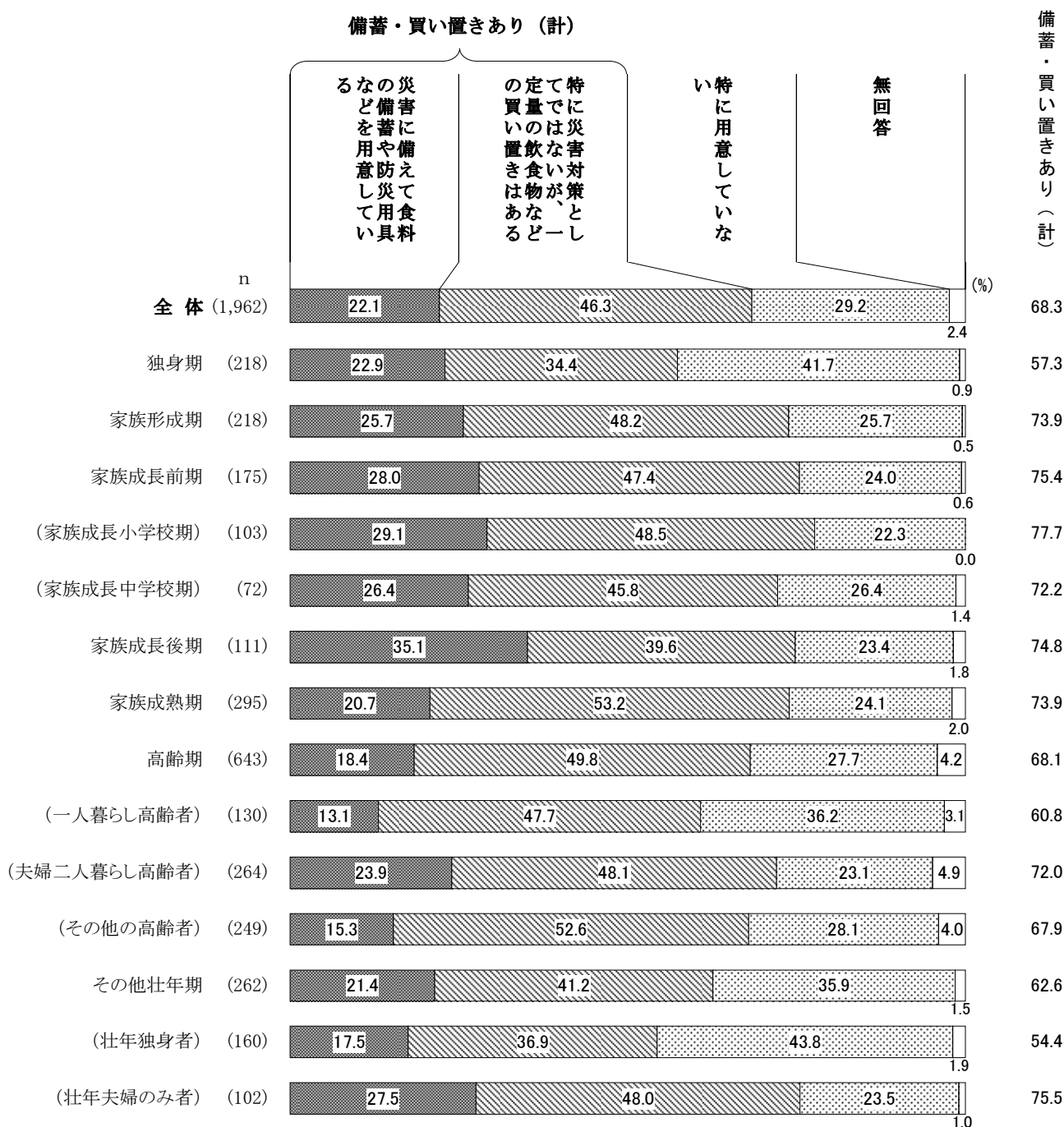
女性の場合、30代から60代で【備蓄・買い置きあり】が7割を超え、高くなっている。「特に用意していない」は女性20代で5割を超え、最も高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長前期、中でも家族成長小学校期で77.7%と高くなっている。一方、「特に用意していない」は独身期（41.7%）と壮年独身者（43.8%）で4割を超え高くなっている。

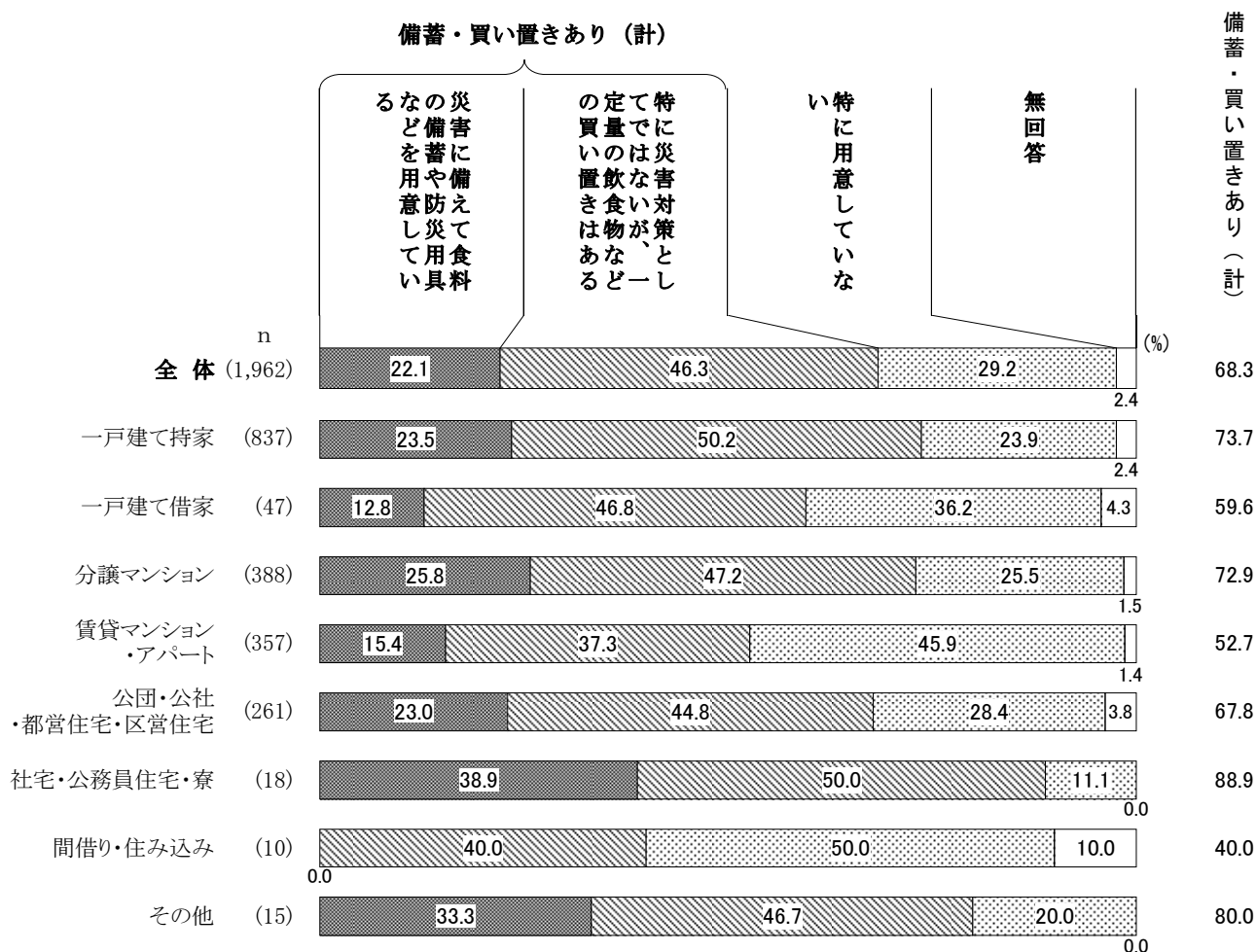
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンションでは、【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ73.7%、72.9%と高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ59.6%、52.7%と低くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

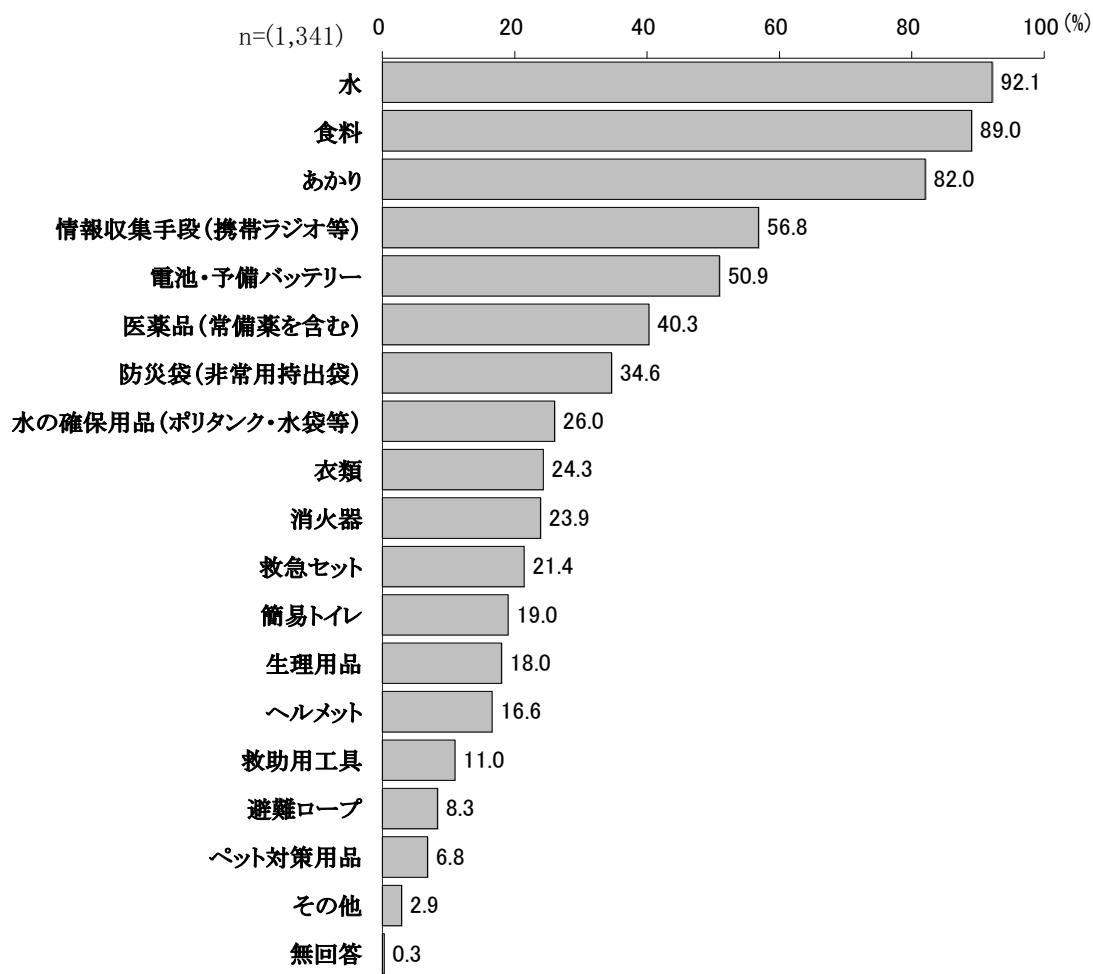
■ 「水」と「食料」が9割前後

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問5－1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

(○はあてはまるものすべて)

図2－2－1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が92.1%で最も高く、以下「食料」(89.0%)、「あかり」(82.0%)の順となっている。

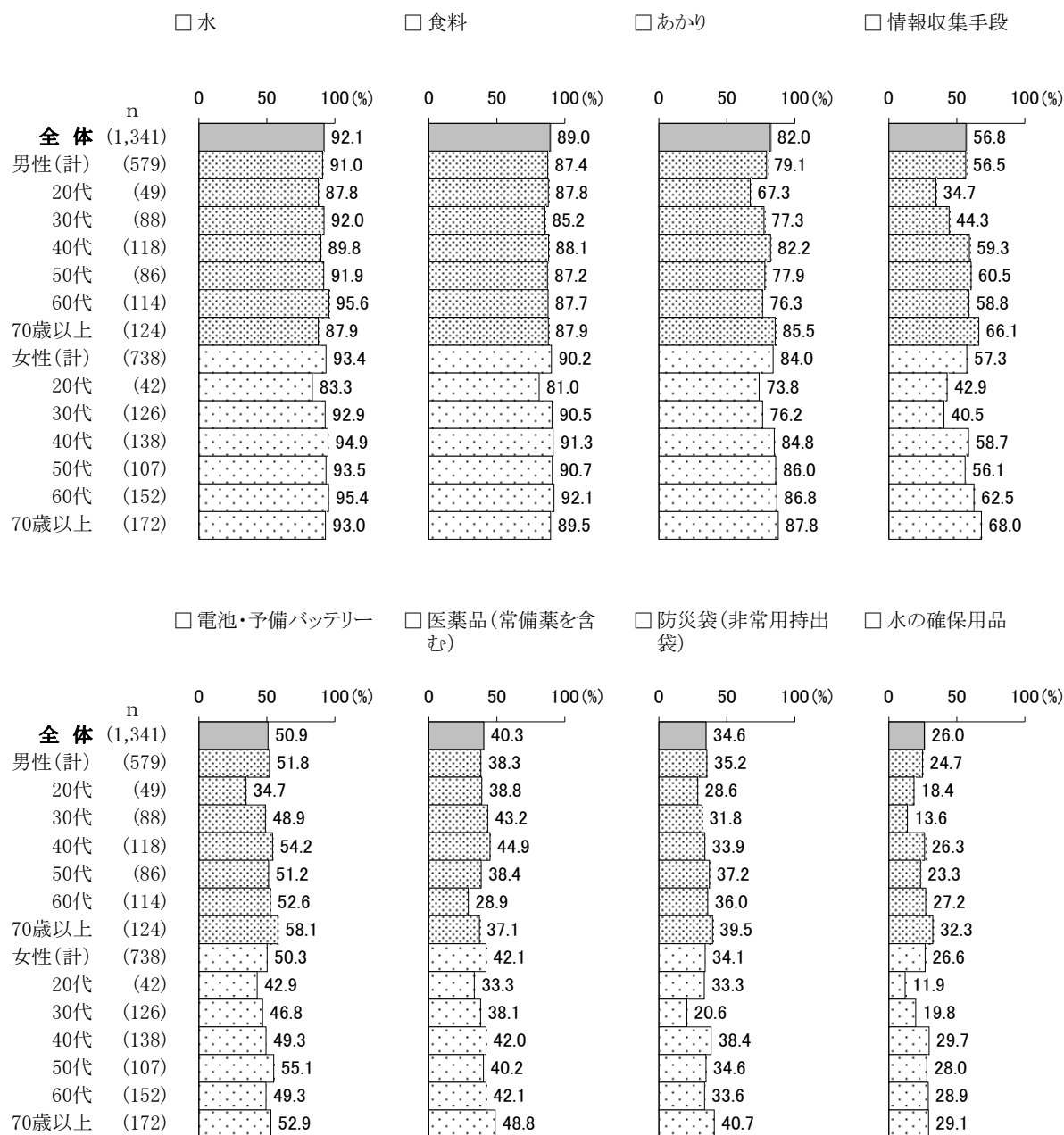
第3章 調査結果の分析

性別でみると、いずれの項目についても、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料」は、男女とも各年代にわたって高くなっている。

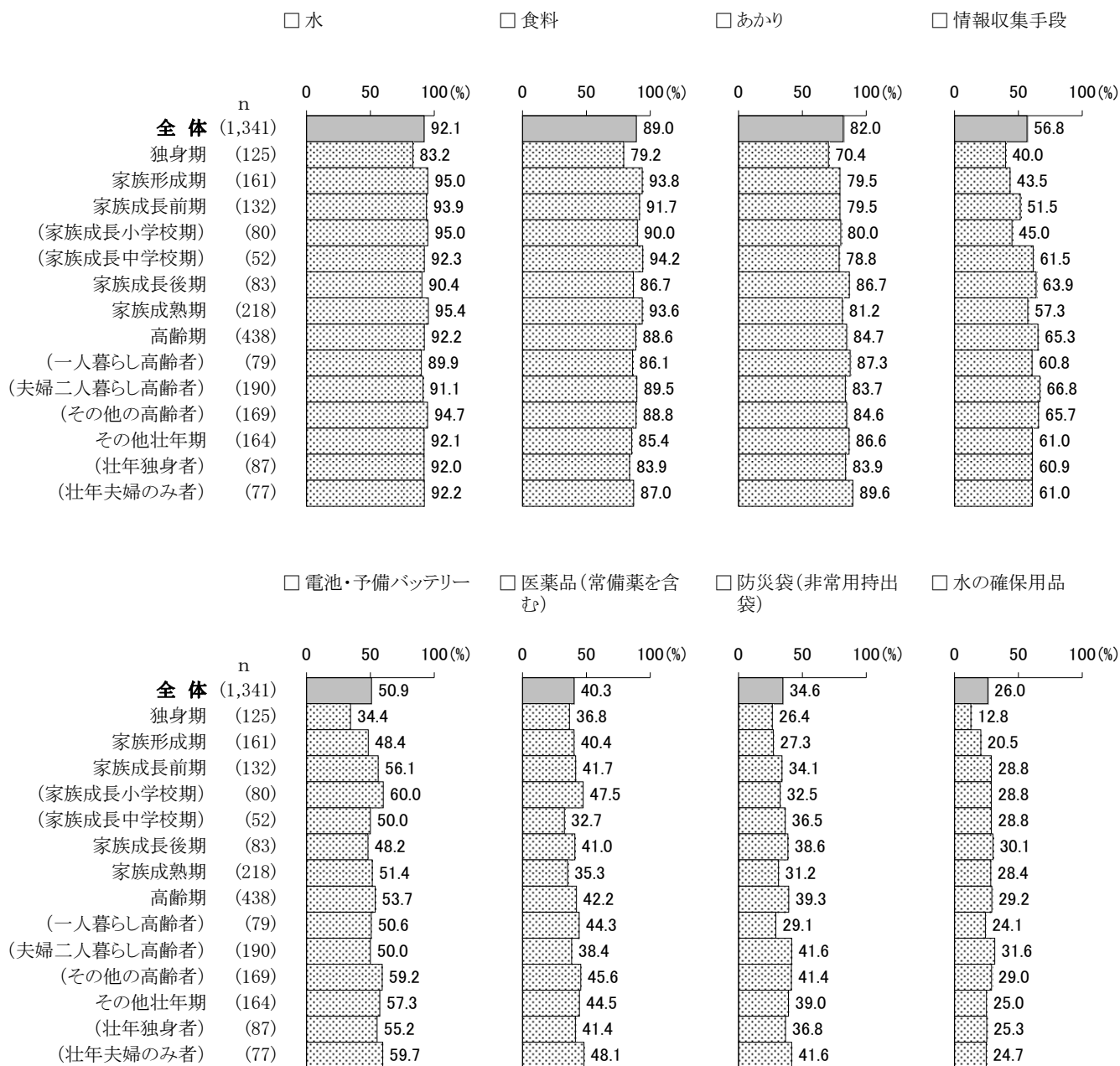
また、「情報収集手段」は、男女とも、年齢が高くなるにつれて増加する傾向にある。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別でみると、「水」と「食料」は、各ステージを通じて高くなっている。
また、「情報収集手段」については、ステージが進行するにつれて、高くなる傾向がある。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

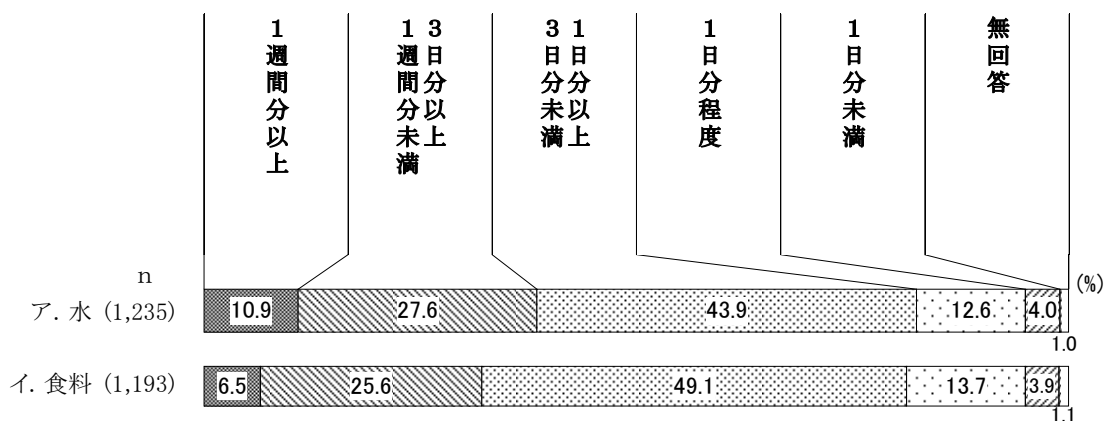
■ 〈水〉〈食料〉とも「1日分以上3日分未満」の備蓄が多く、4割台

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

図2-3-1 備蓄量



「水」「食料」を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「1日分以上3日分未満」が43.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(27.6%)となっている。

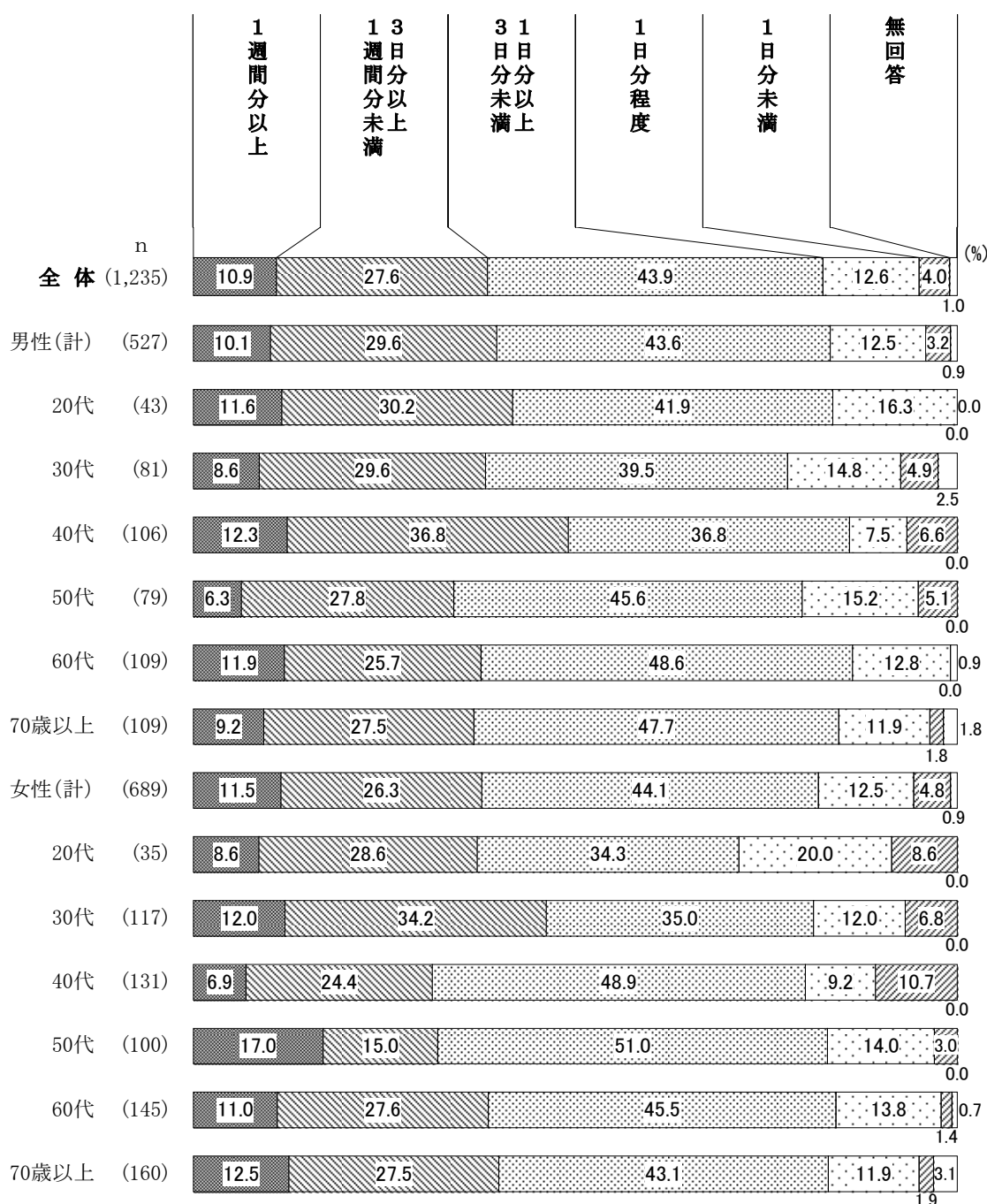
〈食料〉については、「1日分以上3日分未満」が49.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(25.6%)となっている。

水の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、30代、50代、60代、70歳以上では「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっているが、40代では「1日分以上3日分未満」と「3日分以上1週間分未満」が、いずれも36.8%となっている。

女性の場合、20代、40代、50代、60代、70歳以上では「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高くなっているが、30代では「1日分以上3日分未満」(35.0%)と「3日分以上1週間分未満」(34.2%)でほぼ同じ数値となっている

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



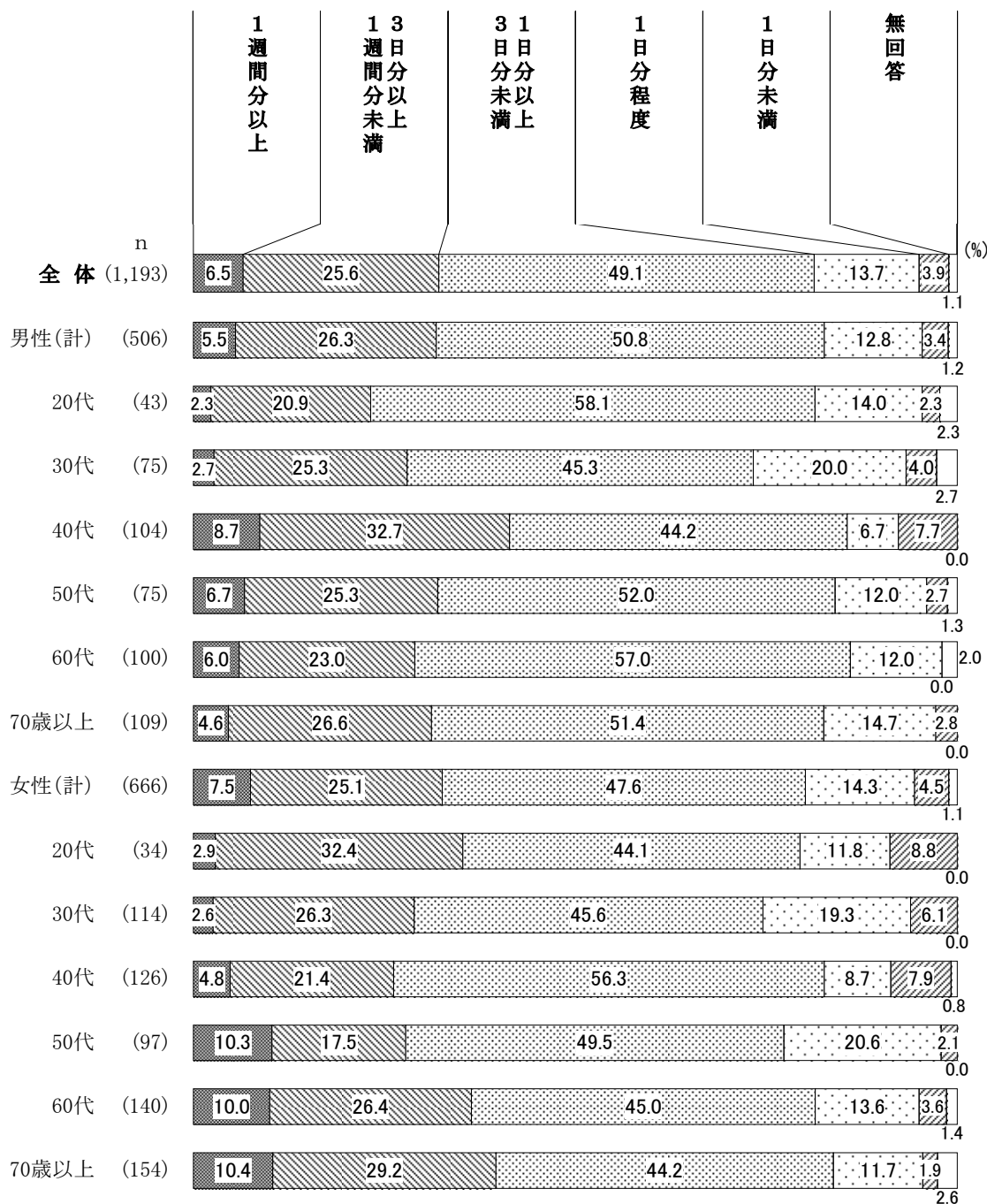
第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、いずれの年代でも「1日分以上3日分未満」が高くなっている。また、40代では「3日分以上1週間分未満」が32.7%と、他の年代より高くなっている。

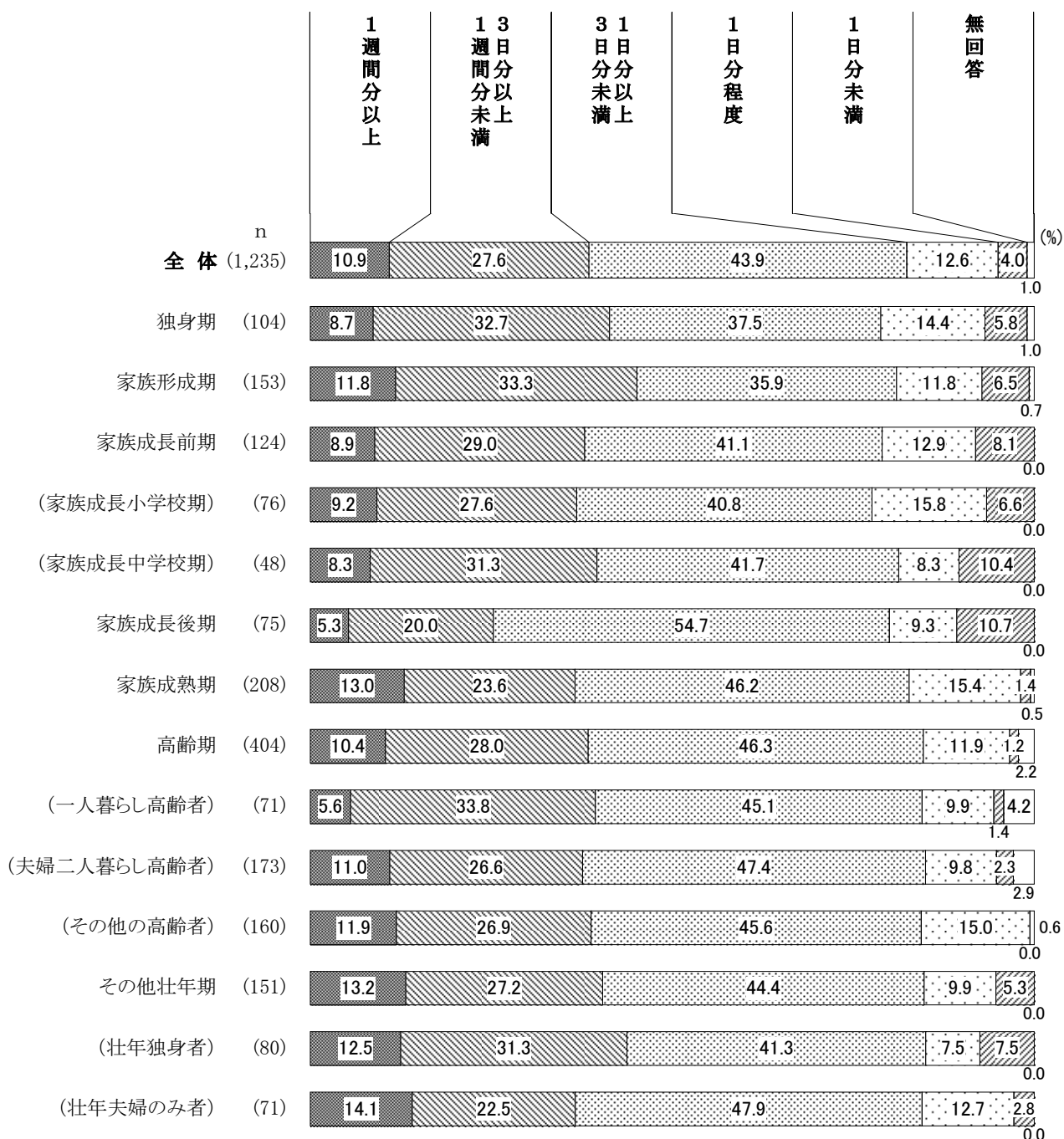
女性の場合、全年代で「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高く、とくに40代では56.3%となっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



水の備蓄量をライフステージ別でみると、独身期、家族形成期では「1日分以上3日分未満」と「3日分以上1週間分未満」が拮抗しているが、家族成長前期以降は「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回り、家族成長後期では54.7%を占めている。

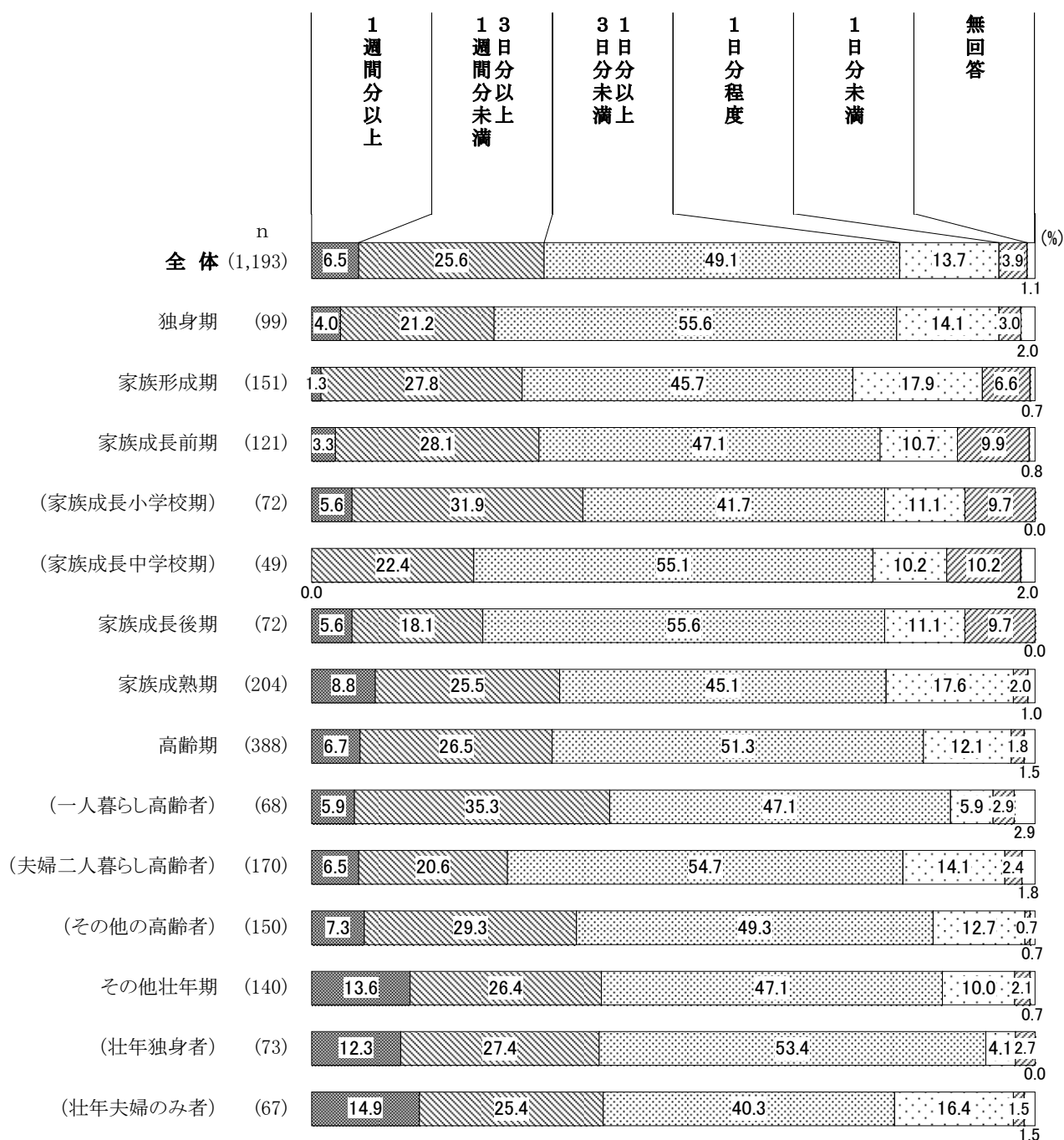
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



第3章 調査結果の分析

食料の備蓄量をライフステージ別でみると、いずれのステージでも、「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」より高く、とくに独身期、家族成長中学校期、家族成長後期では5割半ばを超えている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

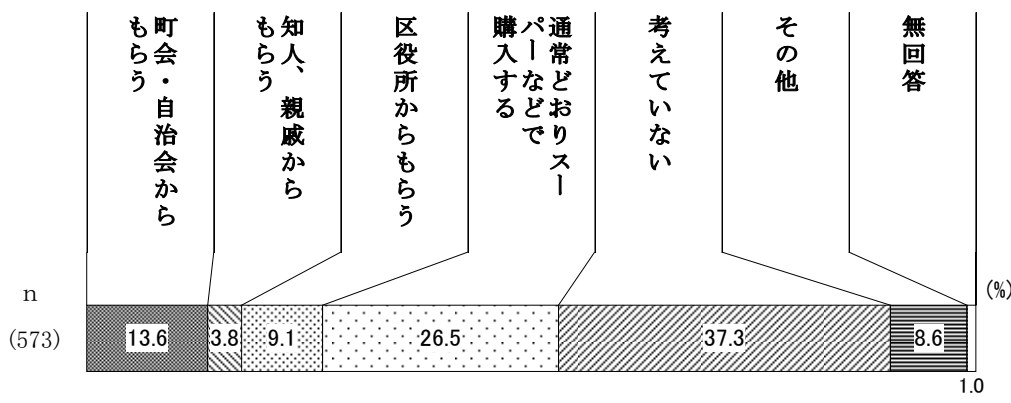
■ 「通常どおりスーパーなどで購入する」と回答した人が2割台半ばも、「考えていない」が3割台半ば

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。

(○は1つだけ)

図2-4-1 災害発生時の水や食料の確保



備蓄や買い置きを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が26.5%で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」(13.6%)となっている。一方、「考えていない」が37.3%と4割近くを占めている。

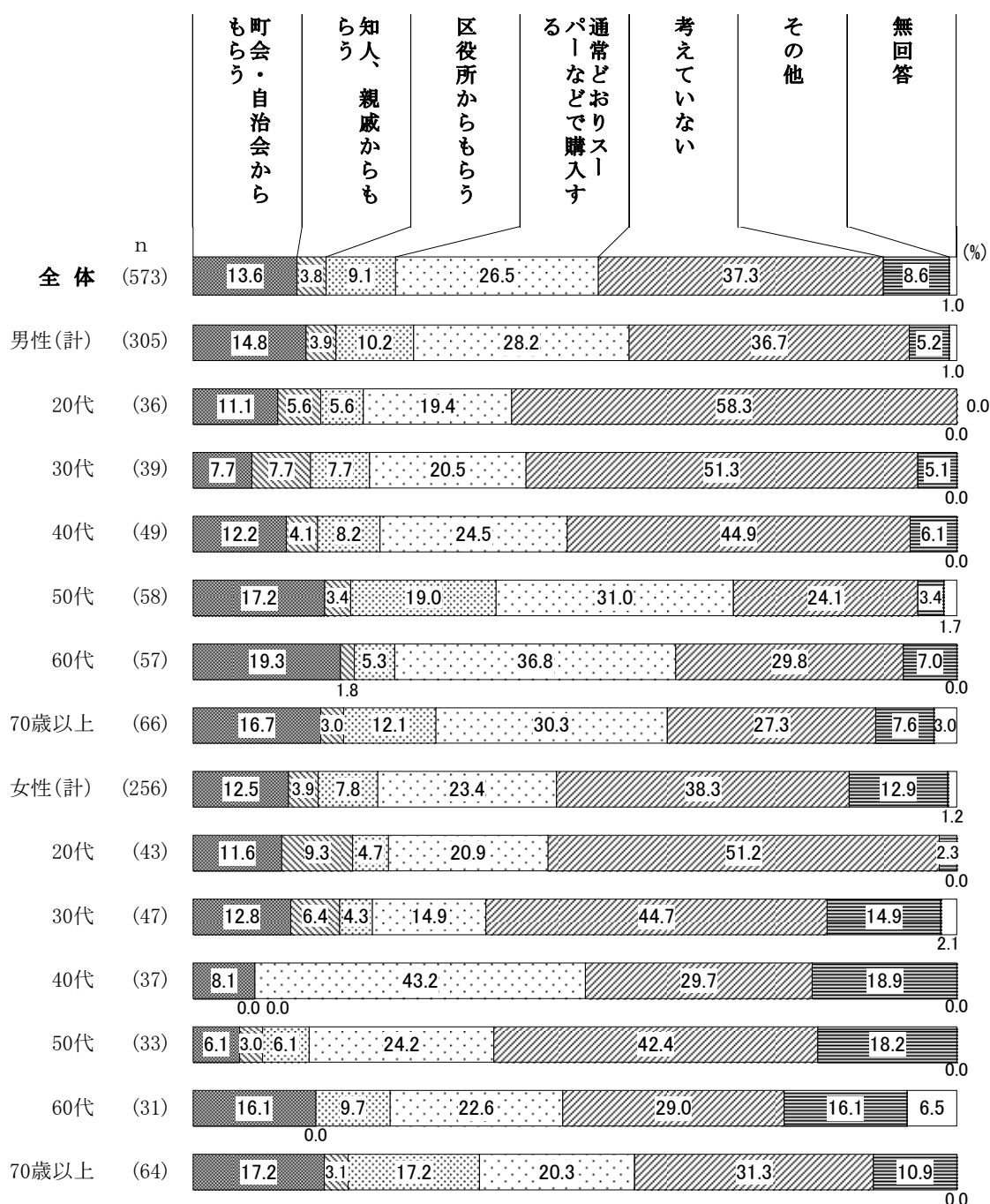
第3章 調査結果の分析

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、20代、30代では「考えていない」が5割を超えている。50代から70歳以上では「町会・自治会からもらう」が1割台半ば以上と、他の年代より高くなっている。また、50代、60代、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超えて、他の年代より高くなっている。

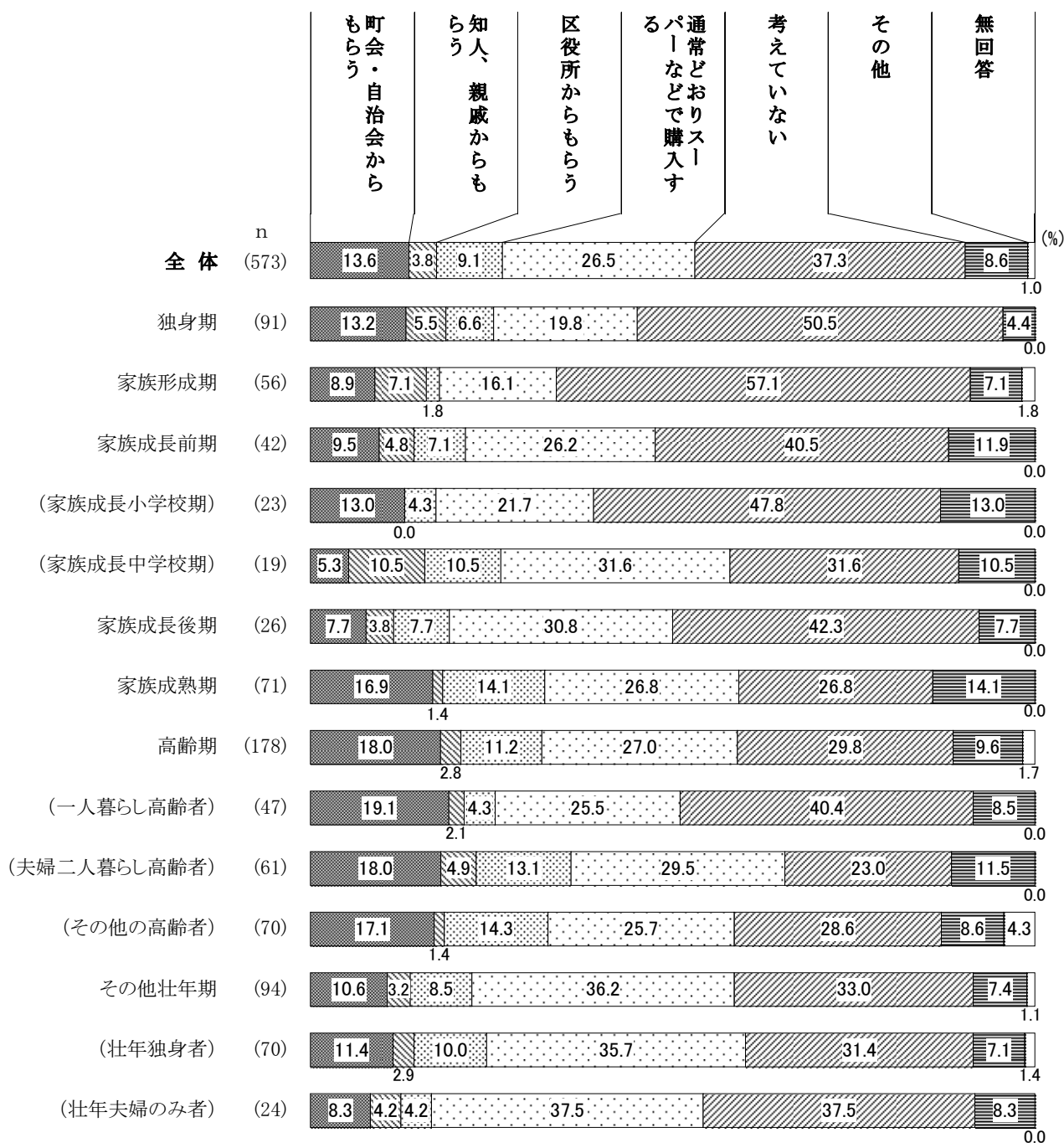
女性の場合、20代、30代、50代では「考えていない」が4割を超えている。一方、40代では「通常どおりスーパーなどで購入する」が43.2%と極めて高くなっている。

図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別でみると、独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長小学校期、家族成長後期、一人暮らし高齢者では「考えていない」が4割を超えて高くなっている。家族成長中学校期、家族成長後期、その他壮年期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が3割を超え、他のステージより高くなっている。家族成熟期、高齢期になると、「町会・自治会からもらう」が1割台半ばを超えている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



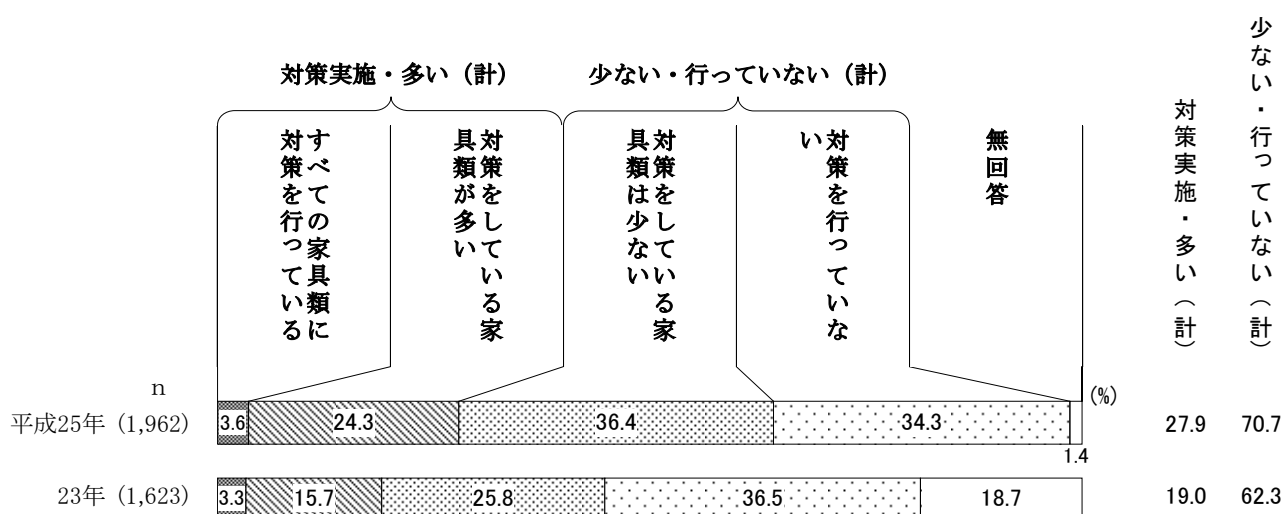
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしている方が約3割、対策をしていない方が約7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。（○は1つだけ）

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 平成23年度調査比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.6%で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.3%を合わせた【対策実施・多い】が27.9%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.4%、「対策を行っていない」は34.3%となっている。

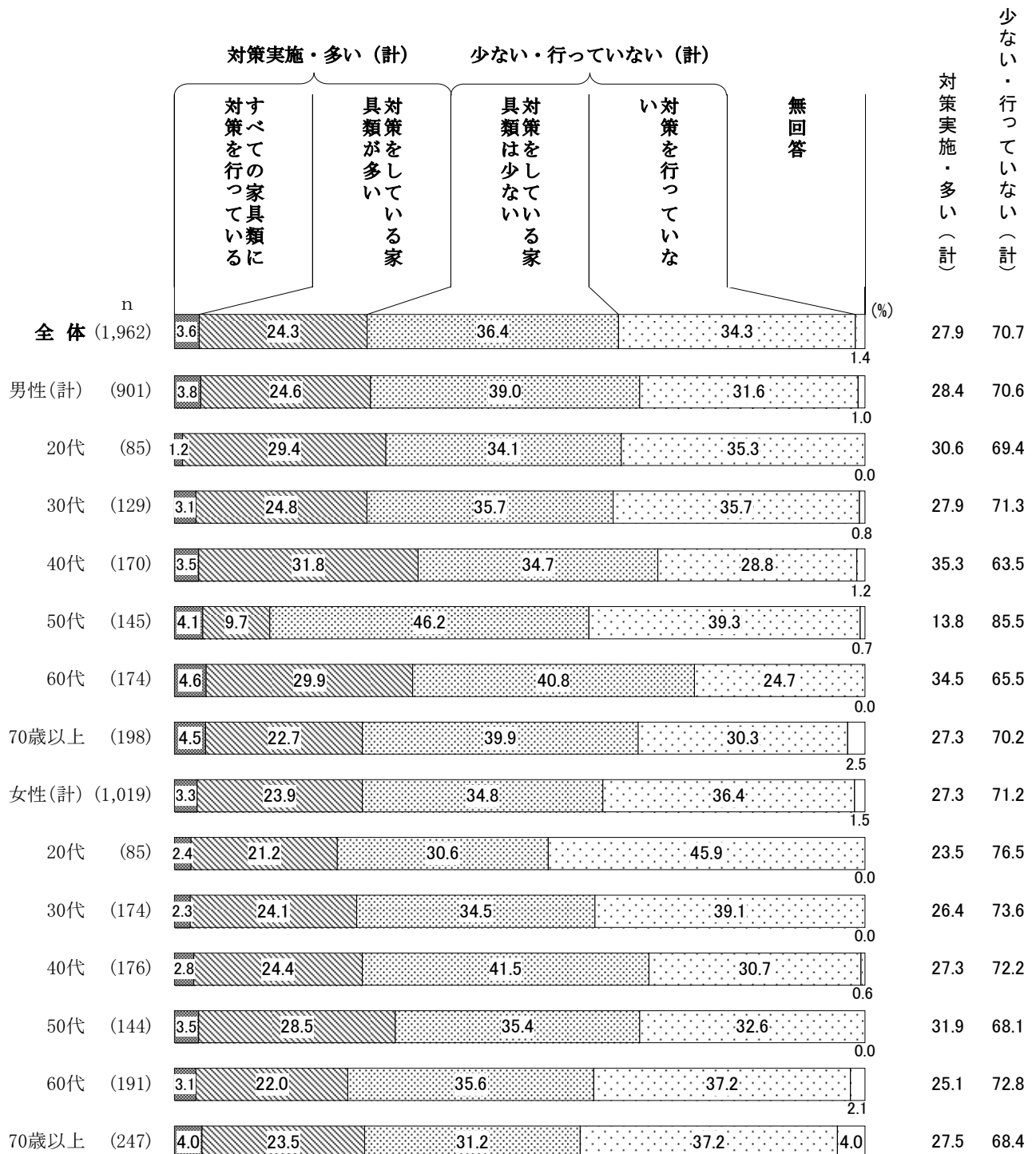
平成23年度調査と比較すると、【対策実施・多い】は19.0%から27.9%へと、8.9ポイント上昇している。また、【対策実施・少ない】は62.3%から70.7%と8.4ポイント上昇した。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、40代、60代では【対策実施・多い】が、それぞれ35.3%、34.5%と高くなっている。一方、50代では【対策実施・多い】が、13.8%と他の年代よりかなり低くなっている。

女性の場合、20代を除くと、いずれの年代も【対策実施・多い】が2割台半ばを超え、高くなっている。

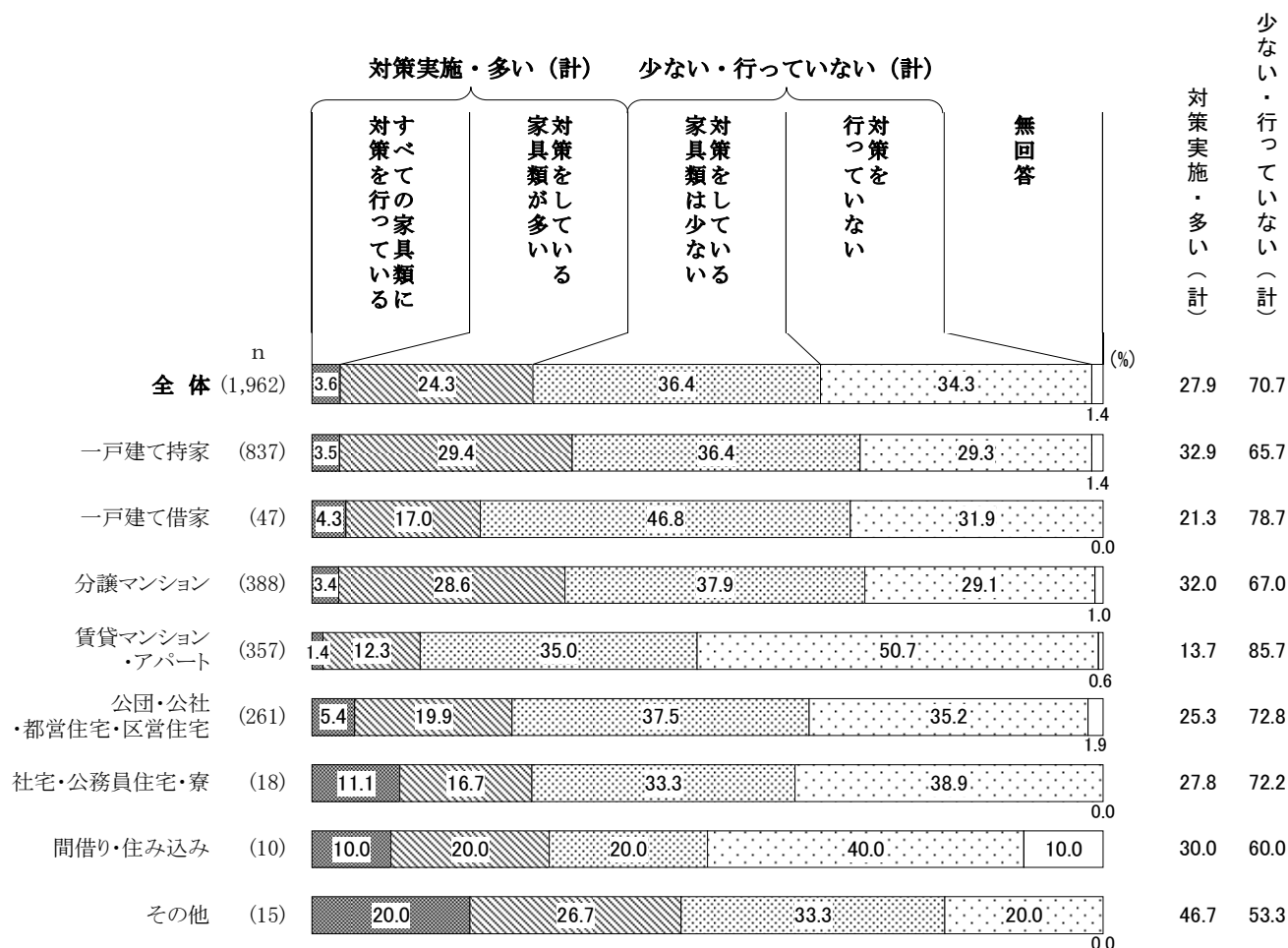
図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンションでは【対策実施・多い】が、それぞれ32.9%、32.0%と3割を超えて、他の住居形態よりやや高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



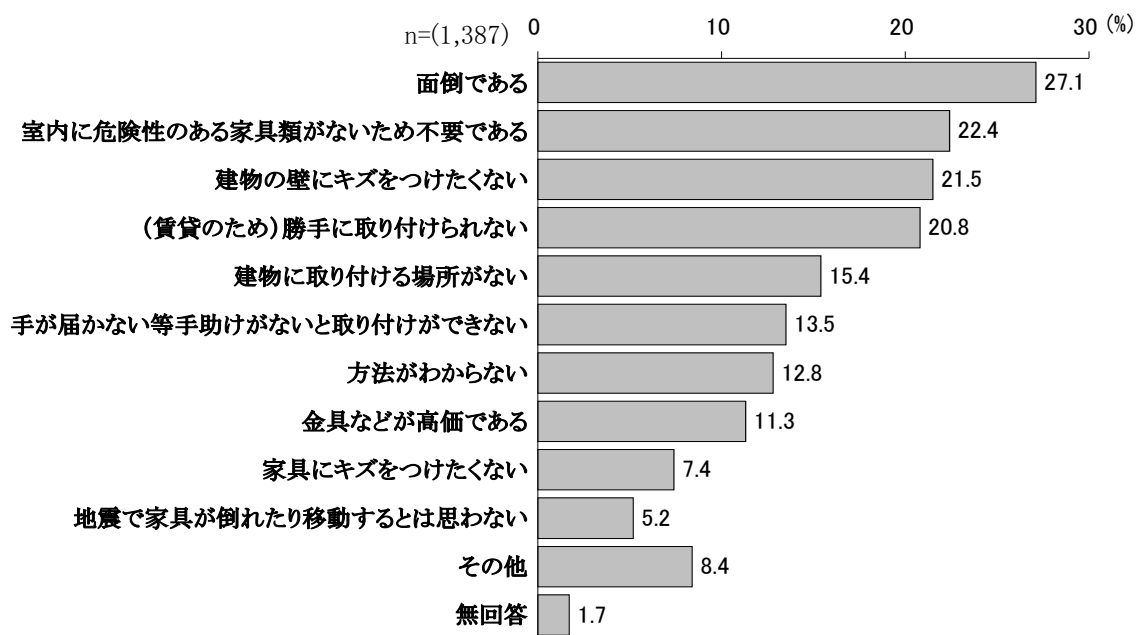
(6) 対策をしていない理由

■ “面倒” “不要” “キズをつけたくない” “勝手にできない” が2割台で上位

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方へ

問7—1 どのような理由からですか。(〇はあてはまるものすべて)

図2-6-1 対策をしていない理由

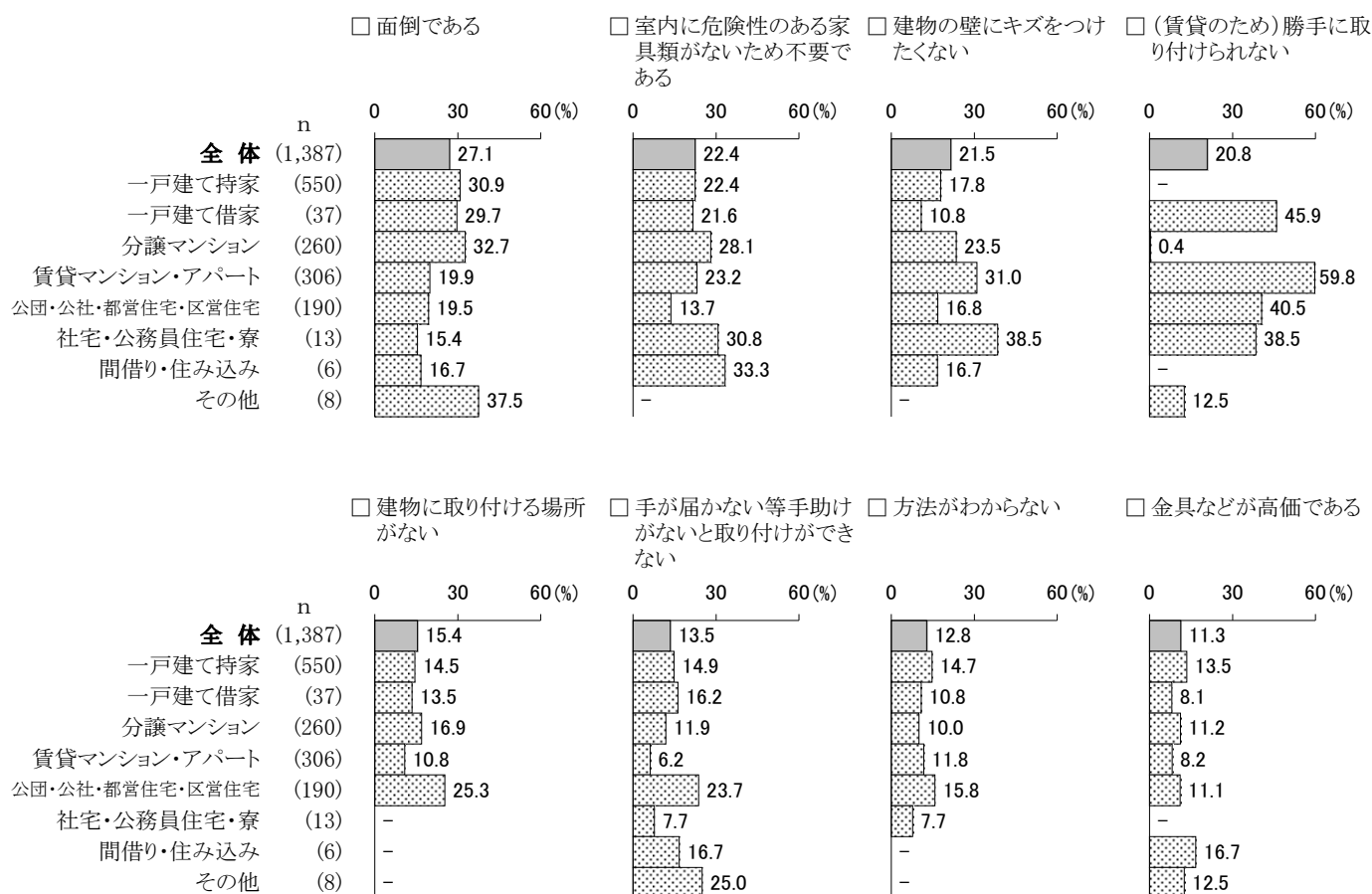


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が27.1%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(22.4%)、「建物の壁にキズをつけたくない」(21.5%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(20.8%)の順となっている。

第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、分譲マンションでは、「面倒である」がいずれも3割前後を占めている。一方、賃貸マンション・アパートでは、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が59.8%と6割近くを占めているほか、「建物の壁にキズをつけたくない」も31.0%と高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



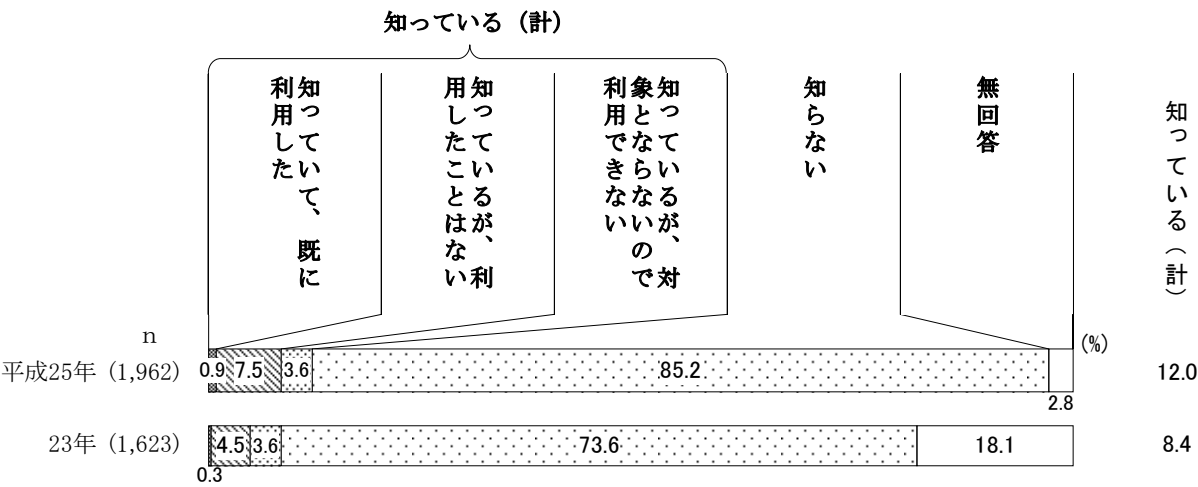
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

■ 「知らない」は8割以上

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。(○は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

図2-7-1 平成23年度調査比較／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



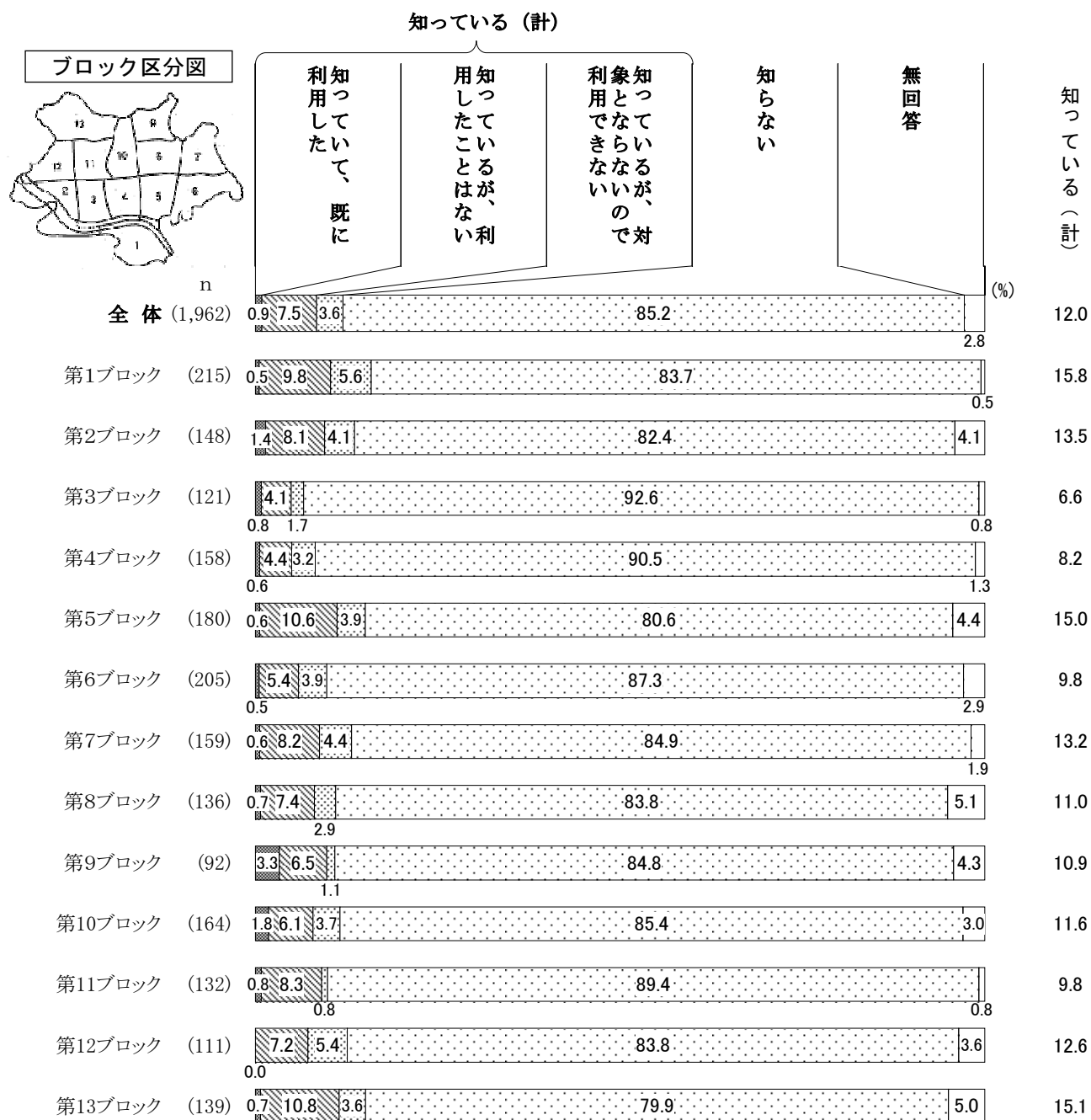
家具転倒防止器具取付、ブロック塀倒壊防止、窓ガラス飛散防止の工事についての費用助成制度について、「知っていて、既に利用した」は0.9%で、これに「知っているが、利用したことはない」(7.5%)、「知っているが、対象とならないので利用できない」(3.6%)を合わせた【知っている】は12.0%となっている。

平成23年度調査と比較すると、【知っている】は8.4%から12.0%へと、3.6ポイント上昇している。また、「知らない」は73.6%から85.2%と、11.6ポイント上昇した。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第1ブロック、第5ブロック、第13ブロックでは、【知っている】は、それぞれ15.8%、15.0%、15.1%と、他のブロックに比べてやや高くなっている。

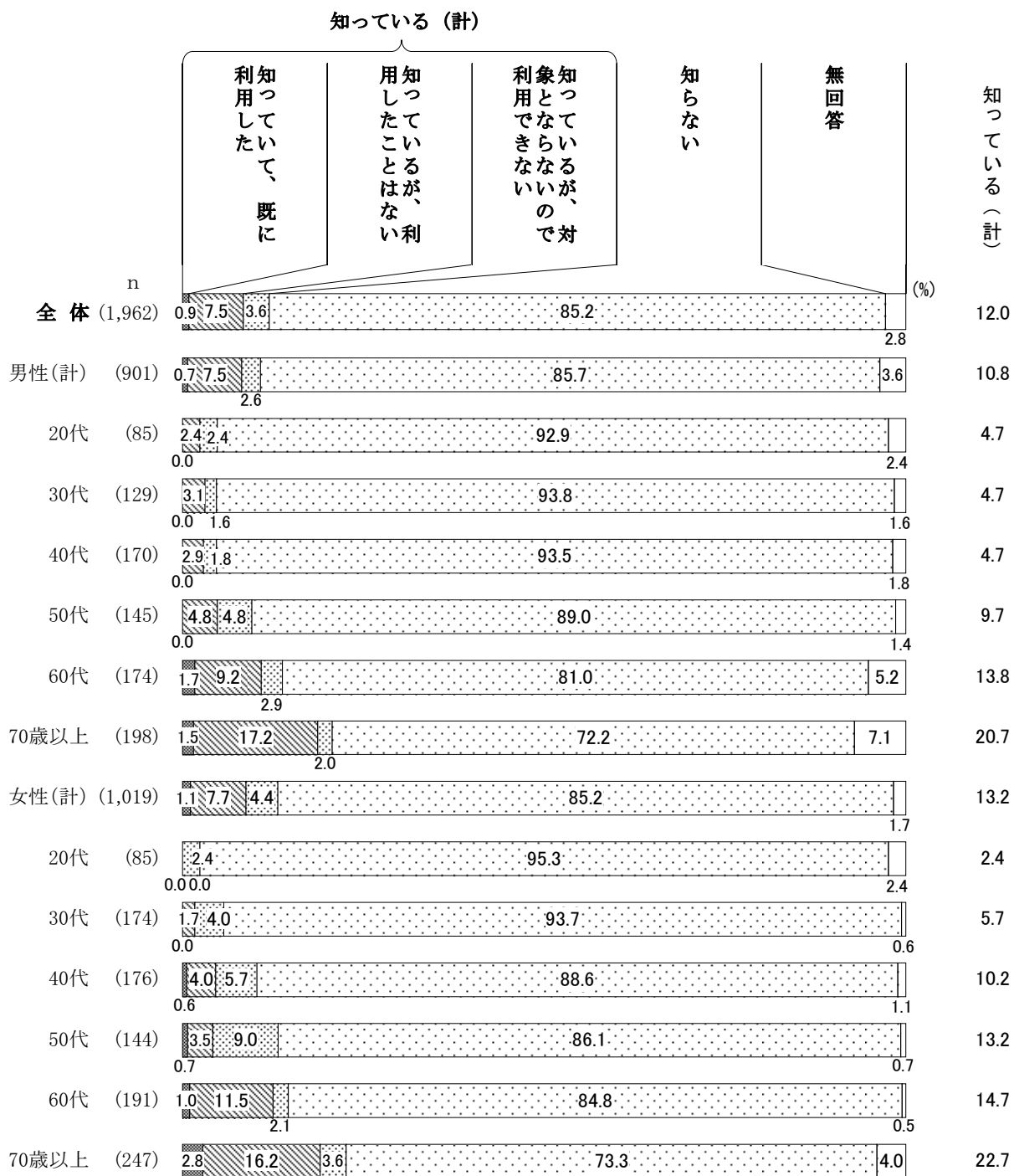
図2-7-2 地域ブロック別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



性別でみると、【知っている】は、男性10.8%、女性13.2%となっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男女とも若年層では低く、加齢とともに増加し、70歳以上では2割を超えている。

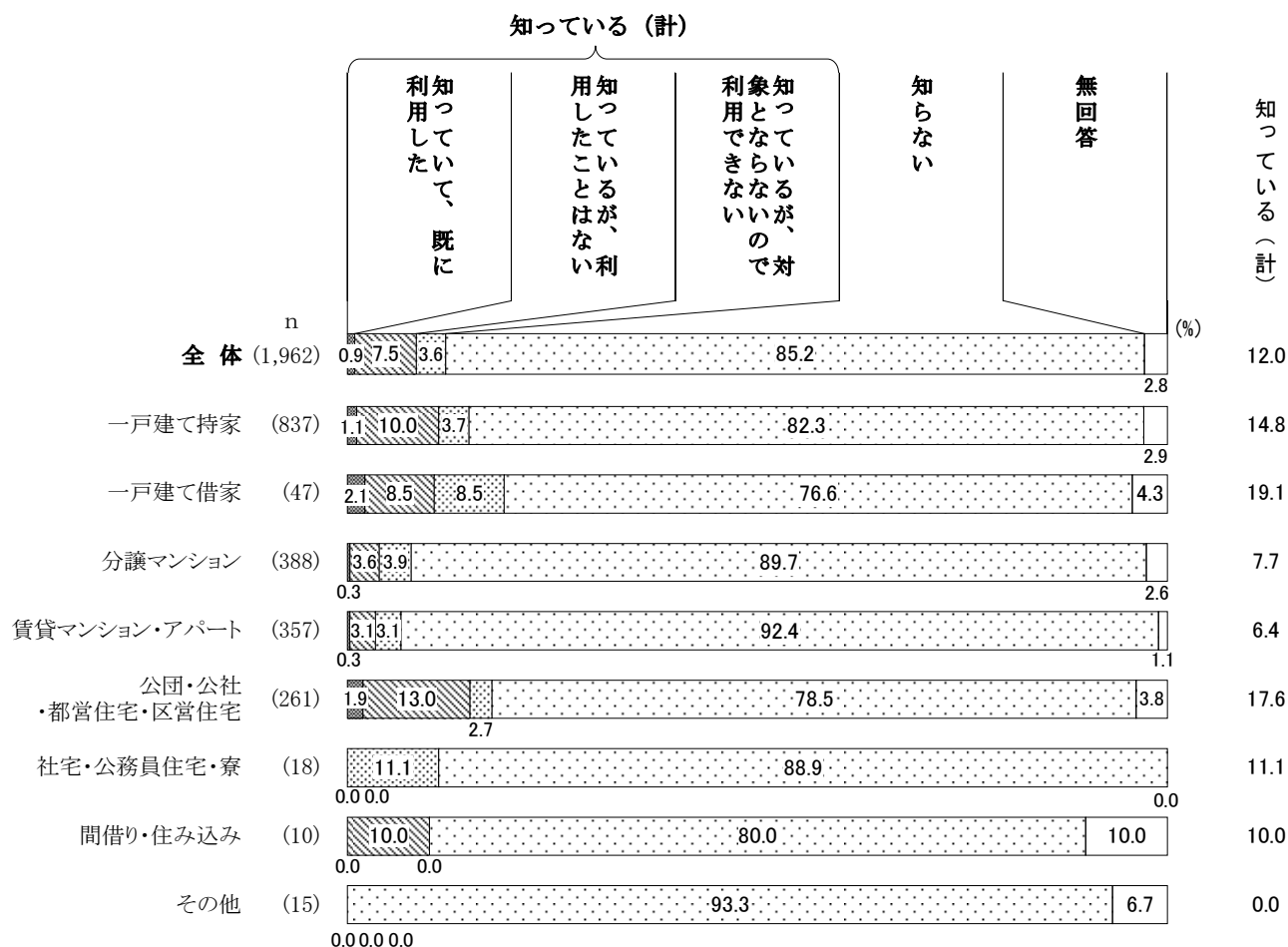
図2-7-3 性別、性・年代別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て借家、公団・公社・都営住宅・区営住宅では【知っている】が、それぞれ19.1%、17.6%と2割近くを占めて、他の住居形態より高くなっている。

図 2-7-4 住居形態別／家具転倒防止器具取付工事などの費用助成制度の認知

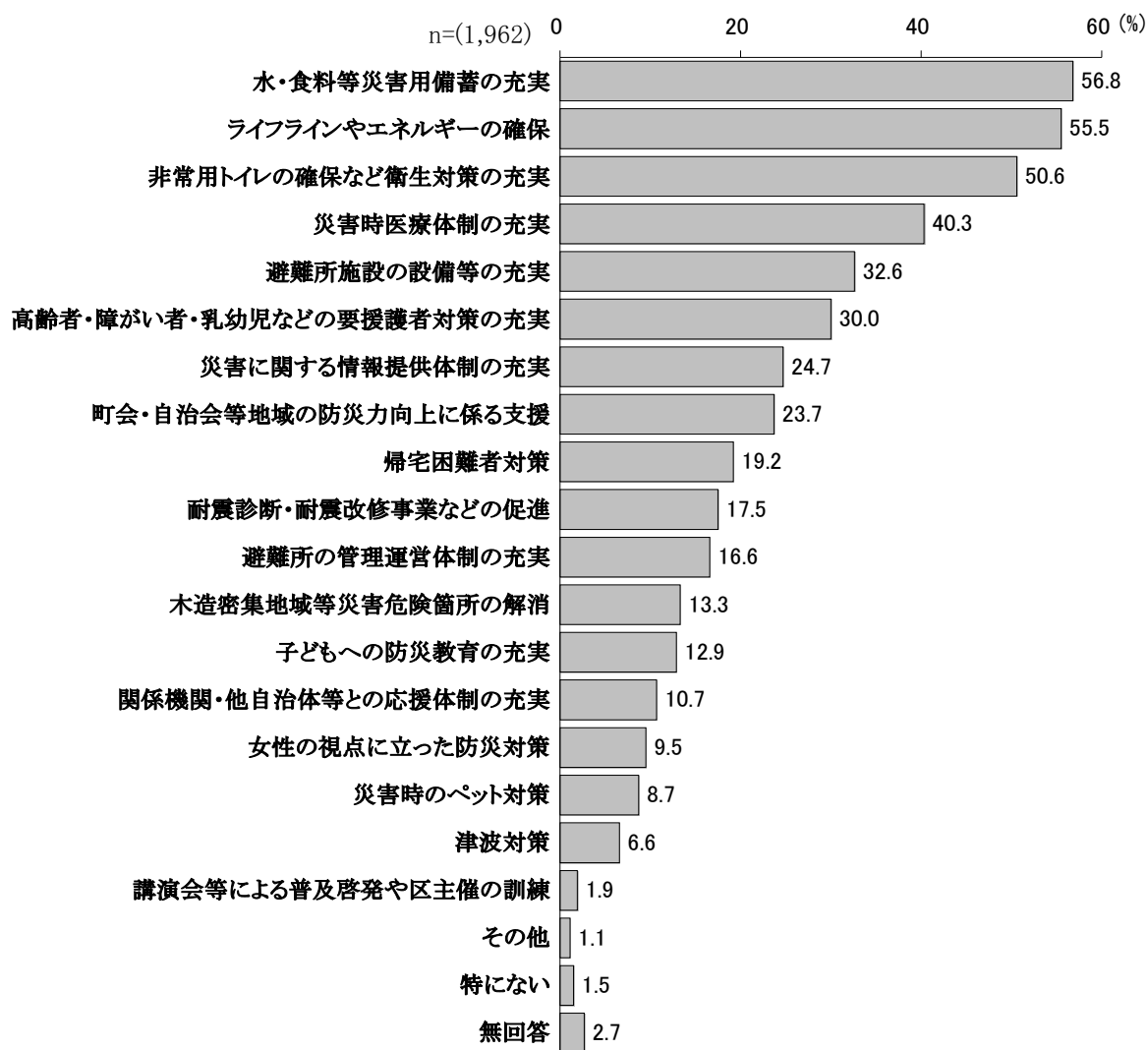


(8) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “災害備蓄の充実” “ライフライン・エネルギーの確保” “衛生対策の充実” が5割台で上位

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は5つまで)

図2-8-1 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「水・食料等災害用備蓄の充実」が56.8%で最も高く、以下「ライフラインやエネルギーの確保」(55.5%)、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(50.6%)の順となっている。

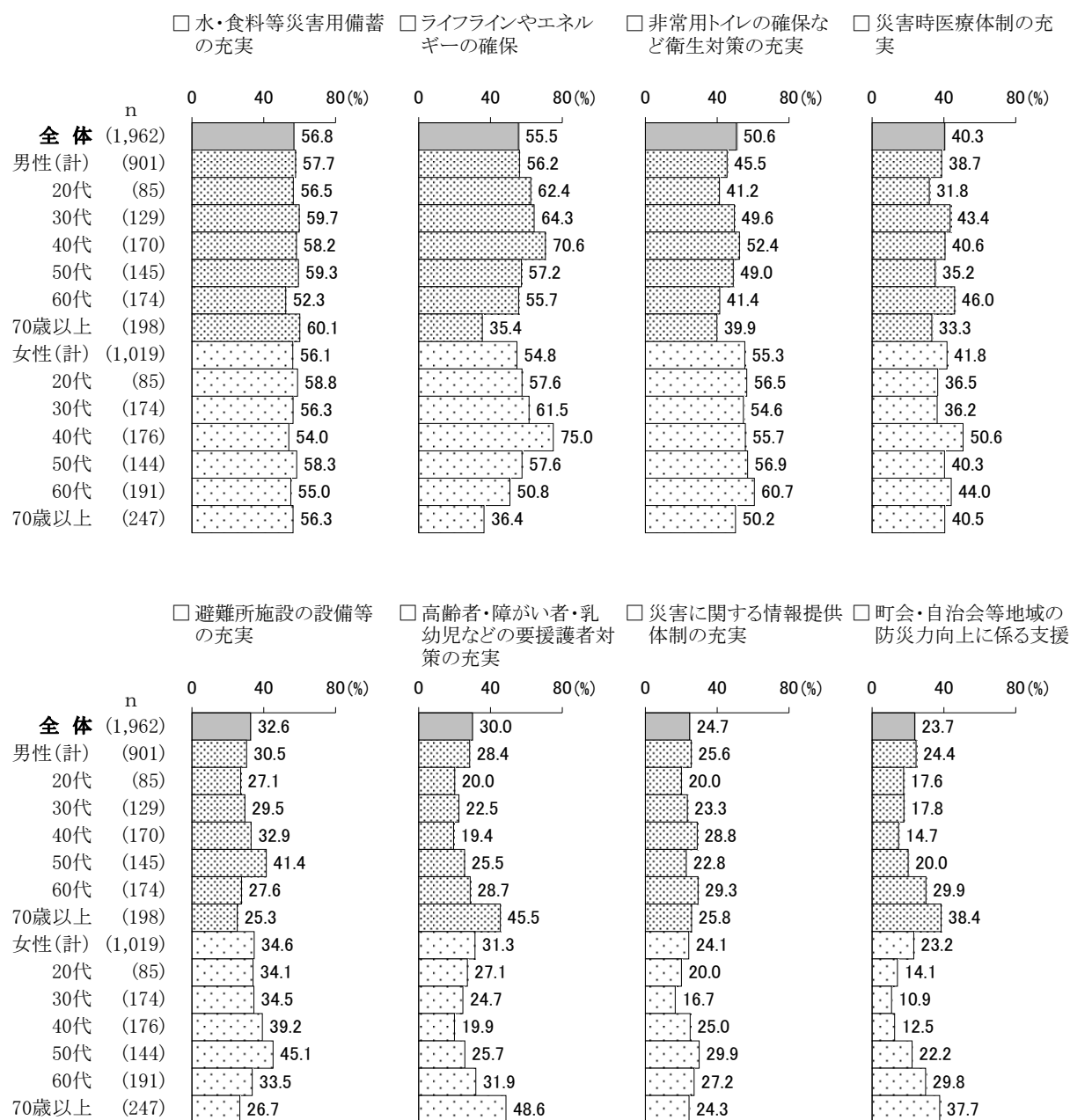
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」については、男性45.5%、女性55.3%と、女性で9.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」については、男女とも40代で7割を超えて高くなっている。

また、「避難所施設の設備等の充実」では、男女とも50代で4割を超え、他の年代より高くなっている。「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」は男女とも70歳以上で4割を超え、他の年代より高くなっている。

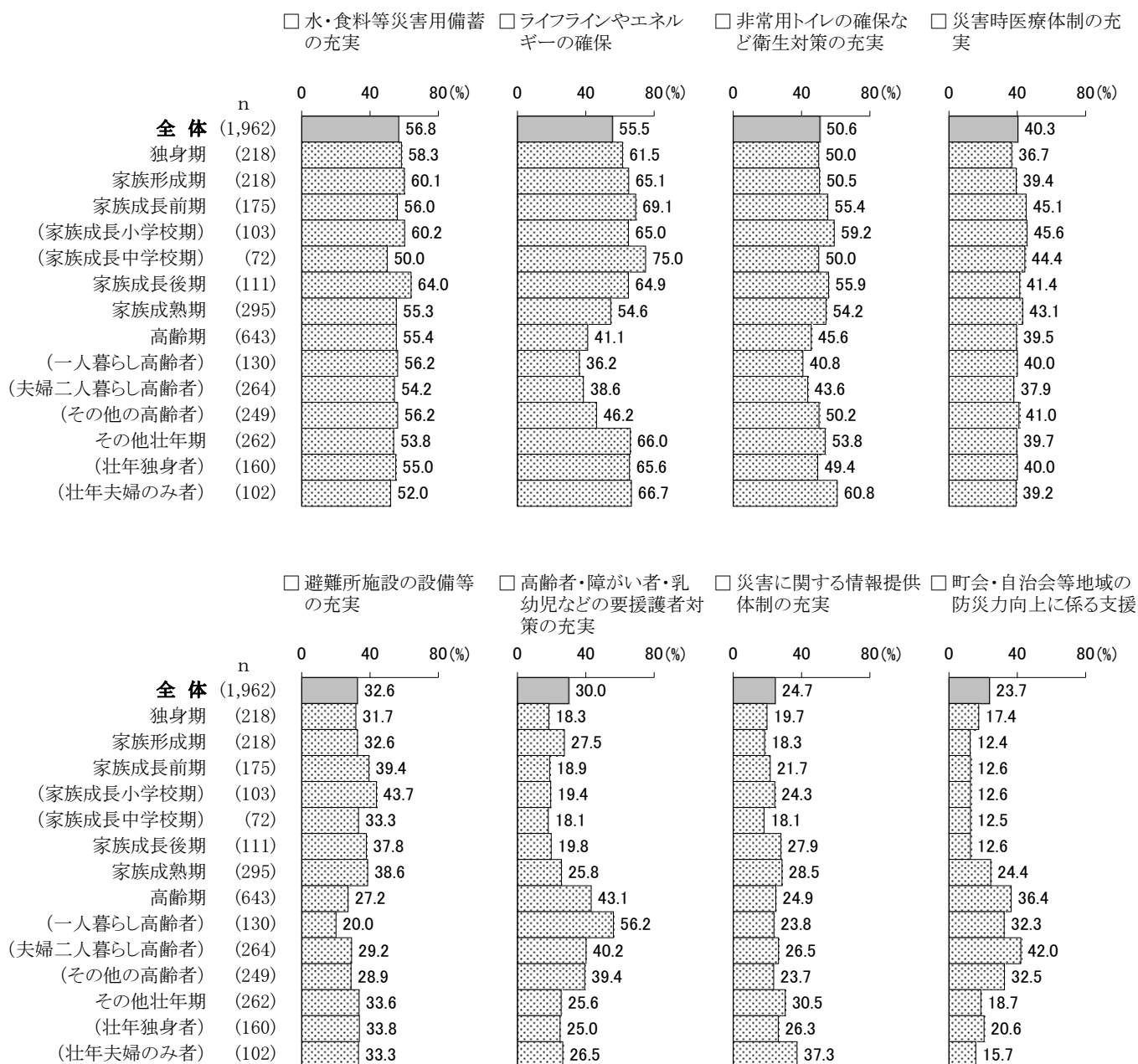
図2-8-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと／上位8項目



ライフステージ別でみると、「水・食料等災害用備蓄の充実」は、家族成長後期で64.0%と高くなっている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」は、家族成長中学校期で75.0%と、他のステージより高くなっている。さらに、一人暮らし高齢者では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」が56.2%と、他のステージに比べて高くなっている。

図2-8-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



3 区の情報発信のあり方

-
- (1) 区に関する情報の入手手段
 - (2) 区が発信する必要がある情報
 - (3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況
 - (4) 区の情報が得られない理由
-

3. 区の情報発信のあり方

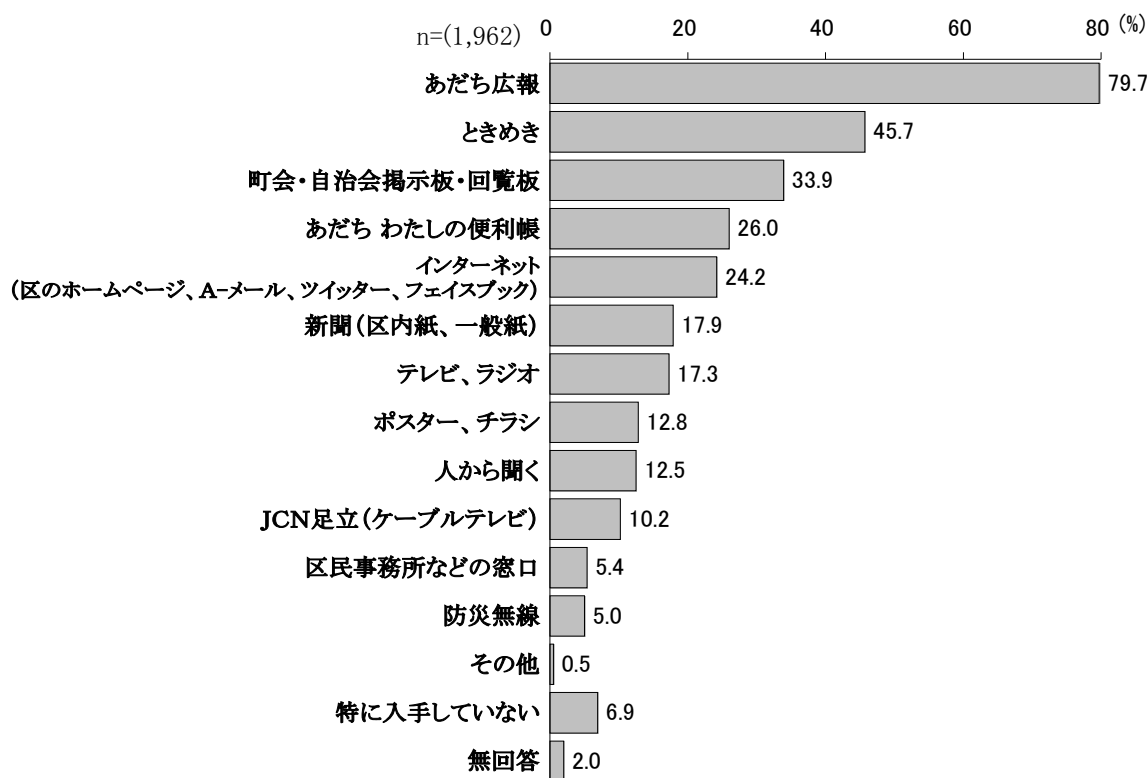
(1) 区に関する情報の入手手段

■ 「あだち広報」が8割弱

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(○はあてはまるものすべて)

図3-1-1 区に関する情報の入手手段

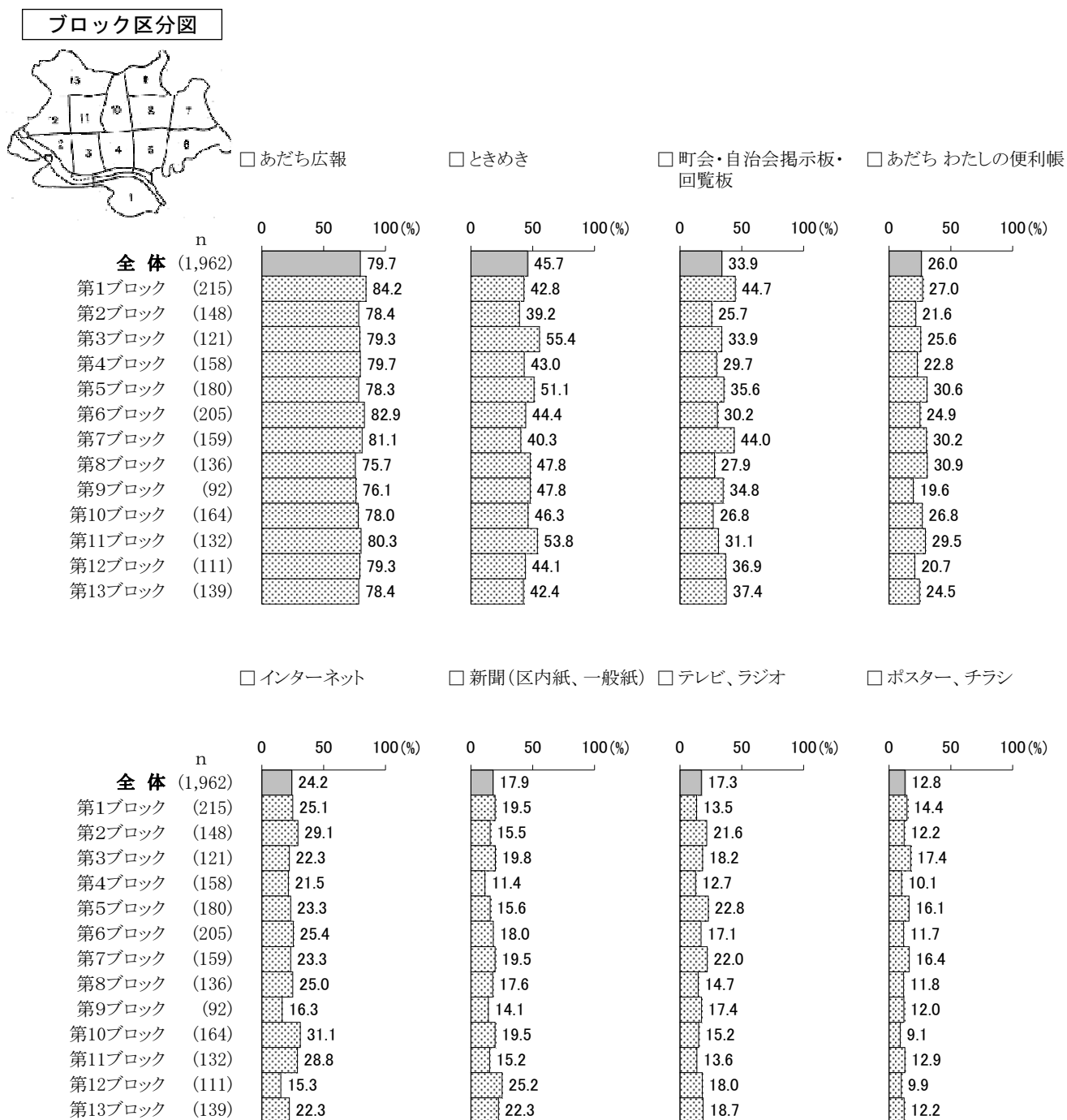


足立区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が79.7%で最も高く、以下「ときめき」(45.7%)、「町会・自治会掲示板・回覧板」(33.9%)の順となっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「あだち広報」は高くなっている。また、「ときめき」については、第3ブロック、第5ブロック、第11ブロックで、それぞれ55.4%、51.1%、53.8%と5割を超えている。

図3-1-2 地域ブロック別／区に関する情報の入手手段／上位8項目

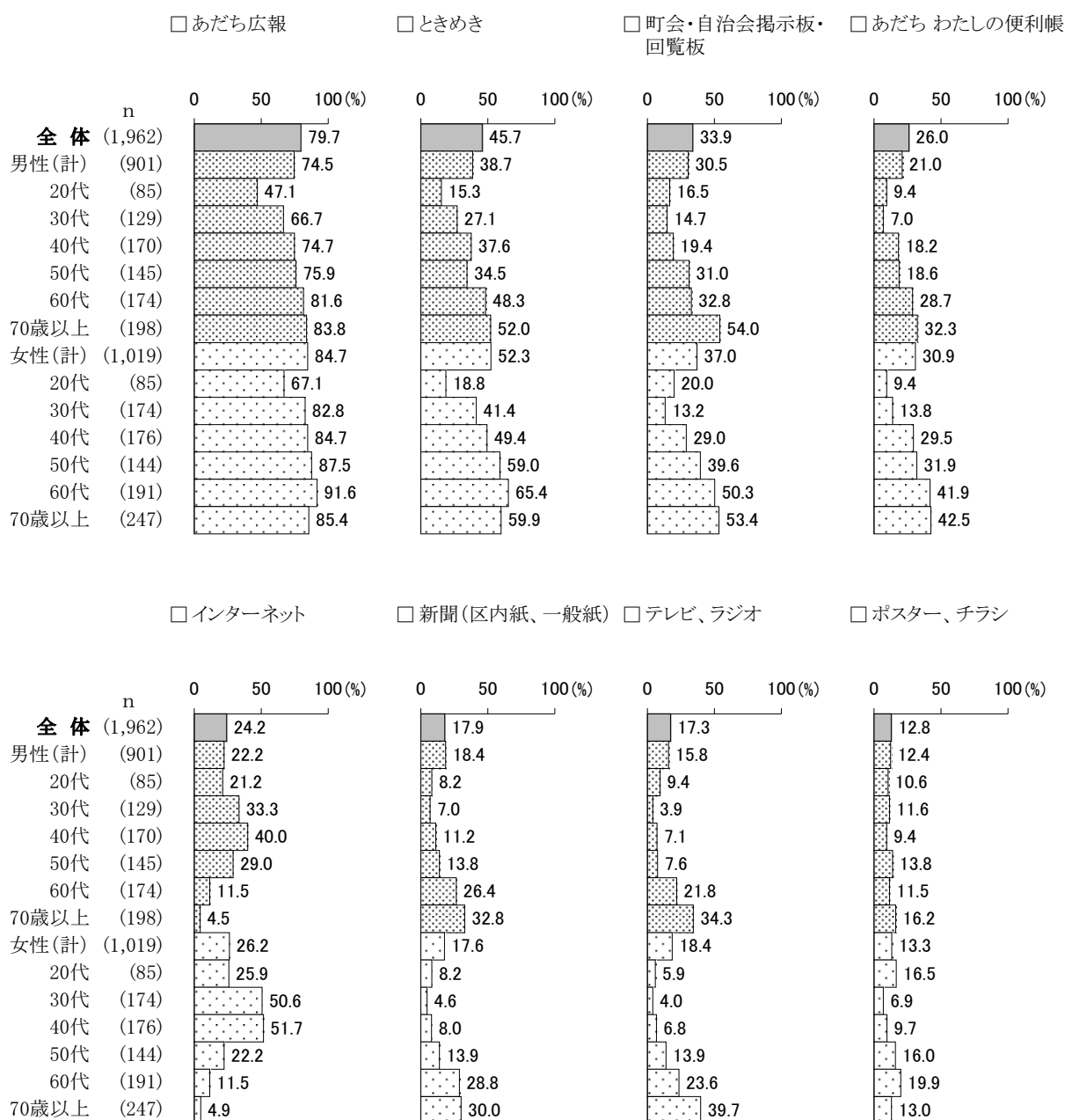


性別でみると、「あだち広報」は、男性74.5%、女性84.7%、「ときめき」は男性38.7%、女性52.3%と、上位8項目のうち7項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに「インターネット」以外の項目では加齢とともに増加する傾向がある。「あだち広報」は、男女ともいずれの年代でも入手手段として高い結果となった。

また、「インターネット」については、男性の40代で40.0%、女性の30代、40代で、それぞれ50.6%、51.7%と他の年代より高くなっている。「町会・自治会掲示板・回覧板」は、男性70歳以上、女性60代・70歳以上で5割を超え高くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／区に関する情報の入手手段／上位8項目



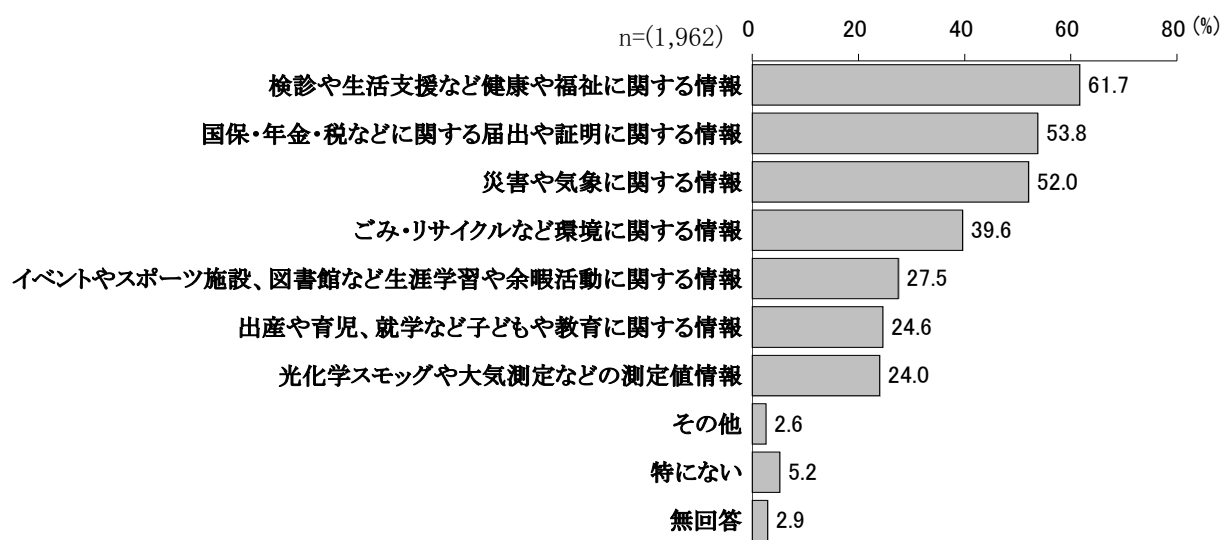
(2) 区が発信する必要がある情報

■ 「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が6割を超える

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

図3-2-1 区が発信する必要がある情報



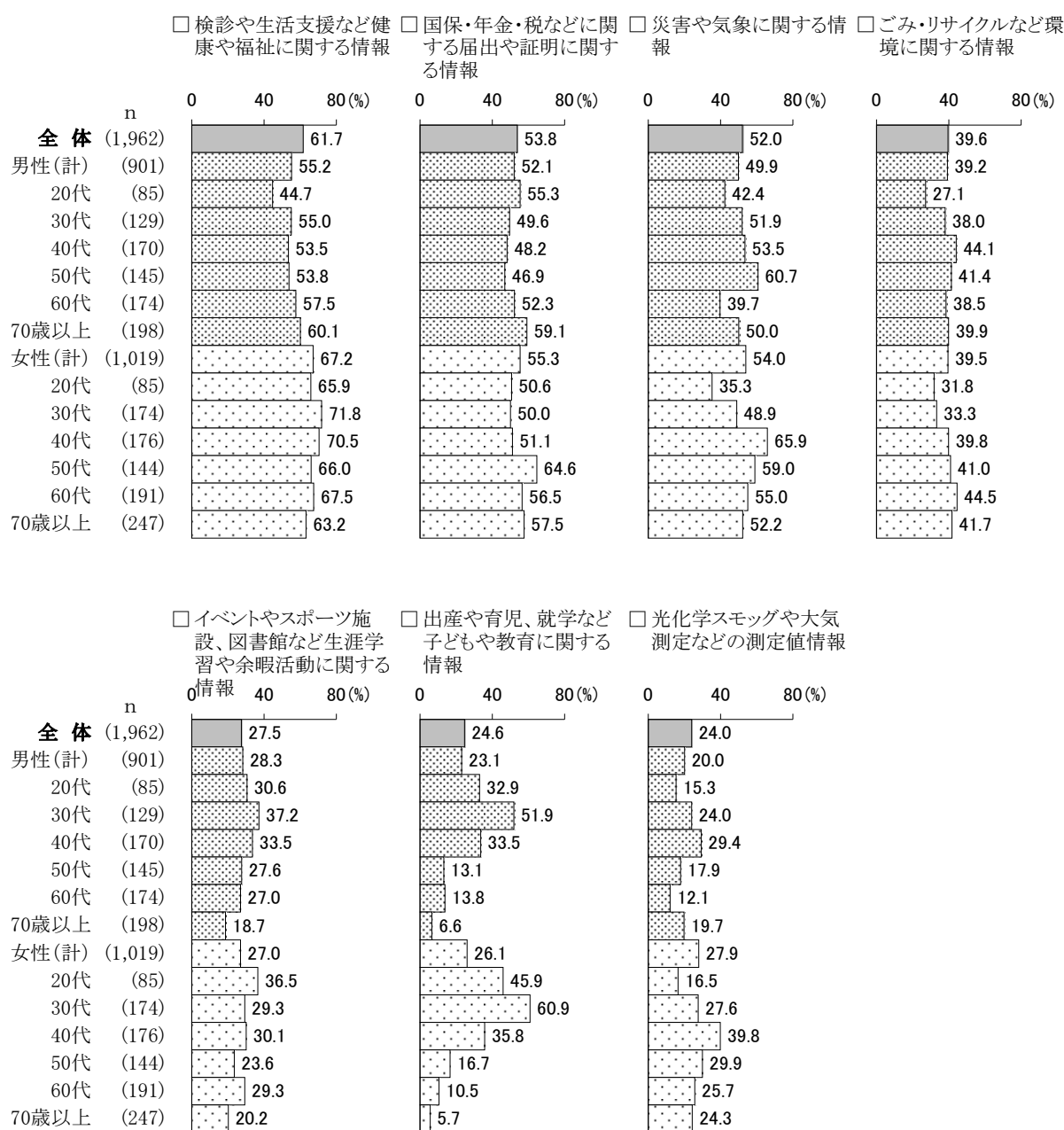
必要とする区の情報としては、「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が61.7%で最も高く、以下「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」(53.8%)、「災害や気象に関する情報」(52.0%)の順で続いている。

性別でみると、「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」は、男性55.2%、女性67.2%と男性より女性が12.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「検診や生活支援など健康や福祉に関する情報」が、加齢につれて増加傾向で、70歳以上では60.1%となっている。また、50代では「災害や気象に関する情報」が60.7%と全年代中最も高くなっている。

女性では、40代で「災害や気象に関する情報」が65.9%、50代で「国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報」が64.6%と他の年代より高くなっている。男女とも30代で「出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報」が他の年代よりも高くなっている。

図3-2-2 性別、性・年代別／区が発信する必要がある情報

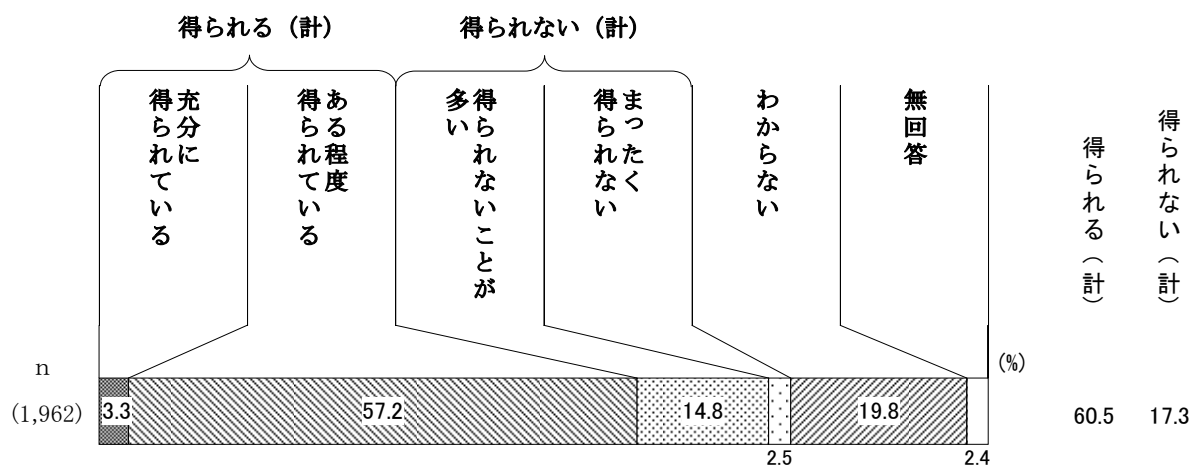


(3) 必要な時に必要とする区の情報の入手状況

■ 必要な時に【得られる】が6割

問12 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか。(○は1つだけ)

図3-3-1 必要な時に必要とする区の情報の入手状況

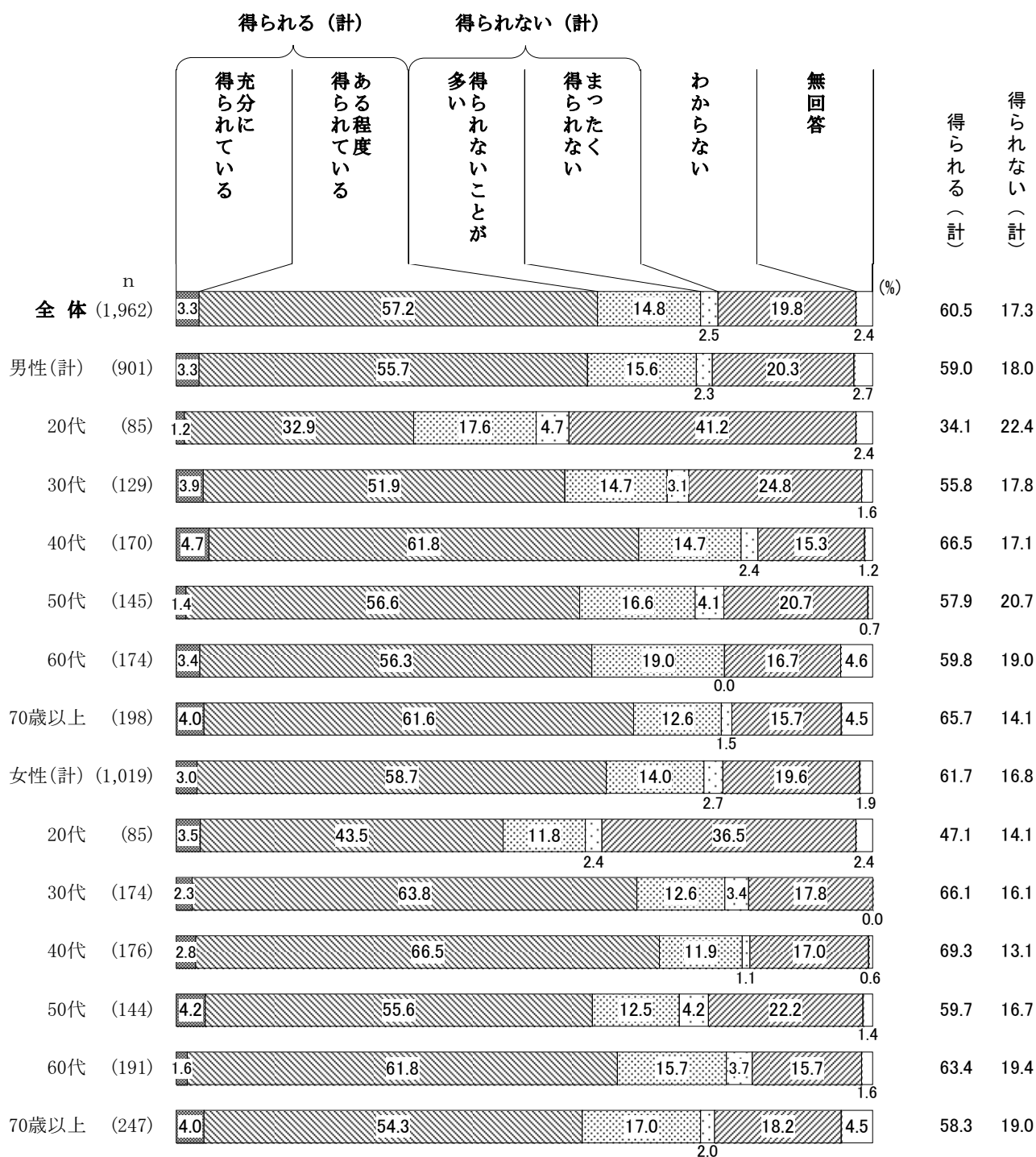


必要な時に必要とする情報を得られているかについては、「十分に得られている」が3.3%で、これに「ある程度得られている」の57.2%を合わせた【得られる】は60.5%となっている。一方、【得られない】は17.3%、「わからない」は19.8%となっている。

性別でみると、【得られる】は男性59.0%、女性61.7%となっている。

性・年代別でみると、男性では、40代、70歳以上で【得られる】が、それぞれ66.5%、65.7%と高くなっている。女性では、30代、40代で【得られる】が、それぞれ66.1%、69.3%と高くなっている。「わからない」は男女とも20代で4割前後と高くなっている。

図3-3-2 性別、性・年代別／必要な時に必要とする区の情報入手状況



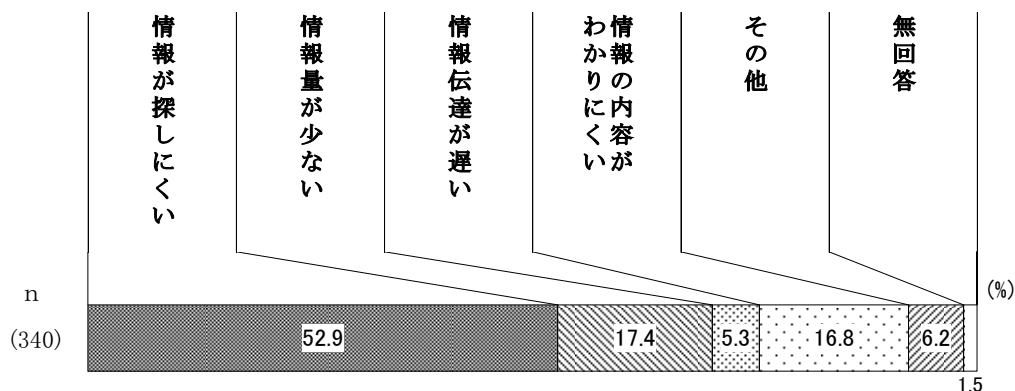
(4) 区の情報得られない理由

■ 「情報が探しにくい」が半数を超える

問12で「3. 得られない～」、または「4. まったく～」とお答えの方に

問12-1 どのような理由からですか。(〇は1つだけ)

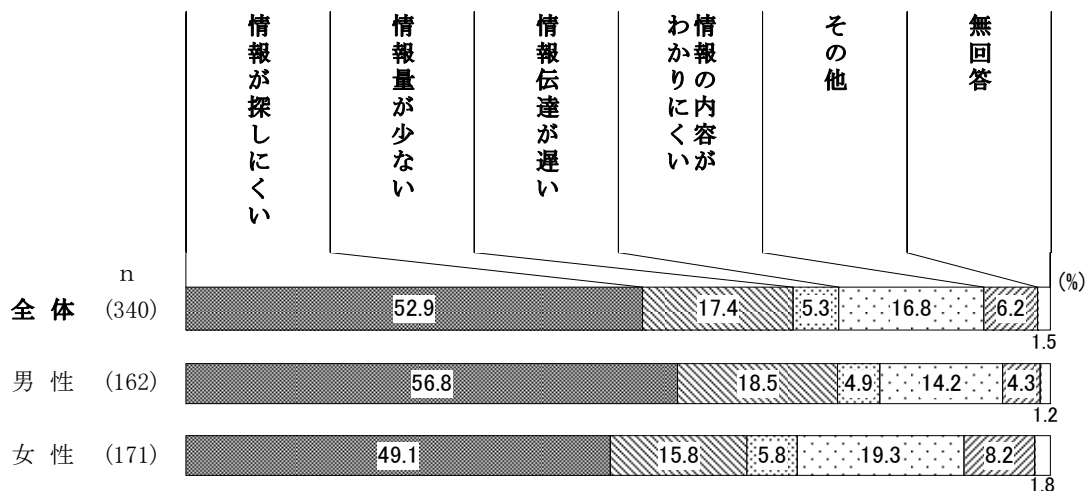
図3-4-1 区の情報得られない理由



【得られない】という人に、その理由を聞いたところ、「情報が探しにくい」が52.9%で最も高く、次いで「情報量が少ない」(17.4%)となっている。

性別でみると、「情報が探しにくい」が、男性56.8%、女性49.1%と、女性より男性で高くなっている。

図3-4-2 性別／区の情報得られない理由



4 健康

-
- (1) 糖尿病の認知状況
 - (2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識
 - (3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知
 - (4) 1日野菜350g以上の摂取
 - (5) 体調や習慣
 - (6) 健康維持のために実行している、心がけているもの
-

4. 健康

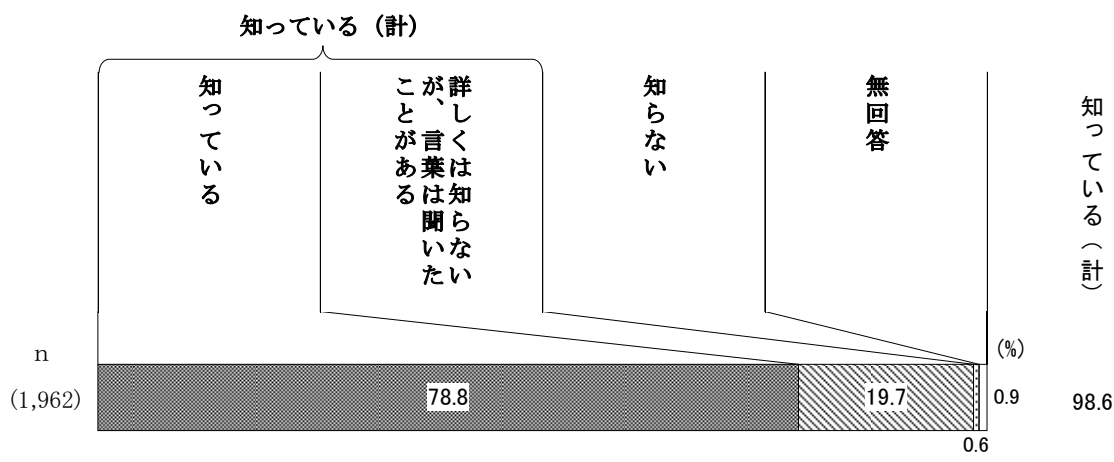
(1) 糖尿病の認知状況

■ ほぼ全員の方が糖尿病を認知している

問13 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか。(○は1つだけ)

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

図4-1-1 糖尿病の認知状況



糖尿病を「知っている」が78.8%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の19.7%を合わせた【知っている】は98.6%となっている。

第3章 調査結果の分析

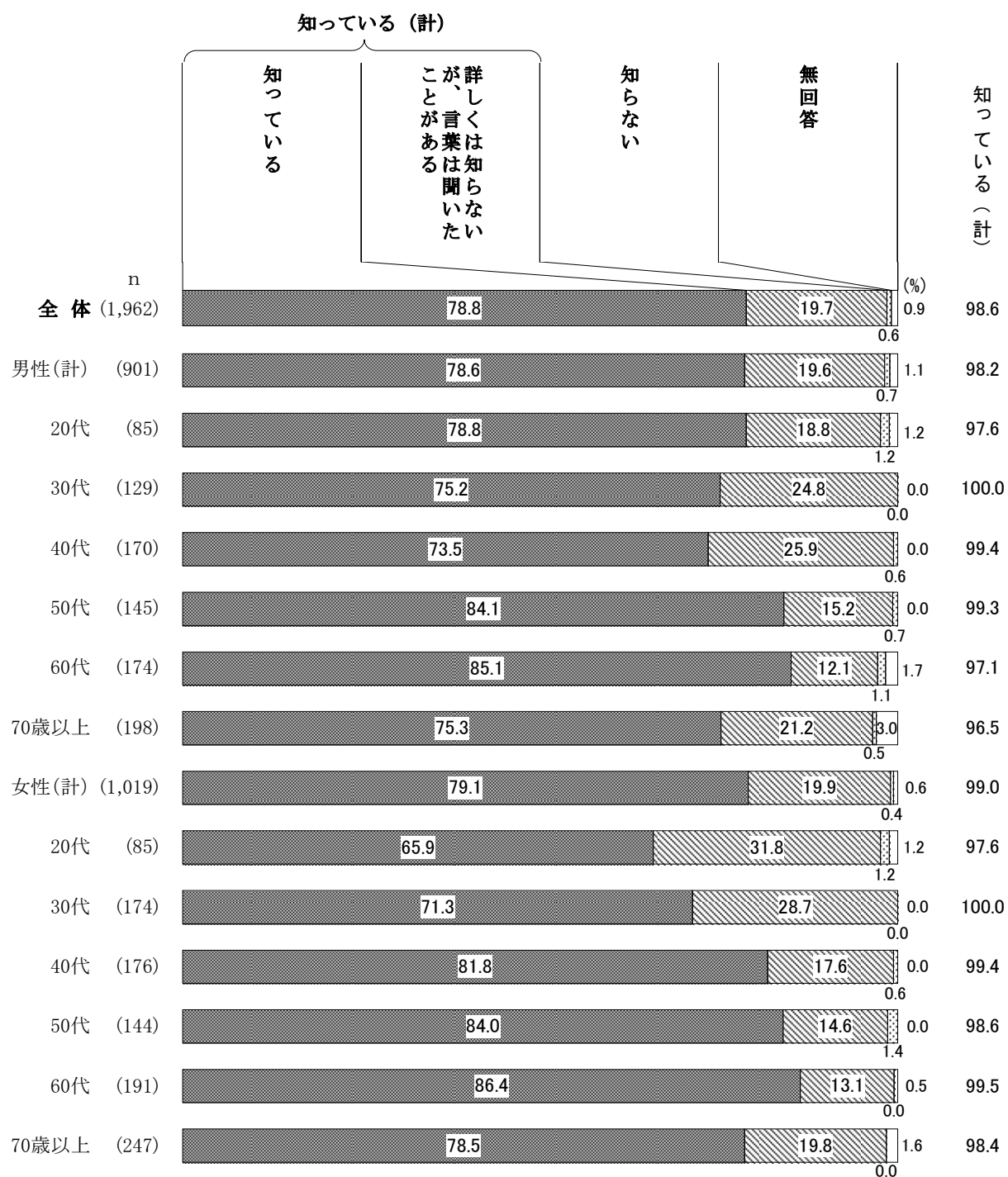
性別でみると、【知っている（計）】は、男性98.2% 女性99.0% となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、60代で「知っている」が8割を超え、他の年代より高くなっている。

女性では、20代で「知っている」が65.9%であるが、加齢とともに増加し、60代で86.4%となっている。

また、男女とも、【知っている（計）】は、すべての年代で極めて高くなっている。

図4-1-2 性別、性・年代別／糖尿病の認知状況

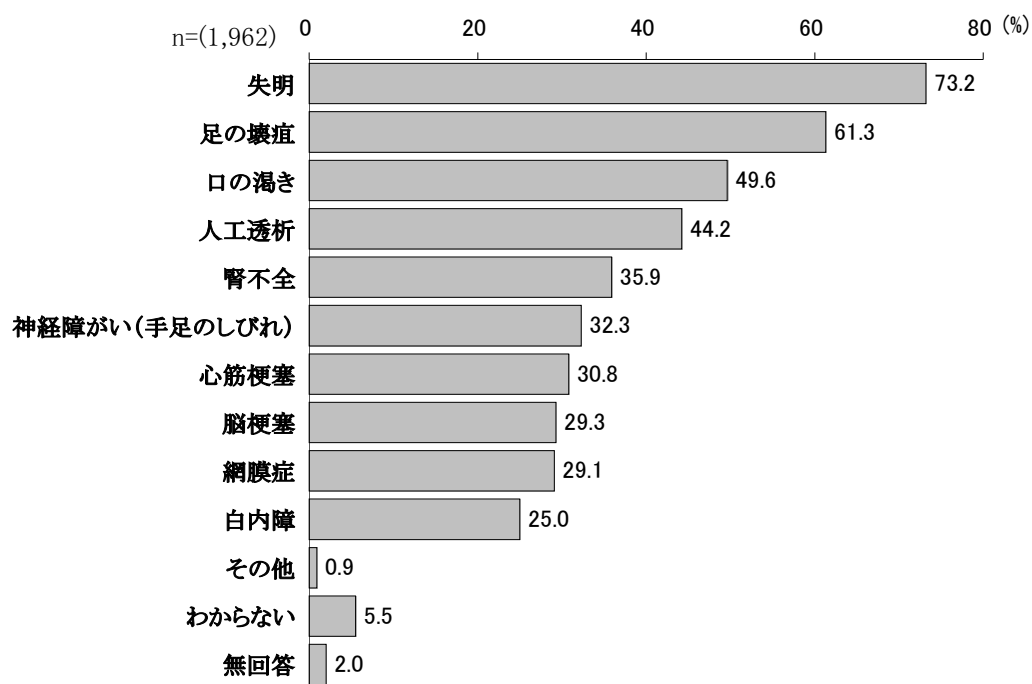


(2) 糖尿病の進行による病気や障がいの認識

■ 「失明」が7割、「足の壊疽」が6割を超えている

問14 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

図4-2-1 糖尿病の進行による病気や障がいの認識



糖尿病が進行すると現れると思う病気や障がいとしては、「失明」が73.2%で最も高く、以下「足の壊疽」(61.3%)、「口の渇き」(49.6%)、「人工透析」(44.2%)の順となっている。

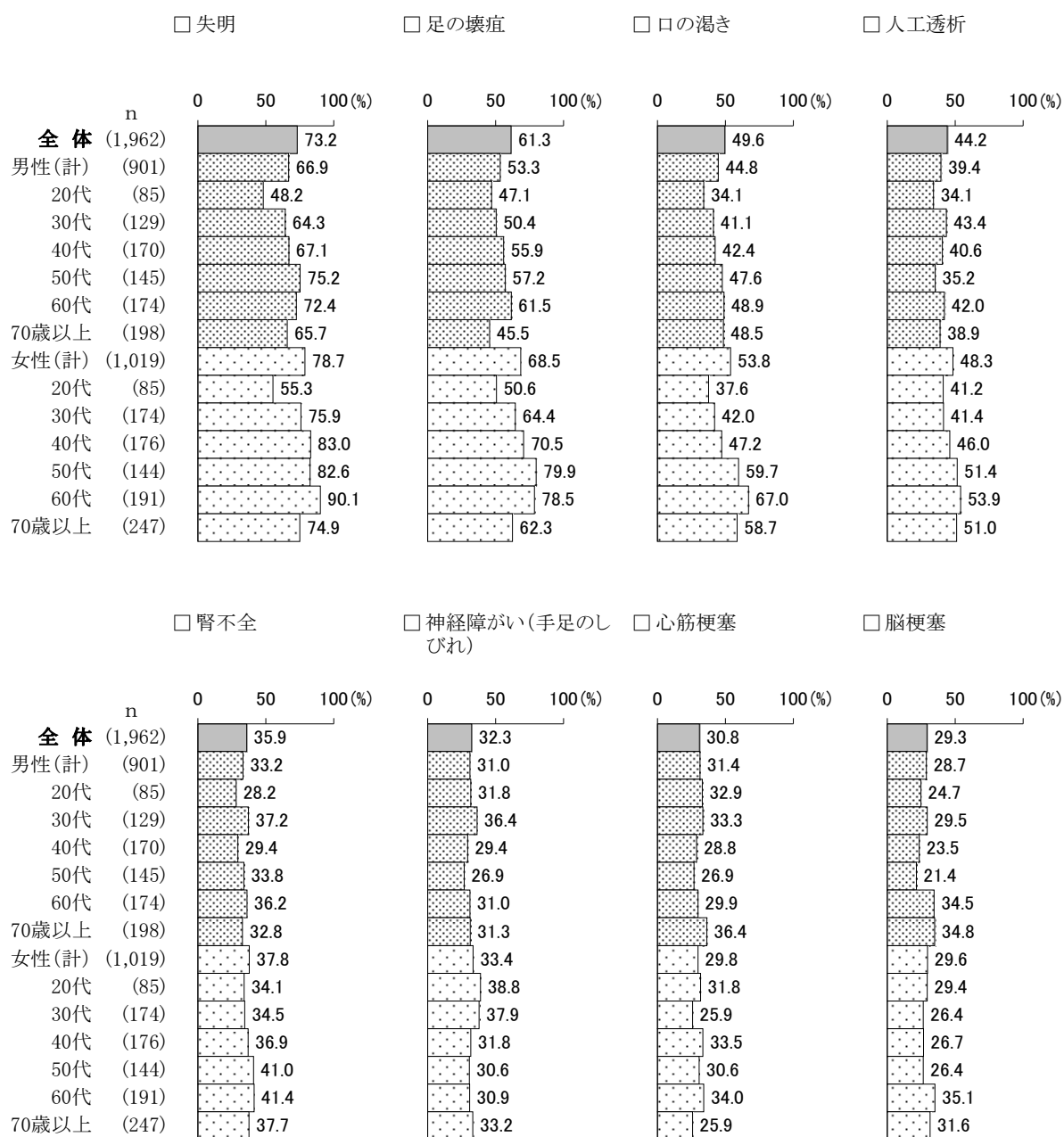
第3章 調査結果の分析

性別でみると、「足の壊疽」は男性53.3%、女性68.5%、「口の渇き」は男性44.8%、女性53.8%、「人工透析」は男性39.4%、女性48.3%と、上位8項目のうち7項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「失明」が50代、60代で、それぞれ75.2%、72.4%と7割を超え高くなっている。また、「足の壊疽」については、60代で61.5%と最も高くなっている。

女性では、「失明」が60代で90.1%と、男女各年代を通じて最も高くなっている。「足の壊疽」は、50代、60代で8割近くを占め高くなっている。

図4-2-2 性別、性・年代別／糖尿病の進行による病気や障がいの認識／上位8項目

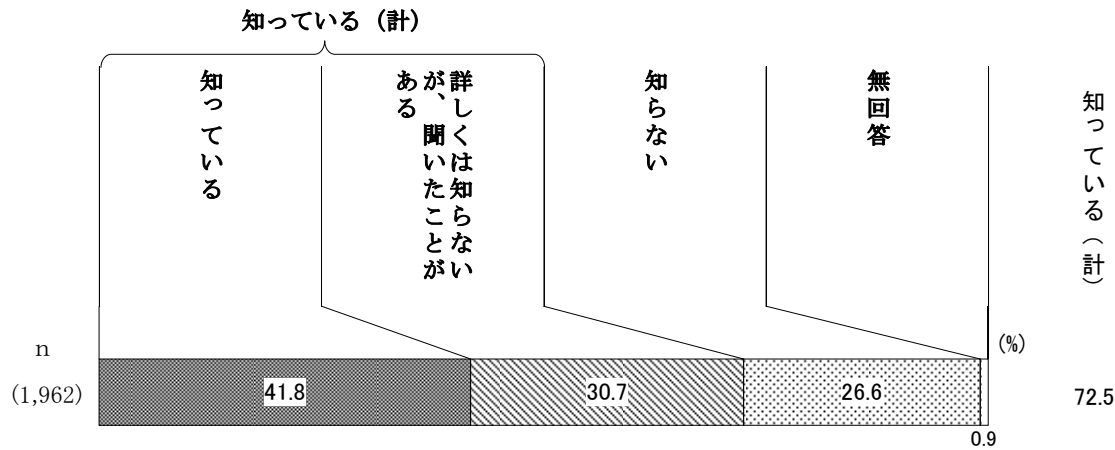


(3) 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知

■ 【知っている】が7割を超える

問15 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか。(○は1つだけ)

図4-3-1 食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを「知っている」は41.8%で、これに「詳しくは知らないが、聞いたことがある」の30.7%を合わせた【知っている】は72.5%となっている。一方、「知らない」は26.6%である。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は、男性69.0%、女性75.6%と男性より女性が高くなっている。

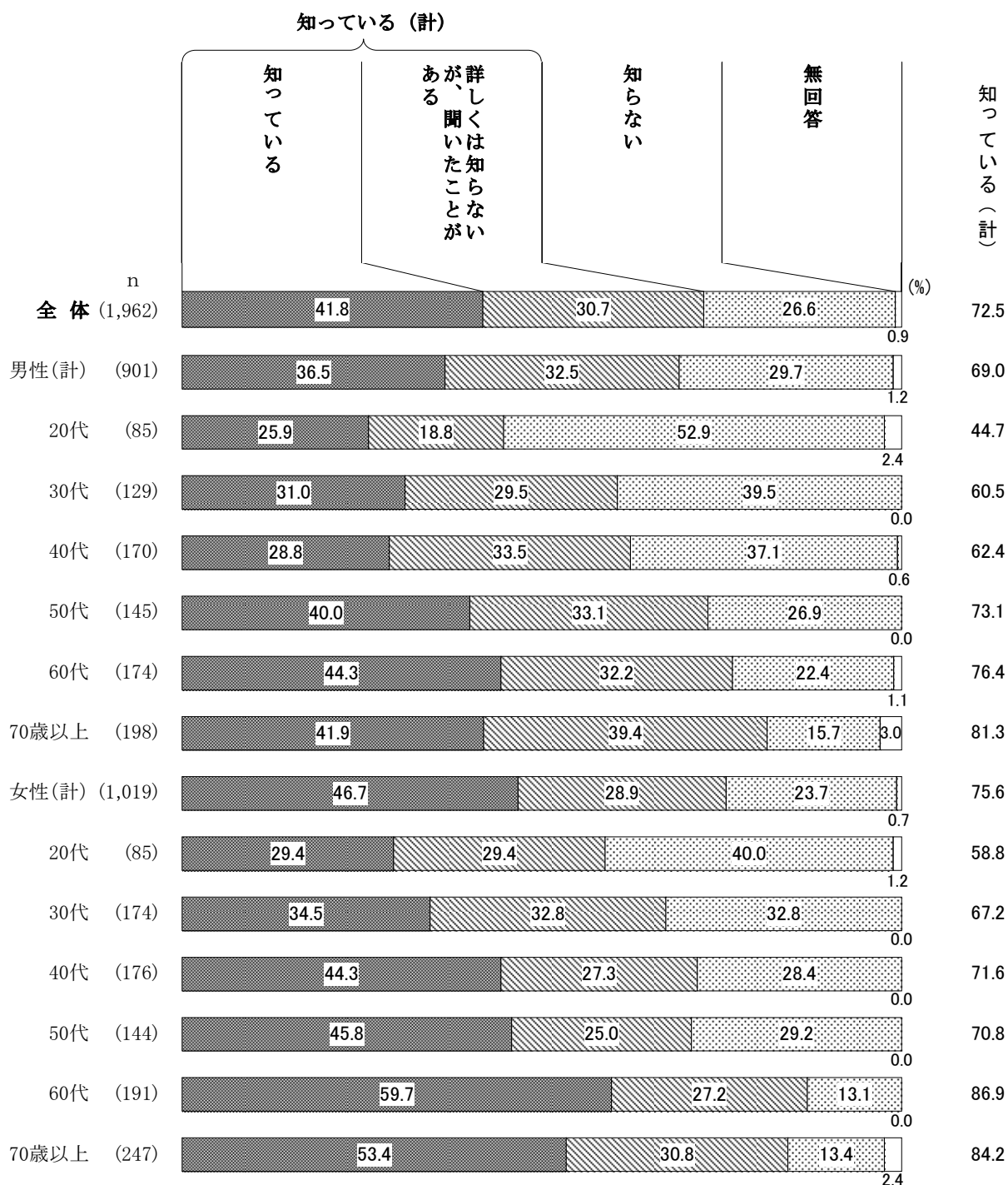
性・年代別でみると、男性では、20代で【知っている】は44.7%であるが、加齢とともに増加し、70歳以上では81.3%と最も高くなっている。

女性では、20代で【知っている】は58.8%であるが、加齢とともに増加傾向で、60代では86.9%、70歳以上では84.2%となっている。

「知らない」は、男性20代で5割を超え、最も高くなっている。

図4-3-2 性別、性・年代別

／食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病予防に効果があることの認知



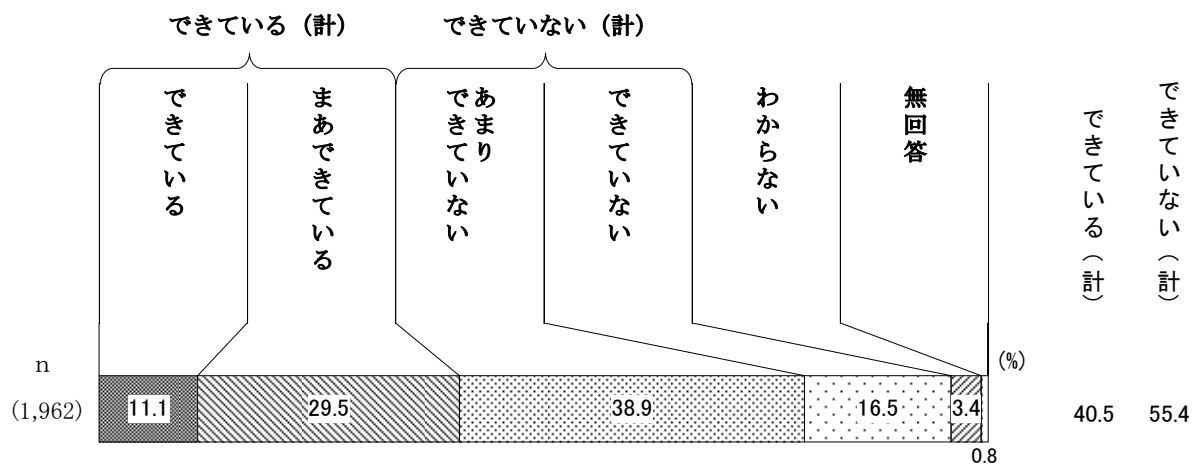
(4) 1日野菜350g以上の摂取

■ 【できていない】人が半数を超えるも、【できている】という人も4割

問16 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか。（○は1つだけ）

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

図4-4-1 1日野菜350g以上の摂取



毎日350g以上の野菜を摂取しているかについては「できている」が11.1%で、これに「まあできている」の29.5%を合わせた【できている】は40.5%となっている。一方、「あまりできていない」(38.9%)と、「できていない」(16.5%)を合わせた【できていない】は55.4%となっている。

第3章 調査結果の分析

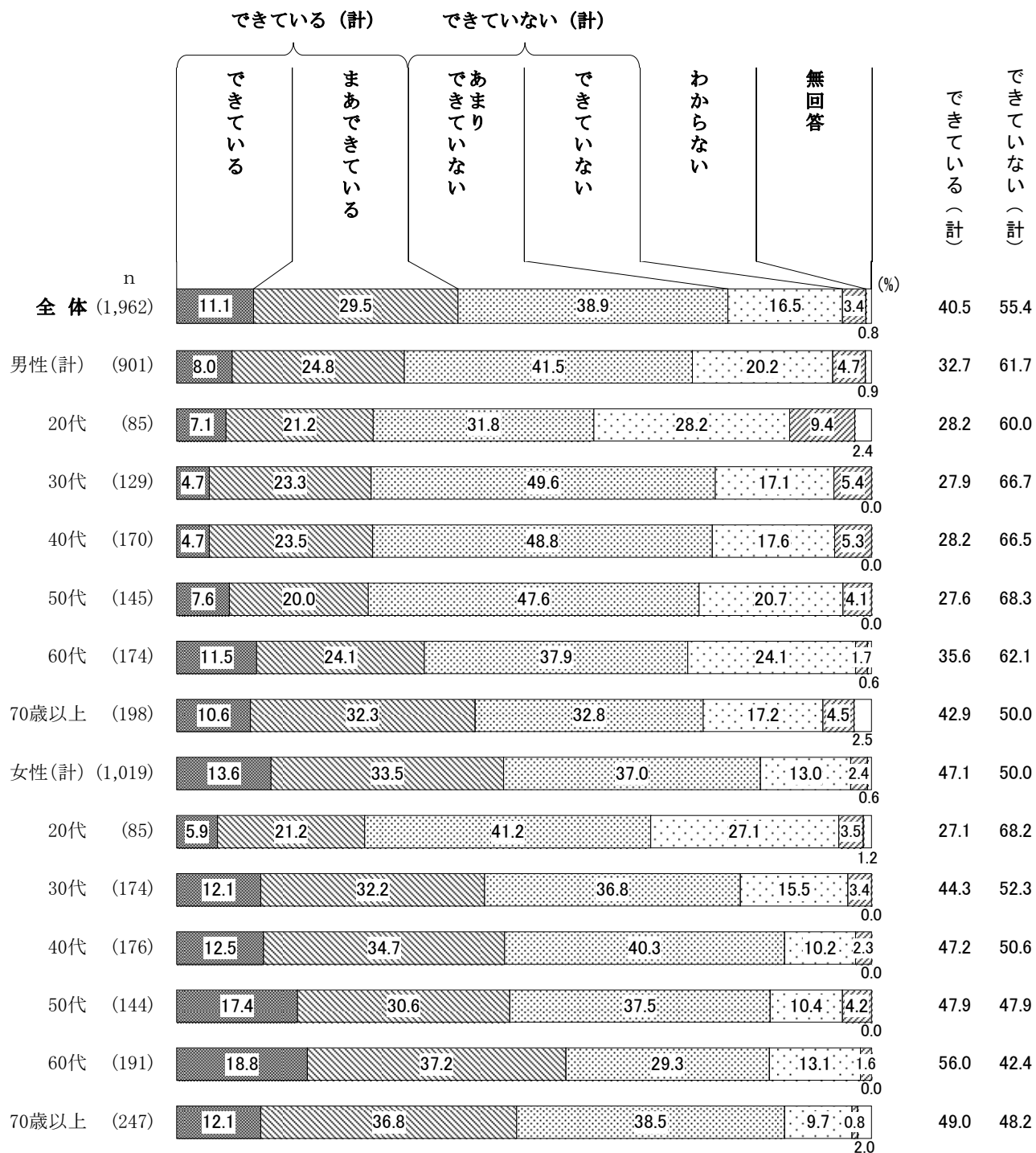
性別でみると、【できている】は、男性32.7%、女性47.1%と、男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代から50代で【できている】が3割弱であるが、60代になると増加し、70歳以上では42.9%となっている。

女性では、20代を除く年代で【できている】が4割を超え、とくに60代では56.0%となっている。

【できていない】は、男性50代、女性20代で高くなっている。

図4-4-2 性別、性・年代別／1日野菜350g以上の摂取

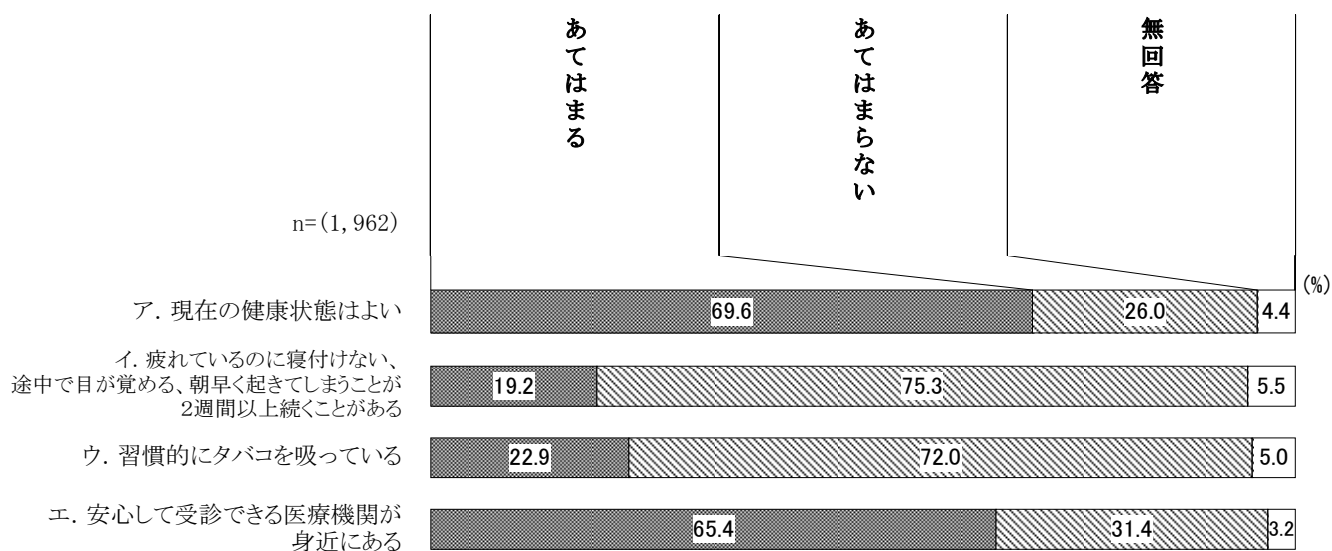


(5) 体調や習慣

■ 〈現在の健康状態はよい〉という人は7割

問17 あなたの体調や習慣についてお答えください。(○はそれぞれ1つつつ)

図4-5-1 体調や習慣



体調や習慣について、「あてはまる」の高い順にみると、〈現在の健康状態はよい〉(69.6%)と〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉(65.4%)が、いずれも6割を超えている。

一方、〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉〈習慣的にタバコを吸っている〉は、「あてはまる」が、それぞれ19.2%、22.9%と2割前後となっている。

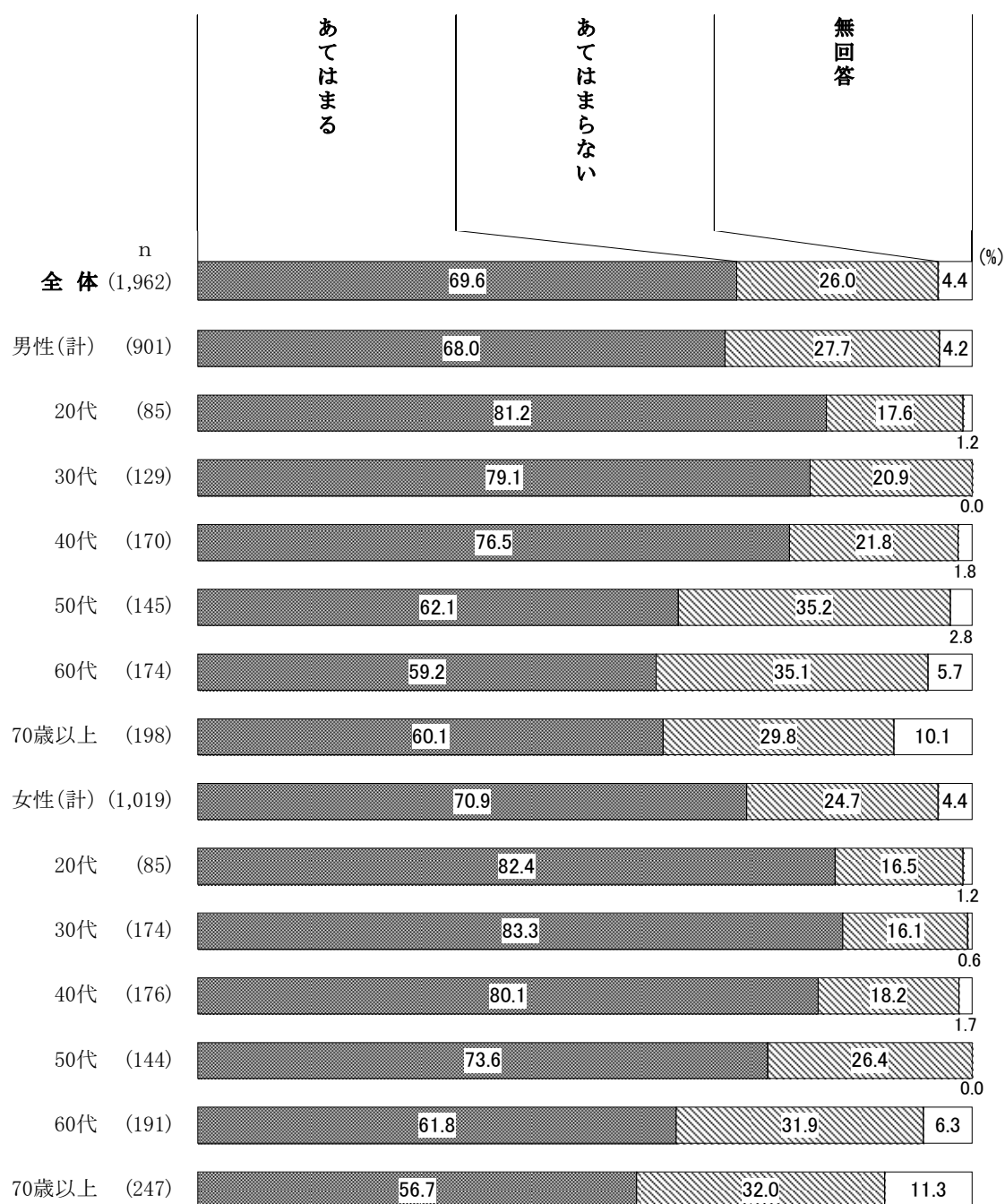
第3章 調査結果の分析

〈現在の健康状態はよい〉については、性別でみると、「あてはまる」は男性68.0%、女性70.9%となっている。

性・年代別でみると、男性20代では「あてはまる」が81.2%であるが、加齢とともに減少傾向で、60代では59.2%、70歳以上では60.1%となっている。

女性では、20代、30代、40代で「あてはまる」が8割を超えているが、加齢とともに低下し、70歳以上では56.7%となっている。

図4-5-2-① 性別、性・年代別／体調や習慣／現在の健康状態はよい

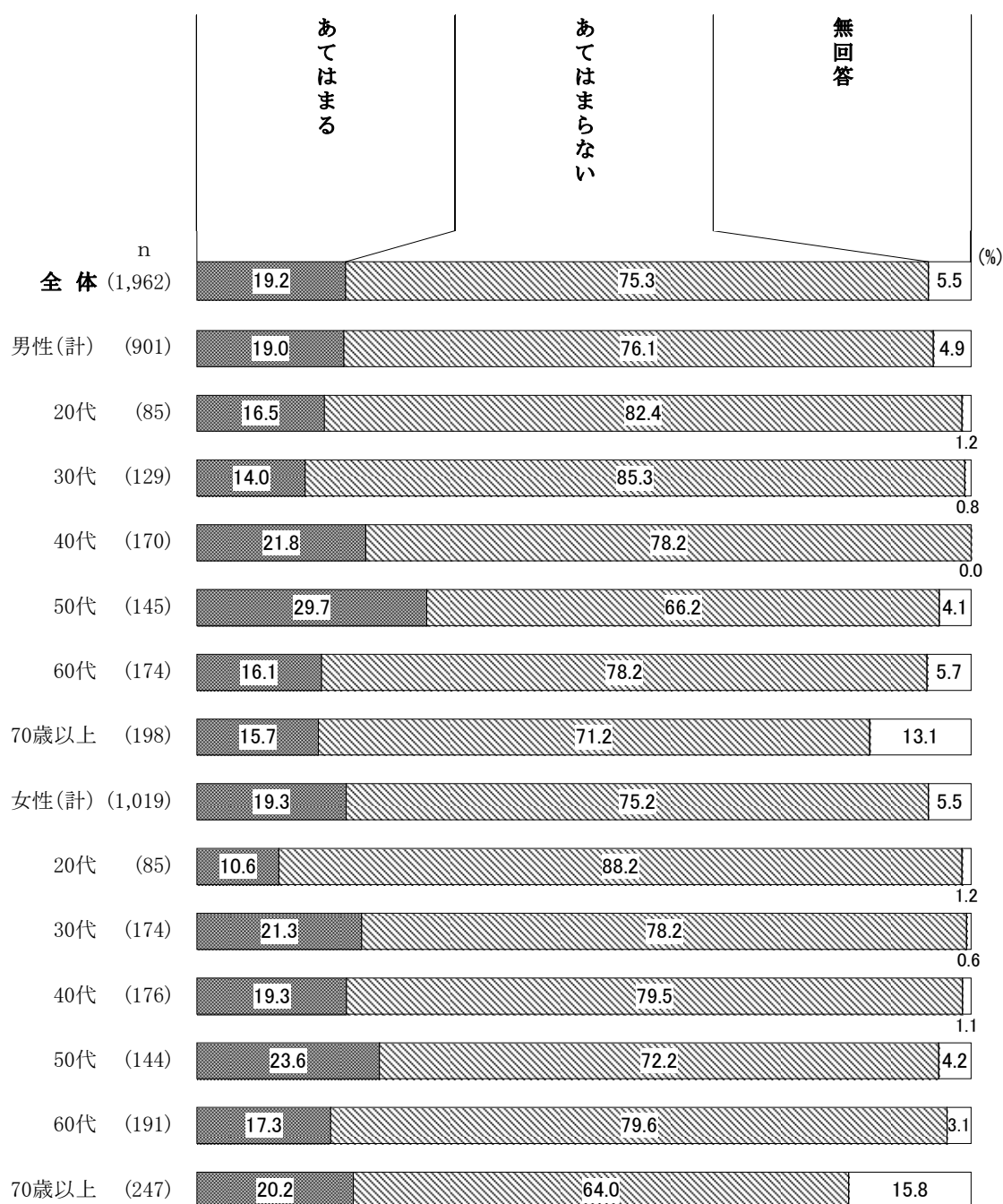


〈疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性19.0%、女性19.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代で「あてはまる」が29.7%と他の年代より高くなっている。女性では、20代（10.6%）を除くと、各年代とも「あてはまる」は2割前後となっている。

図4-5-2-② 性別、性・年代別／体調や習慣

／疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある

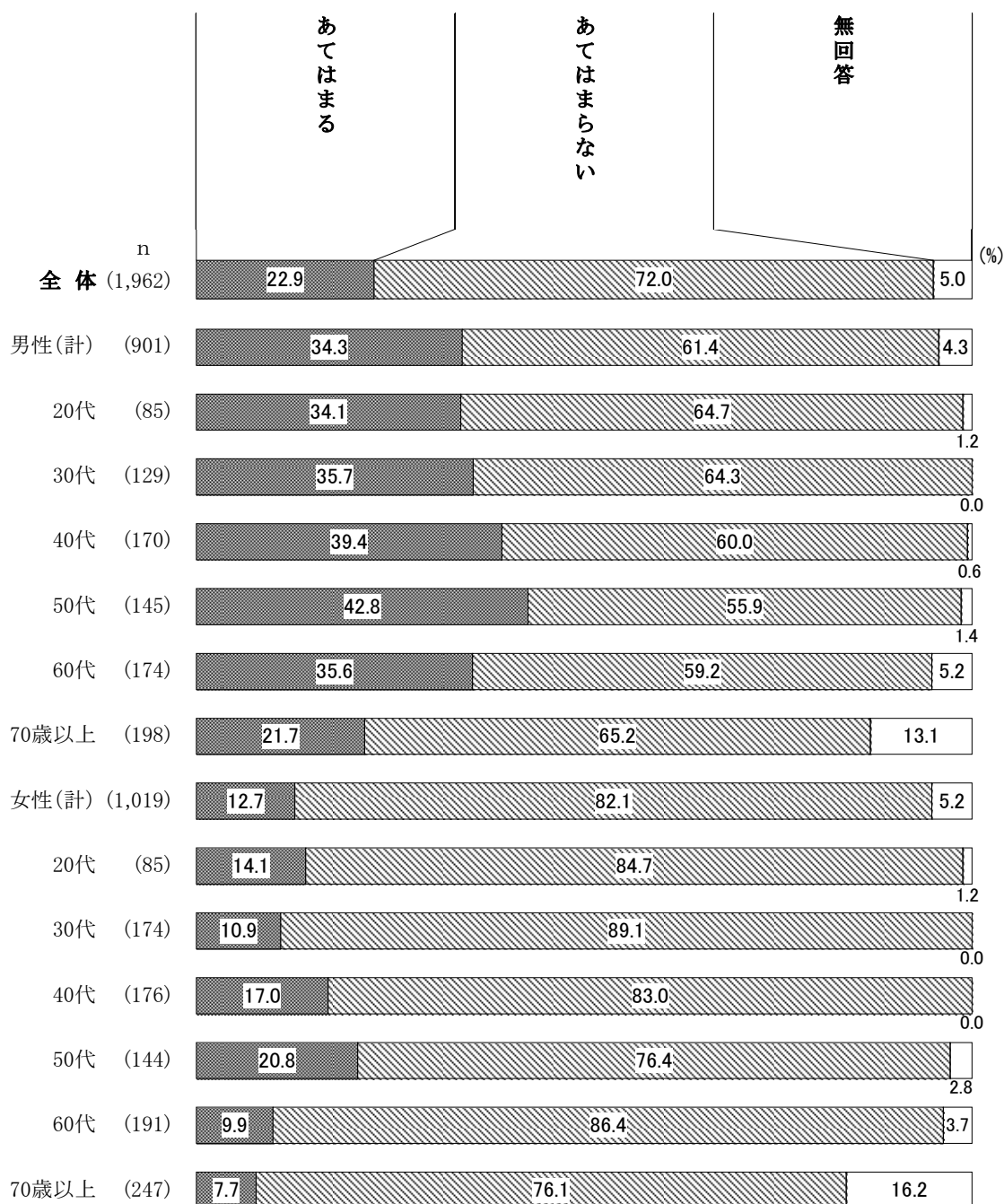


第3章 調査結果の分析

〈習慣的にタバコを吸っている〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性34.3%、女性12.7%と男性が21.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代から50代にかけて「あてはまる」が増加し、50代では42.8%となっているが、60代以降は低下している。女性では、50代で「あてはまる」が20.8%と他の年代より高くなっている。

図4-5-2-③ 性別、性・年代別／体調や習慣／習慣的にタバコを吸っている

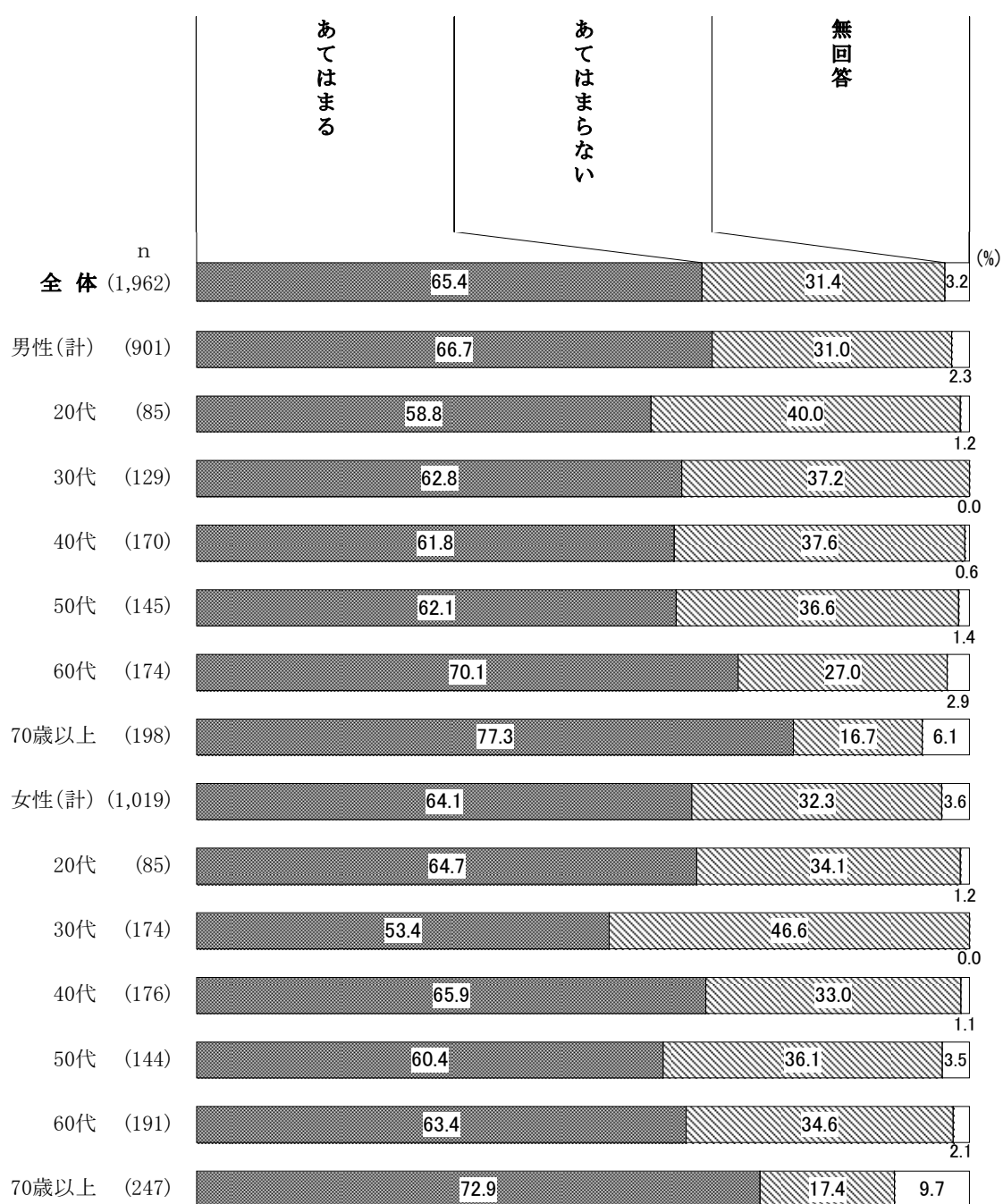


〈安心して受診できる医療機関が身近にある〉について、性別でみると、「あてはまる」は男性66.7%、女性64.1%となっている。

性・年代別でみると、男性では、「あてはまる」は加齢とともに増加傾向で、70歳以上では77.3%となっている。

女性では、30代（53.4%）を除くと、いずれの年代でも「あてはまる」が6割を超え、とくに70歳以上では72.9%となっている。

図4-5-2-④ 性別、性・年代別／体調や習慣／安心して受診できる医療機関が身近にある

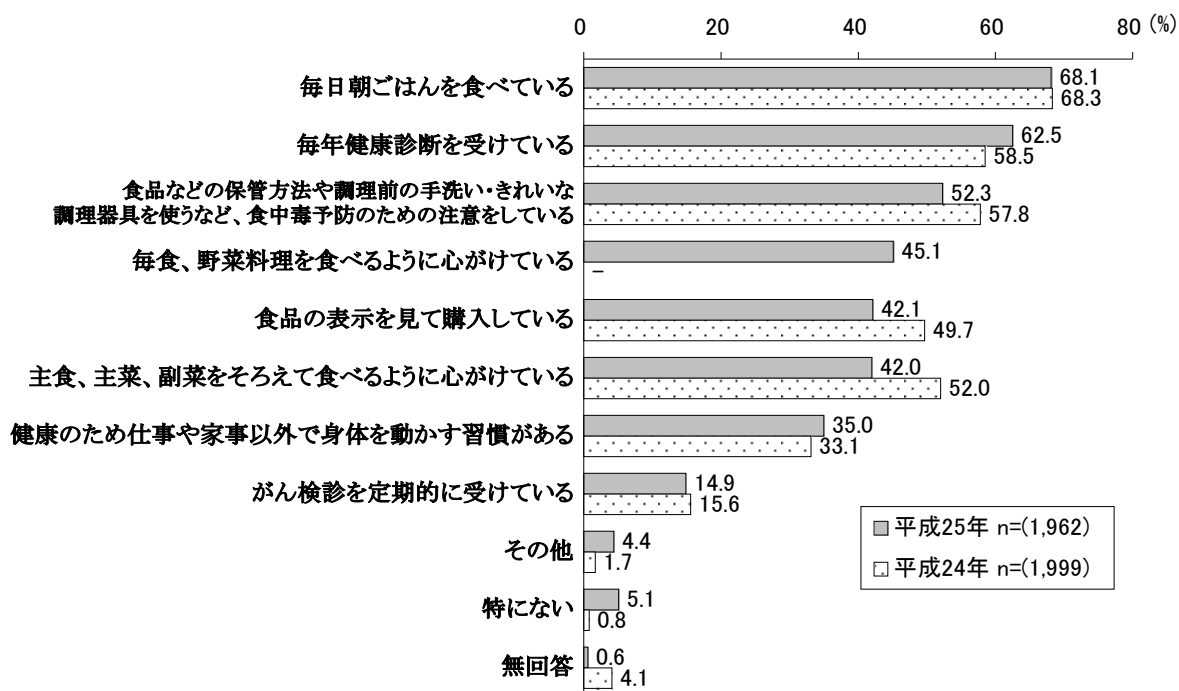


(6) 健康維持のために実行している、心がけているもの

■ 「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」が6割台

問18 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。(〇はあてはまるものすべて)

図4-6-1 健康維持のために実行している、心がけているもの



健康維持のために実行している、心がけていることとしては、「毎日朝ごはんを食べている」が68.1%で最も高く、以下「毎年健康診断を受けている」(62.5%)、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(52.3%)の順となっている。

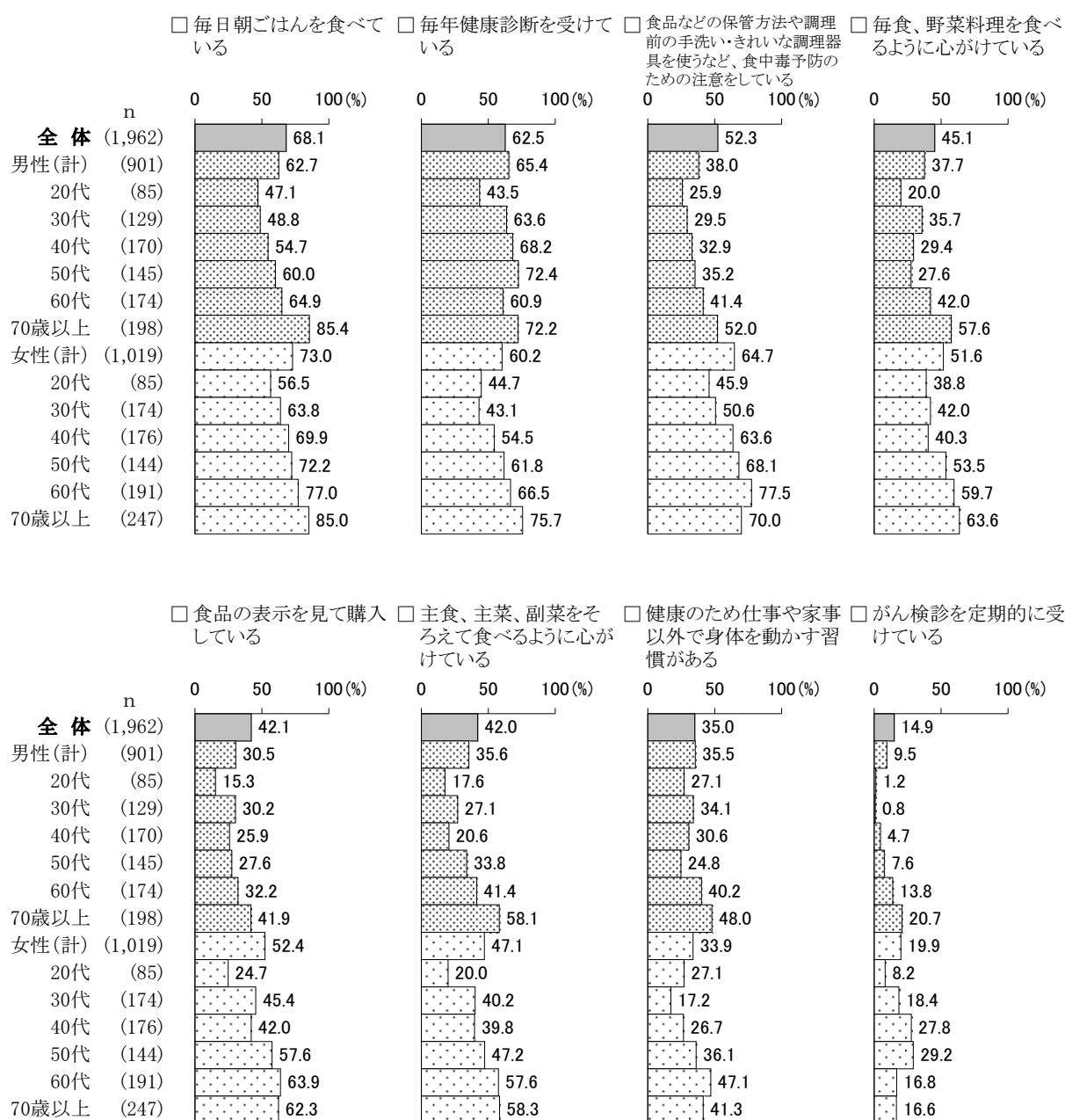
経年で比較すると、「毎年健康診断を受けている」は、前回の58.5%から、今回62.5%へと微増している。一方、「主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている」は、前回の52.0%から、今回42.0%へと10.0ポイント低下している。

性別でみると、「毎日朝ごはんを食べている」は男性62.7%、女性73.0%、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は男性38.0%、女性64.7%、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は男性37.7%、女性51.6%と、8項目のうち6項目で男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「毎日朝ごはんを食べている」「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は加齢とともに増加する傾向がある。「毎年健康診断を受けている」については、50代、70歳以上で7割を超えている。また、「毎食、野菜料理を食べるように心がけている」は70歳以上で57.6%と高くなっている。

女性では、「毎日朝ごはんを食べている」「毎年健康診断を受けている」は加齢とともに増加する傾向がある。「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒の予防のための注意をしている」は、60代で77.5%となっているほか、50代、70歳以上でも7割前後を占めている。

図4-6-2 性別、性・年代別／健康維持のために実行している、心がけているもの



5 ビューティフル・ウィンドウズ運動

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況
 - (2) 平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知
 - (3) 居住地域の治安状況
 - (4) 区内の治安が良いと感じる点
 - (5) 区内の治安が悪いと感じる点
 - (6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと
 - (7) 駐輪時の鍵かけ状況
-

5. ビューティフル・ウィンドウズ運動

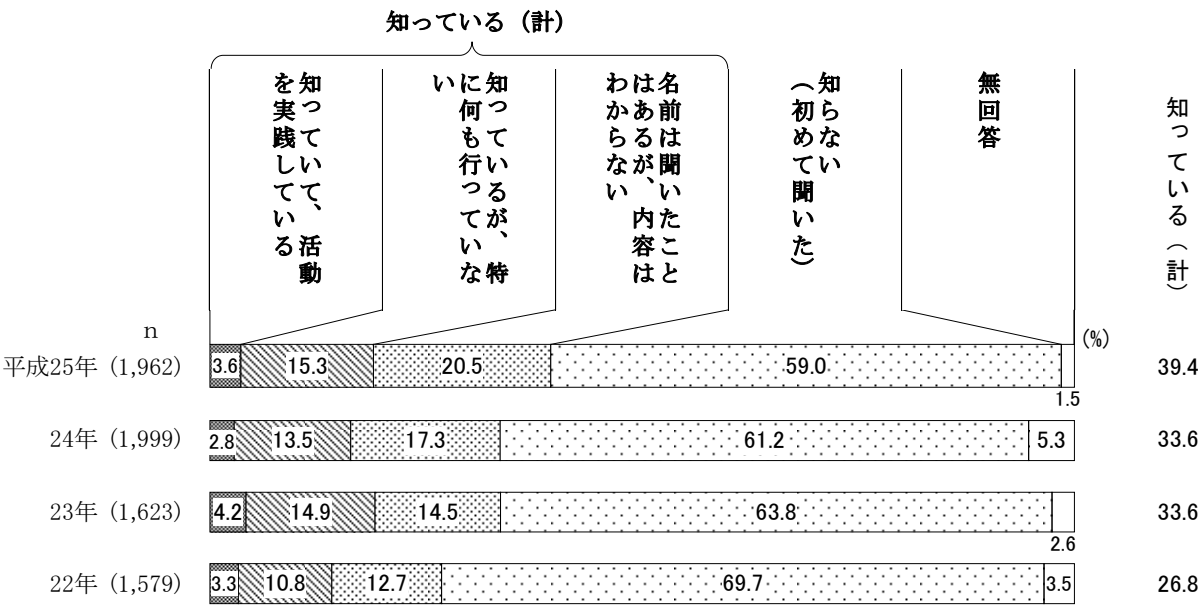
(1)「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

■ 【知っている】は約4割で、認知度は年々上昇している

問19 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

図5－1－1 経年比較／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っていて、活動を実践している」は3.6%で、これに「知っているが、特に何も行っていない」（15.3%）、「名前は聞いたことがあるが、内容はわからない」（20.5%）を合わせた【知っている】は39.4%となっている。

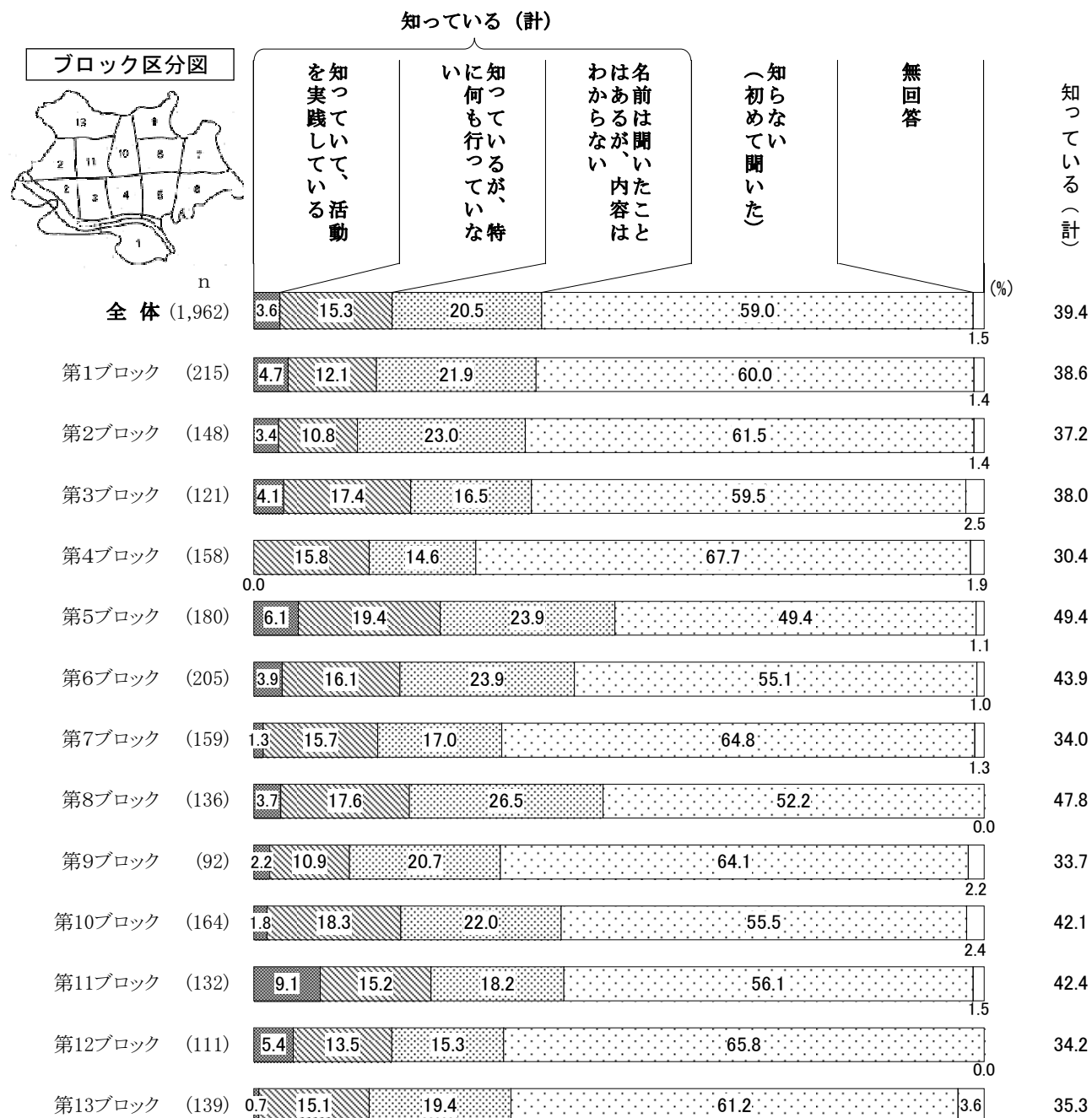
経年でみると、平成22年以降、【知っている】は増加傾向にある。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第5ブロック、第8ブロックでは【知っている】が、それぞれ49.4%、47.8%と5割近くを占めて、他のブロックに比べて高くなっている。また、第11ブロックでは「知っていて、活動を実践している」が9.1%と、全ブロック中最も高くなっている。

足立区の中心部、駅周辺から離れた地域ブロックほど認知状況が低い傾向にある。

図5-1-2 地域ブロック別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



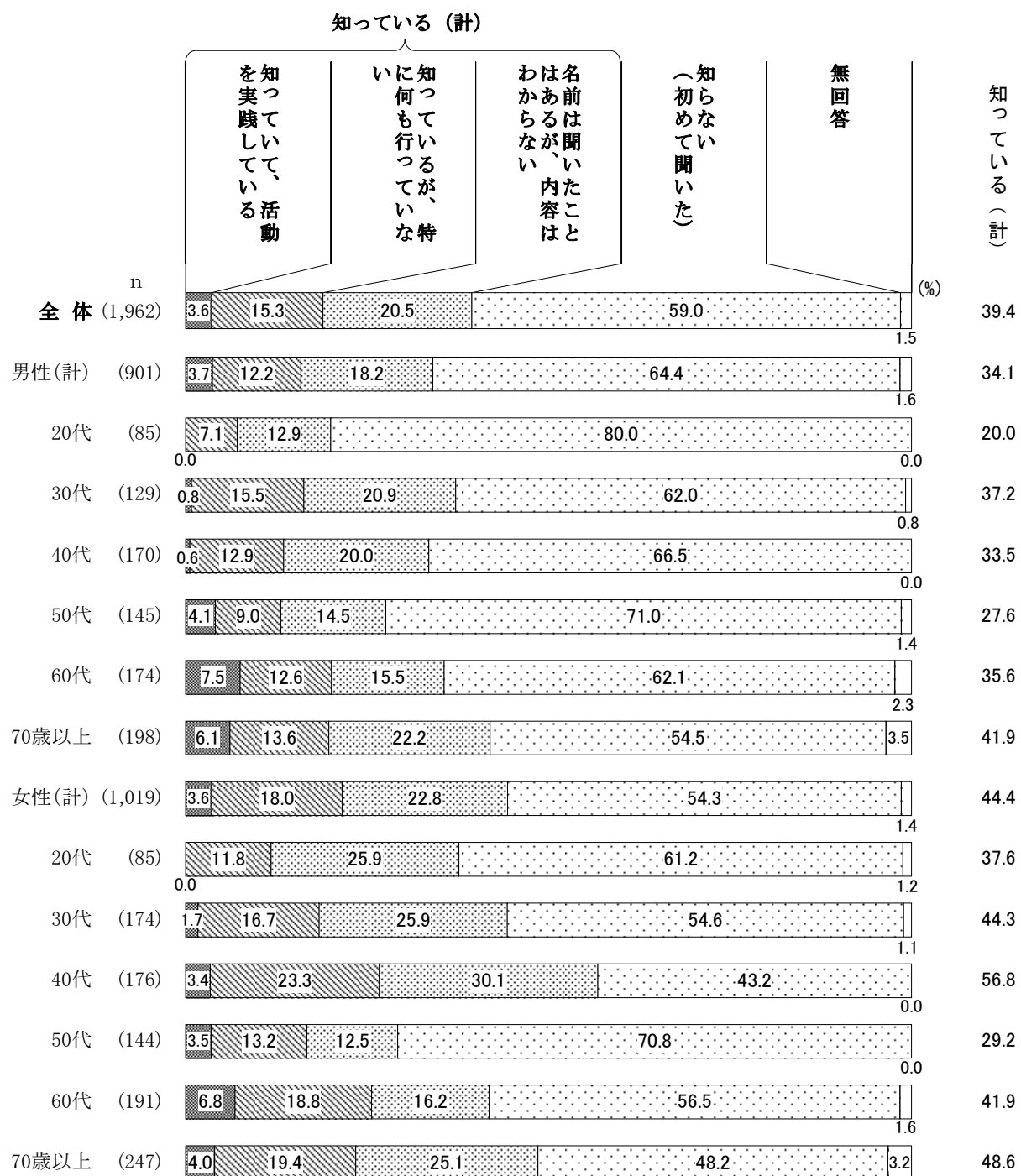
性別でみると、【知っている】は男性34.1%、女性44.4%と、男性より女性が10.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、30代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ37.2%、41.9%と、他の年代より高くなっている。60代、70歳以上では「知っていて、活動を実践している」が、それぞれ7.5%、6.1%と高くなっている。

女性では、40代で【知っている】が56.8%と男女全年代を通じて最も高くなっている。60代では「知っていて、活動を実践している」が6.8%と他の年代よりやや高くなっている。

「知らない」は20代男性で80.0%と最も高くなっている。

図5-1-3 性別、性・年代別／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況



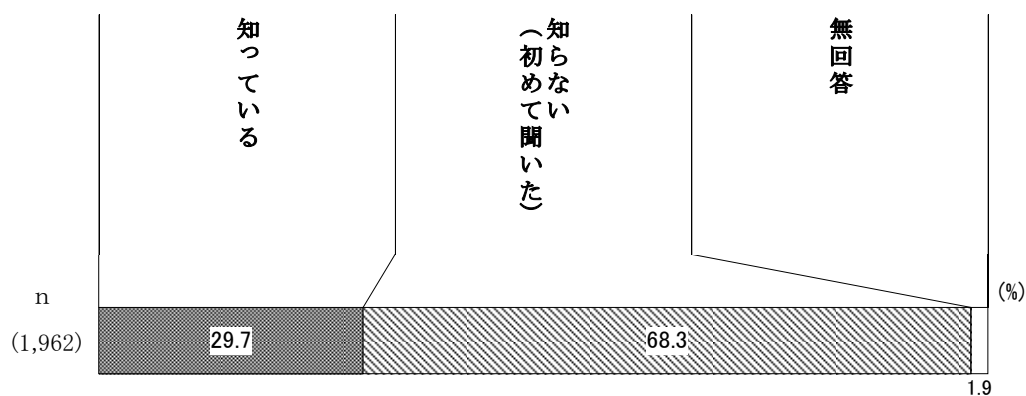
(2) 平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知

■ 「知っている」は3割

問20 あなたは、平成24年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が、都内ワーストを脱却し、37年ぶりに1万件を下回ったことを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除きます。

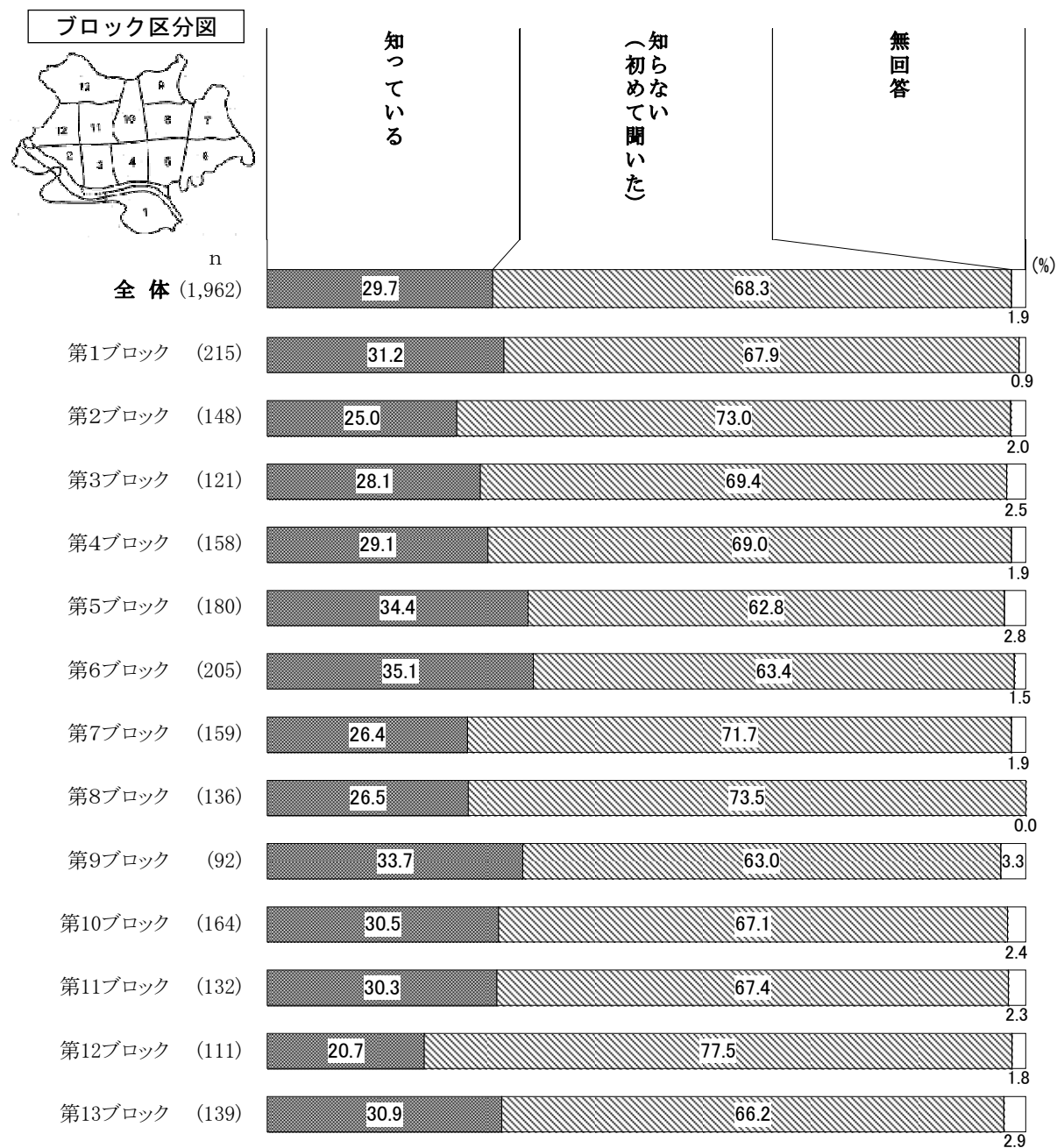
図5-2-1 平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知



足立区内の刑法犯認知件数が37年ぶりに1万件を下回ったことを「知っている」は29.7%である。一方、「知らない」は68.3%となっている。

地域ブロック別でみると、第5ブロック、第6ブロックでは、「知っている」が、それぞれ34.4%、35.1%と、他のブロックより高くなっている。一方、第12ブロックでは、「知っている」は20.7%と全ブロック中最も低くなっている。

図5-2-2 地域ブロック別／平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知



第3章 調査結果の分析

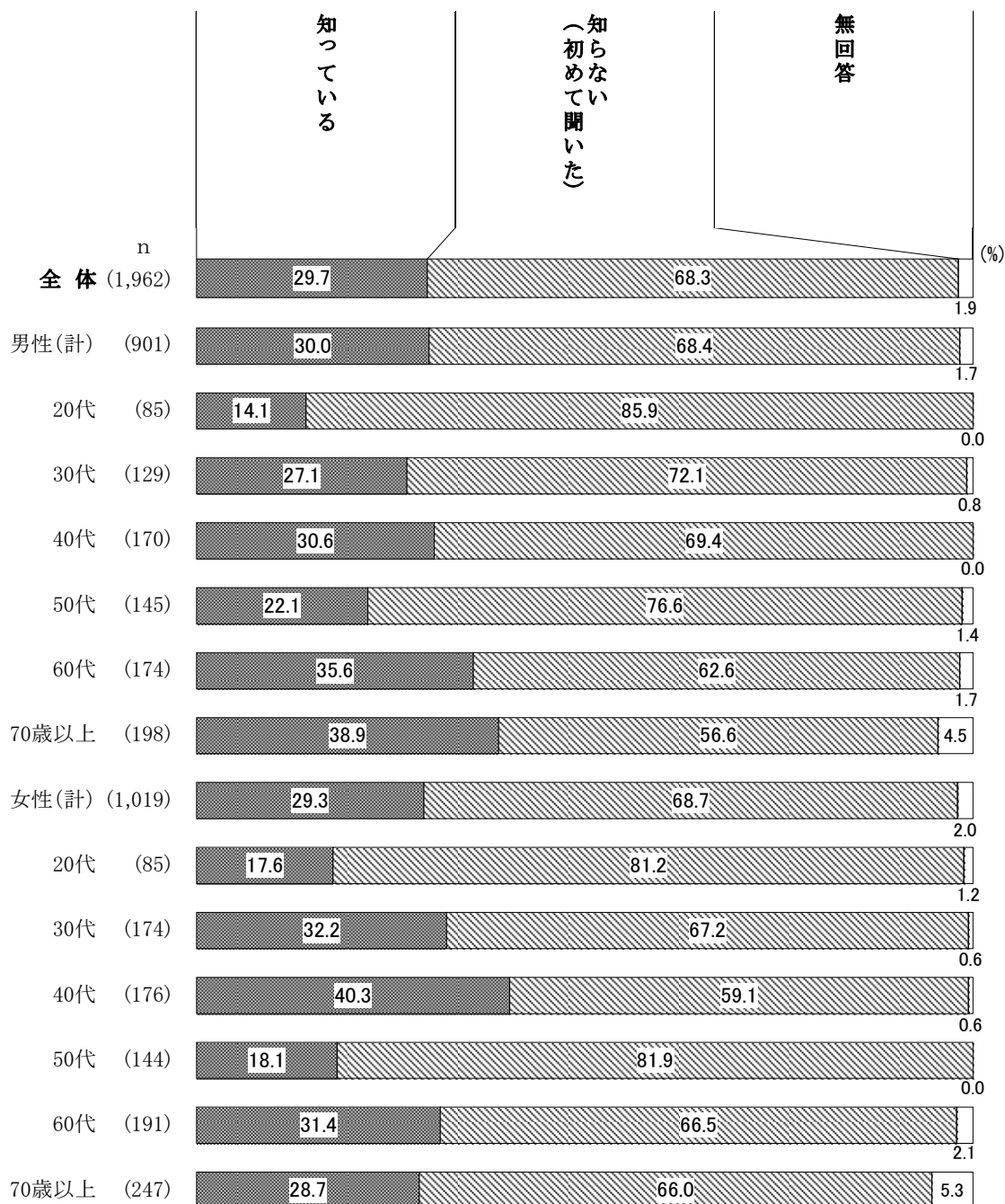
性別でみると、「知っている」は男性30.0%、女性29.3%となっている。

性・年代別でみると、男性では、60代、70歳以上で「知っている」が、それぞれ35.6%、38.9%と他の年代より高くなっている。

女性では、40代で「知っている」が40.3%を占めているほか、30代、60代、70歳以上でも3割前後となっている。

「知らない」は男性20代、女性20代・50代で8割を超え高くなっている。

図5-2-3 性別、性・年代別／平成24年の区内刑法犯認知件数が1万件を下回ったことの認知



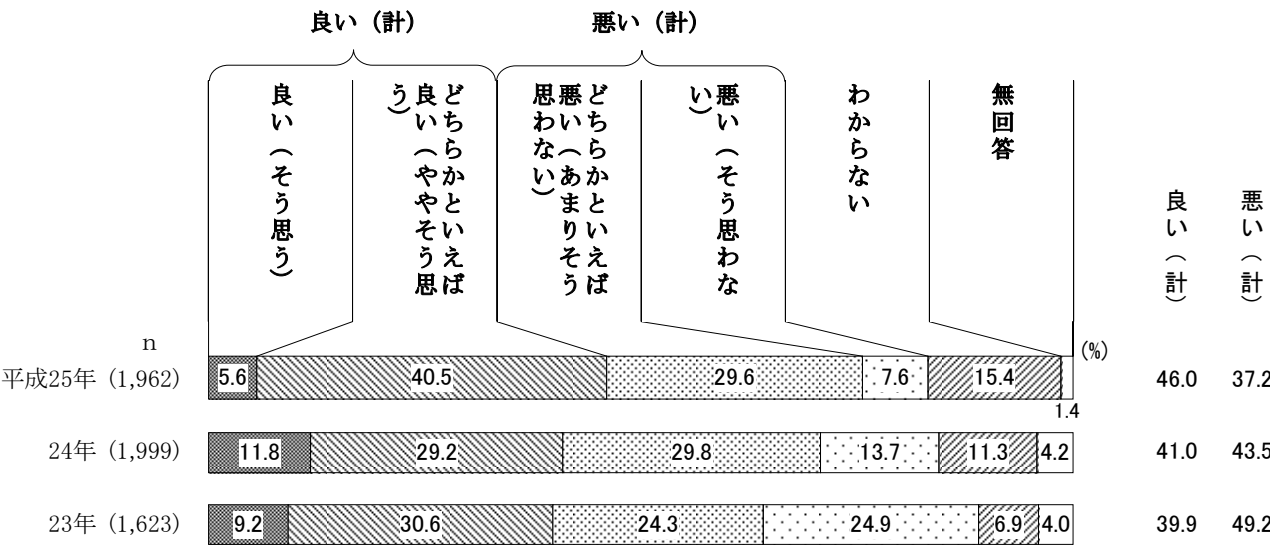
(3) 居住地域の治安状況

■ 前回調査から転じて、【良い】と感じている人の方が多く、4割台半ば。初めて【良い】が【悪い】を上回った。

問21 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。
(○は1つだけ)

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

図5-3-1 経年比較／居住地域の治安状況



住んでいる地域の治安について、「良い（そう思う）」が5.6%で、これに「どちらかといえば良い（ややそう思う）」の40.5%を合わせた【良い】は46.0%である。一方、「どちらかといえば悪い（あまりそう思わない）」（29.6%）と「悪い（そう思わない）」（7.6%）を合わせた【悪い】は37.2%となっている。

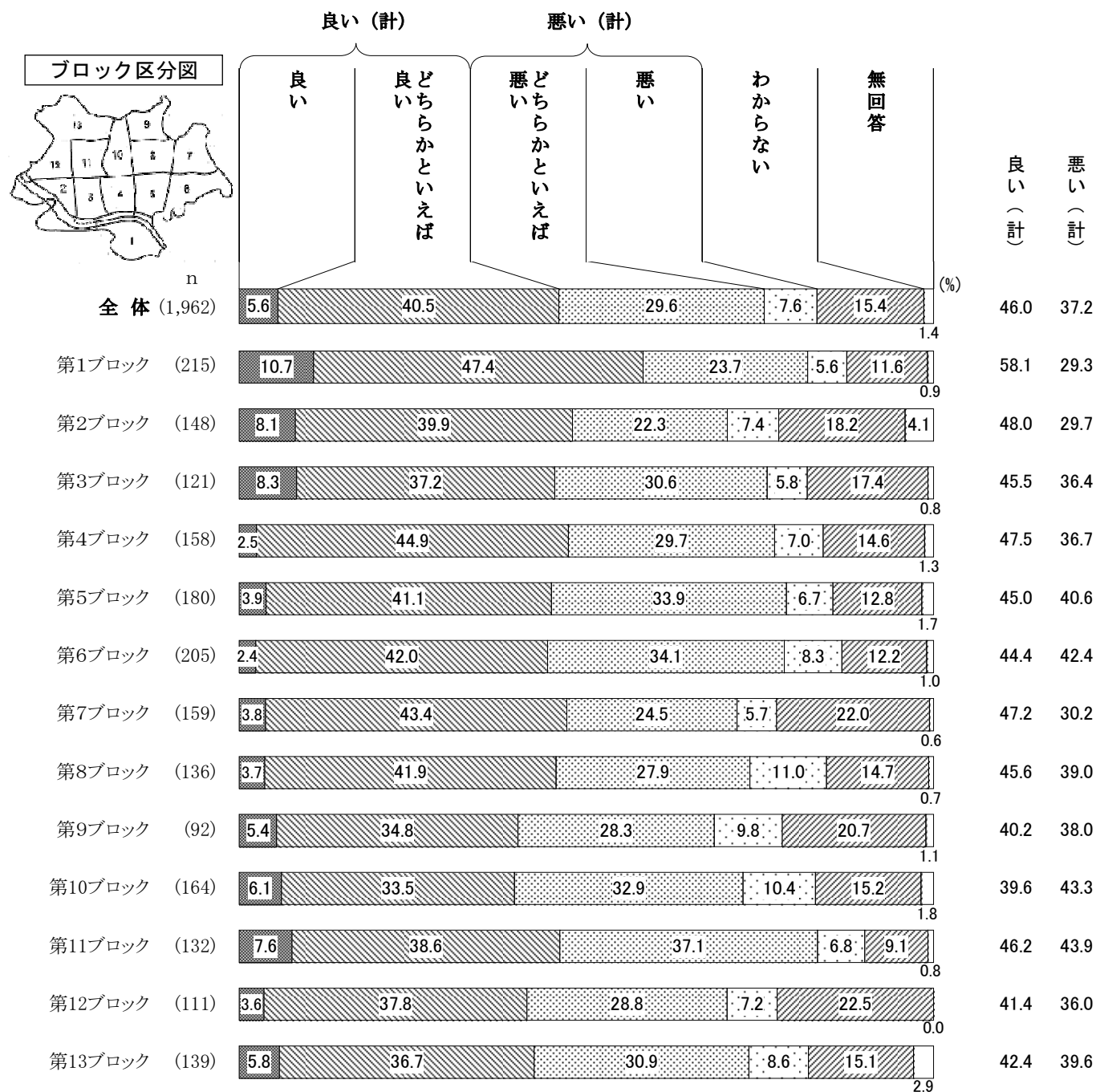
経年でみると、今回調査では【良い】が46.0%と、前回調査の41.0%より5.0ポイント増加している。

治安状況については、平成23年から調査方法を変更したため、数値の単純な比較はできないが、平成13年の調査開始以来、初めて【良い】が【悪い】を上回った。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、【良い】は第1ブロックで58.1%と最も高く、以下第2ブロック(48.0%)、第4ブロック(47.5%)の順となっている。一方、第5ブロック、第6ブロック、第10ブロック、第11ブロックでは【悪い】が、いずれも4割を超えている。

図5-3-2 地域ブロック別／居住地域の治安状況

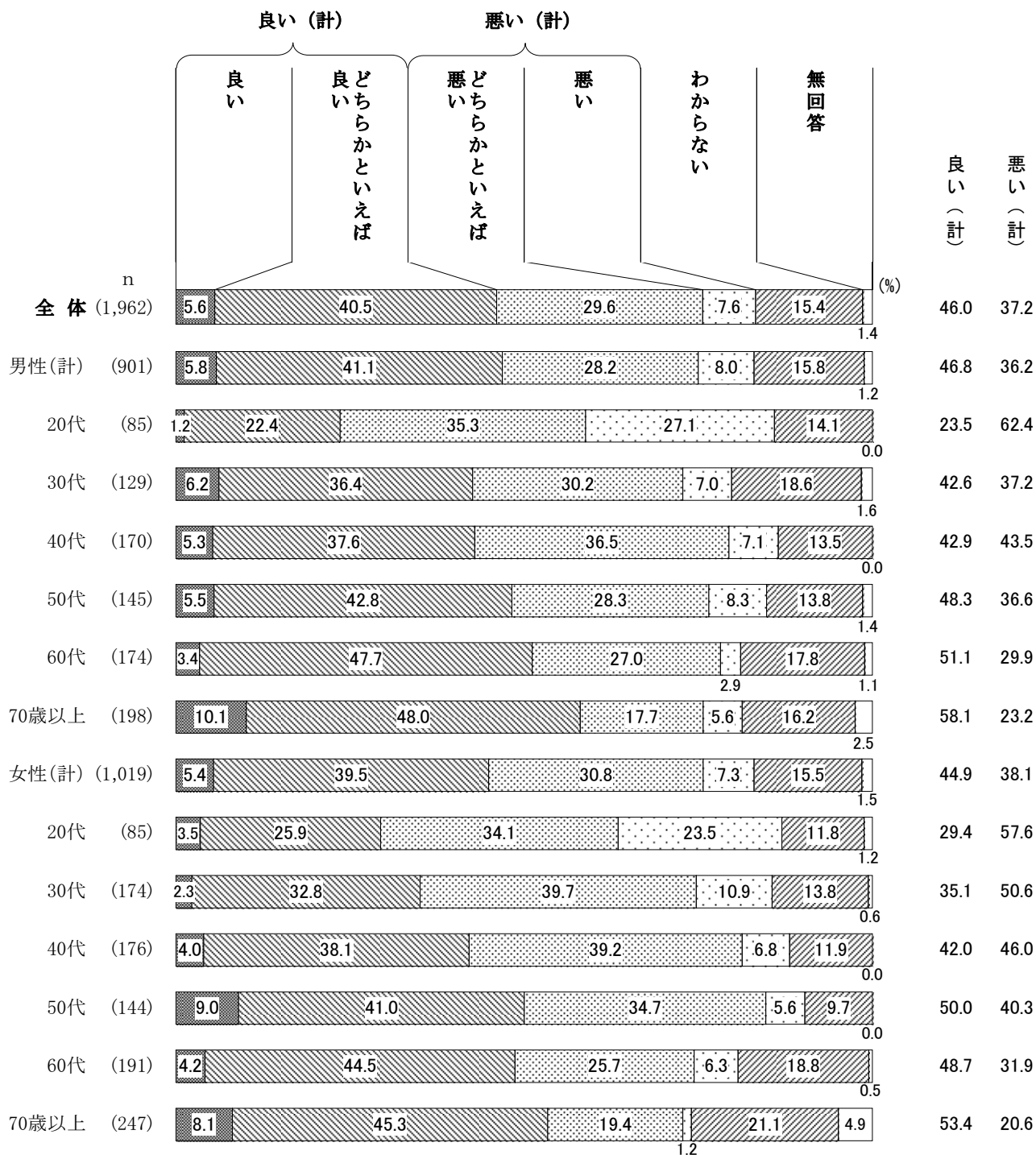


性別でみると、【良い】は男性46.8%、女性44.9%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代で【悪い】との評価が62.4%と際立って高くなっている。30代以降は、加齢とともに【良い】との評価が増加し、70歳以上では58.1%となっている。

女性でも、20代では【悪い】が57.6%と6割近くを占めている。50代から70歳以上になると、【良い】との評価が5割前後を占めている。

図5-3-3 性別、性・年代別／居住地域の治安状況



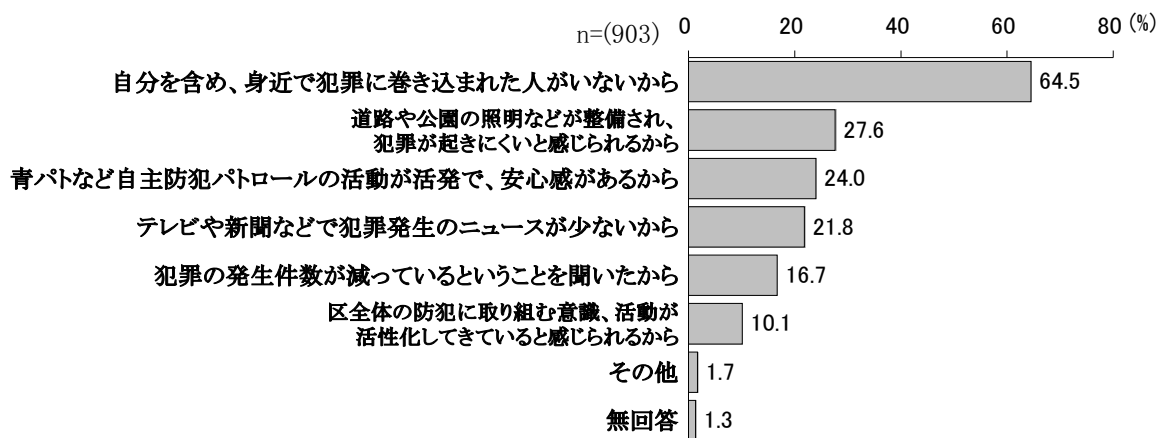
(4) 区内の治安が良いと感じる点

■ “犯罪に巻き込まれた人がいないから”が6割台半ばで、特に多くなっている

問21で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に

問21-1 どのような点で区内の治安が良いと感じますか。(○は2つまで)

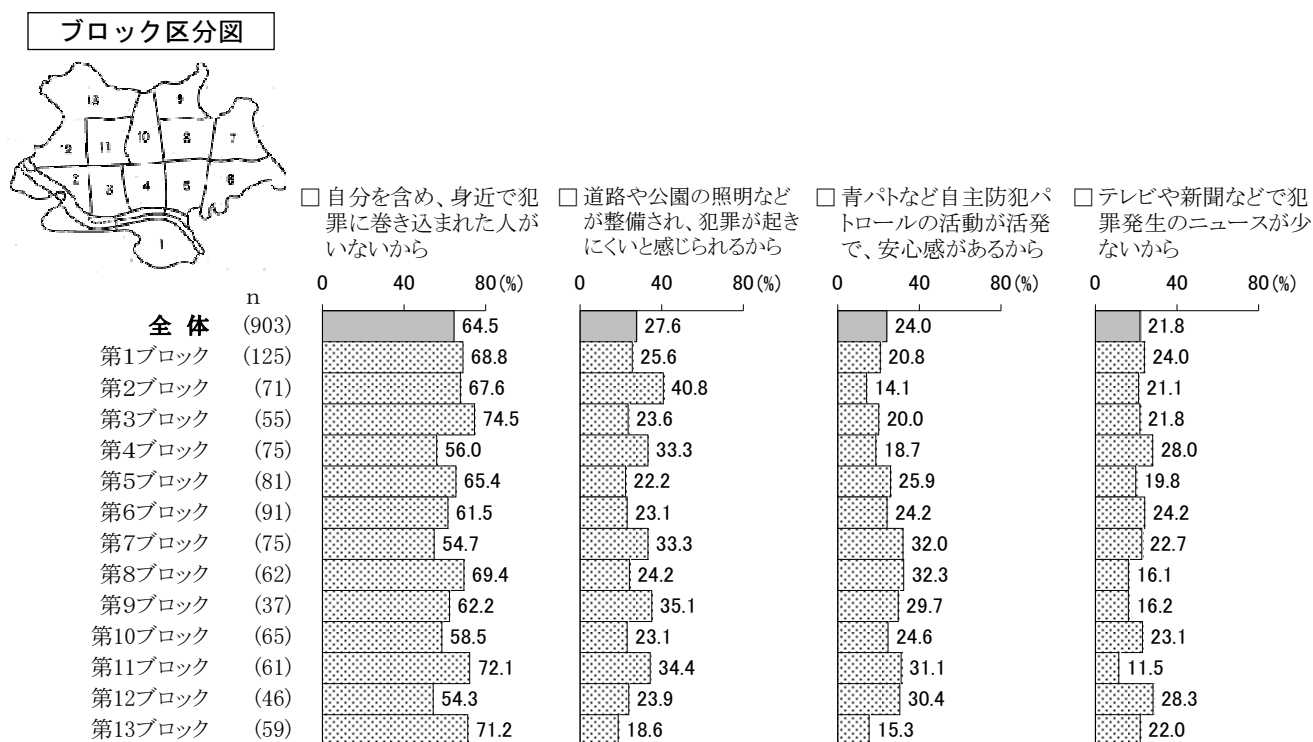
図5-4-1 区内の治安が良いと感じる点



【良い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が64.5%で最も高く、以下「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」(27.6%)、「青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」(24.0%)の順となっている。

地域ブロック別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は、第3ブロック、第11ブロックで、それぞれ74.5%、72.1%と高くなっている。また、「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから」は、第2ブロックで40.8%と最も高くなっている。「青パトなど自主防犯パトロール活動が活発で、安心感があるから」は、第7ブロック、第8ブロック、第11ブロック、第12ブロックで3割を超え、他のブロックより高くなっている。

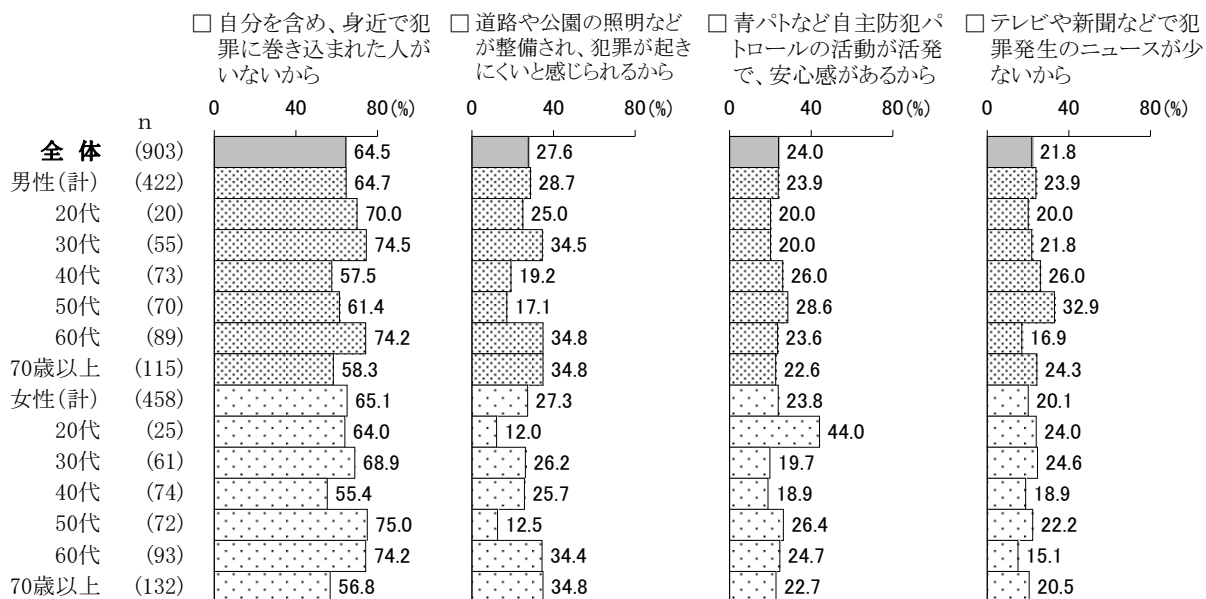
図5-4-2 地域ブロック別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目



性別でみると、特に大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」は男性の30代、60代、女性の50代、60代で7割台半ばと高くなっている。

図5-4-3 性別、性・年代別／区内の治安が良いと感じる点／上位4項目



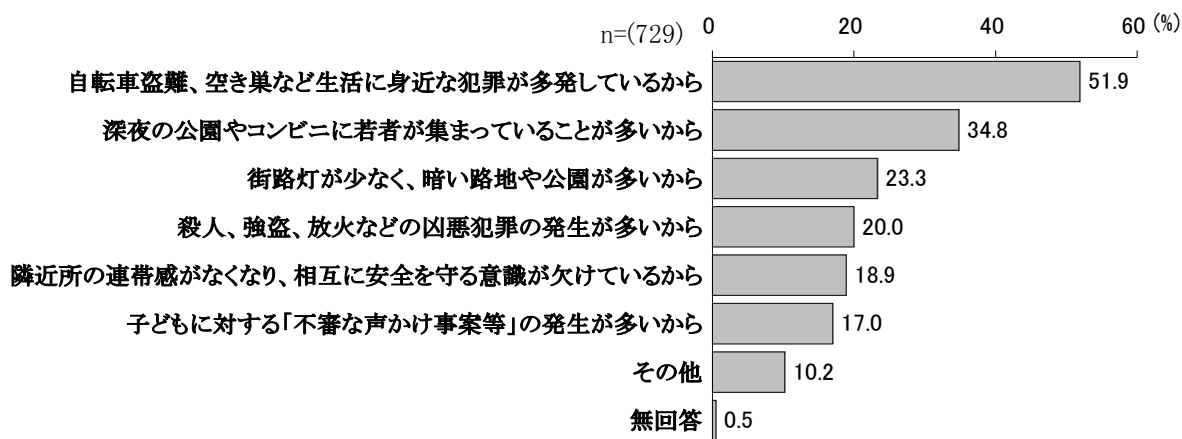
(5) 区内の治安が悪いと感じる点

■ “生活に身近な犯罪が多発しているから” が半数を超える

問21で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に

問21-2 どのような点で区内の治安が悪いと感じますか。(○は2つまで)

図5-5-1 区内の治安が悪いと感じる点

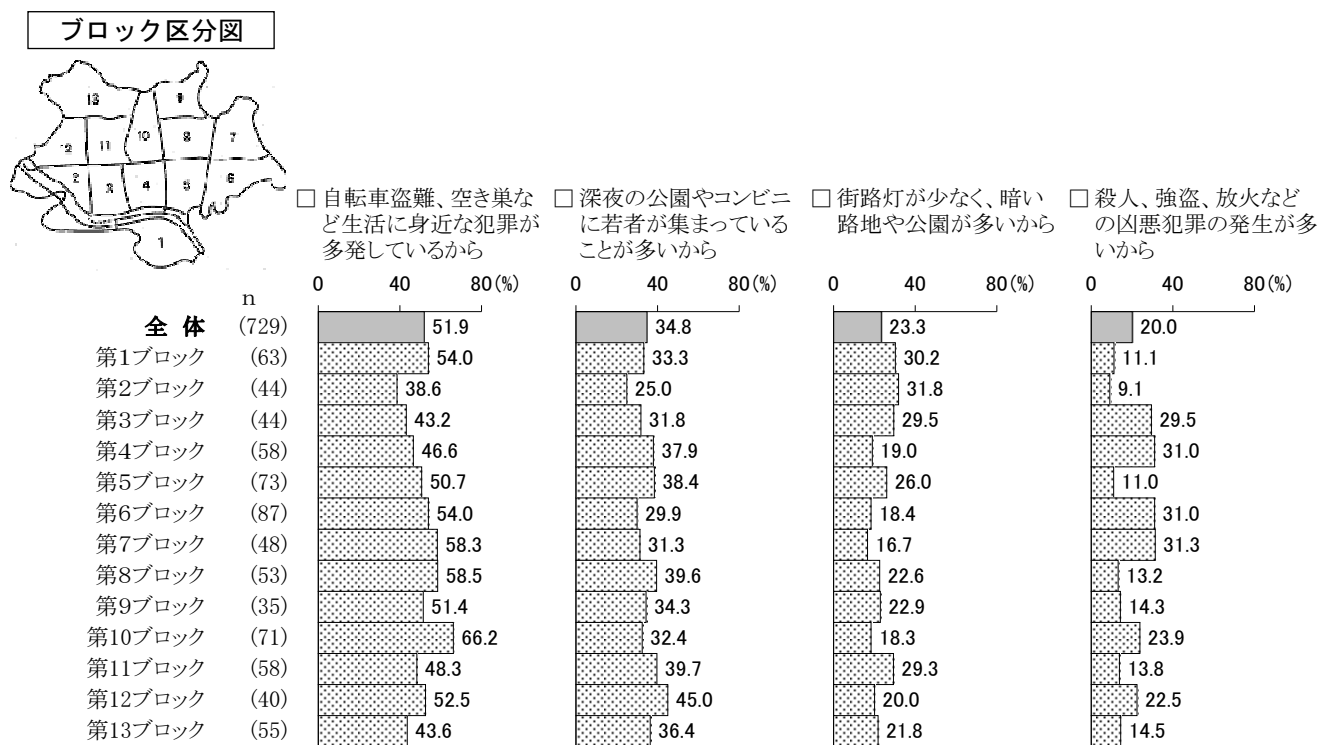


【悪い】と評価した人に、その理由を聞くと、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」が51.9%で最も高く、以下「深夜の公園やコンビニに若者が集まっていることが多いから」(34.8%)、「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」(23.3%)の順となっている。

地域ブロック別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」は、第10ブロックで66.2%と全ブロック中最も高くなっているほか、第1ブロック、第5ブロックから第9ブロック、第12ブロックでも5割を超えている。「深夜の公園やコンビニに若者が集まっていることが多いから」については、第12ブロックで45.0%と最も高くなっているほか、第5ブロック、第8ブロック、第11ブロックでも4割近くを占めている。

また「街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから」は、第1ブロック、第2ブロック、第3ブロック、第11ブロックで3割前後と、他のブロックより高くなっている。「殺人、強盗、放火など凶悪犯罪の発生が多いから」については、第3ブロック、第4ブロック、第6ブロック、第7ブロックで3割前後を占め、他のブロックより高くなっている。

図5-5-2 地域ブロック別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目

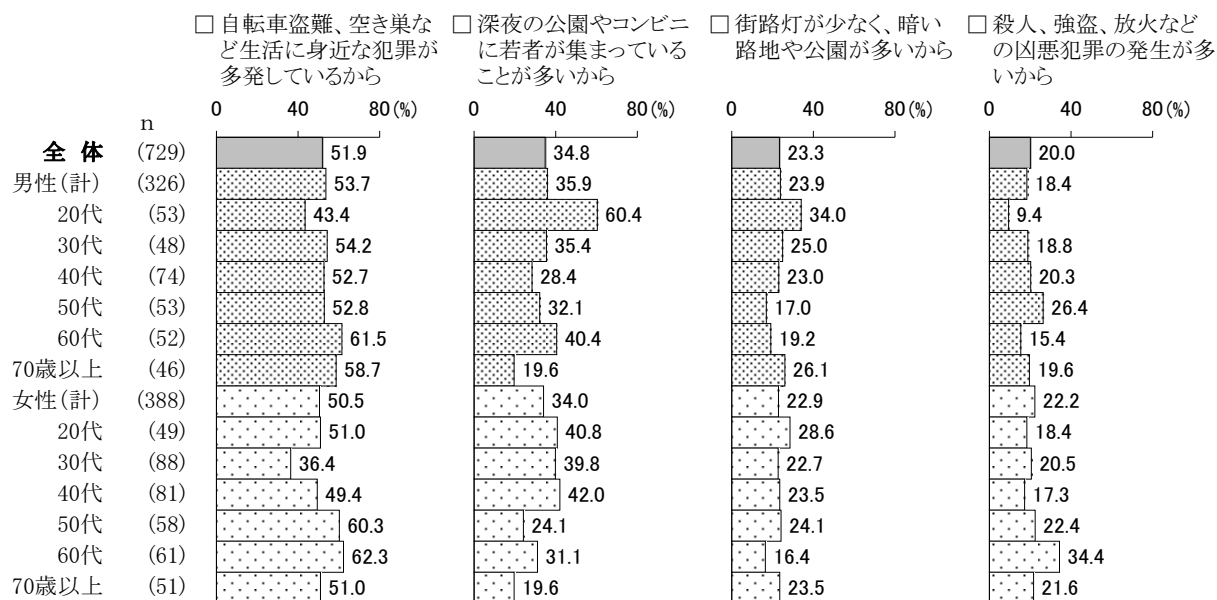


性別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」では、男性53.7%、女性50.5%で男性の方が3.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから」は、男性の60代以上、女性の50代、60代で6割前後と高くなっている。

また、「深夜の公園やコンビニに若者が集まっていることが多いから」については、男性の20代で60.4%となっており、全年代のなかで最も高くなっている。

図5-5-3 性別、性・年代別／区内の治安が悪いと感じる点／上位4項目

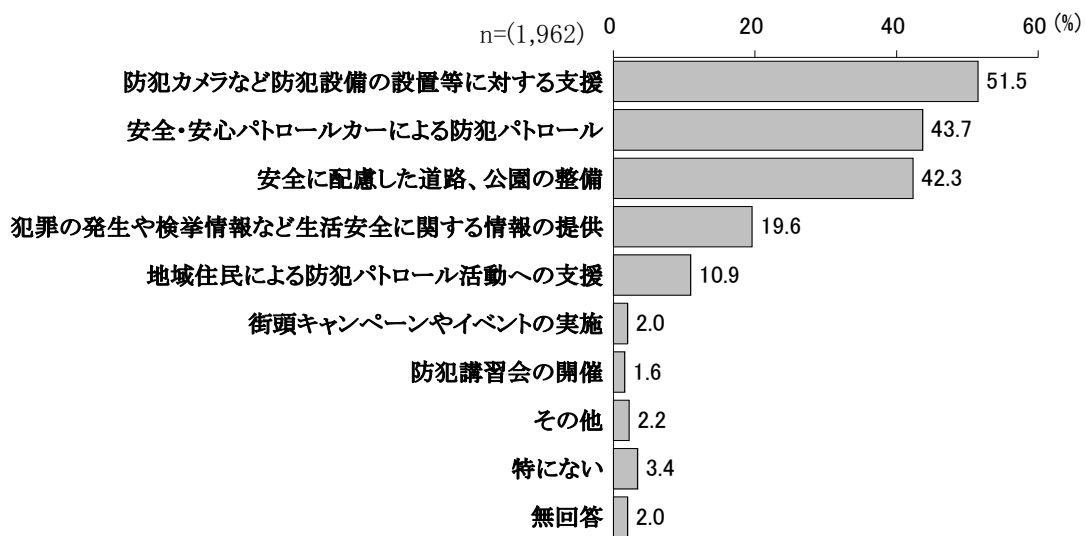


(6) 治安対策として区に力を入れてほしいこと

- “防犯設備の設置等に対する支援” が半数を超え、“防犯パトロール” “安全に配慮した道路、公園の整備” が4割台

問22 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(〇は2つまで)

図5-6-1 治安対策として区に力を入れてほしいこと

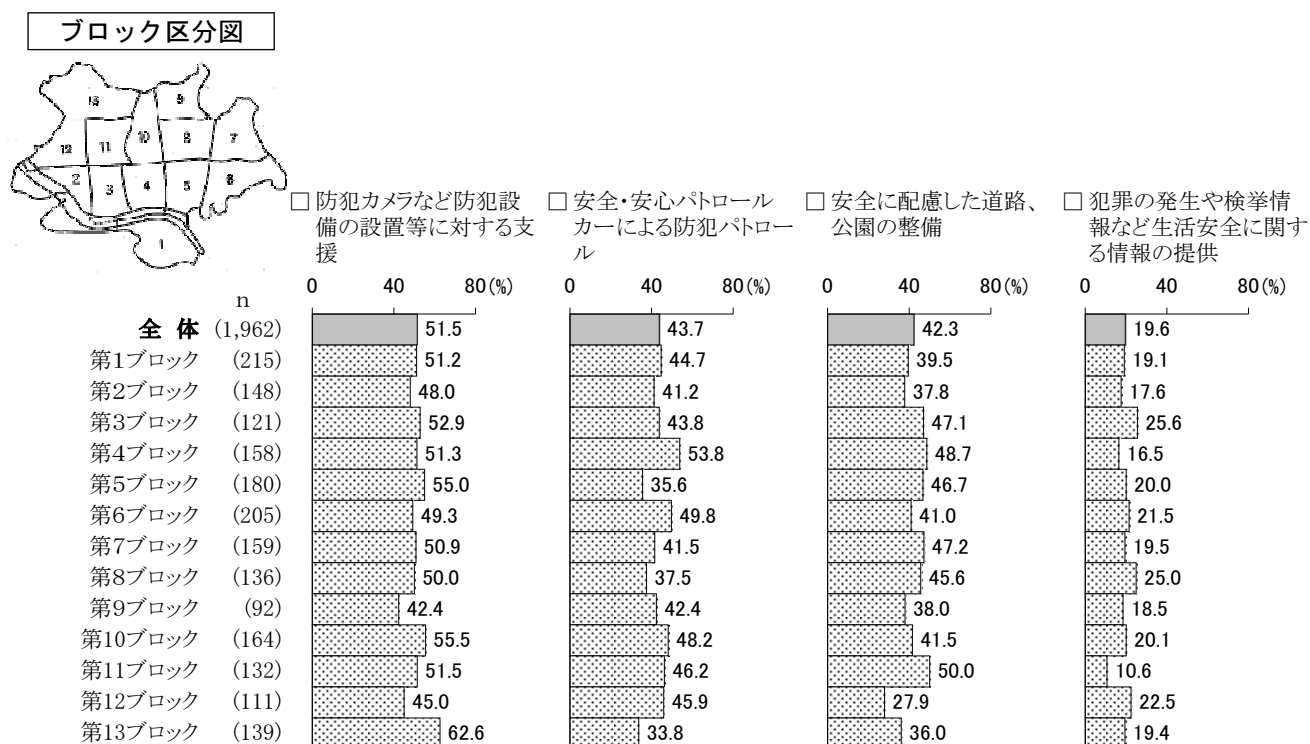


治安対策として足立区に力を入れてほしいことは、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」が51.5%で最も高く、以下「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」(43.7%)、「安全に配慮した道路、公園の整備」(42.3%)の順となっている。

地域ブロック別でみると、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」は、第13ブロックで62.6%と最も高くなっているほか、第5ブロック、第10ブロックでも5割台半ばとなっている。「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」は、第4ブロックで53.8%と最も高くなっているほか、第6ブロック、第10ブロックでも5割近くを占めている。

また、「安全に配慮した道路、公園の整備」は第11ブロックで、50.0%と最も高くなっている。一方、第12ブロックでは27.9%と最も低く、地域ブロック別差は、最大22.1ポイントであった。

図5-6-2 地域ブロック別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目



第3章 調査結果の分析

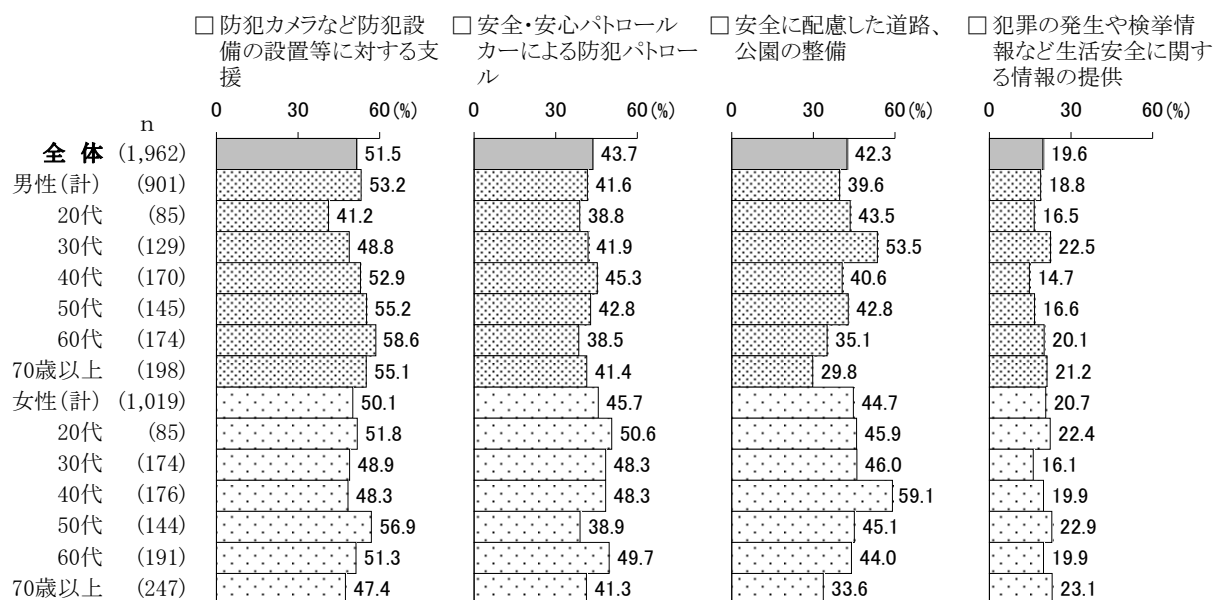
性別でみると、「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」は男性41.6%、女性45.7%、「安全に配慮した道路、公園の整備」は男性39.6%、女性44.7%、「犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供」は男性18.8%、女性20.7%と男性より女性が高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」は、加齢とともに増加する傾向がある。「安全に配慮した道路、公園の整備」は、30代で53.5%と最も高くなっている。

女性では、「防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援」が50代で56.9%と他の年代より高くなっている。「安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール」は、20代から40代、60代で5割前後と高くなっている。

また、「安全に配慮した道路、公園の整備」は、40代で59.1%と6割近くを占めて最も高くなっている。

図5-6-3 性別、性・年代別／治安対策として区に力を入れてほしいこと／上位4項目

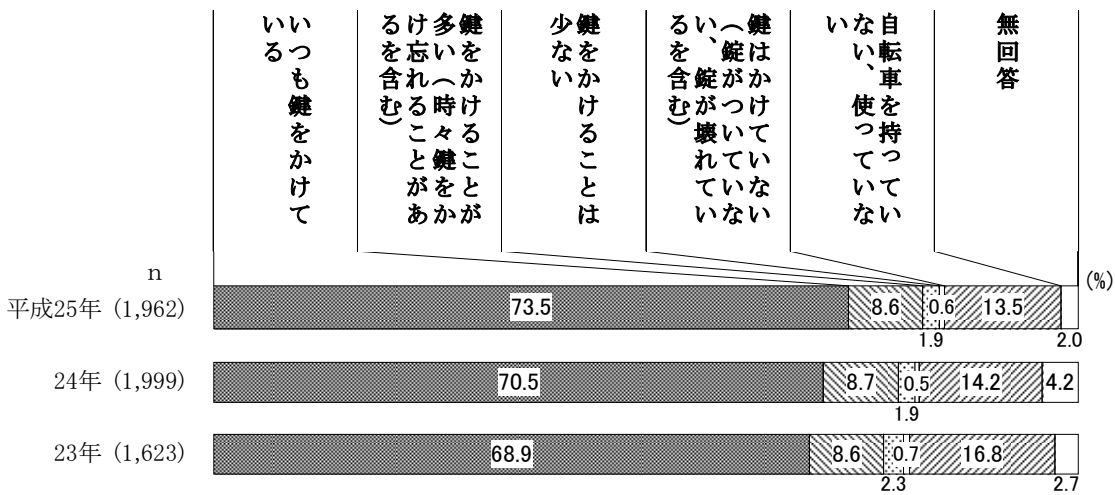


(7) 駐輪時の鍵かけ状況

■ 「いつも鍵をかけている」が7割を超え、増加傾向を示す

問23 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。
(○は1つだけ)

図5-7-1 経年比較／駐輪時の鍵かけ状況



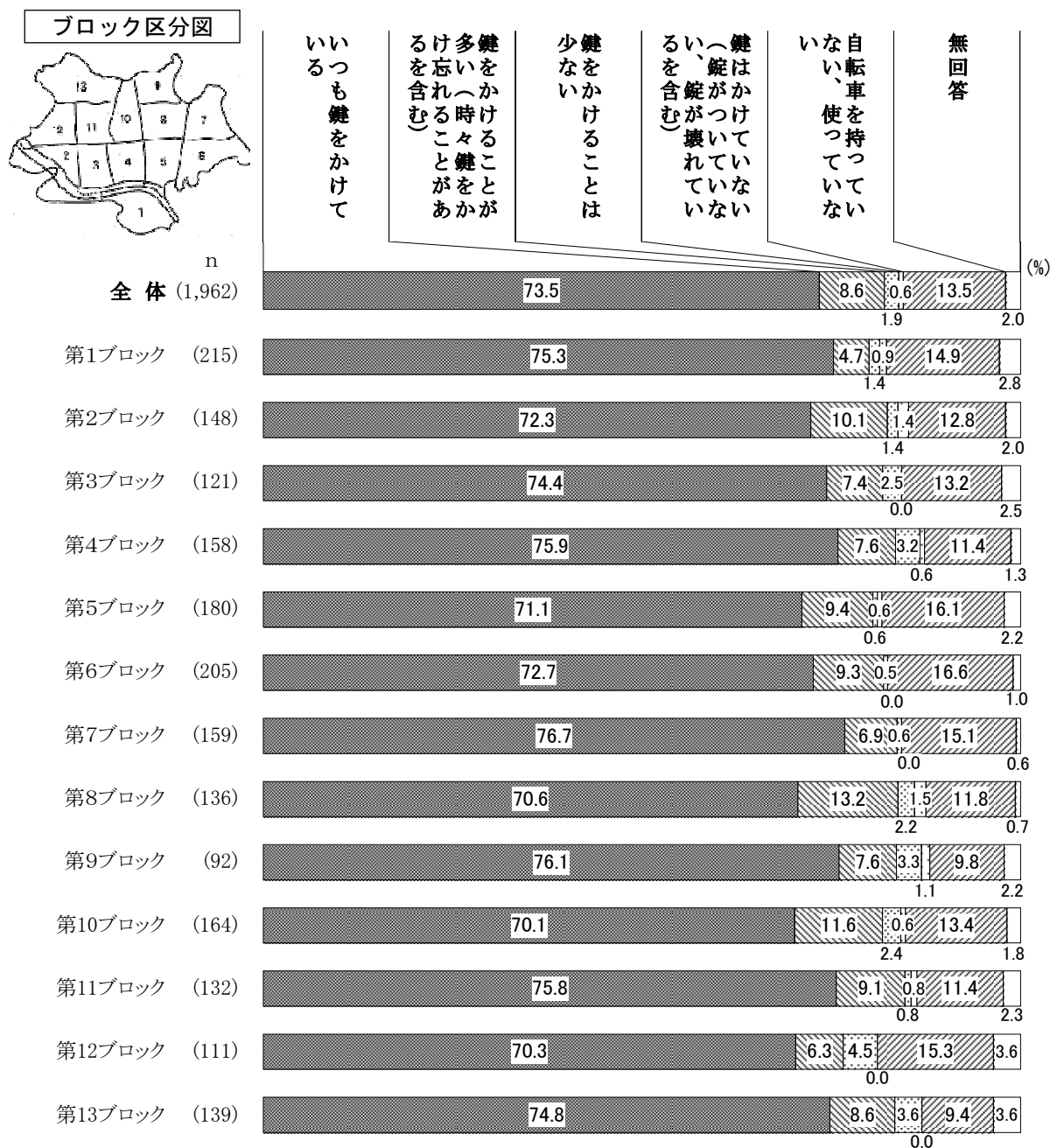
自転車を駐車したとき、自転車に鍵をかけているかについては「いつも鍵をかけている」が73.5%で最も高く、次いで「鍵をかけることが多い」(8.6%)となっている。一方、「鍵をかけることは少ない」は1.9%、「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」は0.6%となっている。

経年でみると、「いつも鍵をかけている」は、平成23年以降、増加傾向にある。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、いずれのブロックでも、「いつも鍵をかけている」が7割を超えている。

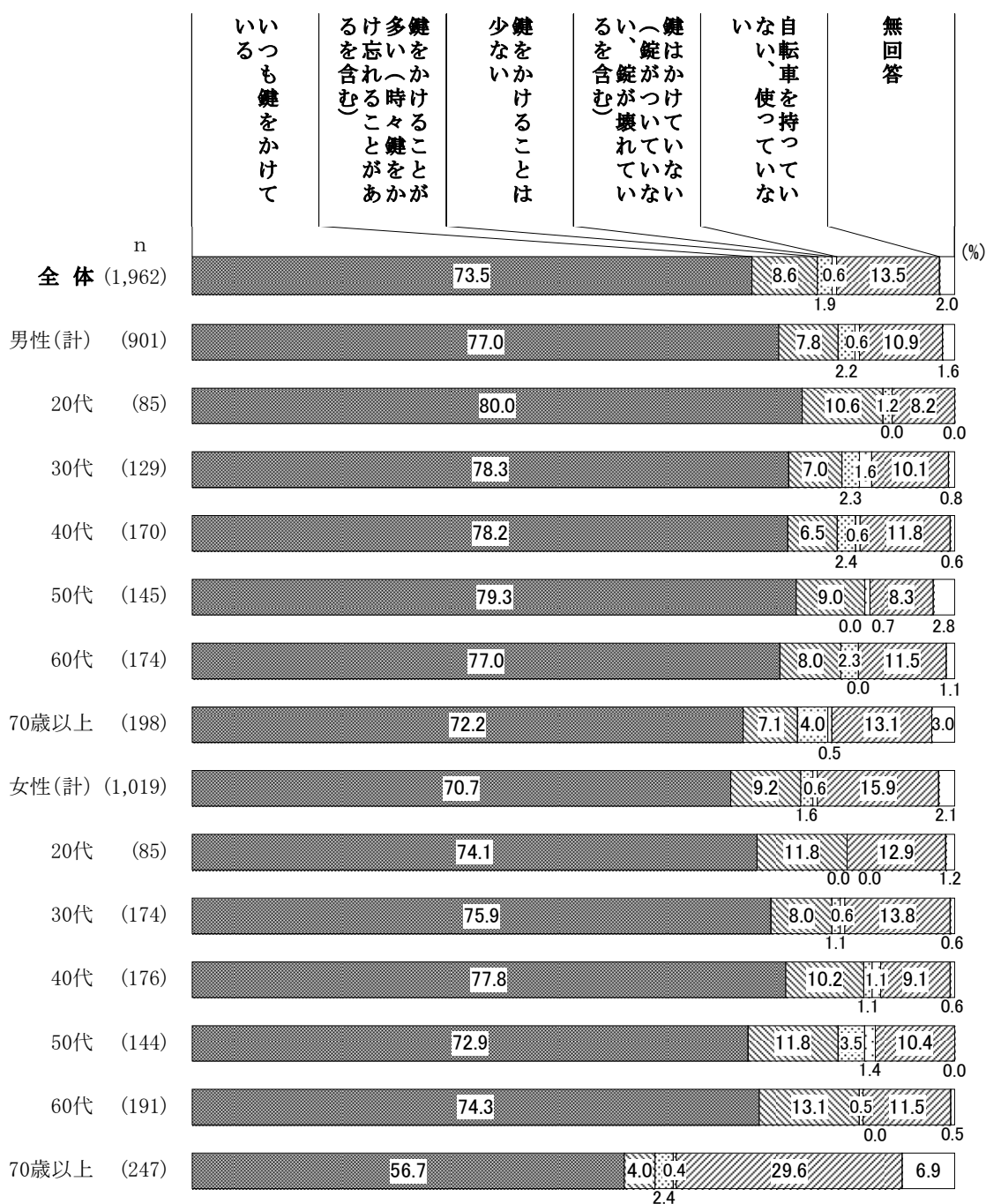
図5-7-2 地域ブロック別／駐輪時の鍵かけ状況



性別でみると、「いつも鍵をかけている」は男性77.0%、女性70.7%と男性が女性より高くなっている。

性・年代別でみると、70歳以上の女性を除くと、男女各年代とも「いつも鍵をかけている」が7割以上と高くなっている。

図5-7-3 性別、性・年代別／駐輪時の鍵かけ状況



6 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
 - (3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価
-

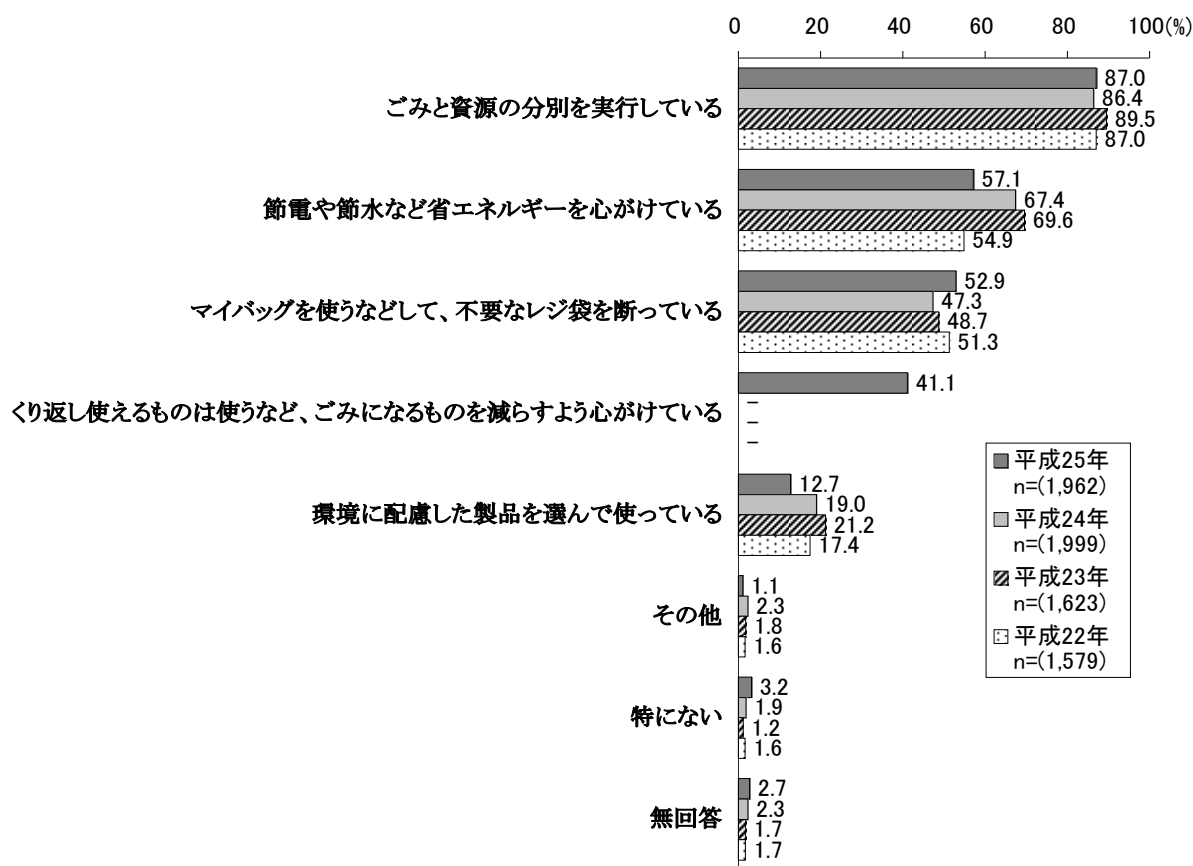
6. 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

- 「ごみと資源の分別を実行している」が9割近い数値を維持しているが、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は前年から減少し、省エネ意識の低下がうかがえる。

問24 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

図6-1-1 経年比較／環境のために心がけていること



※ 「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は今回新設。

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.0%で9割近い数値を維持し最も高く、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(57.1%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(52.9%)の順となっている。

また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、前回から10.3ポイント減となっている。

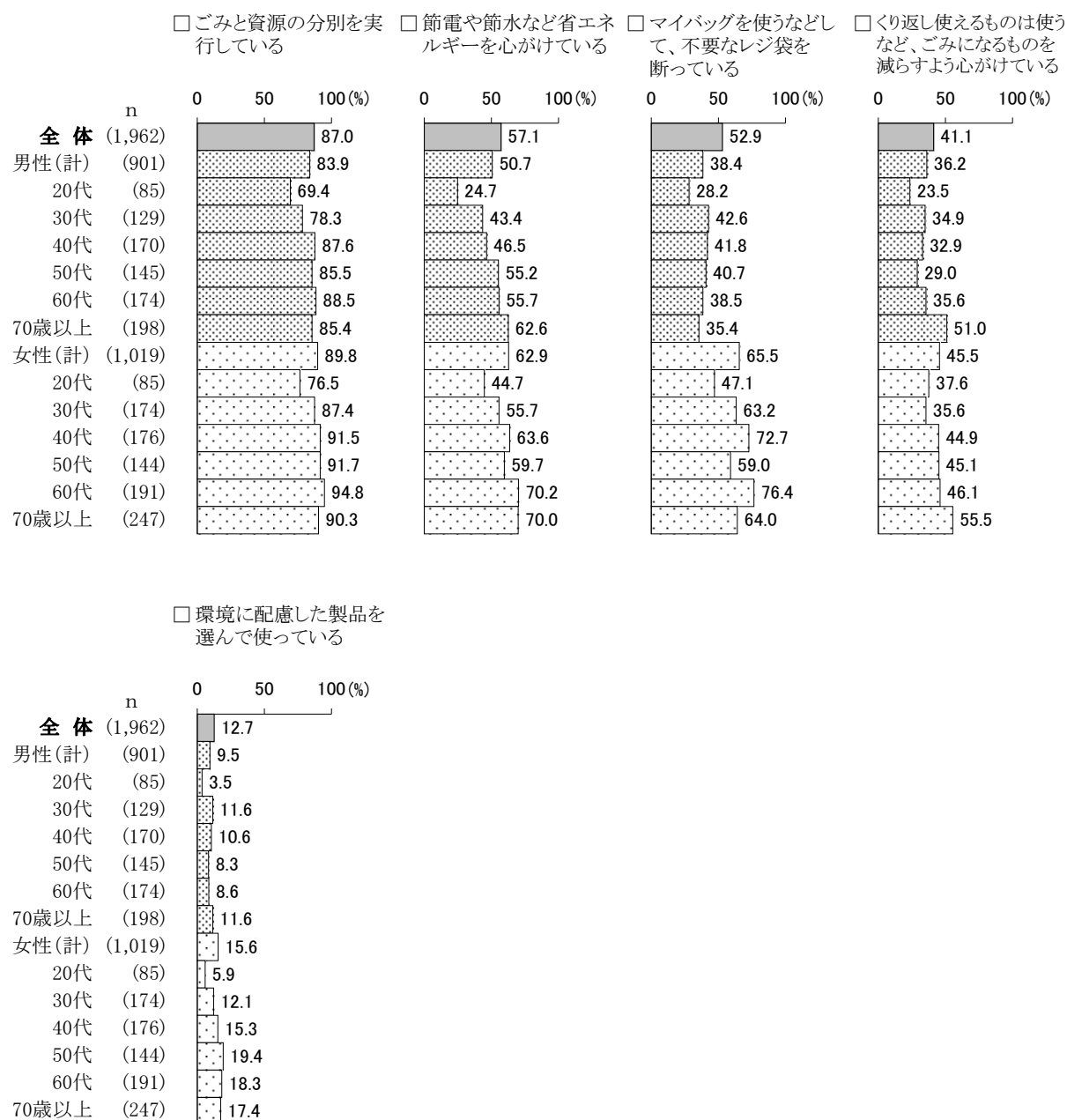
第3章 調査結果の分析

性別でみると、いずれの項目も女性が男性を上回っており、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は男性50.7%、女性62.9%と女性が12.2ポイント高く、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は男性38.4%、女性65.5%と、女性が27.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、40代から70歳以上で8割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は20代で24.7%と最も低く、加齢とともに増加し、70歳以上では62.6%となっている。

女性では、「ごみと資源の分別を実行している」は、40代から70歳以上で9割を超えている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は、60代、70歳以上で、それぞれ70.2%、70.0%と高くなっている。

図6-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

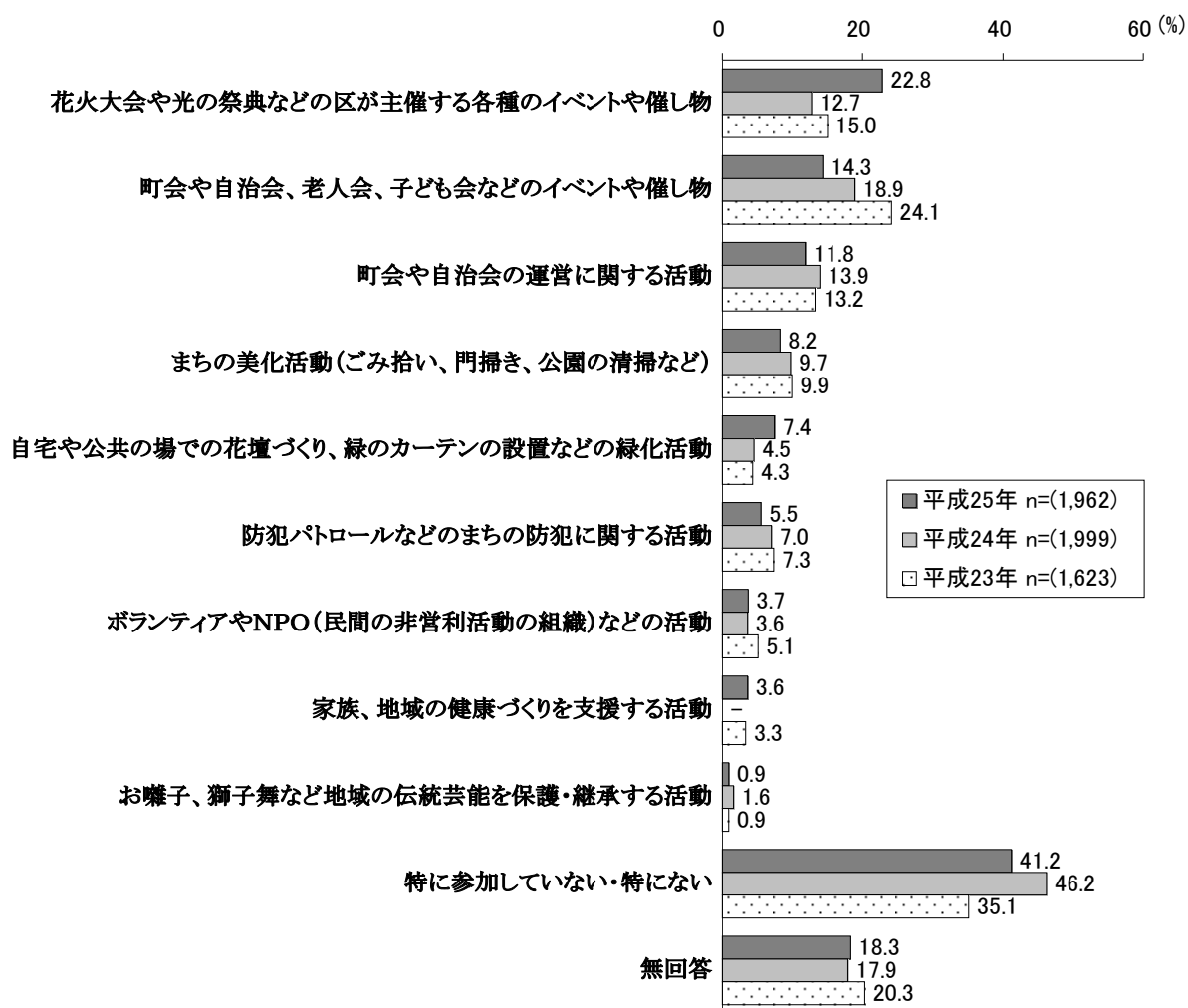


(2) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験・参加意向とも“区が主催する各種のイベントや催し物”が2割台で最多

問25 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。(〇はいずれも、あてはまるものすべて)

図6-2-1 経年比較／この1年間に参加した活動

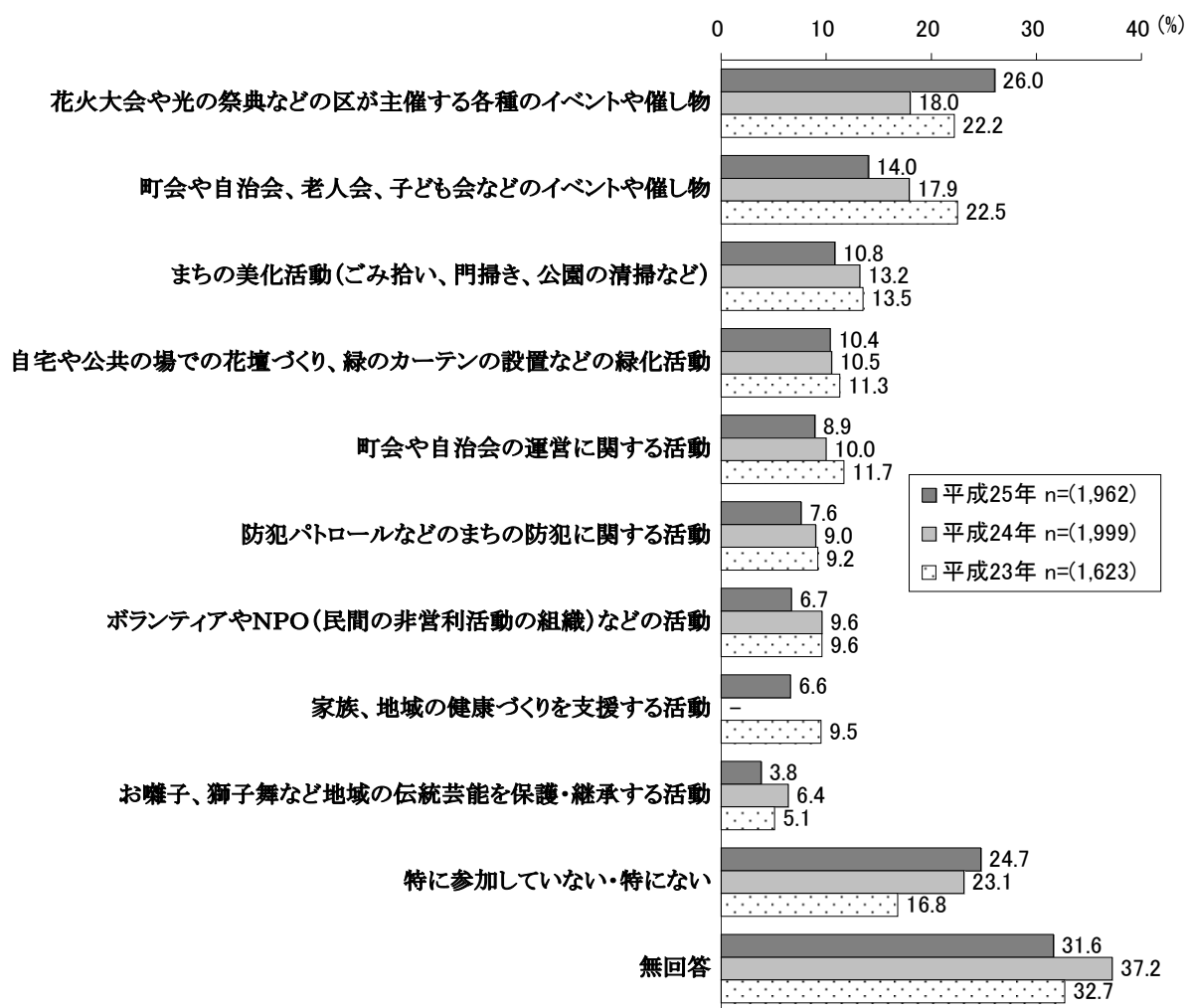


※平成24年度調査では、選択肢として「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

この1年間で参加した活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が22.8%で最も高く、次いで「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」となっている。

経年でみると、今回調査では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が10.1ポイント増加し、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」が4.6ポイント低下している。

図6-2-2 経年比較／今後の参加意向



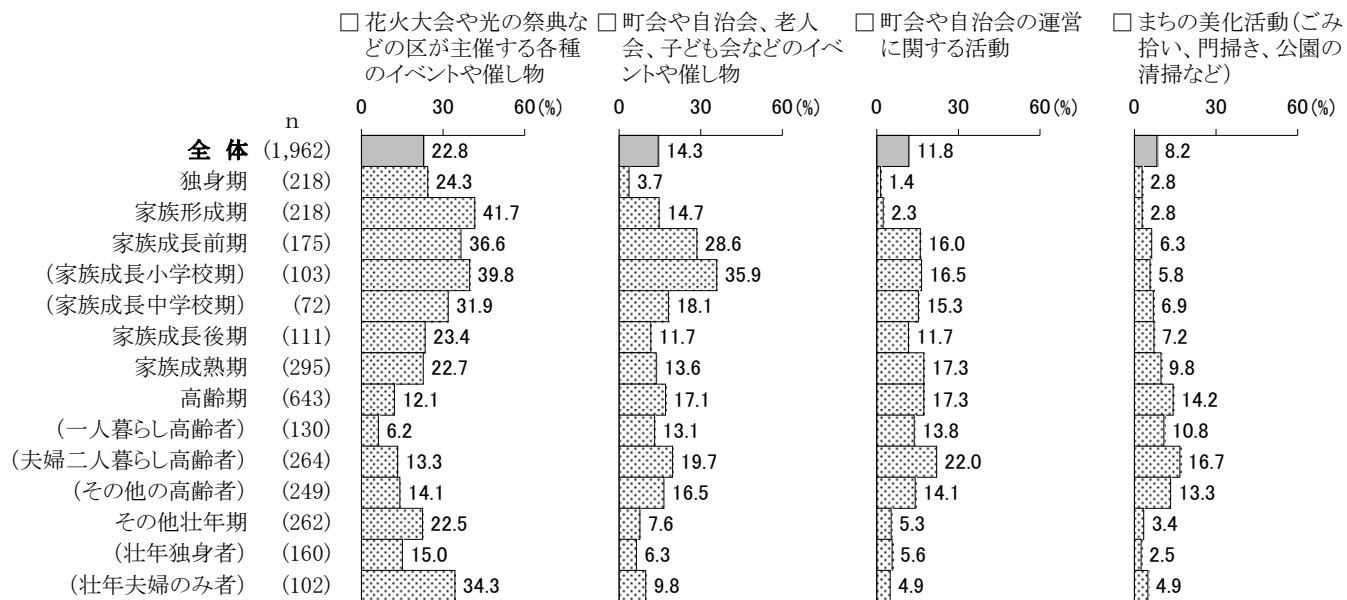
※平成24年度調査では、選択肢として「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

引き続き、または今後参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が26.0%で最も高く、次いで「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」(14.0%)となっている。

経年でみると、今回調査では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が8.0ポイント増加し、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は3.9ポイント低下した。

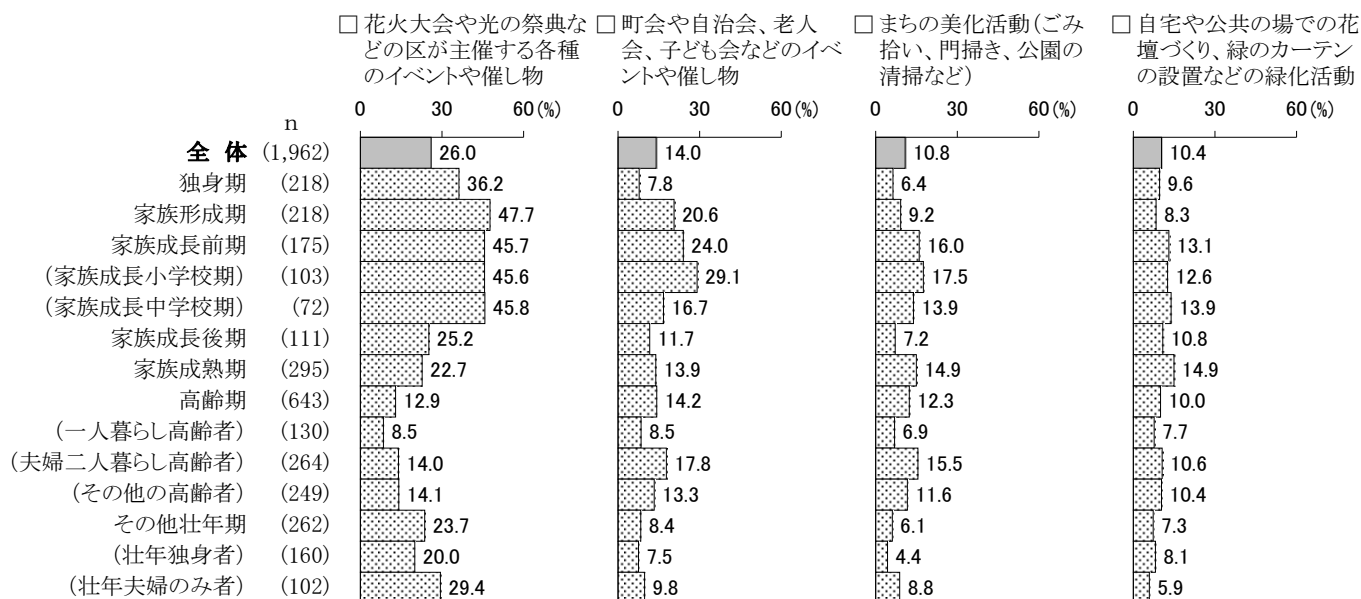
この1年間で参加した活動をライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族形成期、家族成長前期、家族成長小学校期で3割台半ばを超えて高くなっている。また「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は、家族成長小学校期で35.9%と他のステージに比べて高くなっている。

図6-2-3 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



引き続き、または今後参加したい活動をライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は、家族形成期、家族成長前期、家族成長小学校期、家族成長中学校期で4割台半ばを超えて高くなっている。また、「町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物」は、家族成長小学校期で29.1%と、他のステージに比べて高くなっている。

図6-2-4 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目

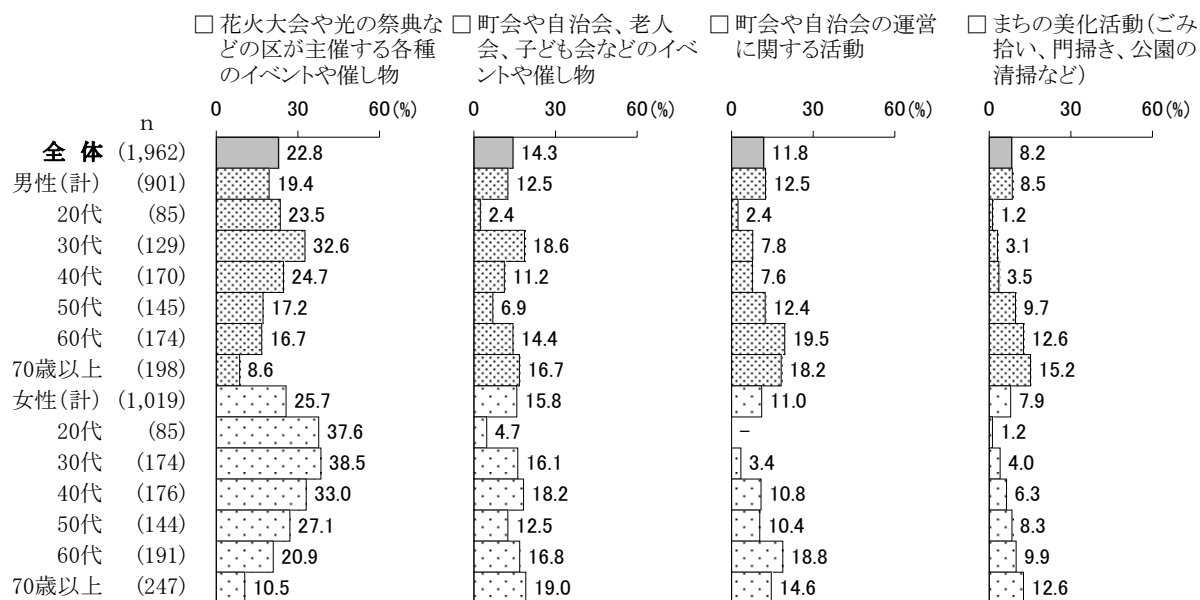


第3章 調査結果の分析

性別でみると、〈この1年間に参加した活動〉については、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、男性19.4%、女性25.7%と男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性30代、女性20代から40代で「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が3割を超えて高くなっている。

図6-2-5 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目

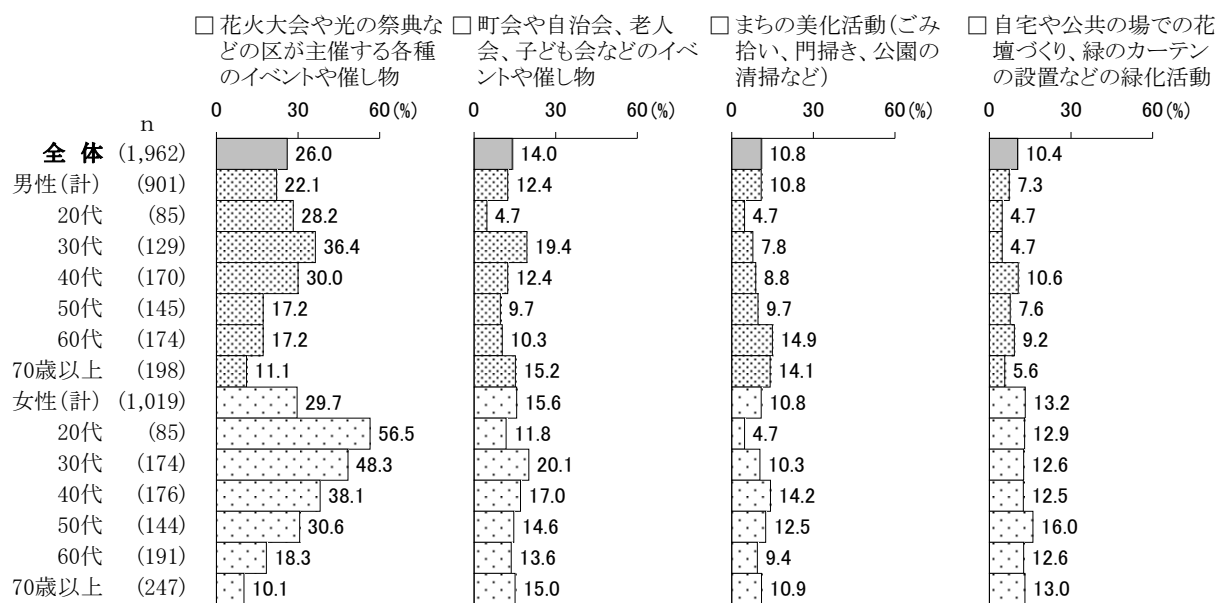


〈引き続き、または今後参加したい活動〉について、性別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、男性22.1%、女性29.7%と男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が、30代で36.4%と高くなっているほか、20代、40代でも3割前後となっている。

女性では、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が若い年代ほど増加する傾向があり、20代では56.5%となっている。

図6-2-6 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目

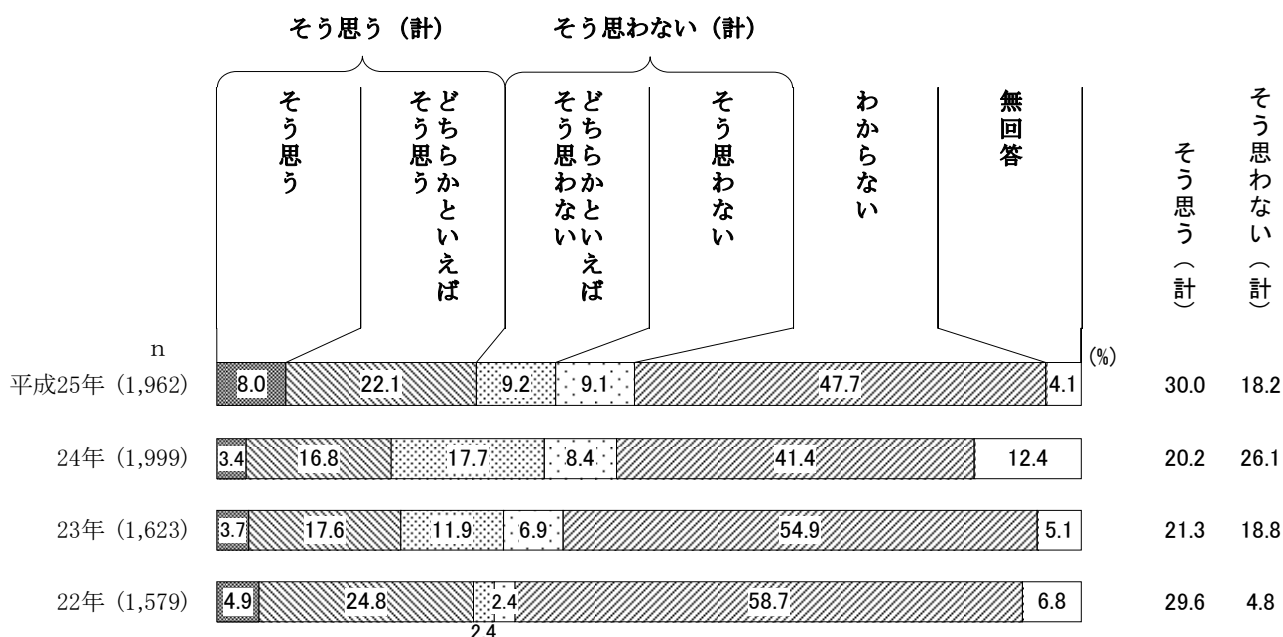


(3) 区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

■ 前年より【そう思う】が9.8ポイント上昇し、3割

問26 あなたは、区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか。（○は1つだけ）

図6-3-1 経年比較／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価

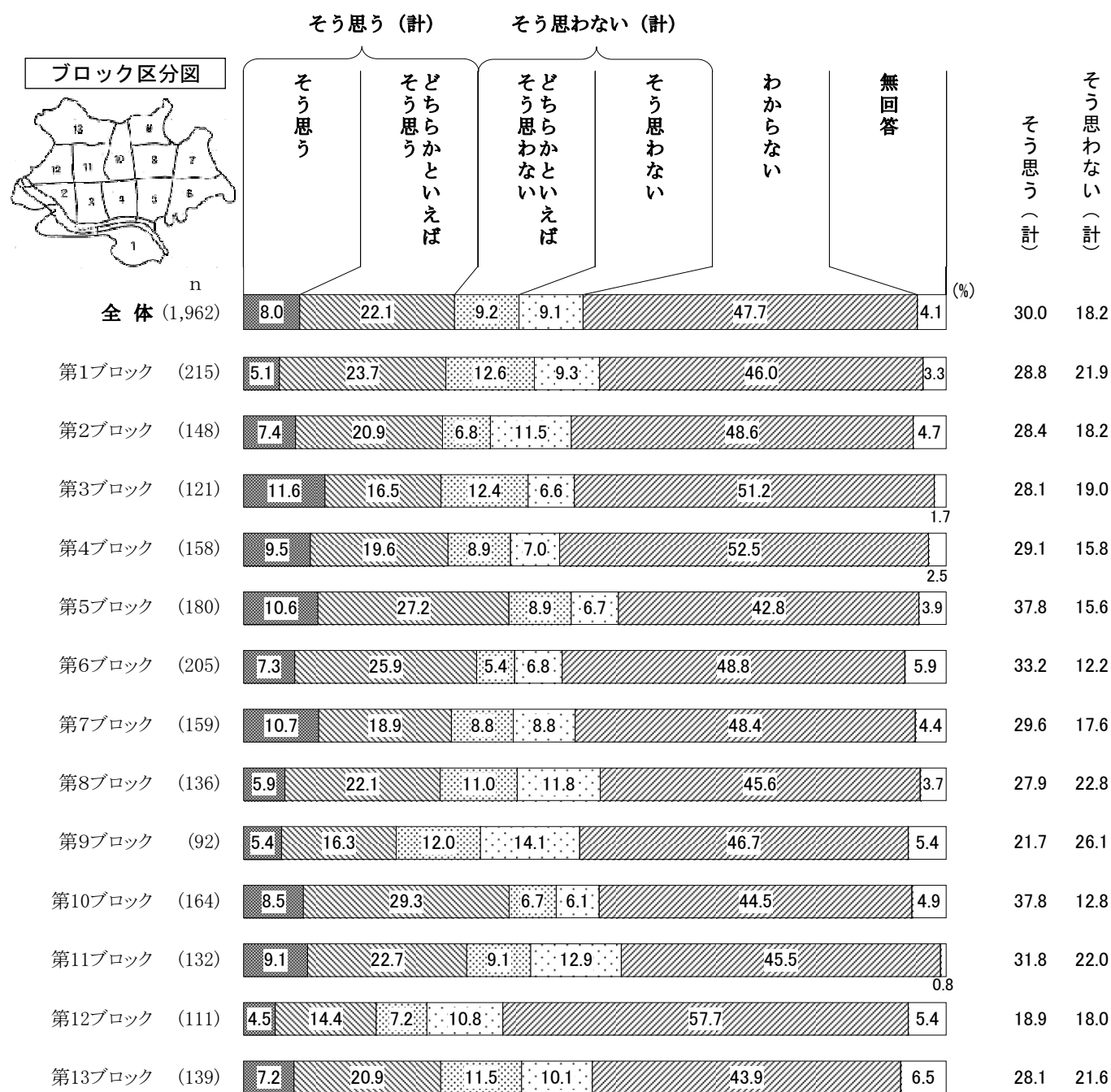


区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていることについて、「そう思う」は8.0%で、これに「どちらかといえばそう思う」の22.1%を合わせた【そう思う】は30.0%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(9.1%)を合わせた【そう思わない】は18.2%となっている。

経年で比較すると、【そう思う】は、前回の20.2%から今回30.0%へと、9.8ポイント上昇している。

地域ブロック別でみると、【そう思う】は、第5ブロック、第10ブロックで、ともに37.8%と4割近くを占め、他のブロックより高くなっている。

図6-3-2 地域ブロック別／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



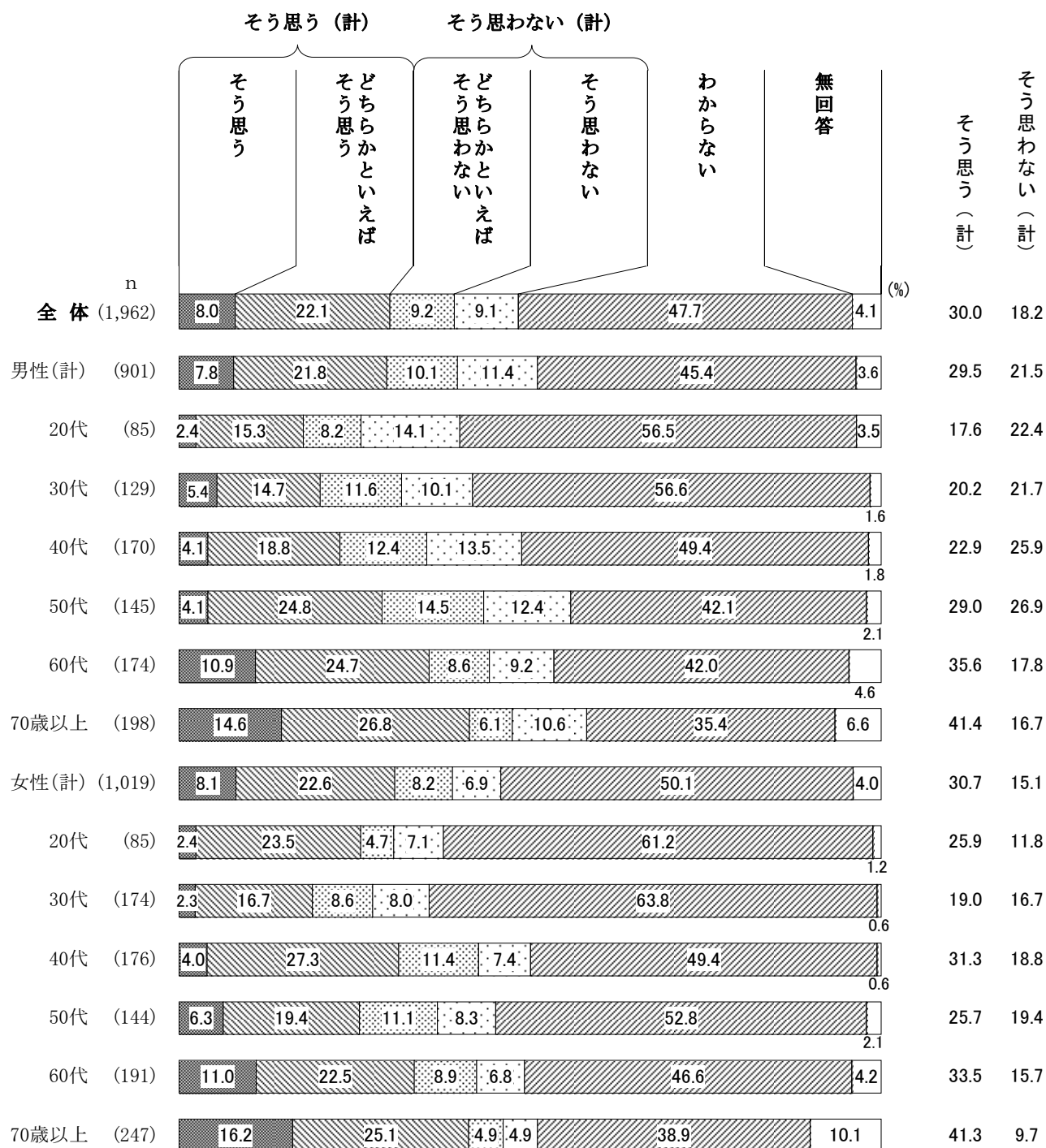
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【そう思う】は、男性29.5%、女性30.7%と男性より女性で高くなっている。

男性では、70歳以上で【そう思う】が41.4%を占めているほか、60代でも3割台半ばと高くなっている。

女性では、70歳以上で【そう思う】が41.3%を占めているほか、40代、60代でも3割を超えている。

図6-3-3 性別、性・年代別／区役所と区民・団体等との協力・連携（協働）した事業推進の評価



7 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路
 - (3) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (4) 「地域包括支援センター」の認知経路
 - (5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (6) 協力意向がある活動内容
 - (7) 「成年後見制度」の認知状況
-

7. 「孤立ゼロプロジェクト」など

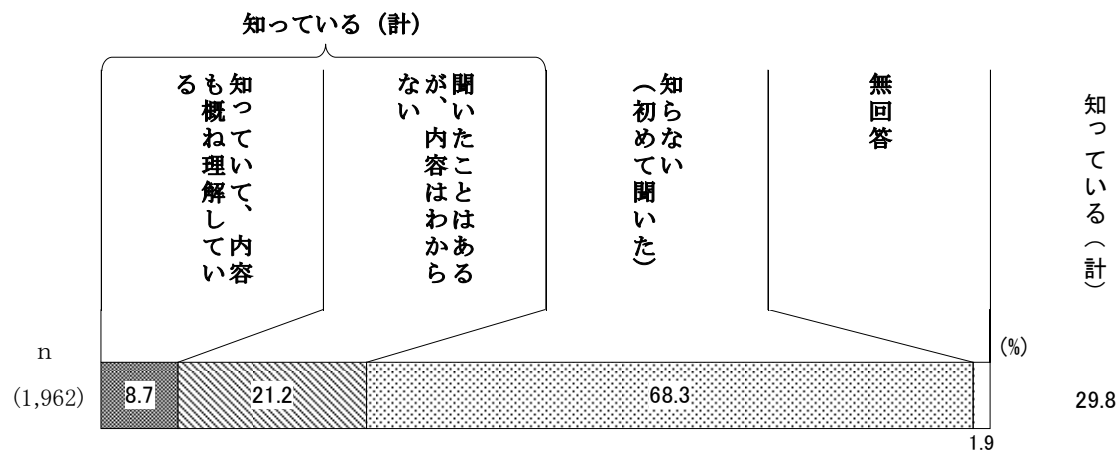
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■ 【知っている】が3割、「知らない（初めて聞いた）」は7割

問27 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。
（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図7-1-1 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が8.7%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の21.2%を合わせた【知っている】は29.8%となっている。

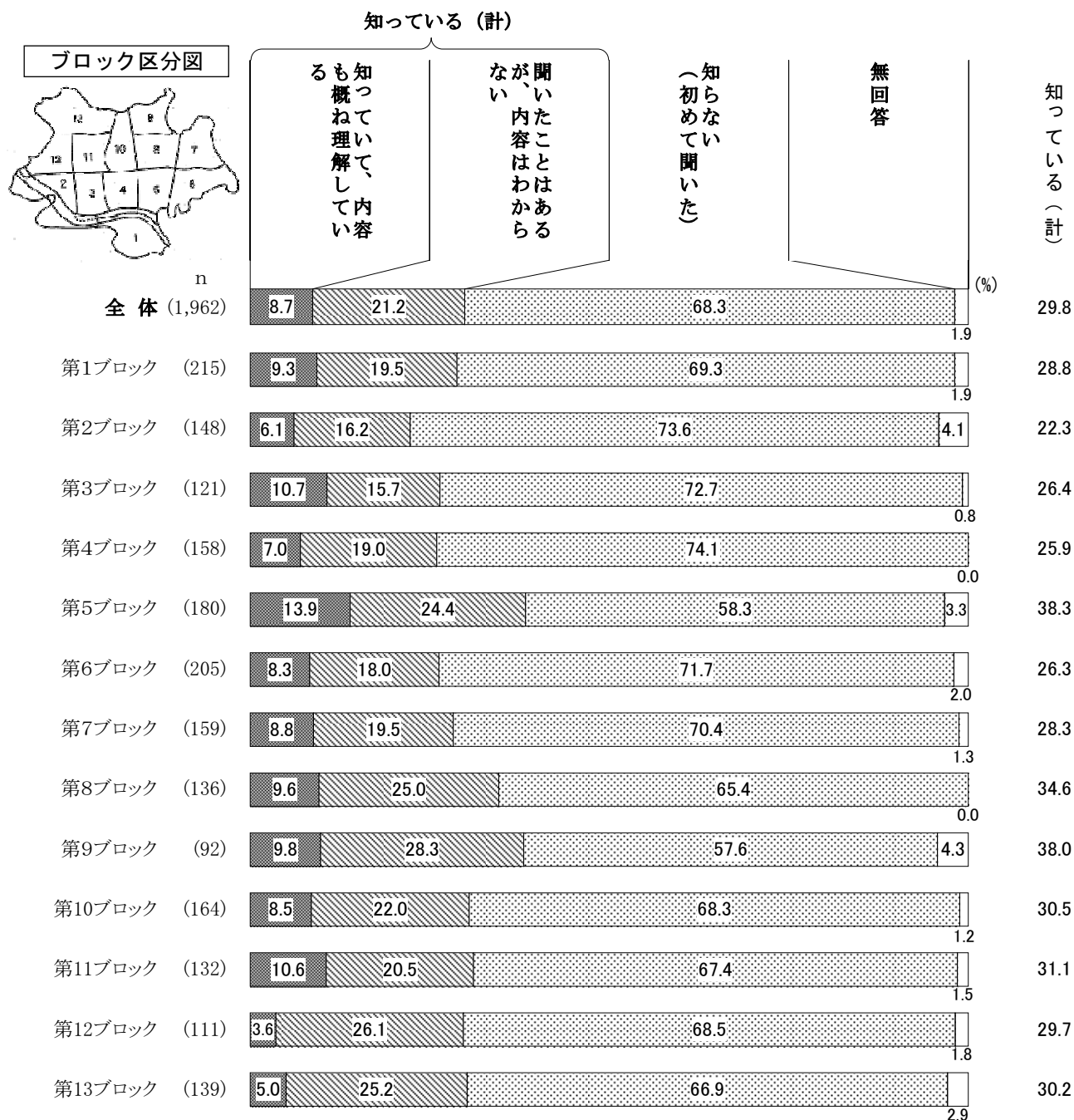
一方、「知らない（初めて聞いた）」は68.3%を占めている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、【知っている】は、第5ブロック、第9ブロックで、それぞれ38.3%、38.0%と他のブロックより高くなっている。

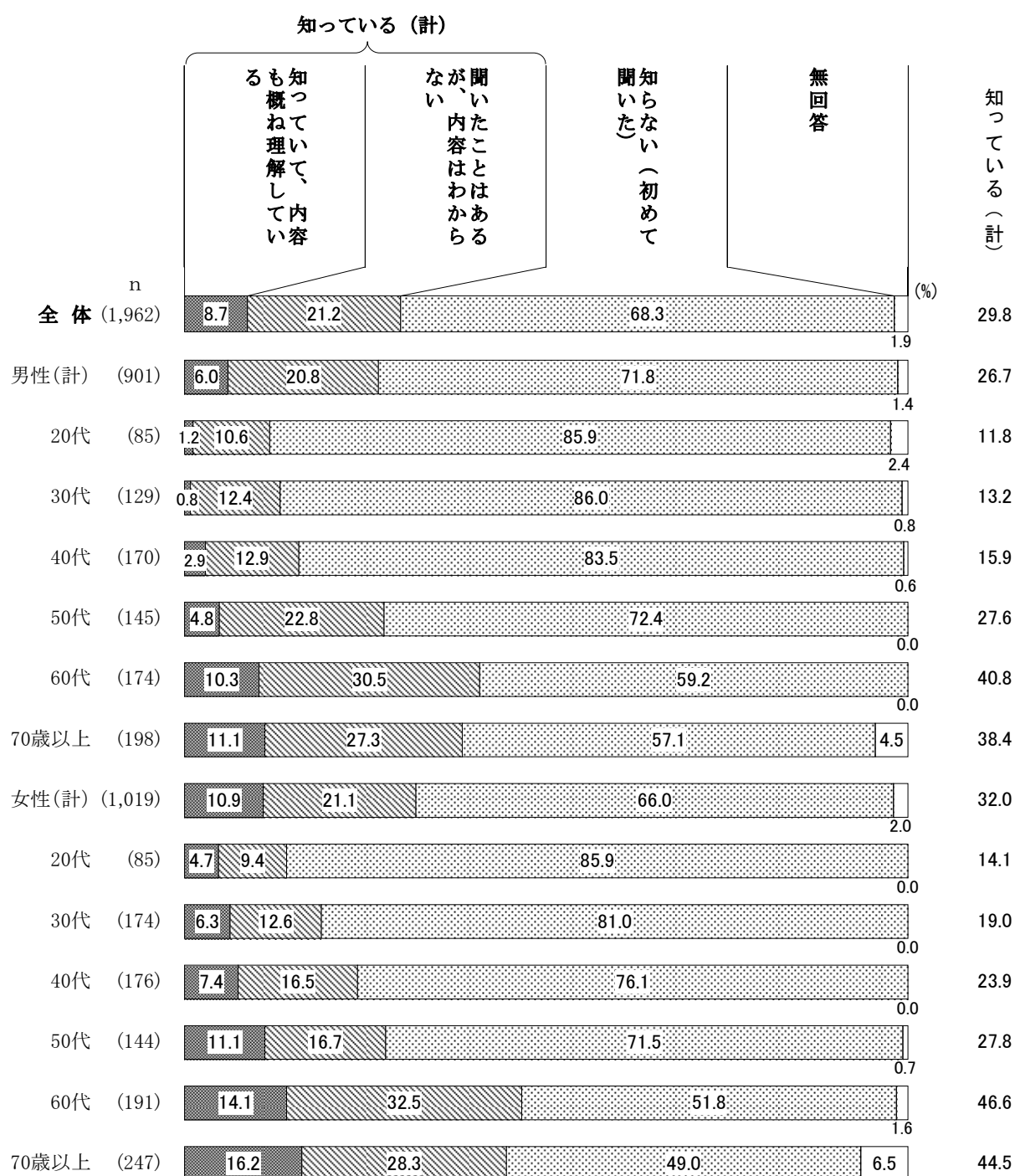
地域ブロック別差は、第5ブロック（38.3%）と第2ブロック（22.3%）で最大16.0ポイントであった。

図7-1-2 地域ブロック別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



性別でみると、【知っている】は、男性26.7%、女性32.0%と男性より女性で高くなっている。
 性・年代別でみると、男性では、【知っている】は、加齢とともに増加傾向で、60代で40.8%、
 70歳以上で38.4%となっている。
 女性でも、ほぼ同様の増加傾向を示し、60代で46.6%、70歳以上で44.5%となっている。
 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、年代によって大きな差がある。

図7-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



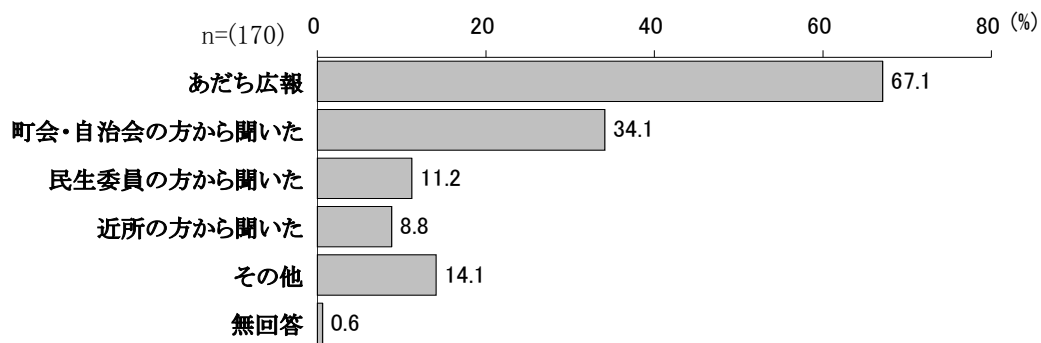
(2)「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路

■ 「あだち広報」が6割台半ばで、特に多くなっている

問27で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に

問27-1 プロジェクトのことをどのように知りましたか。(○はあてはまるものすべて)

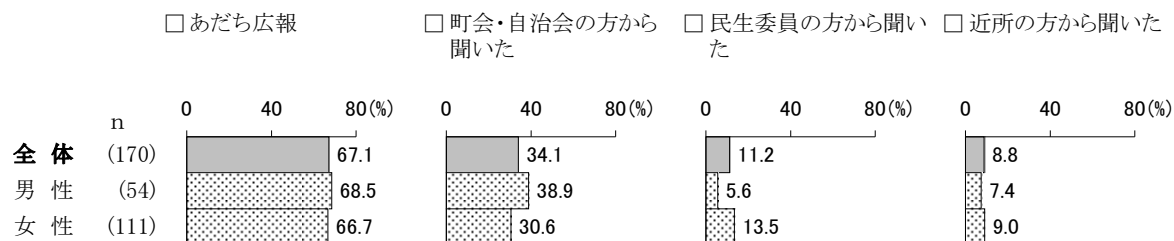
図7-2-1 「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路



「知っていて、内容も概ね理解している」人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が67.1%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」(34.1%)となっている。

性別でみると、「あだち広報」は男性68.5%、女性66.7%となっている。また、「町会・自治会の方から聞いた」は、男性38.9%、女性30.6%と男性が女性より8.3ポイント高くなっている。

図7-2-2 性別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知経路



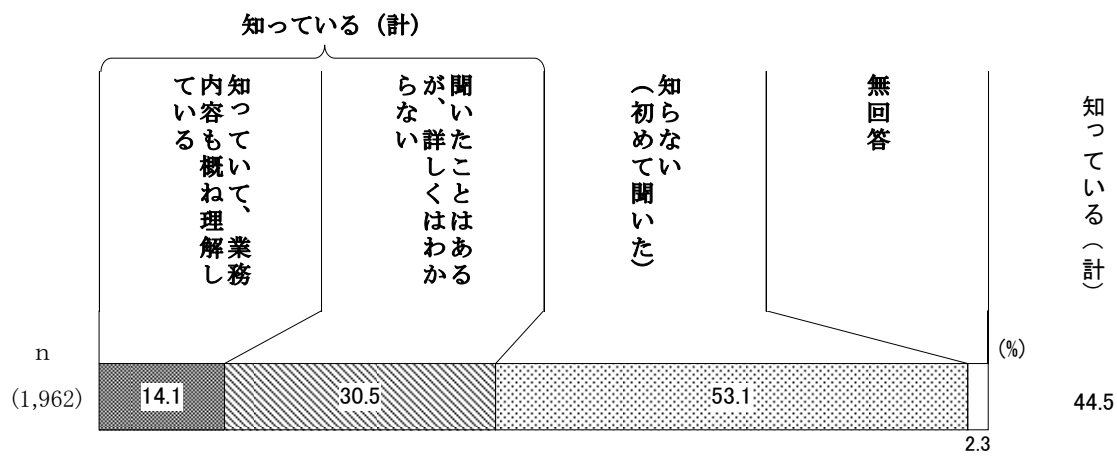
(3)「地域包括支援センター」の認知状況

■ 【知っている】は4割台半ば

問28 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動を中心となって支援している「地域包括支援センター（※）」を知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図7-3-1 「地域包括支援センター」の認知状況

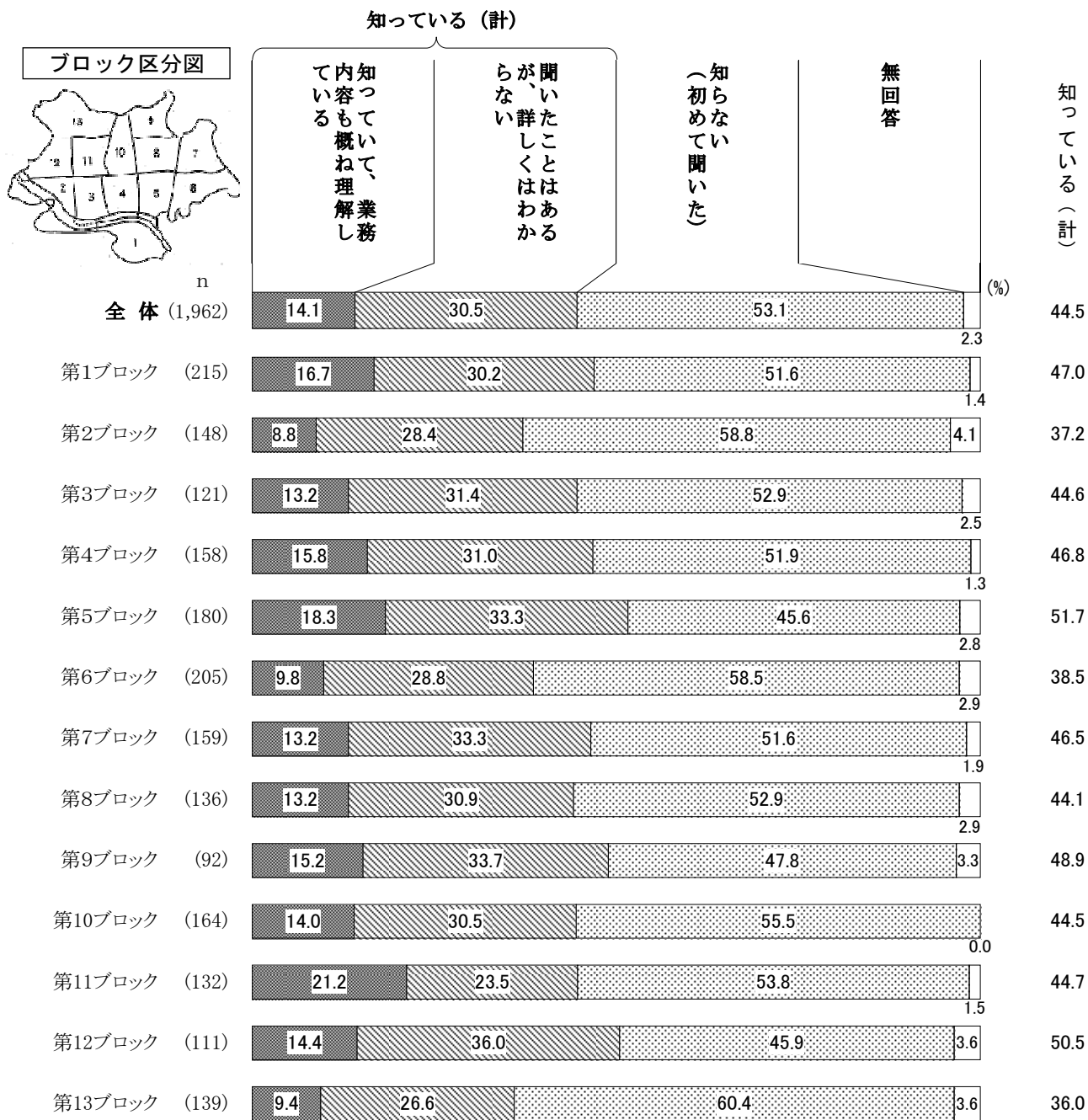


「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が14.1%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の30.5%を合わせると【知っている】は44.5%である。一方、「知らない（初めて聞いた）」は53.1%を占めている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第5ブロック、第12ブロックでは、【知っている】が、いずれも5割を超え、他のブロックよりやや高くなっている。

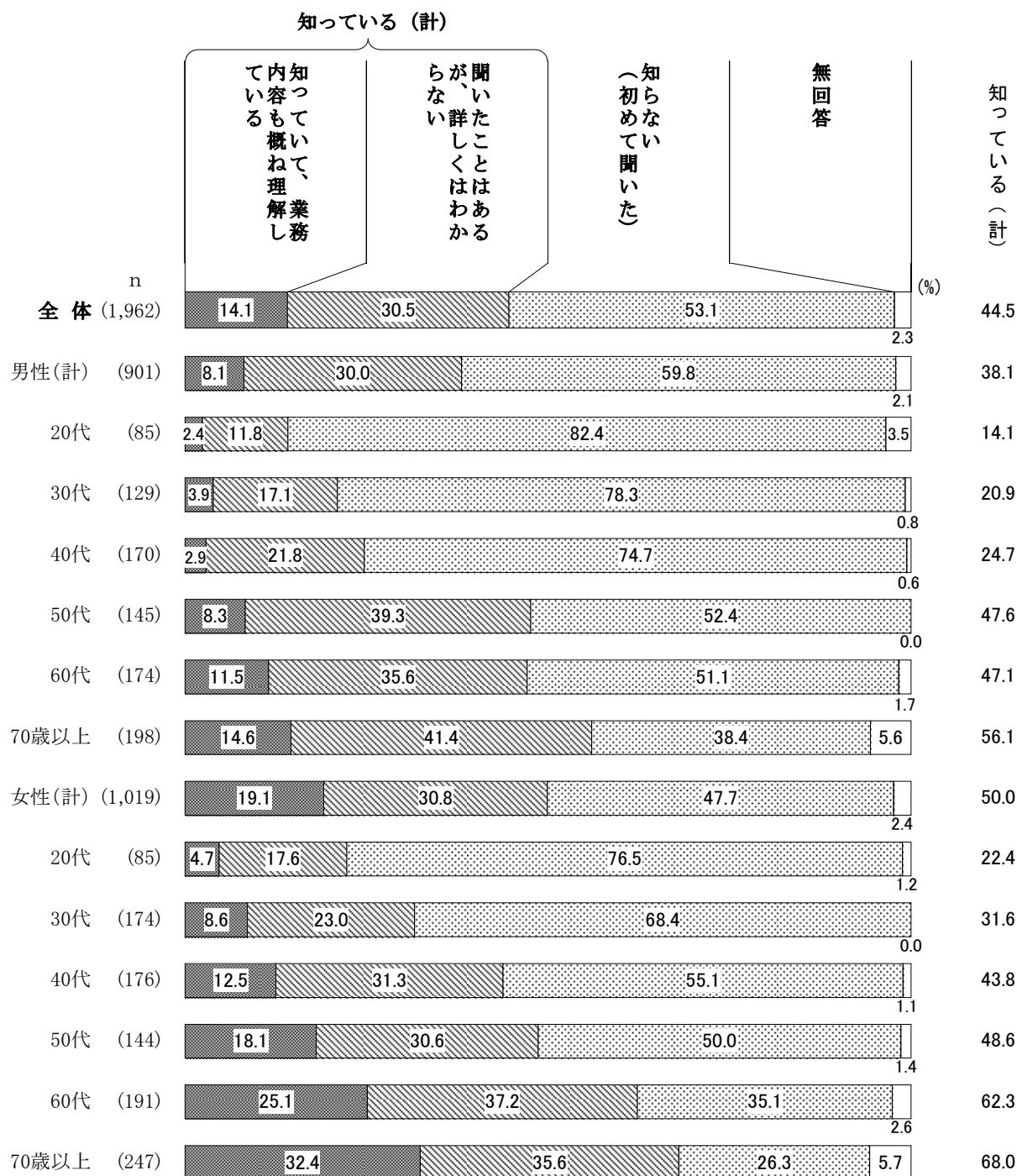
図7-3-2 地域ブロック別／「地域包括支援センター」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性38.1%、女性50.0%と男性より女性で高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、加齢とともに【知っている】が増加傾向であり、70歳以上では56.1%となっている。女性でも、加齢とともに増加し、70歳以上では68.0%と7割近くに達し最も高くなっている。

図7-3-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況



(4)「地域包括支援センター」の認知経路

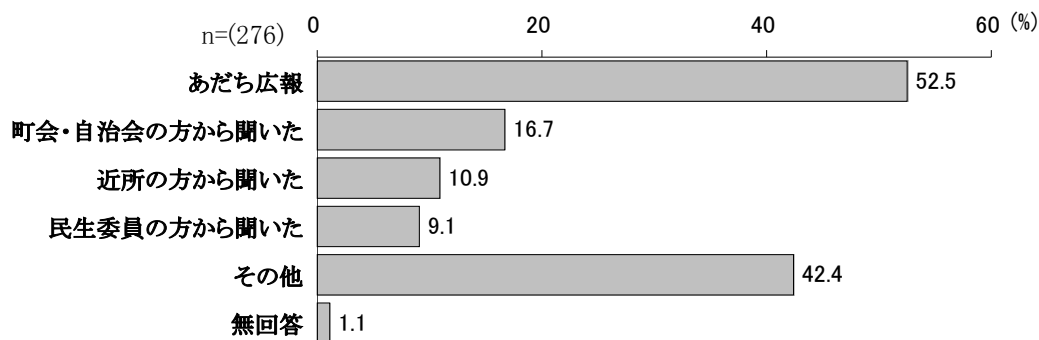
■ 「あだち広報」が半数を超える

問28で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に

問28－1 「地域包括支援センター」のことをどのように知りましたか。

(○はあてはまるものすべて)

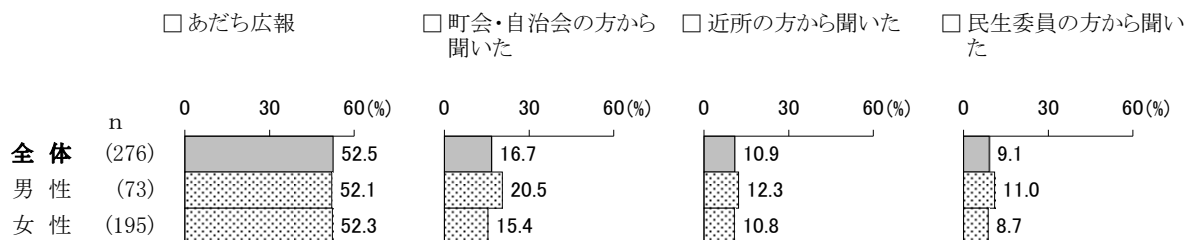
図7－4－1 「地域包括支援センター」の認知経路



「知っていて、業務内容も概ね理解している」という人に、認知経路を聞いたところ、「あだち広報」が52.5%で最も高く、次いで「町会・自治会の方から聞いた」(16.7%)となっている。

性別でみると、「あだち広報」は男性52.1%、女性52.3%となっている。また、「町会・自治会の方から聞いた」は、男性20.5%、女性15.4%と男性が女性より高くなっている。

図7－4－2 性別／「地域包括支援センター」の認知経路

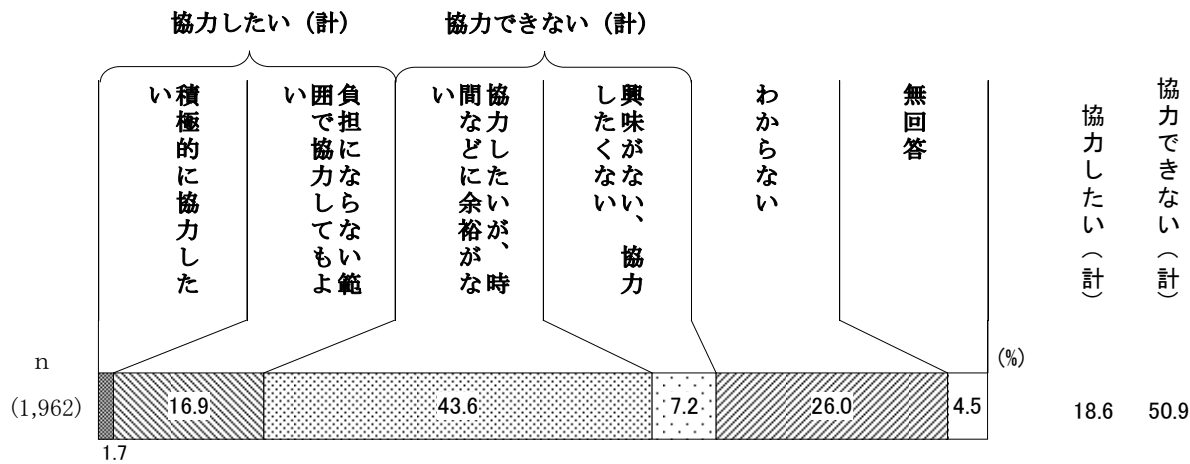


(5) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■ 【協力したい】の2割弱に対し、【協力できない】は5割

問29 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか。(○は1つだけ)

図7-5-1 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



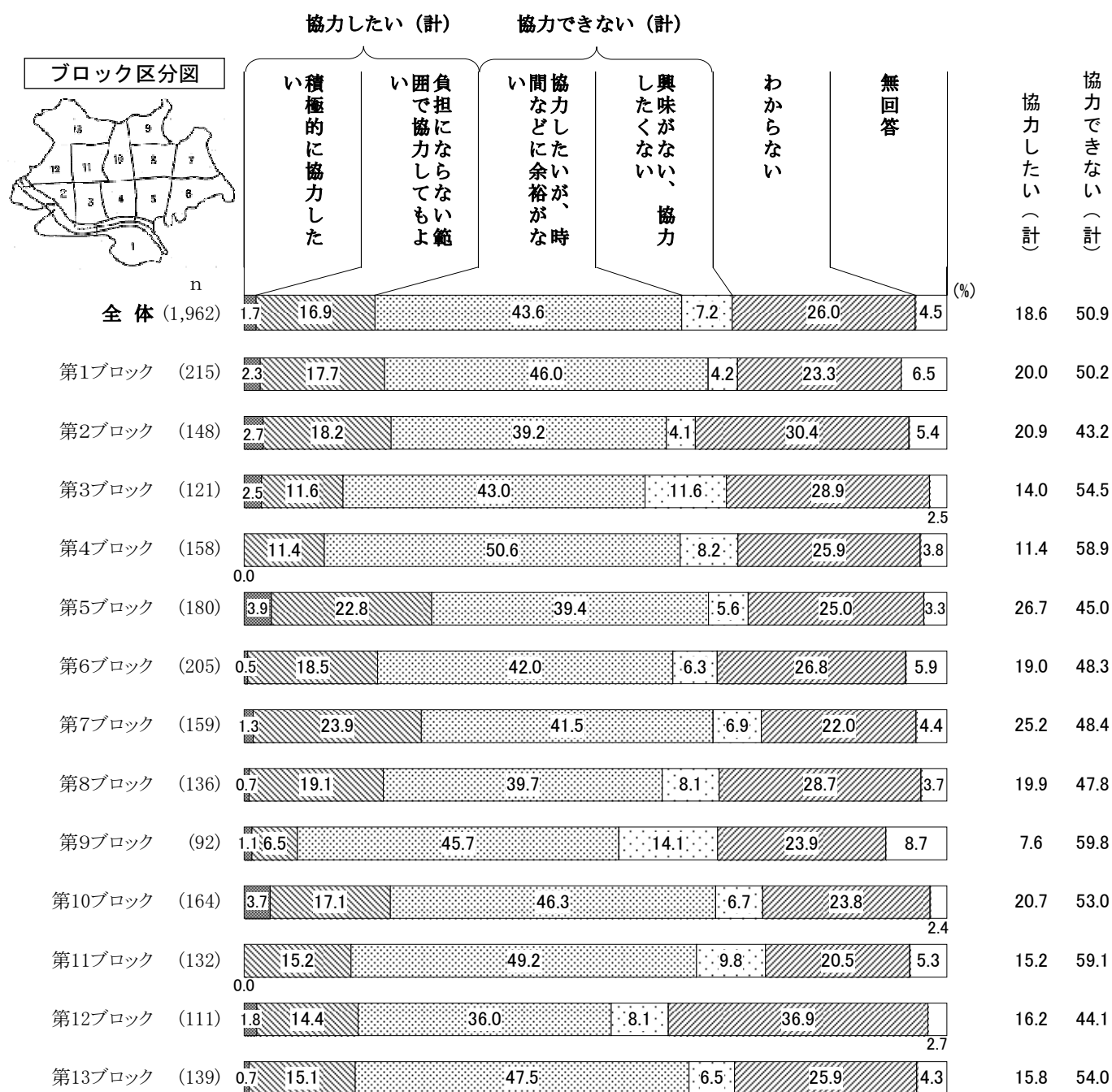
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.7%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の16.9%を合わせた【協力したい】は18.6%である。

一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は43.6%、「興味がない、協力したくない」は7.2%となっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第5ブロック、第7ブロックでは、【協力したい】が、それぞれ26.7%、25.2%と他のブロックよりやや高くなっている。第9ブロックは【協力したい】が7.6%と最も低くなっている。

図7-5-2 地域ブロック別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

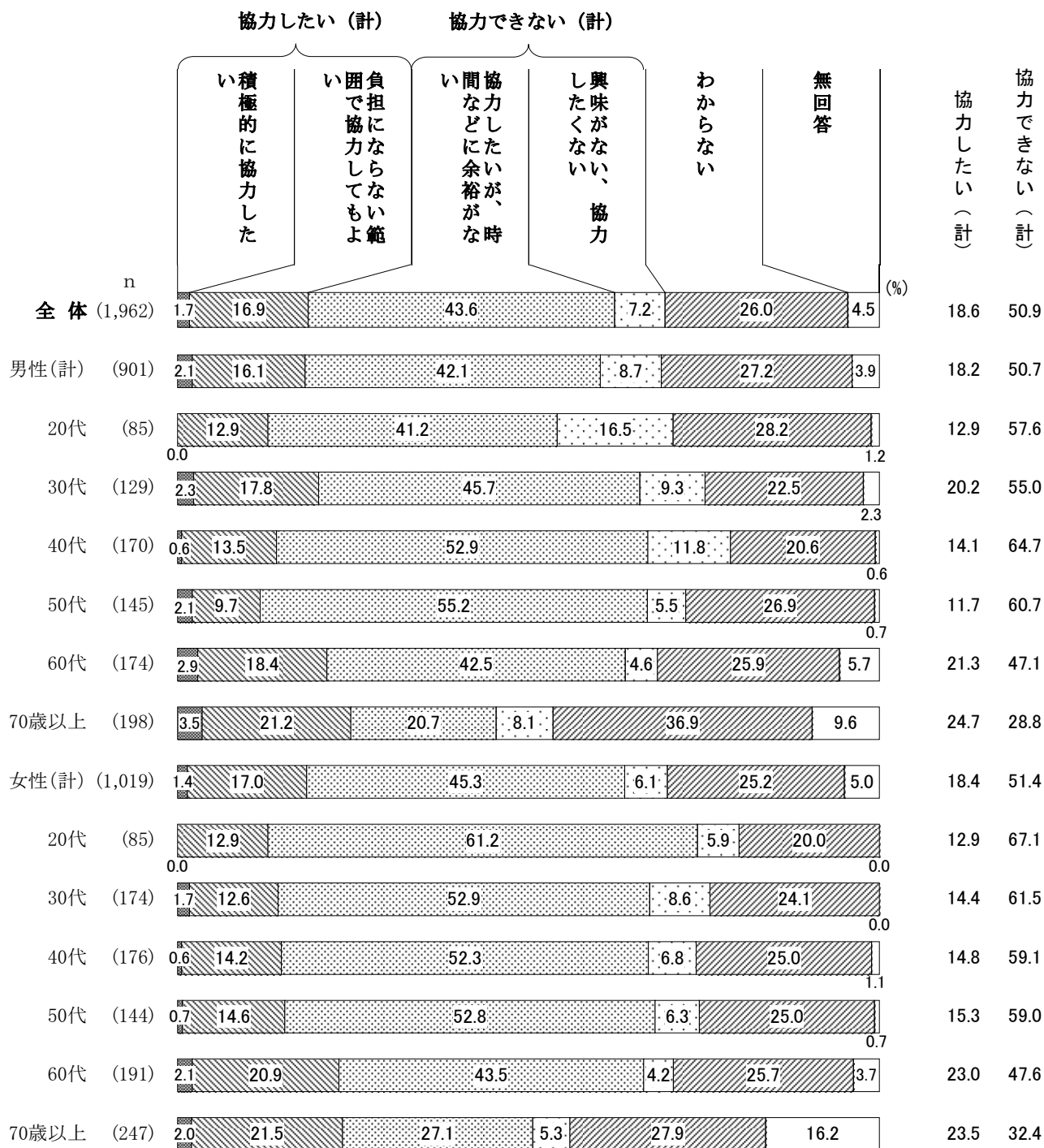


性別でみると、【協力したい】は男性18.2%、女性18.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では、30代、60代、70歳以上で【協力したい】が2割を超え、とくに70歳以上では24.7%となっている。50代で【協力したい】が11.7%と全年代で最も低かった。

女性では、60代、70歳以上で【協力したい】が、それぞれ23.0%、23.5%と他の年代より高くなっている。

図7-5-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

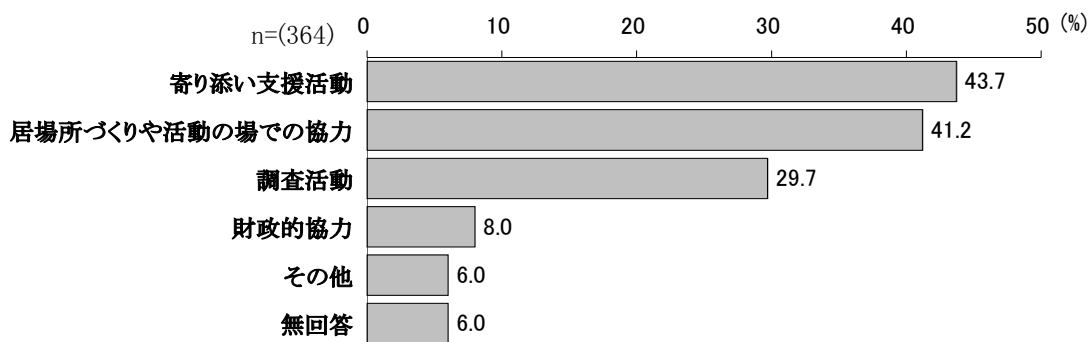


(6) 協力意向がある活動内容

■ 「寄り添い支援活動」「居場所づくりや活動の場での協力」が4割を超える

問29で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
問29-1 どのような活動に協力したいですか。(○はあてはまるものすべて)

図7-6-1 協力意向がある活動内容



寄り添い支援活動 (主に高齢者のみの世帯を定期的に訪問して体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動のこと)

居場所づくりや活動の場での協力 (住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなど)

調査活動 (主に高齢者のみの世帯を訪問し「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査すること)

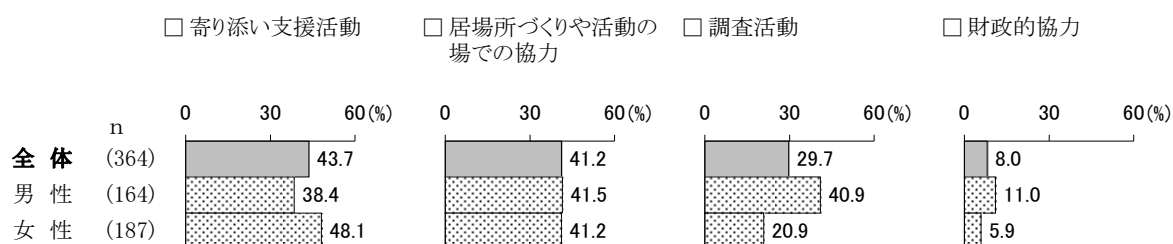
財政的協力 (活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助)

【協力したい】という人に、その活動内容を聞くと、「寄り添い支援活動」(43.7%)と「居場所づくりや活動の場での協力」(41.2%)が、いずれも4割を超えて、特に高くなっている。

また、「調査活動」も29.7%と高くなっている。

性別でみると、「寄り添い支援活動」は、男性38.4%、女性48.1%と女性の方が9.7ポイント高くなっている。また、「調査活動」は男性40.9%、女性20.9%と男性の方が20.0ポイント高くなっている。

図7-6-2 性別／協力意向がある活動内容

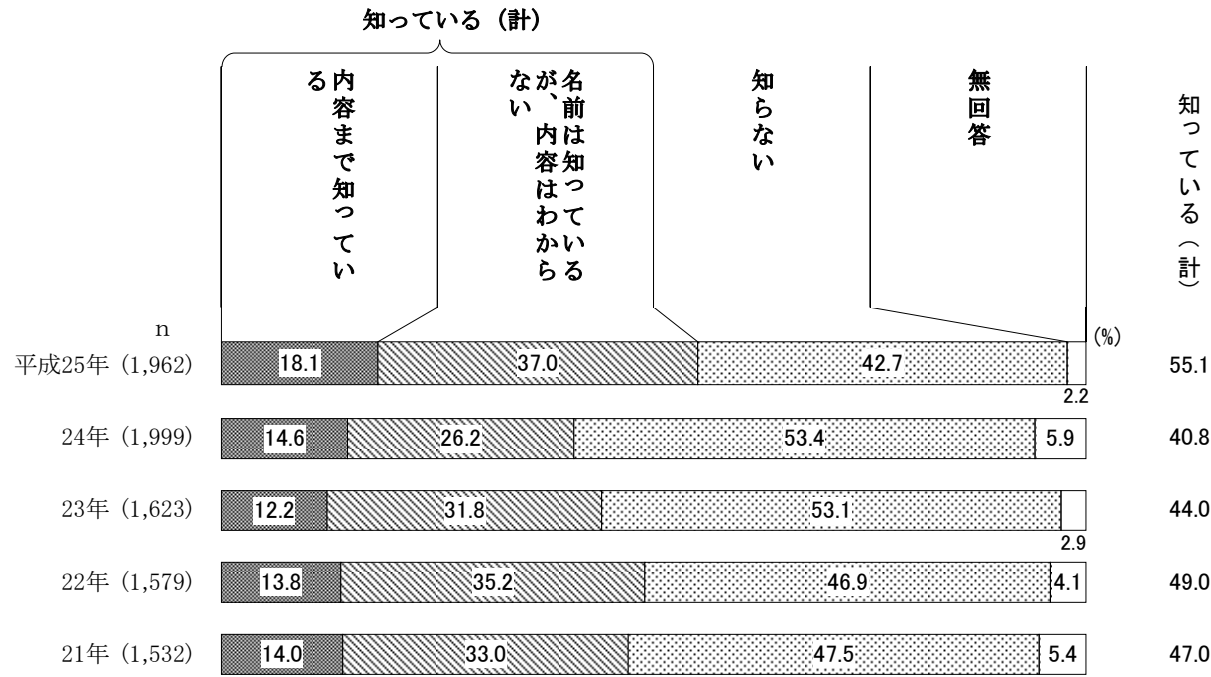


(7)「成年後見制度」の認知状況

■ 【知っている】は、初めて5割を超えた

問30 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。
(○は1つだけ)

図7-7-1 経年比較／「成年後見制度」の認知状況



成年後見制度について、「内容まで知っている」は18.1%で、これに「名前は知っているが、内容はわからない」の37.0%を合わせた【知っている】は55.1%と過半数を占めている。一方、「知らない」は42.7%となっている。

経年で比較すると、【知っている】は、前回の40.8%から、今回55.1%へと、14.3ポイント上昇している。

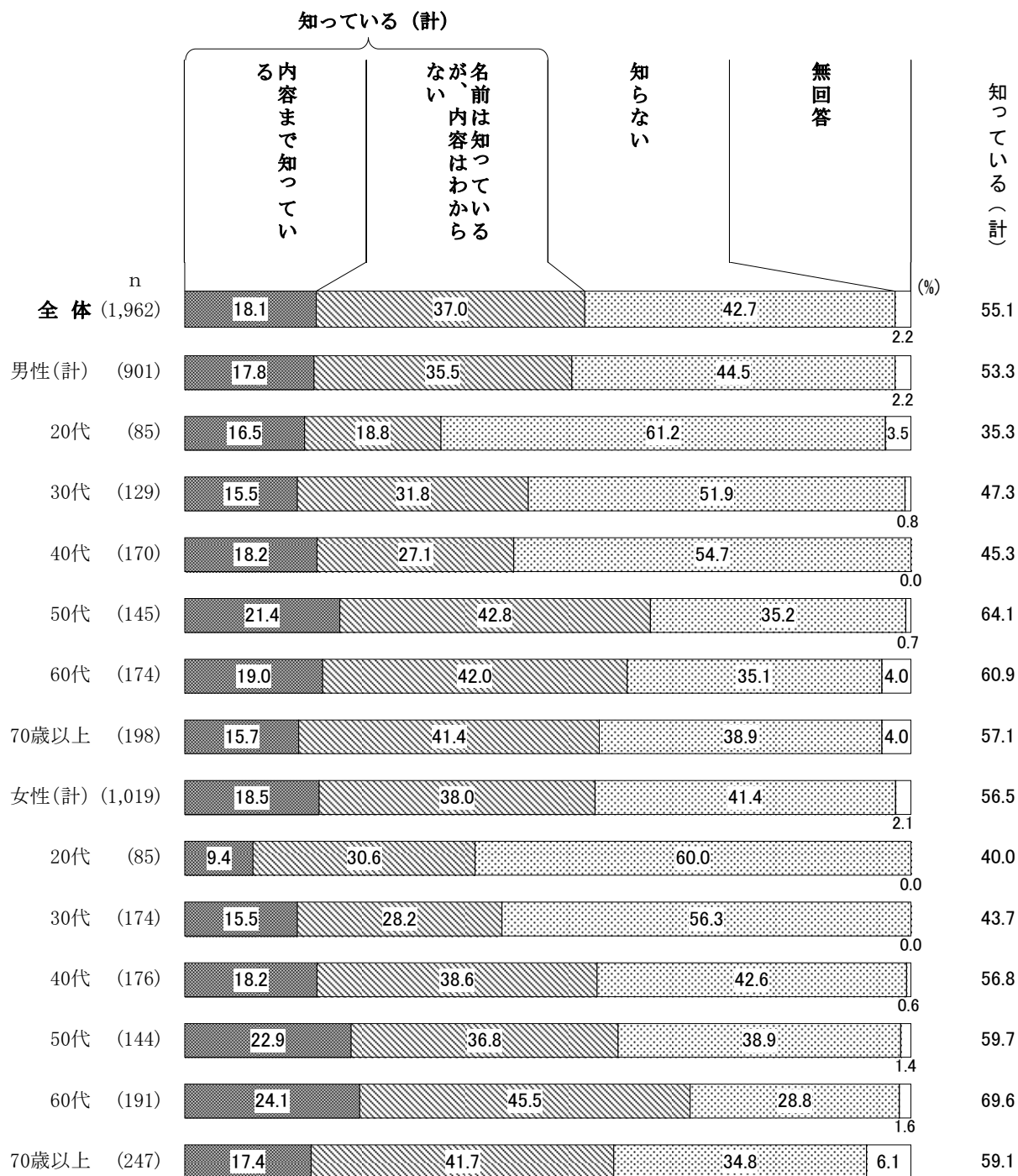
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は、男性53.3%、女性56.5%となっている。

性・年代別でみると、男性では、50代、60代、70歳以上で【知っている】が、それぞれ64.1%、60.9%、57.1%と高くなっている。

女性では、加齢とともに【知っている】が増加する傾向があり、60代では69.6%と最も高くなっている。

図7-7-2 性別、性・年代別／「成年後見制度」の認知状況



8 ユニバーサルデザイン

-
- (1) ユニバーサルデザインの認知状況
 - (2) ユニバーサルデザインへの関心度
 - (3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み
 - (4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み
-

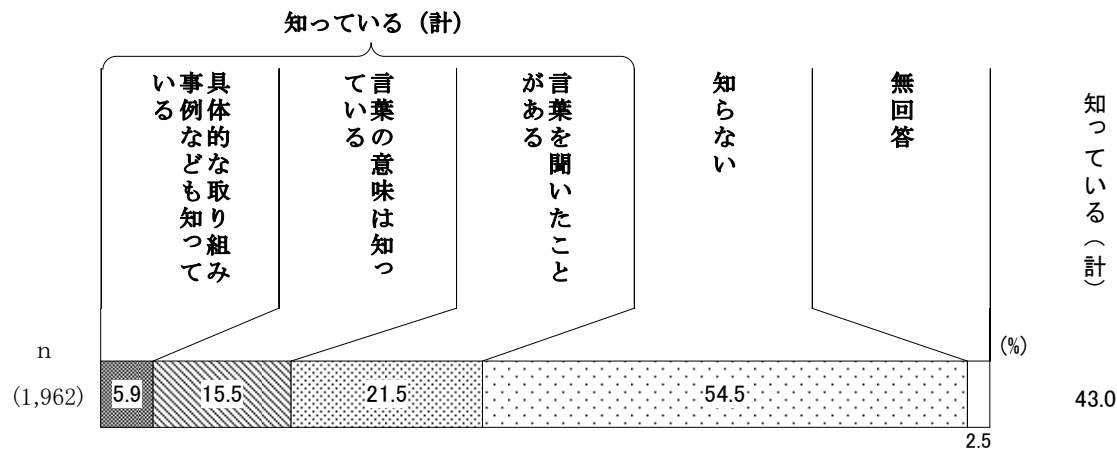
8. ユニバーサルデザイン

(1) ユニバーサルデザインの認知状況

■ 【知っている】は4割を超える

問31 ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、障がいの有無など個人の様々な状況に関わらず、できる限り多くの人が利用しやすいように配慮されたデザイン（設計）のことです。あなたは、ユニバーサルデザインについてどの程度知っていますか。
(○は1つだけ)

図8-1-1 ユニバーサルデザインの認知状況



ユニバーサルデザインについて、「具体的な取り組み事例なども知っている」が5.9%で、これに「言葉の意味は知っている」(15.5%)、「言葉を聞いたことがある」(21.5%)を合わせた【知っている】は43.0%となっている。一方、「知らない」は54.5%と過半数を占めている。

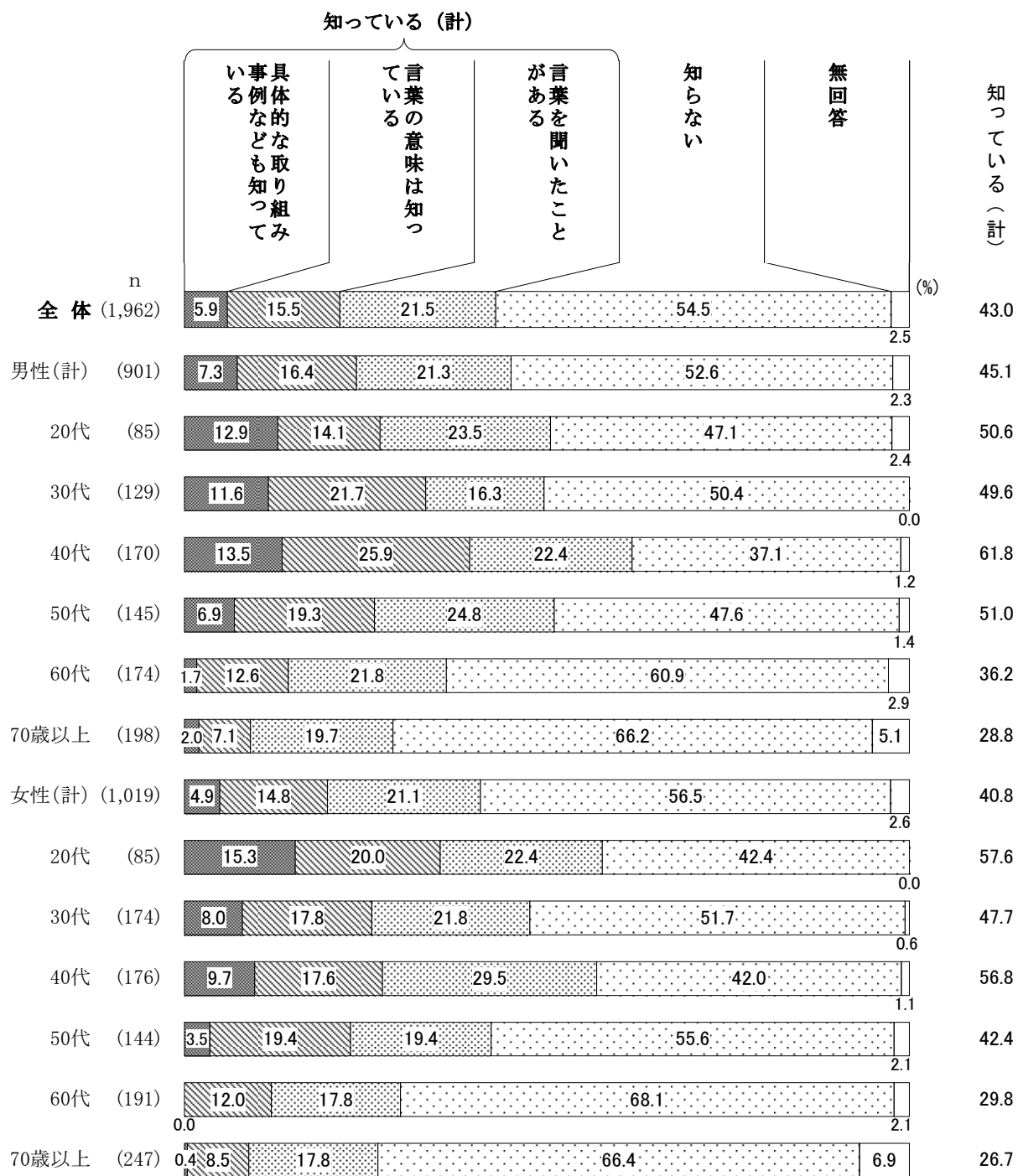
第3章 調査結果の分析

性別でみると、【知っている】は、男性45.1%、女性40.8%と男性が女性より高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、40代で【知っている】が61.8%を占めているほか、20代、30代、50代でも5割前後となっている。

女性では、20代、40代で【知っている】がそれぞれ57.6%、56.8%と5割を超え、他の年代より高くなっている。男女とも60代以上で認知状況は低くなっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインの認知状況

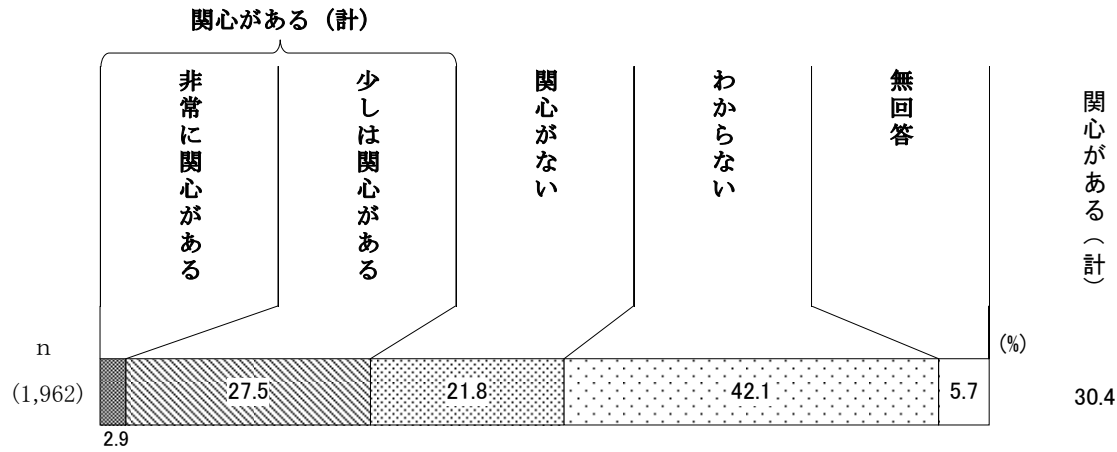


(2) ユニバーサルデザインへの関心度

■ 【関心がある】は3割

問32 あなたは、ユニバーサルデザインに関心をお持ちですか。(○は1つだけ)

図8-2-1 ユニバーサルデザインへの関心度



ユニバーサルデザインに「非常に関心がある」が2.9%で、これに「少しは関心がある」の27.5%を合わせた【関心がある】は30.4%となっている。一方、「関心がない」は21.8%となっている。

第3章 調査結果の分析

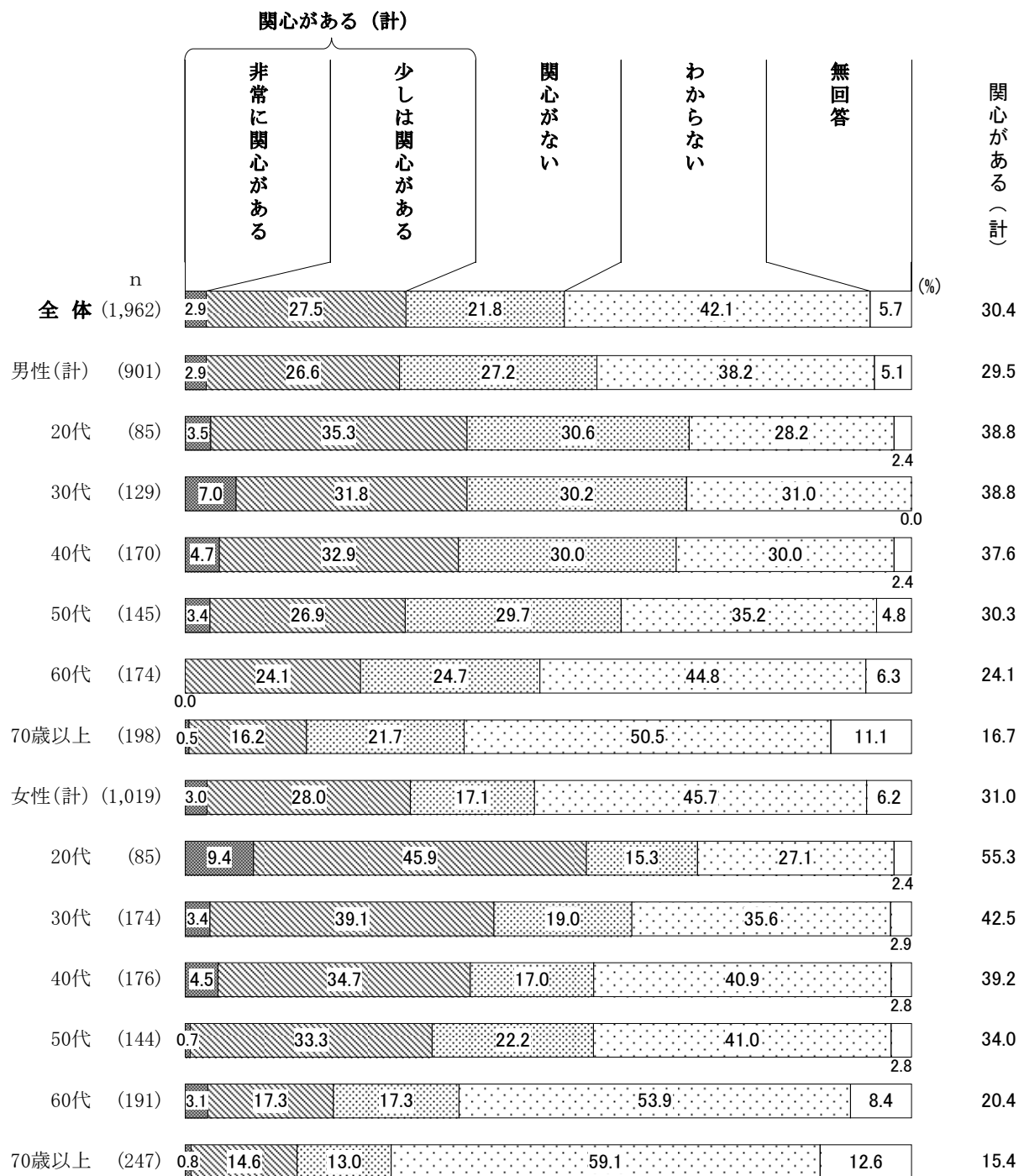
性別でみると、【関心がある】は、男性29.5%、女性31.0%となっている。

性・年代別でみると、男性では、20代から40代で【関心がある】が4割近くとなっている。

女性では、若い年代ほど【関心がある】が増加する傾向があり、20代では55.3%となっている。

男女とも60代以上で【関心がある】が低くなっている。

図8-2-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインへの関心度



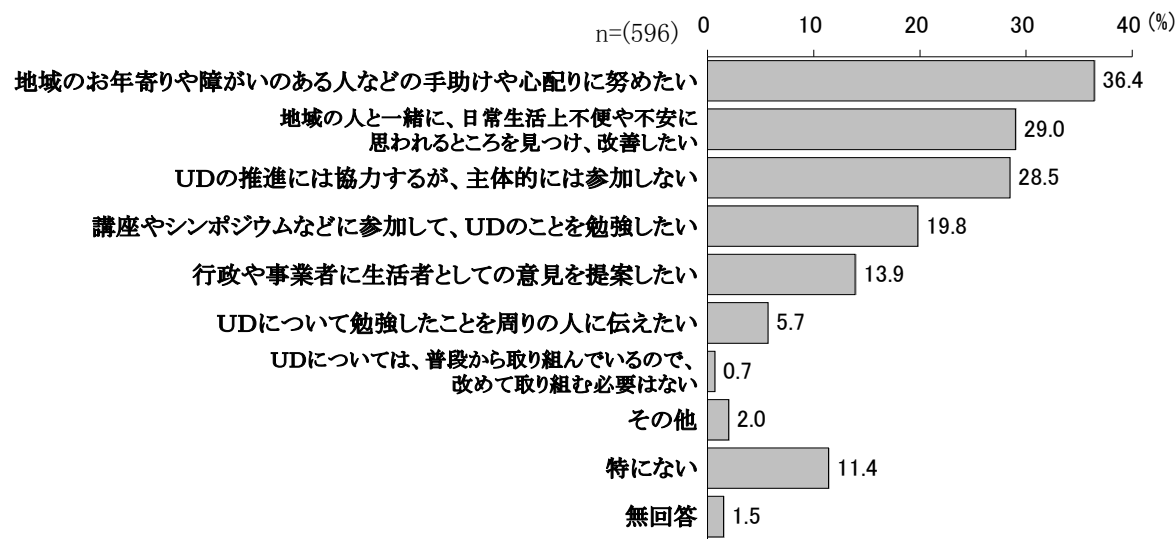
(3) ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み

■ “手助けや心配りに努めたい”が3割台半ば、“地域の人と一緒に、不便や不安に思われることを改善したい”“推進には協力するが、主体的には参加せず”がともに3割弱で上位

問32で「1. 非常に関心がある」または「2. 少しは関心がある」とお答えの方に

問32-1 ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）に関すること、今後、あなたはどのような取り組みを行いたいですか。（○は3つまで）

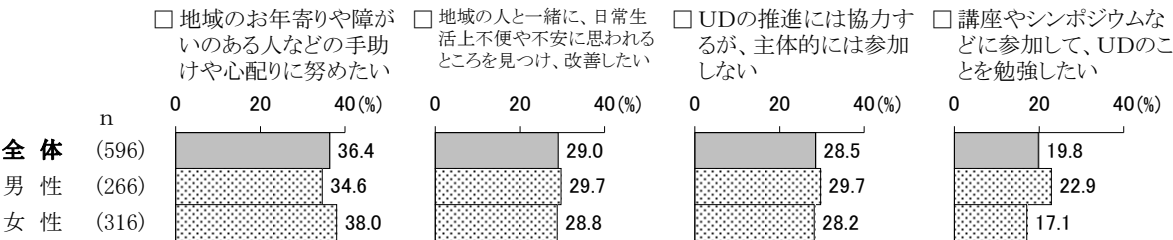
図8-3-1 ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み



【関心がある】という人に、取り組みたいことを聞くと、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」が36.4%で最も高く、以下「地域の人と一緒に、日常生活上不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい」（29.0%）、「UDの推進には協力するが、主体的には参加しない」（28.5%）の順となっている。

性別でみると、「地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい」は男性34.6%、女性38.0%となっている。

図8-3-2 性別／ユニバーサルデザインに関することで行いたい取り組み／上位4項目

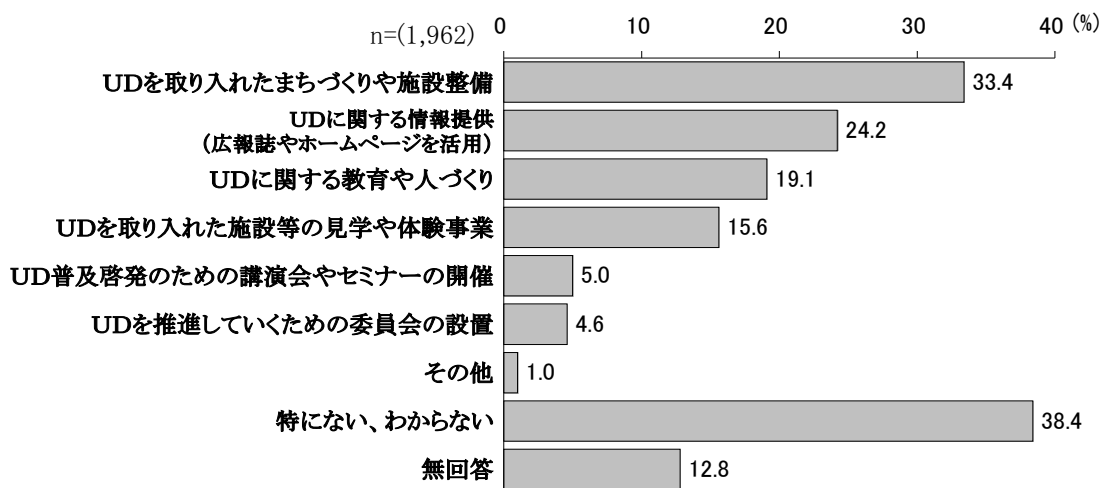


(4) ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み

■ 「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が3割を超える

問33 あなたは、ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）を推進していく上で、どのような取り組みが必要だとお考えですか。（〇は3つまで）

図8-4-1 ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み



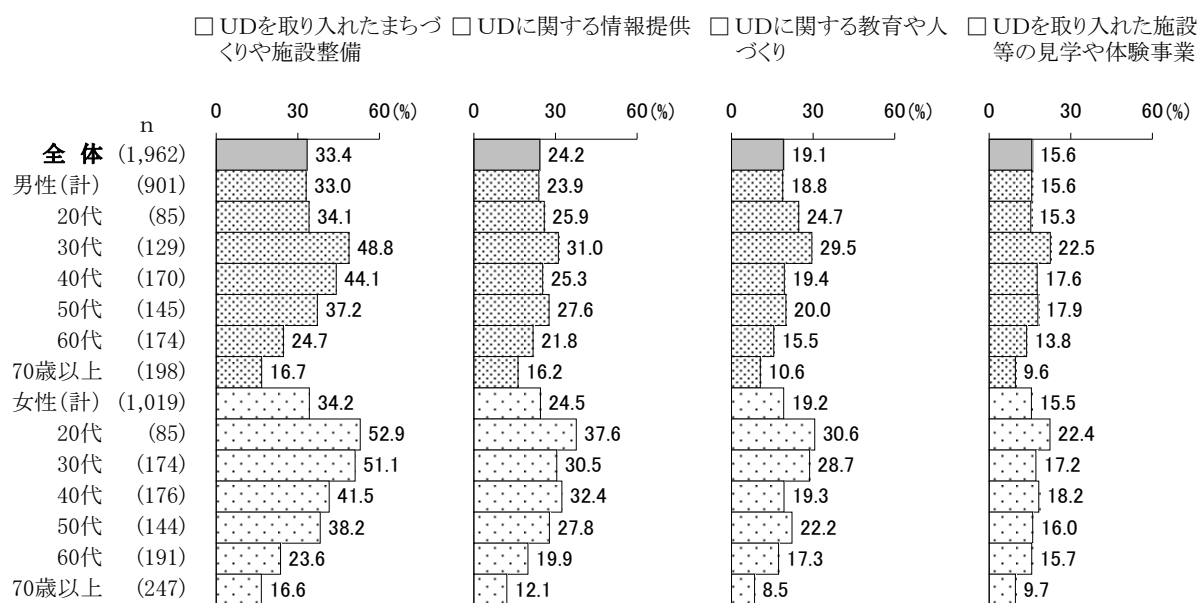
ユニバーサルデザインを推進していく上で、必要な取り組みとしては、「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が33.4%で最も高く、以下「UDに関する情報提供」(24.2%)、「UDに関する教育や人づくり」(19.1%)の順となっている。

性別でみると、上位4項目について、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性の場合、上位4項目とも30代で最も高く、40代以上では低下傾向を示している。女性の20代で「UDを取り入れたまちづくりや施設整備」が52.9%、「UDに関する情報提供」が37.6%、「UDに関する教育や人づくり」が30.6%、「UDを取り入れた施設等の見学や体験事業」が22.4%と上位4項目とも全年代中で最も高くなっている。

図8-4-2 性別、性・年代別／ユニバーサルデザインを推進していく上で必要な取り組み

／上位4項目



9 区の取り組み

-
- (1) 満足度と重要度
 - (2) 区政への区民意見の反映度
 - (3) 区に対する気持ち
 - (4) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）
 - (5) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度
-

9. 区取り組み

(1) 満足度と重要度

■満足度は「資源環境対策」が、重要度は「防災対策」が最上位

問34 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください。（○はいずれも、それぞれ1つずつ）

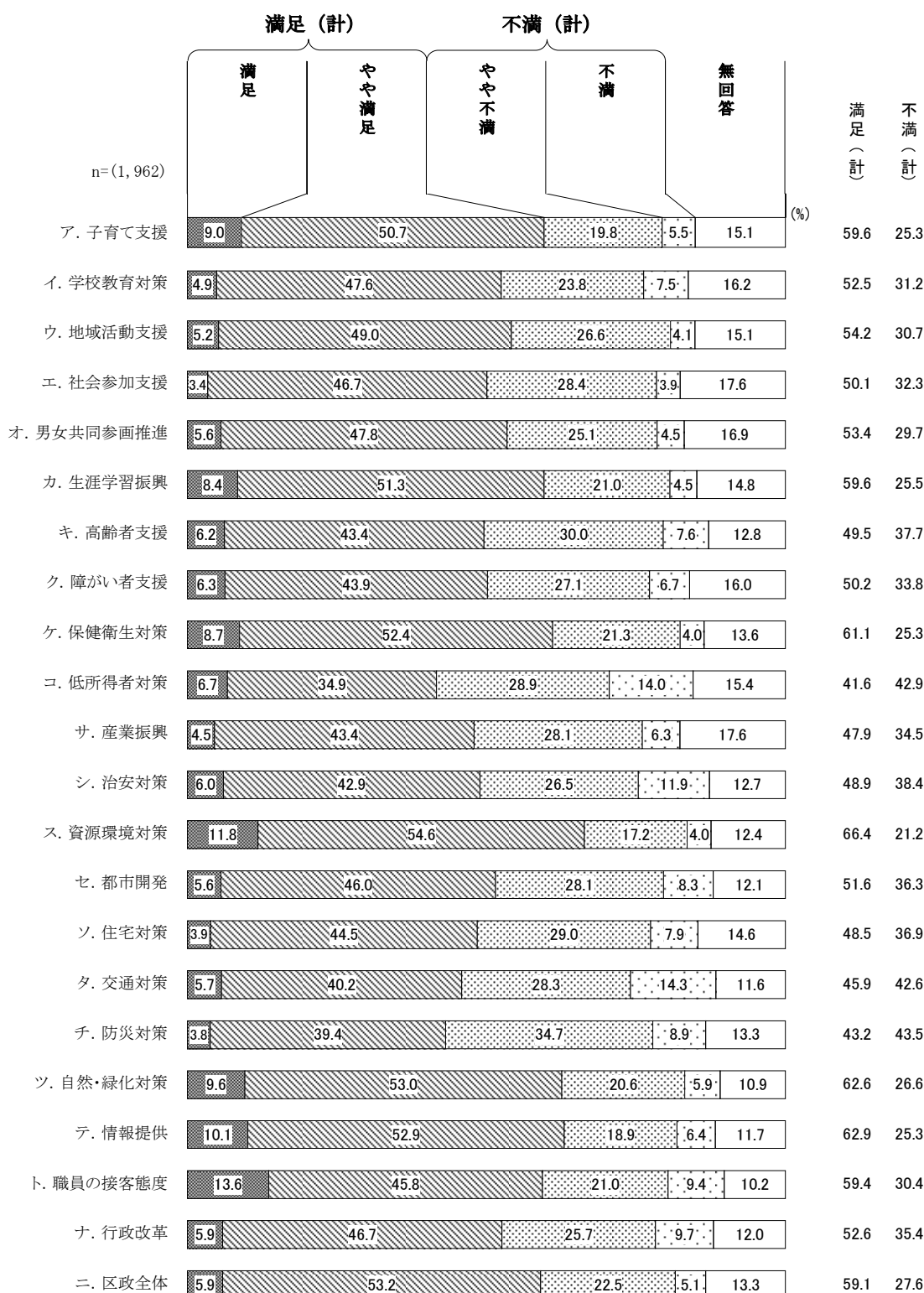
選択肢（区の取り組み）	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
ニ. 区政全体として	

第3章 調査結果の分析

区の取り組みについて、各分野に対する現状評価（満足度）をきいた。【満足】（「満足」＋「やや満足」）の多い順でみると、「資源環境対策」が66.4%で最も多く、以下、「情報提供」（62.9%）、「自然・緑化対策」（62.6%）、「保健衛生対策」（61.1%）の順で続いている。

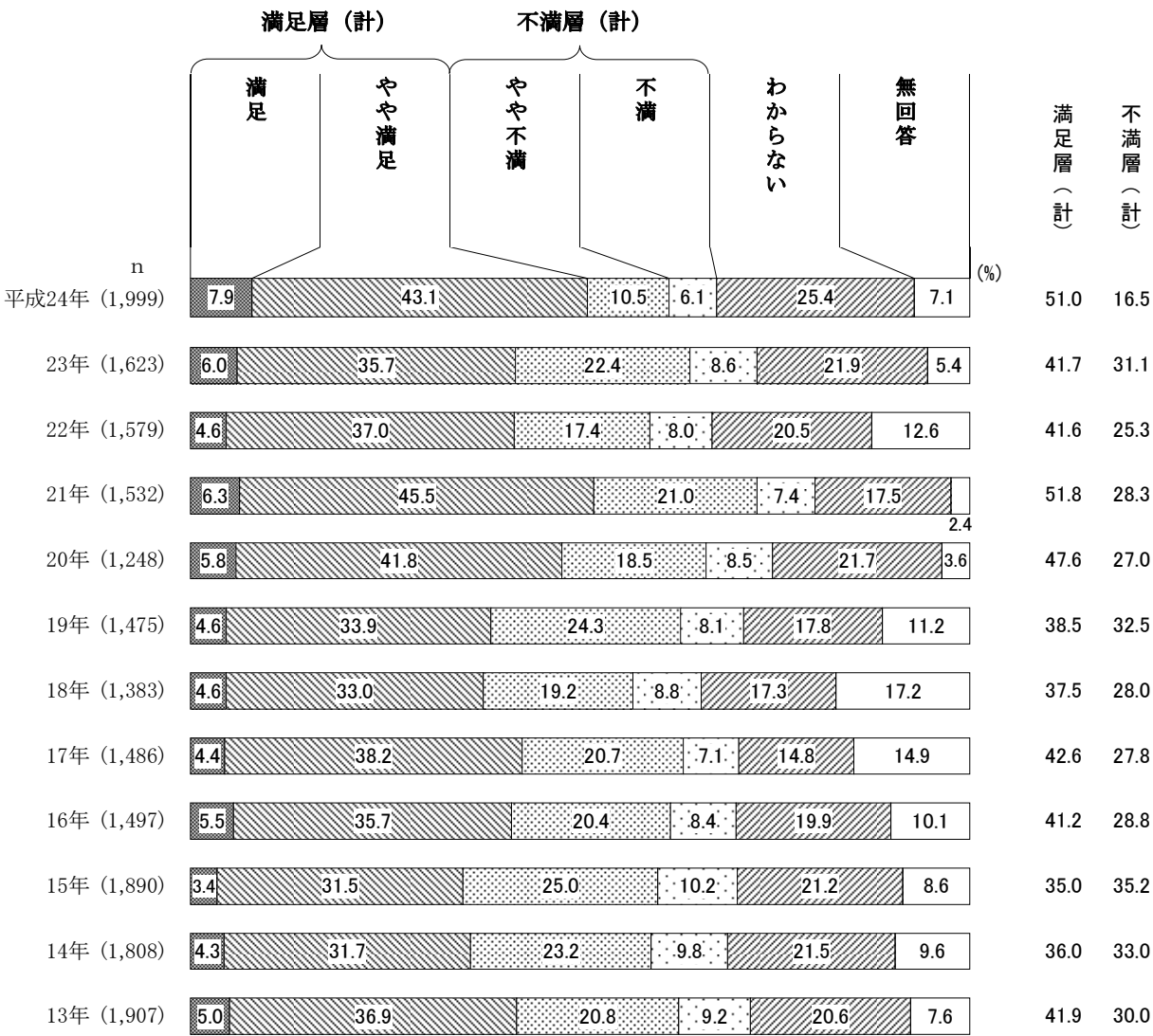
一方、【不満】（「やや不満」＋「不満」）の多いものとしては、「防災対策」（43.5%）、「低所得者対策」（42.9%）、「交通対策」（42.6%）があげられる。

図9-1-1 現状評価（満足度）



参考／区政に対する満足度

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。（○は1つだけ）



※ 平成24年までは「わからない」という選択肢があるため、結果を単純に比較することはできない

区政満足度については、平成25年度調査から調査方法を変更したため、数値の単純な比較はできないが、59.1%と、世論調査実施上、最も高い数値となった。

第3章 調査結果の分析

区の取り組みについて、各分野に対する重要度をきいた。【重要である】（「重要である」＋「やや重要である」）の多い順でみると、「防災対策」が85.4%で最も多く、以下「治安対策」（84.6%）、「交通対策」（84.0%）、「高齢者支援」（83.2%）の順で続いている。

図9－1－2 重要度

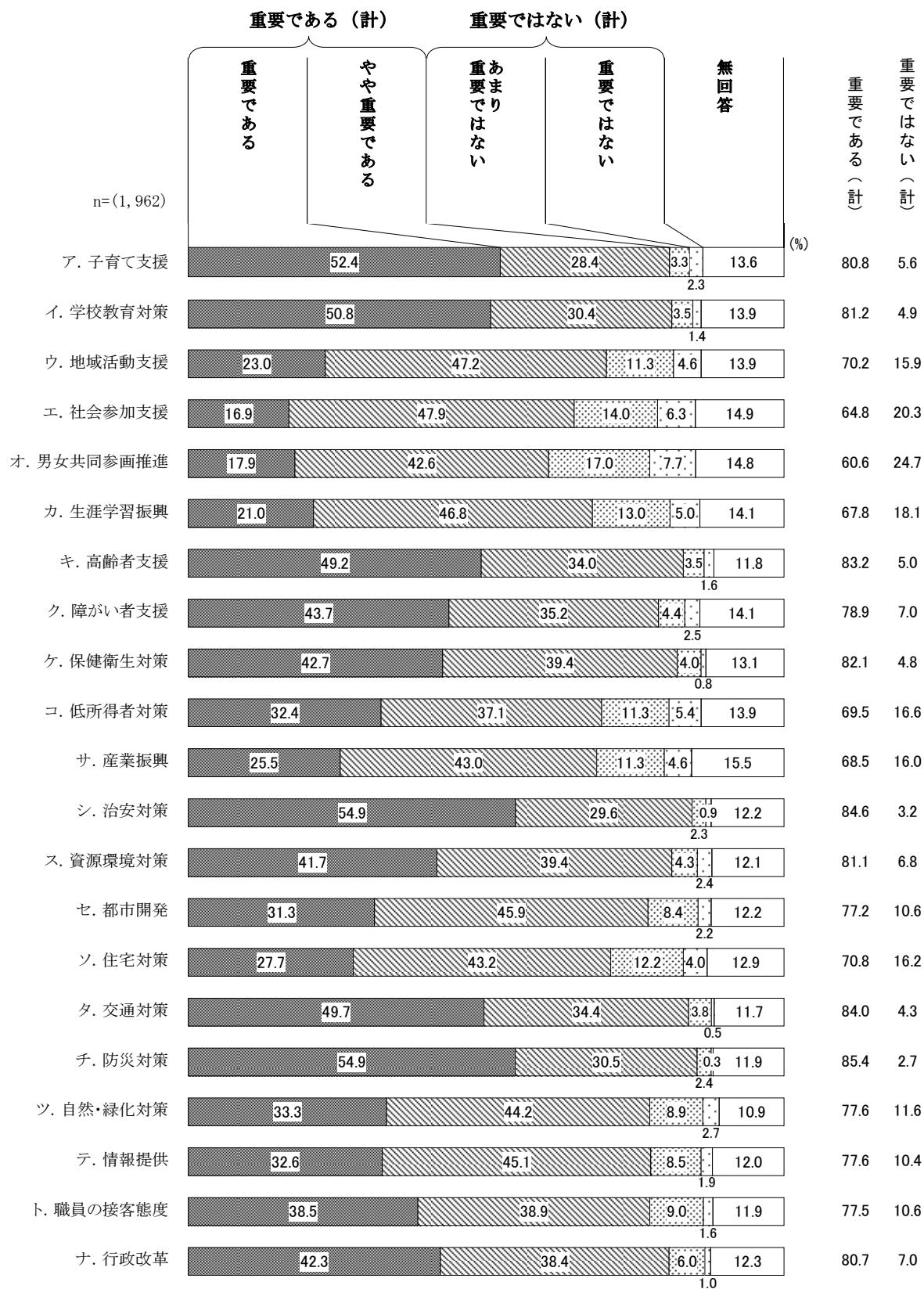


表9-1-1 満足度・重要度の上位5項目

満足度			重要度		
1	資源環境対策	66.4%	1	防災対策	85.4%
2	情報提供	62.9	2	治安対策	84.6
3	自然・緑化対策	62.6	3	交通対策	84.0
4	保健衛生対策	61.1	4	高齢者支援	83.2
5	子育て支援	59.6	5	保健衛生対策	82.1
	生涯学習振興	59.6			

《 現状評価（満足度）、重要度について 》

（１）現状評価（満足度）、重要度の評価点について

各分野の取り組みへの現状評価（満足度）と重要度意識の各選択肢に得点をつけ、現状評価（満足度）、重要度の評価点を算出した。これによって、区民の現状評価（満足度）や重要度意識を明確に捉え、分析することができる。

なお、各選択肢への点数の配分は下記の表のとおりである。

〔 得点配分 〕

現状評価（満足度）	重要度	得点
満足	重要である	4
やや満足	やや重要である	2
やや不満	あまり重要ではない	- 2
不満	重要ではない	- 4

※「無回答」は、母数から除くためポイントをつけない。

〔 計 算 式 〕

$$\text{現状評価} = \frac{\text{「満足」} \times 4 + \text{「やや満足」} \times 2 + \text{「やや不満」} \times (-2) + \text{「不満」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

$$\text{重 要 度} = \frac{\text{「重要である」} \times 4 + \text{「やや重要である」} \times 2 + \text{「あまり重要ではない」} \times (-2) + \text{「重要ではない」} \times (-4)}{\text{「無回答」を除く有効回答者数}}$$

（２）現状評価（満足度）について

21施策の現状評価（満足度）は、最も高い〈資源環境対策〉の1.21から、最も低い〈低所得者対策〉の-0.20の間に分布している。

分野別でみると、資源や自然・緑化等の環境面、保健衛生面、子育て支援や生涯学習環境の面で評価が高く、所得・交通・防災等については低くなっている。

（３）重要度について

21施策の重要度は、最も高い〈防災対策〉の3.12から、最も低い〈男女共同参画推進〉の1.08の間に分布している。

分野別でみると、防災・治安・教育・交通でポイントが高く、男女共同参画や社会参加等のポイントが低くなっている。

(4) 現状評価（満足度）、重要度のプロット図

現状評価（満足度）を横軸に、重要度を縦軸にとって21項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値0.47、重要度平均値2.30）を境として、4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のとおりである。

A 現状評価（満足度）が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、施策の重要性が広く区民に認識され、とくに施策の推進や改善に対する区民のニーズが高い項目と考えられる。従来の取り組みの方向について検討を加え、改善していくことが求められる。

B 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、施策の重要性が十分認識されているとともに、現在の取り組みにも満足している区民が多い項目と考えられる。今後も現在の水準を維持し、着実に取り組んでいくことが求められる。

現状評価（満足度）平均値（0.47）

《重要度》	《Aゾーン》	《Bゾーン》	重要度 平均値 (2.30)
	現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より高い	現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より高い	
	《Cゾーン》	《Dゾーン》	
	現状評価：平均値より低い 重 要 度：平均値より低い	現状評価：平均値より高い 重 要 度：平均値より低い	
《 現状評価（満足度）》			

C 現状評価（満足度）、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、取り組みの推進に対する期待は高いものの、他の施策と比較してその重要性の認識が低い項目と考えられる。施策の重要性に対する認知を高めるとともに、従来の取り組みの方向の改善を検討することが求められる。

D 現状評価（満足度）が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、他の施策と比較してその重要性の認識は低いものの、現状の取り組みには満足している項目と考えられる。今後も着実に取り組みの推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高めていくことが求められる。

表9-1-2-① 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	0.89	0.72	0.69	0.81	0.91	0.96	0.99	1.15	0.61	1.06
イ	学校教育対策	0.45	0.51	0.66	0.55	0.28	0.52	0.39	0.45	0.26	0.53
ウ	地域活動支援	0.58	0.71	0.72	0.59	0.38	0.61	0.80	0.71	0.34	0.63
エ	社会参加支援	0.42	0.40	0.69	0.32	0.25	0.47	0.33	0.58	0.25	0.82
オ	男女共同参画推進	0.60	0.64	0.76	0.54	0.64	0.82	0.65	0.62	0.42	0.75
カ	生涯学習振興	0.89	1.14	0.56	1.18	0.90	1.16	0.82	0.71	1.07	1.01
キ	高齢者支援	0.24	0.39	0.26	-0.19	0.35	0.39	0.43	0.16	-0.02	0.41
ク	障がい者支援	0.38	0.37	0.49	0.23	0.48	0.73	0.33	0.44	0.04	0.65
ケ	保健衛生対策	0.94	0.85	0.75	0.77	1.05	1.16	0.90	1.04	0.84	0.89
コ	低所得者対策	-0.20	-0.03	-0.43	-0.53	-0.41	0.00	-0.05	0.05	-0.29	-0.25
サ	産業振興	0.28	0.63	0.38	0.02	0.25	0.39	0.48	0.29	0.23	0.44
シ	治安対策	0.11	0.55	-0.28	0.00	0.20	0.22	0.02	0.44	-0.05	-0.07
ス	資源環境対策	1.21	1.15	1.41	0.76	1.19	1.41	1.22	1.31	1.08	1.25
セ	都市開発	0.29	0.26	0.50	0.00	0.46	-0.13	0.23	0.70	0.08	0.29
ソ	住宅対策	0.18	0.29	0.47	0.24	0.13	-0.06	0.24	0.61	-0.21	0.24
タ	交通対策	-0.12	0.13	-0.19	-0.35	-0.46	-0.57	-0.10	-0.09	-0.42	0.19
チ	防災対策	-0.12	-0.45	-0.09	-0.26	-0.47	-0.39	-0.11	0.11	-0.22	0.35
ツ	自然・緑化対策	0.89	0.65	1.49	0.48	0.67	0.69	1.15	1.19	0.69	0.81
テ	情報提供	0.94	0.83	0.89	0.87	0.98	0.76	1.21	1.18	1.08	0.88
ト	職員の接客態度	0.74	0.87	0.54	0.84	0.98	1.01	0.53	0.89	0.58	0.55
ナ	行政改革	0.30	0.17	0.32	0.30	0.60	0.48	0.13	0.49	0.20	-0.02
ニ	区政全体として	0.74	0.75	0.71	0.51	0.94	0.88	0.83	1.17	0.48	0.64

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-2-② 地域ブロック別／現状評価（満足度）

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	0.89	1.02	0.88	0.74	1.02
イ	学校教育対策	0.45	0.61	0.57	-0.05	0.39
ウ	地域活動支援	0.58	0.58	0.39	0.24	0.57
エ	社会参加支援	0.42	0.41	0.50	0.35	0.19
オ	男女共同参画推進	0.60	0.48	0.30	0.49	0.53
カ	生涯学習振興	0.89	0.81	0.54	0.65	0.88
キ	高齢者支援	0.24	0.20	0.02	0.09	0.30
ク	障がい者支援	0.38	0.17	0.19	0.07	0.66
ケ	保健衛生対策	0.94	1.03	0.55	0.99	1.22
コ	低所得者対策	-0.20	-0.11	-0.41	-0.48	-0.07
サ	産業振興	0.28	0.21	-0.07	-0.24	0.21
シ	治安対策	0.11	0.03	-0.12	0.11	-0.02
ス	資源環境対策	1.21	0.96	1.36	1.12	1.39
セ	都市開発	0.29	0.34	0.40	0.27	0.40
ソ	住宅対策	0.18	-0.14	-0.04	0.25	0.29
タ	交通対策	-0.12	0.14	0.05	0.04	0.15
チ	防災対策	-0.12	-0.24	0.16	0.22	0.39
ツ	自然・緑化対策	0.89	0.82	0.95	0.85	1.09
テ	情報提供	0.94	0.74	0.74	1.03	0.95
ト	職員の接客態度	0.74	0.64	0.34	0.60	1.10
ナ	行政改革	0.30	0.28	0.00	0.22	0.66
ニ	区政全体として	0.74	0.40	0.77	0.47	0.89

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-① 地域ブロック別／重要度

		区全体	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	第9
ア	子育て支援	2.90	2.96	2.66	2.68	2.72	2.84	3.01	2.93	3.15	2.52
イ	学校教育対策	2.92	2.95	2.87	2.54	2.61	2.92	2.98	3.10	2.97	2.75
ウ	地域活動支援	1.69	1.69	1.61	1.92	1.24	1.73	1.65	1.99	1.65	1.57
エ	社会参加支援	1.30	1.29	1.20	1.18	1.04	1.46	1.49	1.60	1.13	1.44
オ	男女共同参画推進	1.08	1.11	1.39	0.98	0.94	0.89	1.06	1.08	1.06	1.01
カ	生涯学習振興	1.53	1.74	1.48	1.52	1.30	1.48	1.57	1.93	1.31	1.19
キ	高齢者支援	2.85	2.84	2.86	2.92	2.84	2.80	2.89	2.96	2.72	2.93
ク	障がい者支援	2.63	2.64	2.74	2.29	2.53	2.69	2.68	2.73	2.60	2.51
ケ	保健衛生対策	2.74	2.75	2.69	2.86	2.62	2.84	2.82	2.74	2.74	3.00
コ	低所得者対策	1.86	1.57	1.86	1.65	1.72	1.97	1.83	1.93	1.86	1.93
サ	産業振興	1.74	1.45	1.71	1.78	1.66	1.68	1.60	1.92	1.82	1.62
シ	治安対策	3.08	2.93	3.06	3.07	3.06	3.08	3.11	3.09	3.09	3.24
ス	資源環境対策	2.58	2.68	2.29	2.79	2.46	2.67	2.50	2.91	2.59	2.51
セ	都市開発	2.18	2.42	2.13	2.30	2.23	2.45	1.92	2.32	1.98	1.88
ソ	住宅対策	1.80	1.56	1.92	2.04	1.91	1.94	1.56	2.04	1.76	1.78
タ	交通対策	2.92	2.91	3.26	2.92	2.74	2.98	2.75	3.17	2.80	2.79
チ	防災対策	3.12	3.27	3.12	3.15	2.98	3.32	3.18	3.21	3.03	2.78
ツ	自然・緑化対策	2.17	2.37	2.02	2.25	1.91	2.38	2.10	2.27	2.05	1.76
テ	情報提供	2.22	2.17	2.42	2.43	1.77	2.35	2.18	2.36	1.88	2.31
ト	職員の接客態度	2.36	2.18	2.67	2.40	2.08	2.47	2.36	2.35	2.48	2.17
ナ	行政改革	2.62	2.65	2.78	2.57	2.31	2.73	2.49	2.75	2.51	2.59

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

表9-1-3-② 地域ブロック別／重要度

		区全体	第10	第11	第12	第13
ア	子育て支援	2.90	3.09	3.03	2.65	3.21
イ	学校教育対策	2.92	3.07	2.91	2.91	3.23
ウ	地域活動支援	1.69	1.82	1.86	1.39	1.74
エ	社会参加支援	1.30	1.59	1.06	0.85	1.19
オ	男女共同参画推進	1.08	1.20	1.16	0.98	1.17
カ	生涯学習振興	1.53	1.43	1.33	1.62	1.79
キ	高齢者支援	2.85	2.84	2.93	2.77	2.76
ク	障がい者支援	2.63	2.68	2.86	2.55	2.57
ケ	保健衛生対策	2.74	2.68	2.76	2.50	2.71
コ	低所得者対策	1.86	2.08	1.84	2.47	1.69
サ	産業振興	1.74	2.19	1.98	1.79	1.53
シ	治安対策	3.08	3.14	3.26	3.00	3.10
ス	資源環境対策	2.58	2.56	2.39	2.55	2.63
セ	都市開発	2.18	2.32	1.95	1.66	2.36
ソ	住宅対策	1.80	2.24	1.57	1.38	1.62
タ	交通対策	2.92	2.87	2.82	2.89	3.07
チ	防災対策	3.12	3.16	3.08	2.90	2.97
ツ	自然・緑化対策	2.17	2.18	2.07	2.15	2.44
テ	情報提供	2.22	2.52	2.34	2.22	2.00
ト	職員の接客態度	2.36	2.35	2.33	2.55	2.36
ナ	行政改革	2.62	2.74	2.72	2.67	2.57

※ ブロックごとに、最も評価点の高いものを「文字白抜き」、低いものを「網掛け」で表示しています。

第3章 調査結果の分析

全21施策の現状評価（満足度）と重要度の関係をみた。

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」「防災対策」「治安対策」の現状評価が低く、重要度が高くなっている。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

「資源環境対策」「保健衛生対策」「子育て支援」などは、現状評価、重要度の両面で高くなっている。

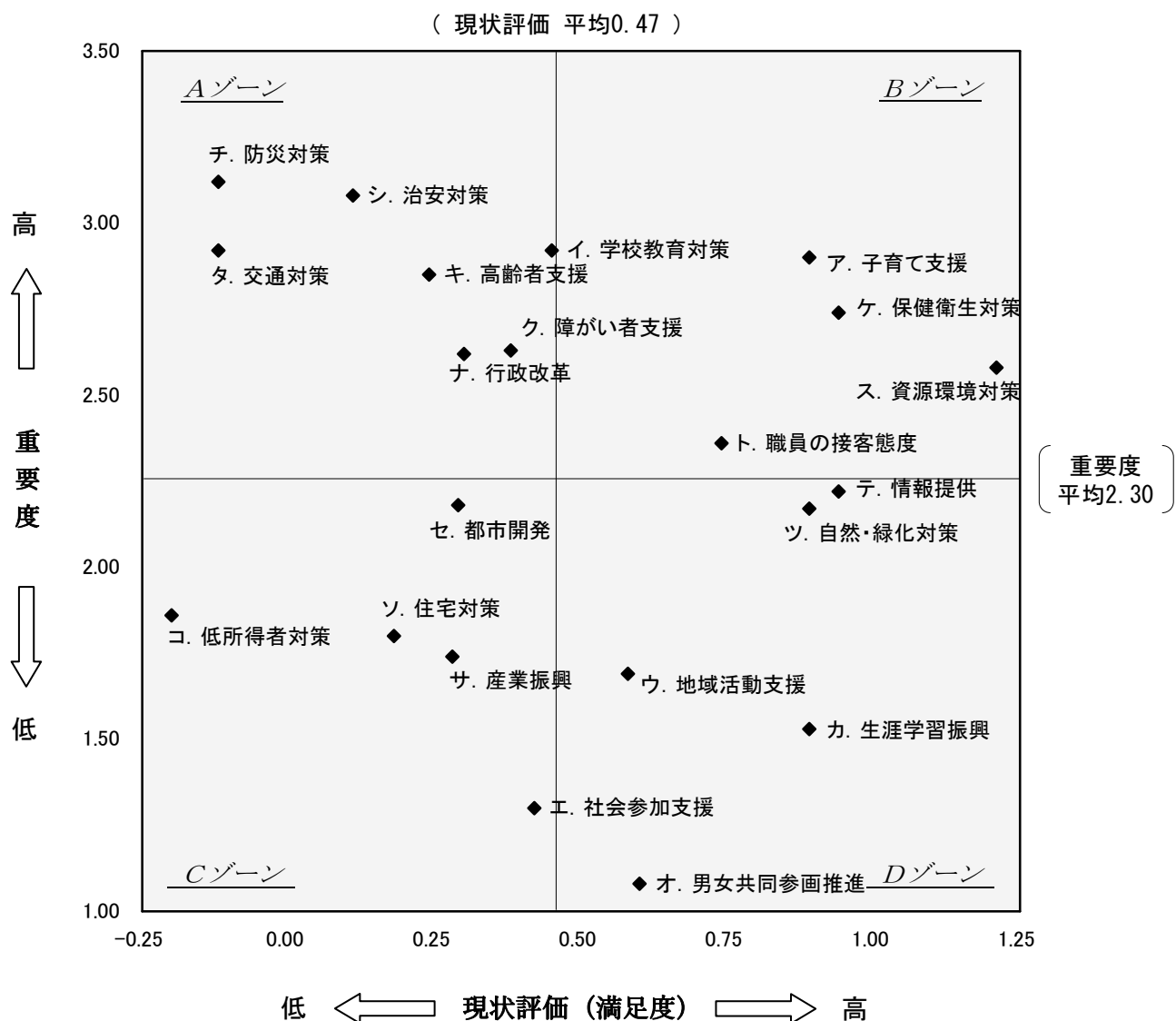
C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

現状評価では「低所得者対策」、重要度では「社会参加支援」が他の施策より低くなっている。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

「男女共同参画推進」「生涯学習振興」などがあげられている。

図9-1-4 重要度と現状評価（満足度）の関係

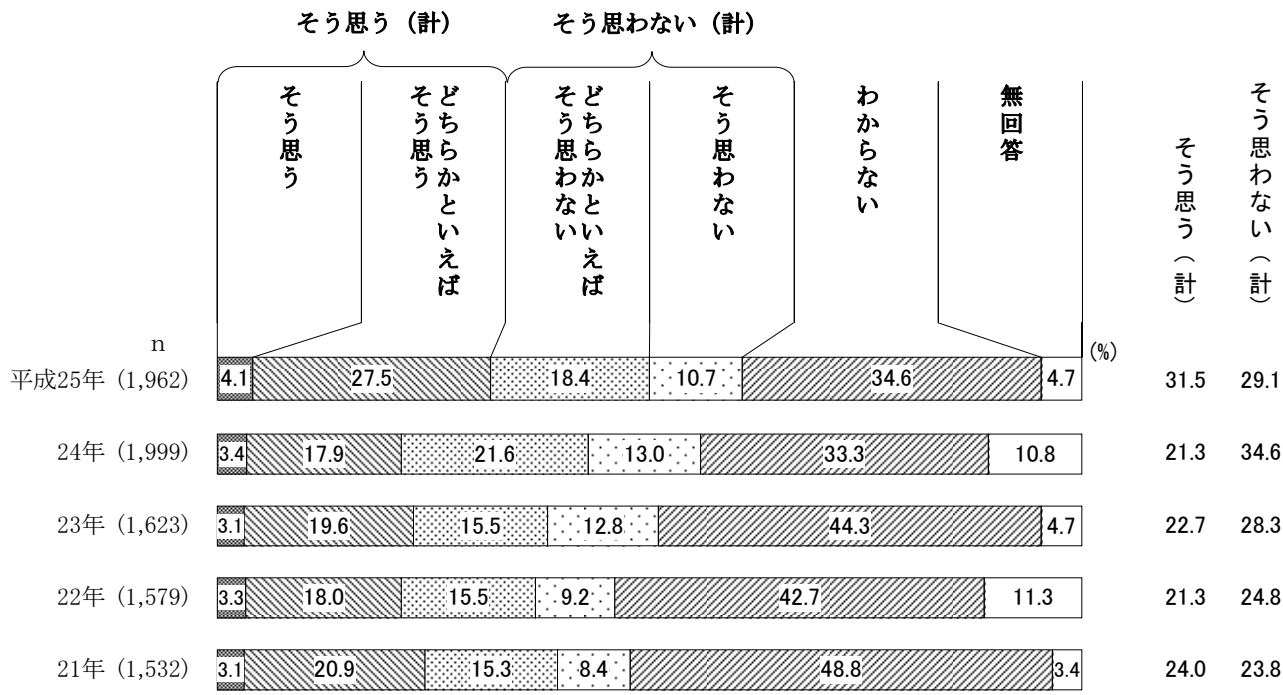


(2) 区政への区民意見の反映度

■ 【そう思う】が初めて3割を超える

問35 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか。(○は1つだけ)

図9-2-1 経年比較／区政への区民意見の反映度



区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は31.5%と、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】(29.1%)より高くなっている。

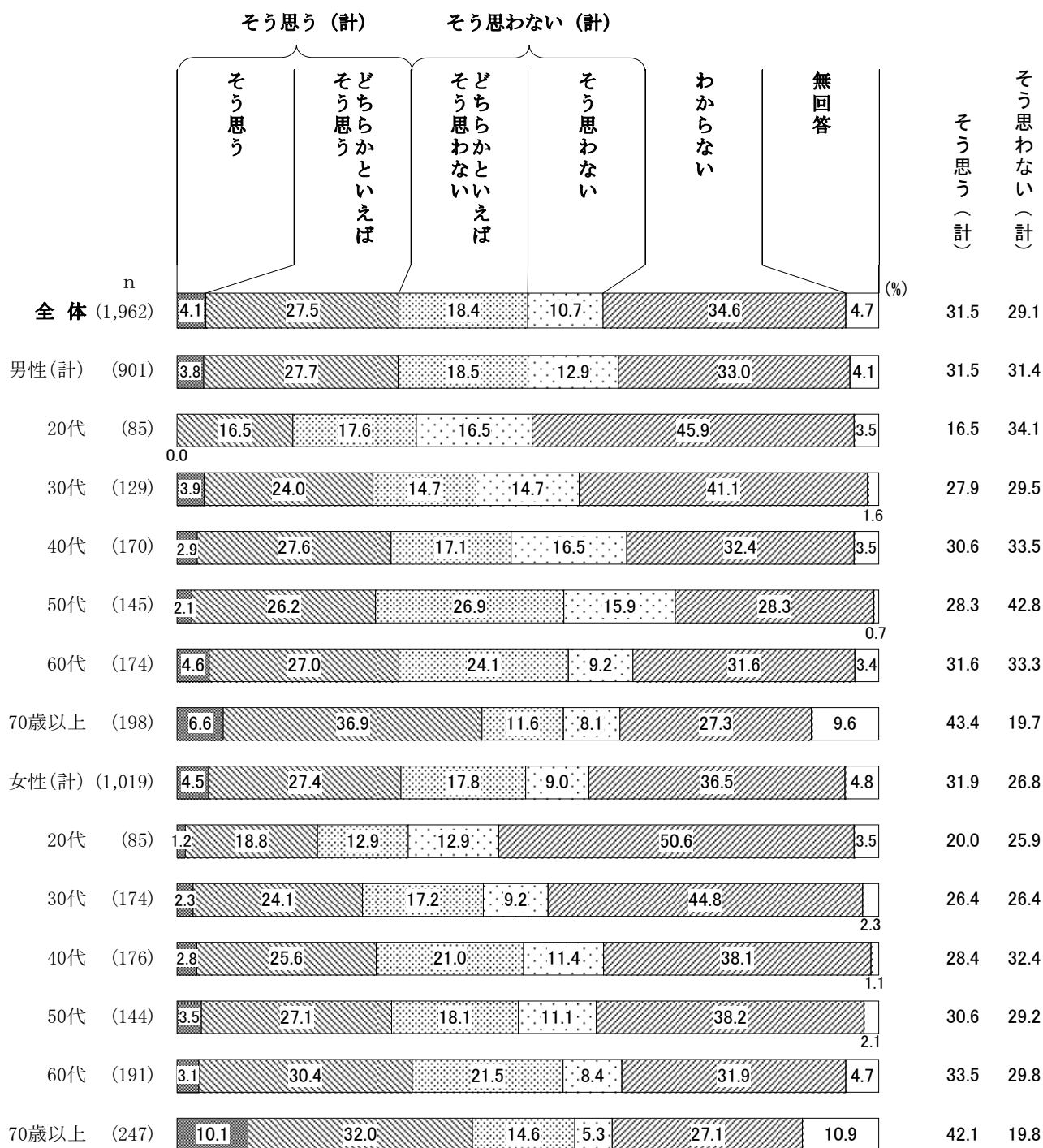
経年で比較すると、【そう思う】は、前回の21.3%から今回31.5%へと、10.2ポイント上昇し、初めて3割を超えた。

第3章 調査結果の分析

性別でみると、大きな男女差はみられない。

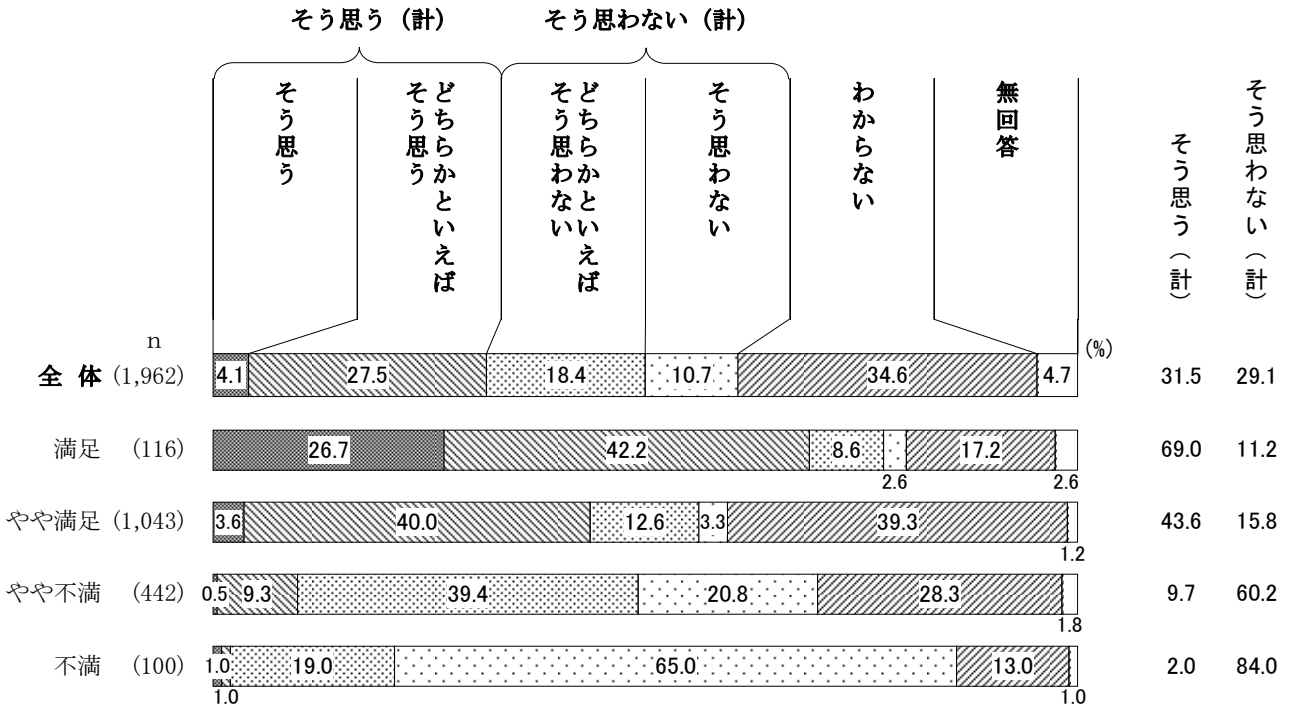
性・年代別でみると、【そう思う】は、男女とも70歳以上で高く、男性43.4%、女性42.1%となっている。また、女性では、年齢とともに【そう思う】が高くなっている。

図9-2-2 性別、性・年代別／区政への区民意見の反映度



区政満足度別でみると、満足している層で【そう思う】は69.0%と高くなっている。

図9-2-3 区政満足度別／区政への区民意見の反映度



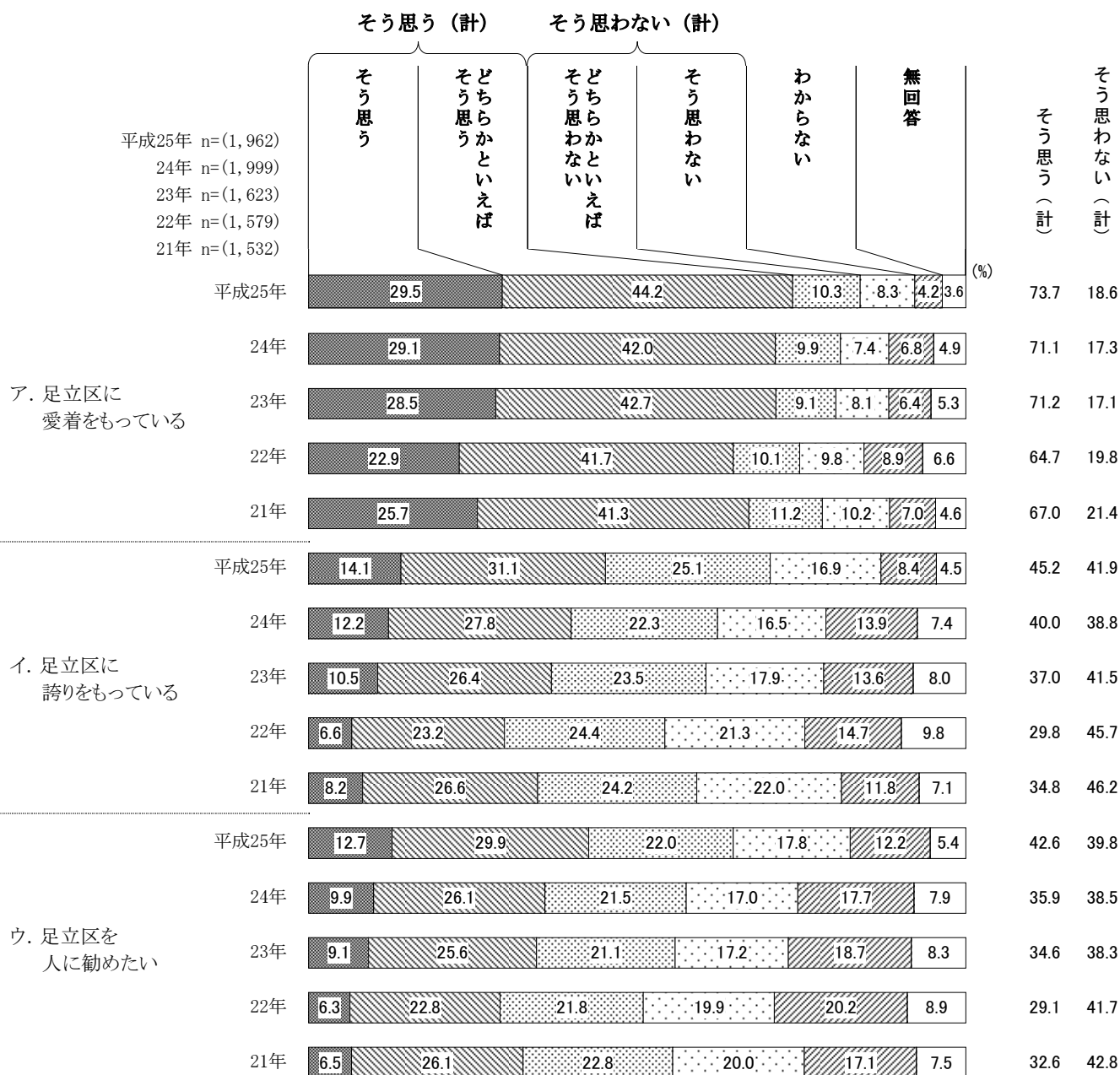
(3) 区に対する気持ち

- “愛着をもっている、誇りをもっている、人に勧めたい”は、平成21年度調査開始から、いずれも最高値となった

問36 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(○はそれぞれ1つつ)

図9-3-1 経年比較／区に対する気持ち

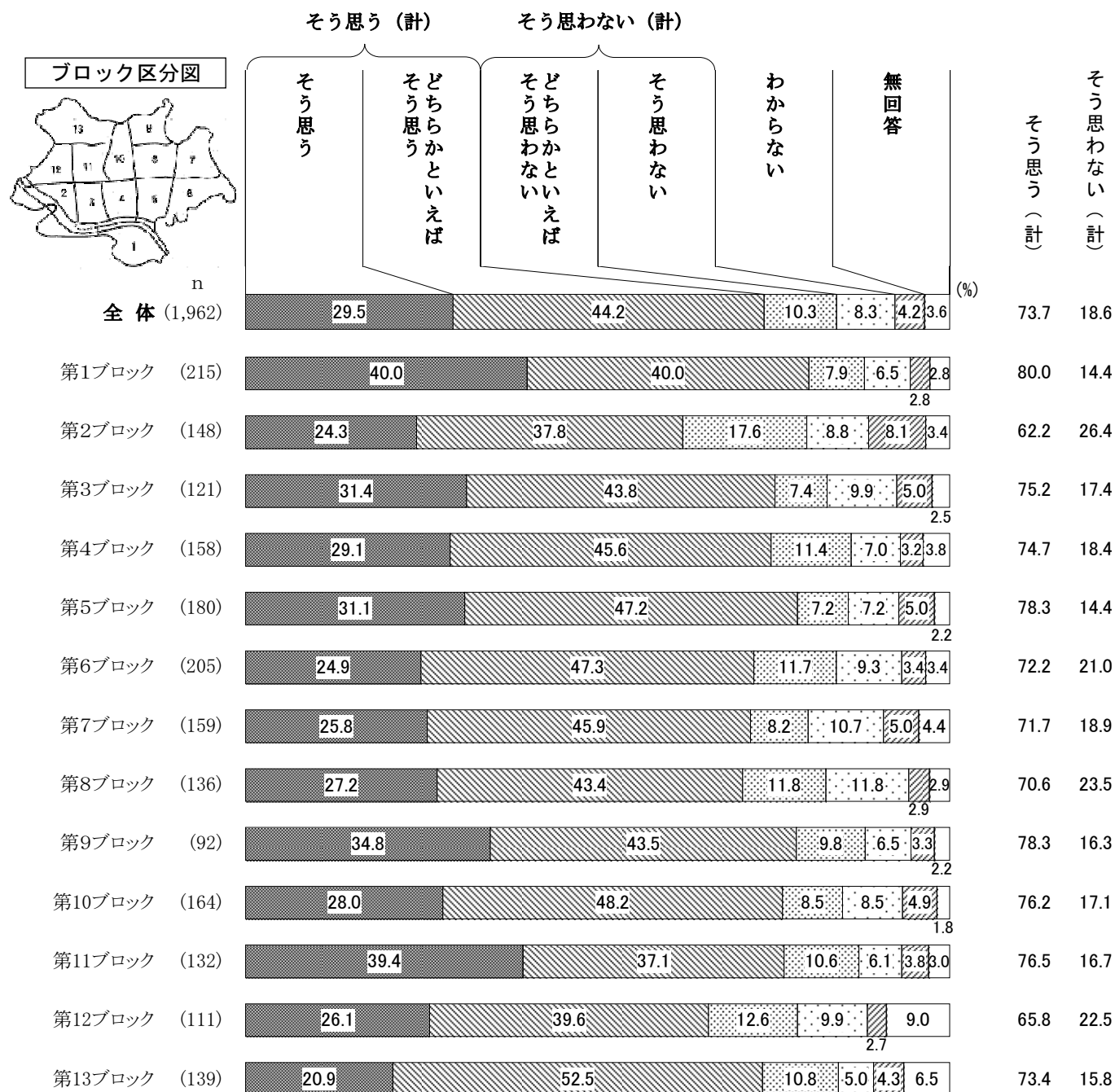


区に対する気持ちについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は、〈足立区に愛着をもっている〉が73.7%で最も高く、〈足立区に誇りをもっている〉は45.2%、〈足立区を人に勧めたい〉は42.6%となっている。

また、過去の結果とともにみると、どの項目も【そう思う】は増加傾向にあるが、なかでも〈足立区を人に勧めたい〉は、前回から6.7ポイント増加しており、初めて4割を超えている。

地域ブロック別でみると、〈足立区に愛着をもっている〉では、【そう思う】が、第1ブロックで80.0%と最も高く、第5ブロック、第9ブロックでも、ともに78.3%と高くなっている。

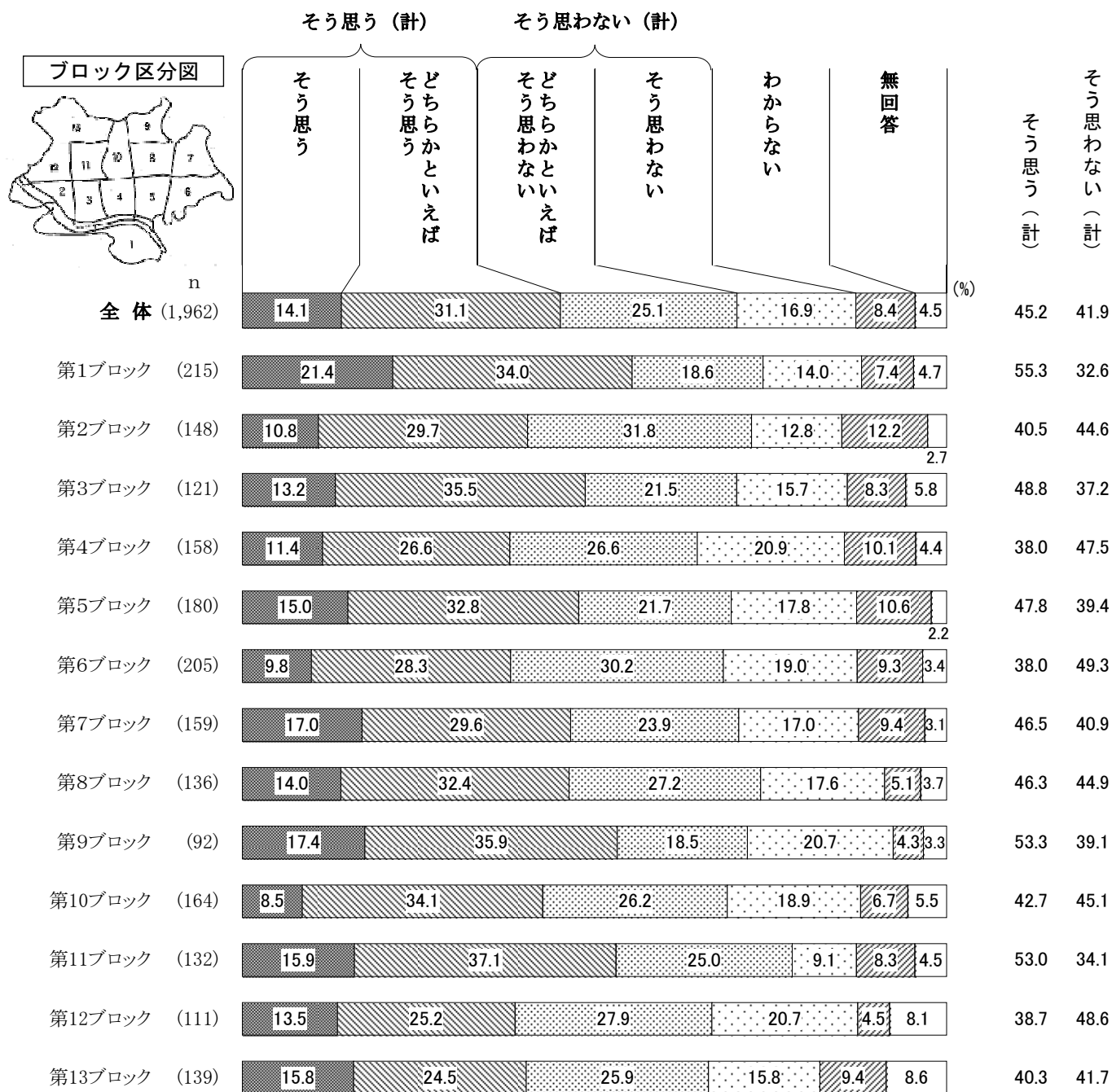
図9-3-2-① 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



第3章 調査結果の分析

〈足立区に誇りをもっている〉では、【そう思う】が、第1ブロックで55.3%と最も高く、第9ブロック、第11ブロックでも、それぞれ53.3%、53.0%となっている。

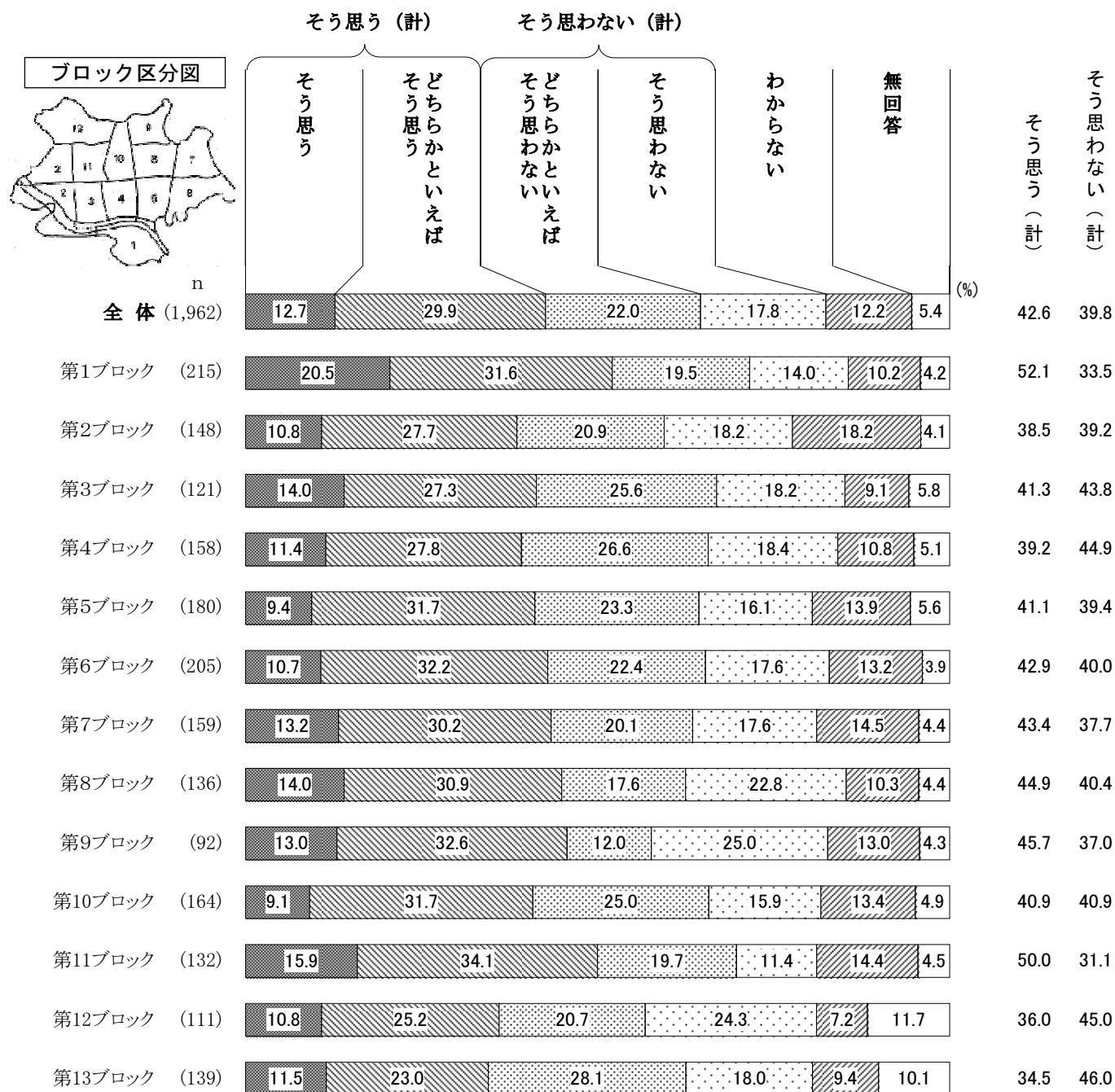
図9-3-2-② 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



〈足立区を人に勧めたい〉では、【そう思う】が、第1ブロックで52.1%と最も高く、第11ブロックでも50.0%、第9ブロックで45.7%となっている。

なお、調査した3項目すべてで、第1ブロックが最も高くなっている。

図9-3-2-③ 地域ブロック別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



第3章 調査結果の分析

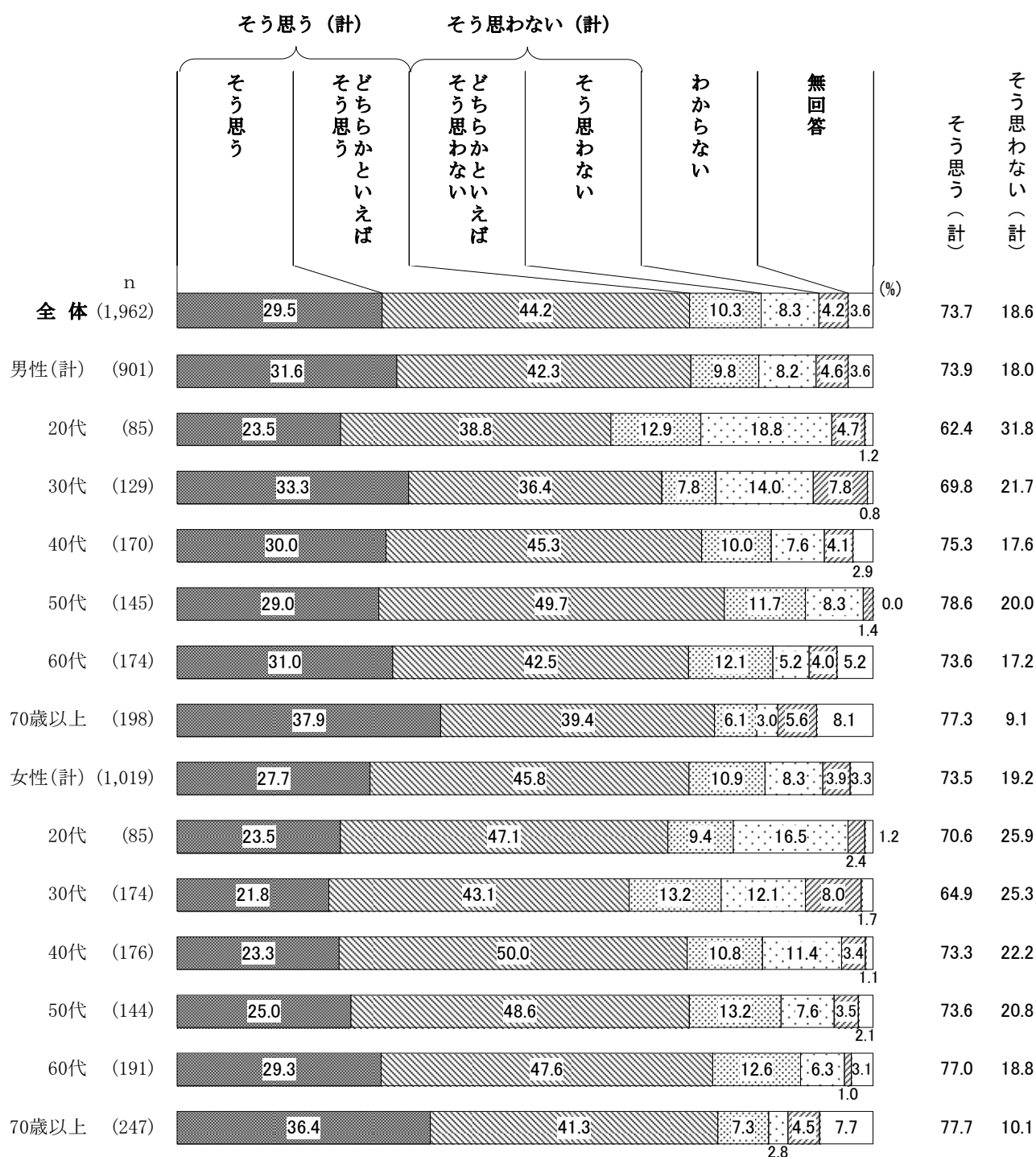
〈足立区に愛着をもっている〉について性別でみると、【そう思う】が、男性73.9%、女性73.5%と大きな差はみられない。

性・年代別でみると、男性では【そう思う】が、50代で78.6%と最も高く、40代、70歳以上でも、それぞれ75.3%、77.3%となっている。

女性では【そう思う】が、70歳以上で77.7%と最も高く、60代でも77.0%となっている。

また、男女とも40代以上で【そう思う】が高くなる傾向は同じだが、20代では、男性62.4%、女性70.6%と差異が出ている。

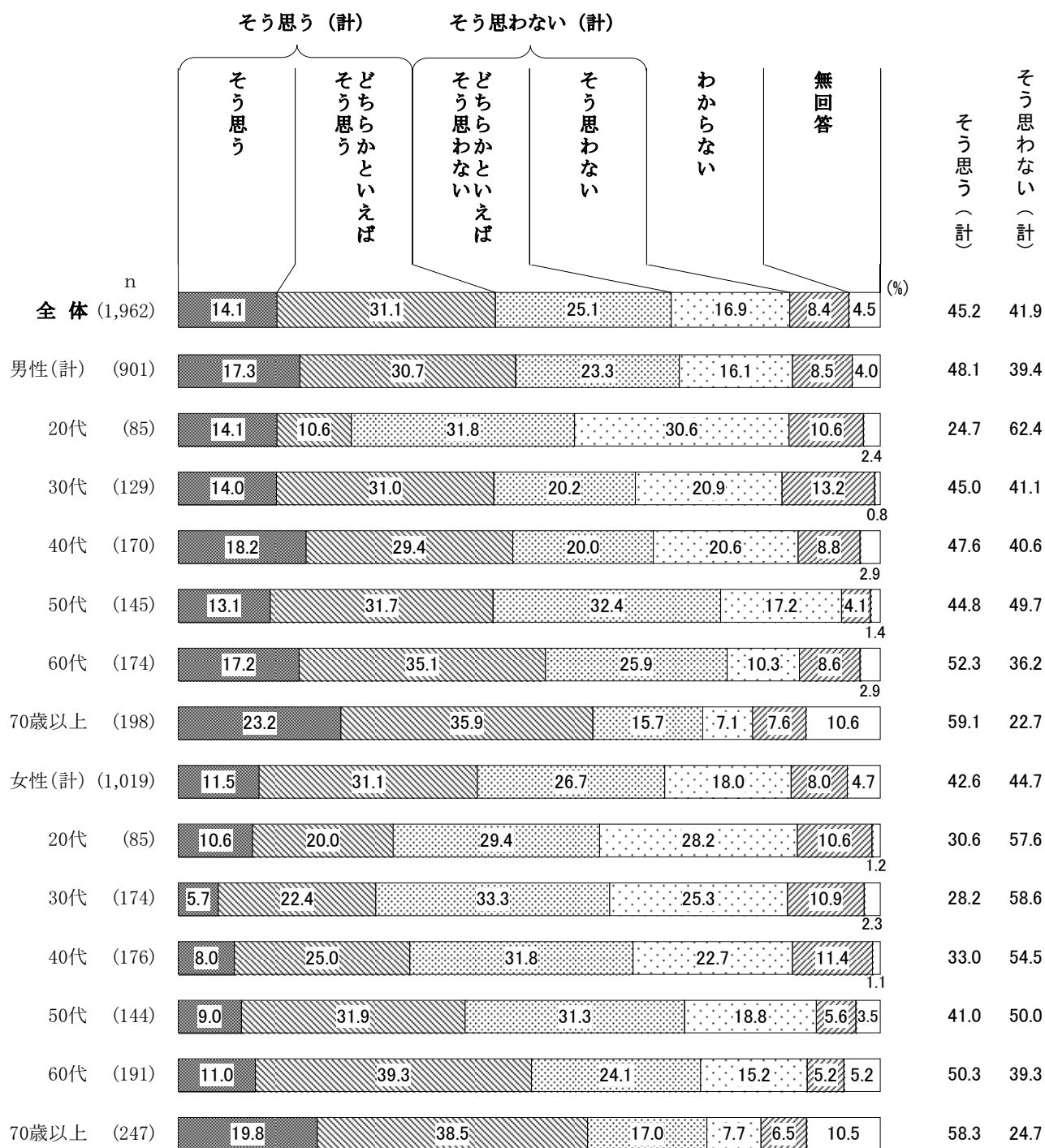
図9-3-3-① 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について性別でみると、【そう思う】が、男性48.1%、女性42.6%と、男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】が、男女とも60代以上で50.0%を超えており、特に70歳以上で、男性59.1%、女性58.3%と高くなっている。

図9-3-3-② 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



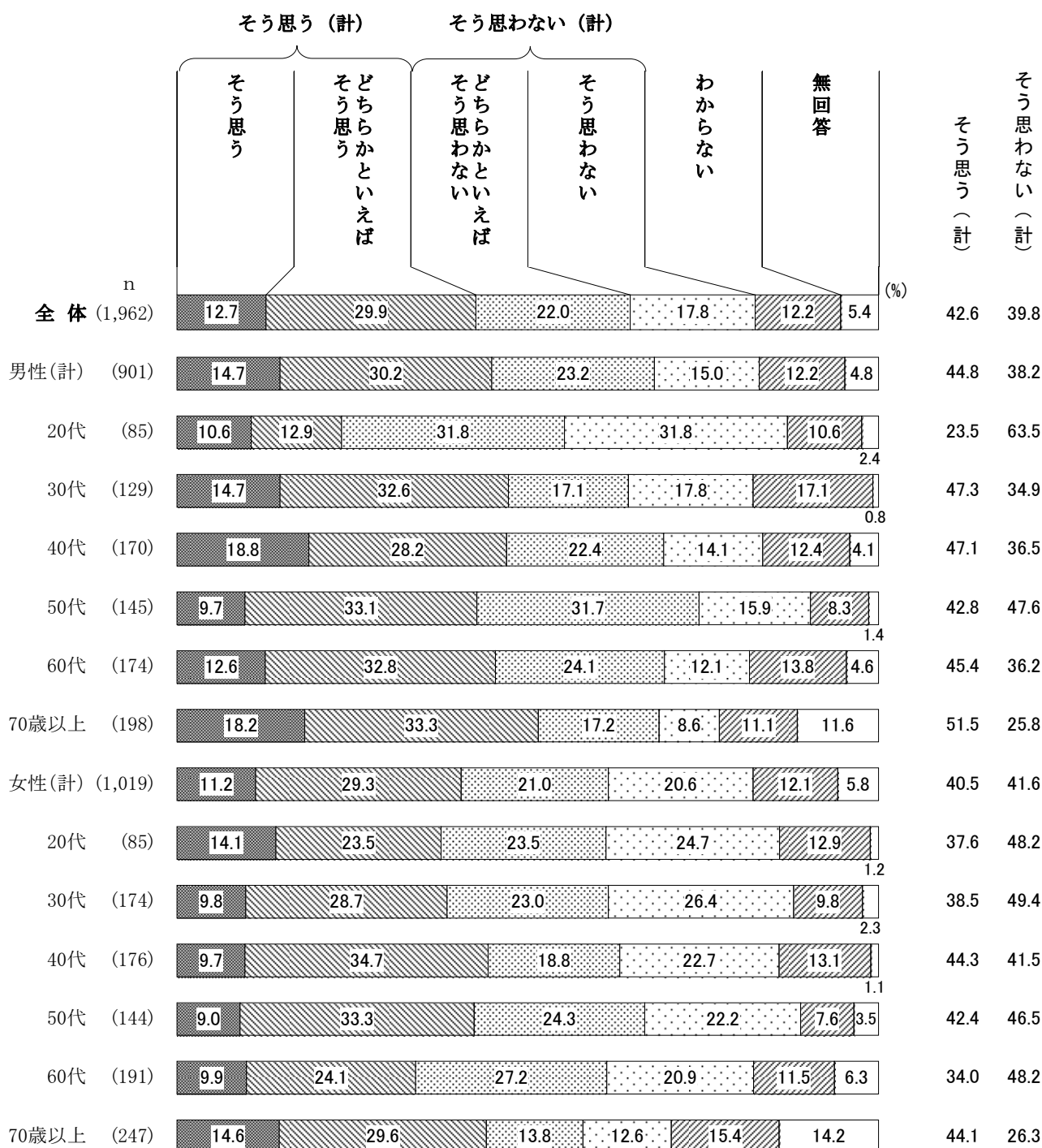
第3章 調査結果の分析

〈足立区を人に勧めたい〉について性別でみると、【そう思う】が、男性44.8%、女性40.5%と、男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【そう思う】が、男性では70歳以上で51.5%と、全年代中最も高くなっている。

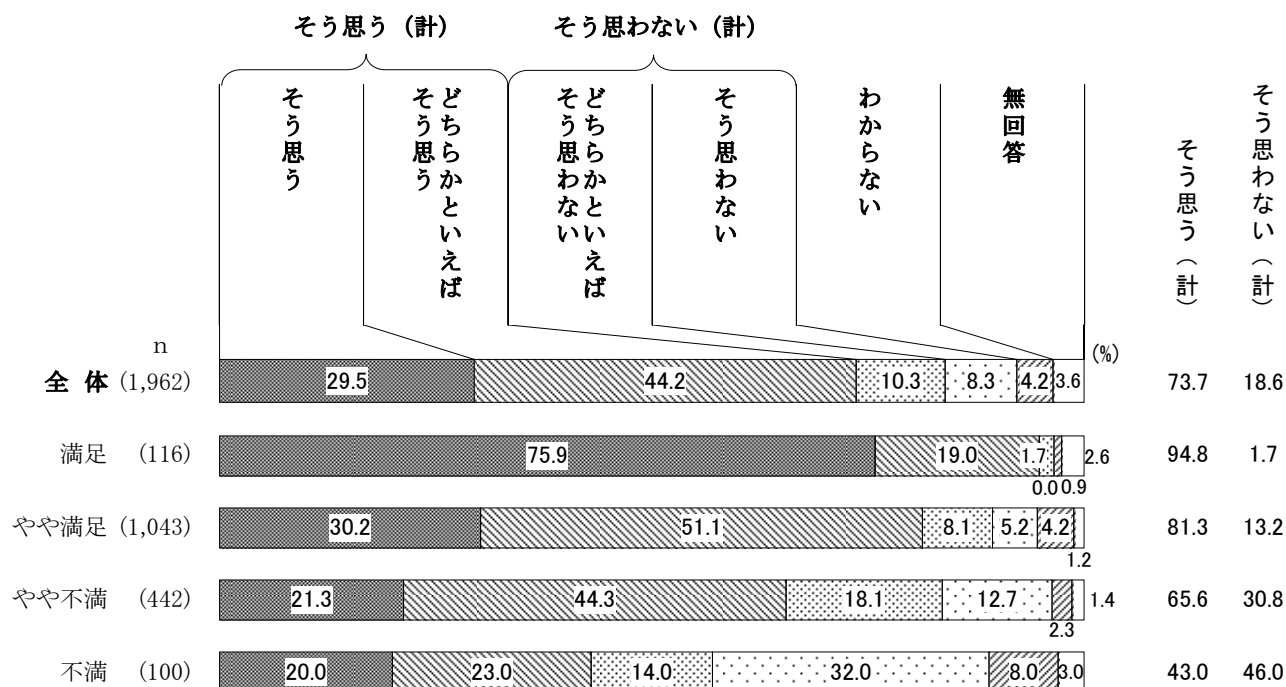
女性では、【そう思う】が、40代、50代、70歳以上で40.0%を超えて、他の年代より高くなっている。

図9-3-3-③ 性別、性・年代別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



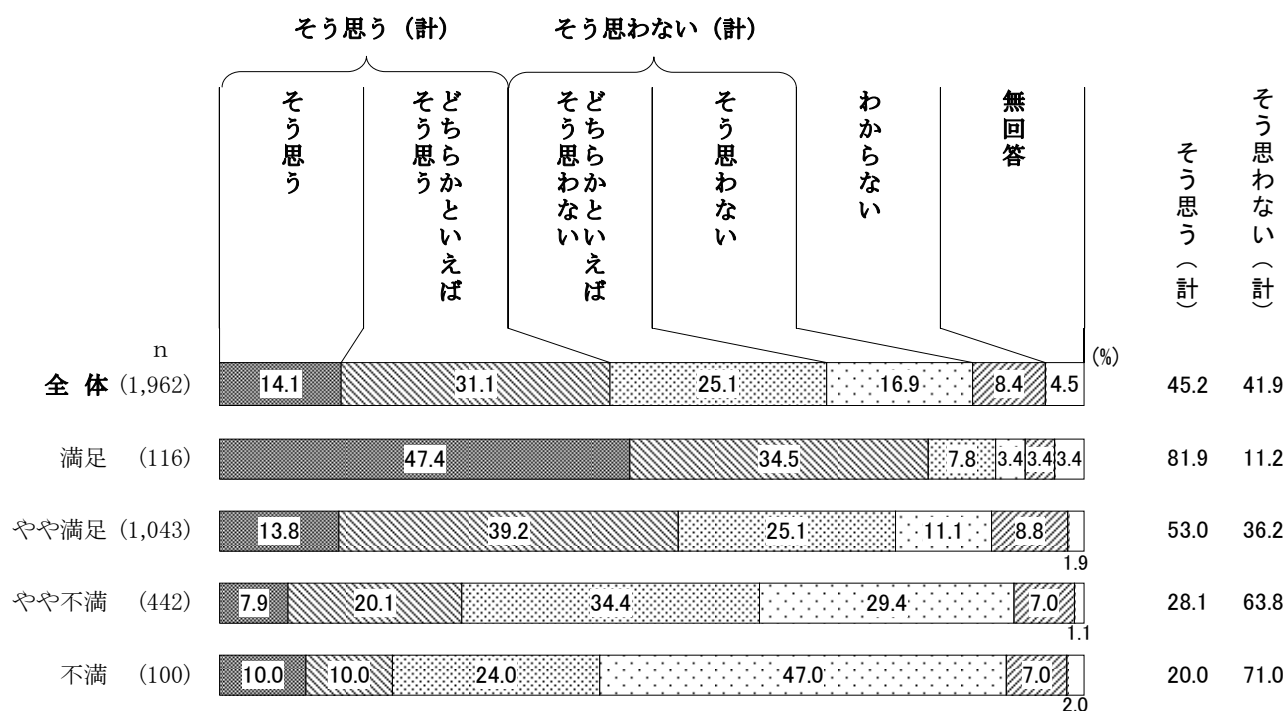
〈足立区に愛着をもっている〉について区政満足度別でみると、【そう思う】が、満足している層で94.8%と極めて高くなっている。

図9-3-4-① 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に愛着をもっている



〈足立区に誇りをもっている〉について区政満足度別でみると、【そう思う】が、満足している層で81.9%と高くなっている。

図9-3-4-② 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている

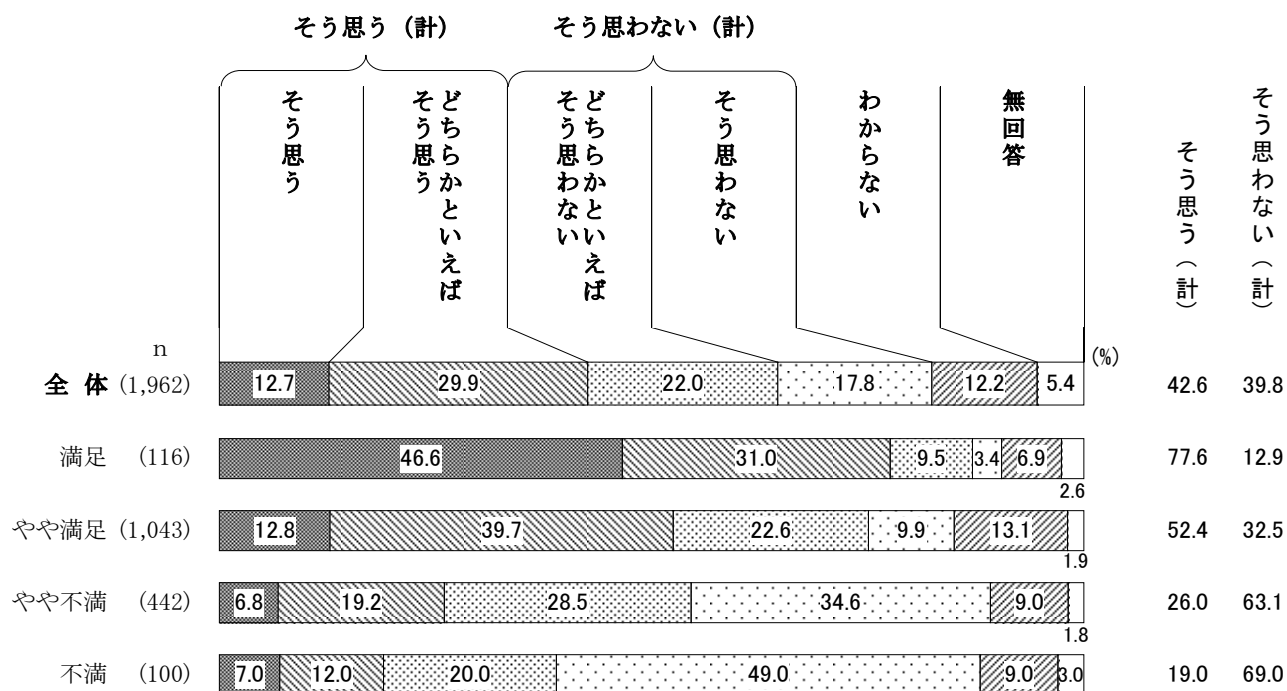


第3章 調査結果の分析

〈足立区を人に勧めたい〉について区政満足度別でみると、【**そう思う**】が、満足している層で77.6%と高くなっている。

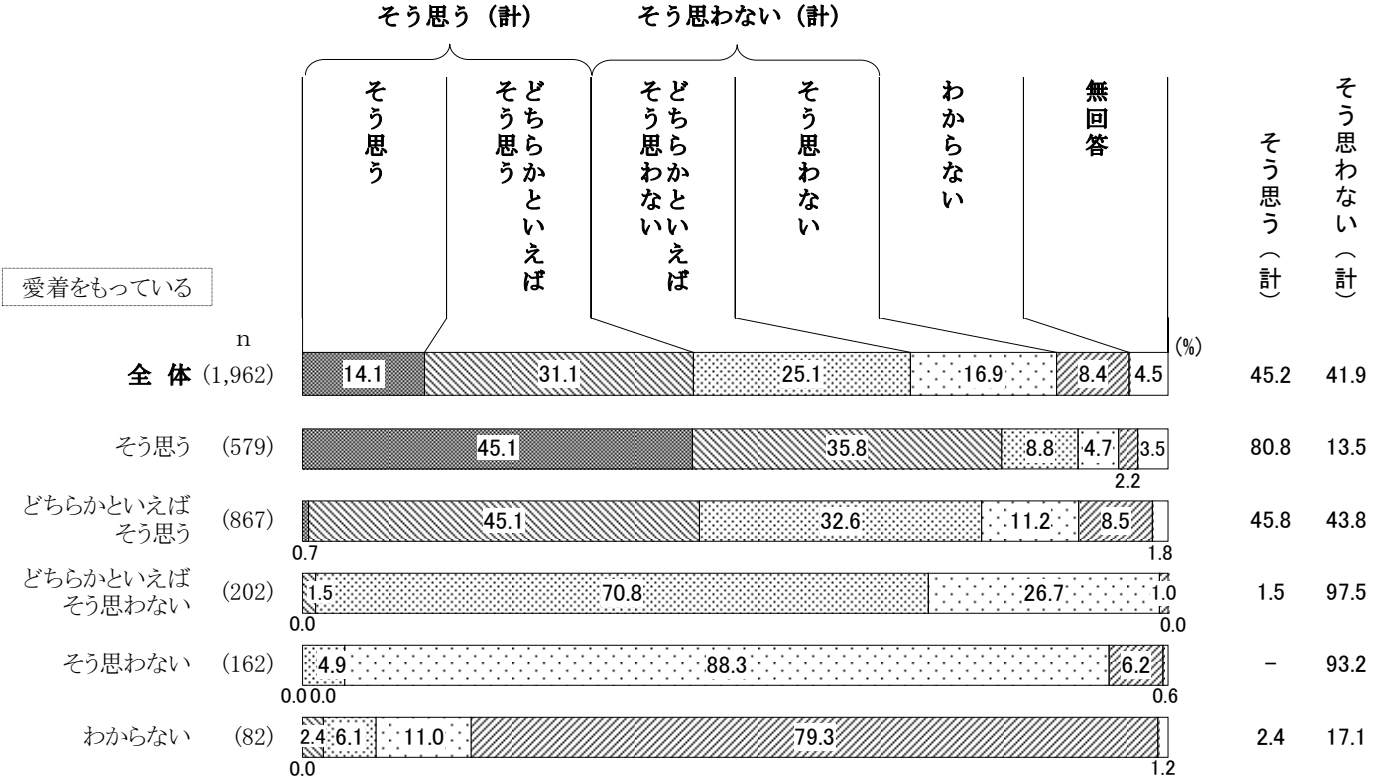
また、不満だという層は、【**そう思う**】が19.0%と最も低くなっている。

図9-3-4-③ 区政満足度別／区に対する気持ち／足立区を人に勧めたい



区への愛着度別に区への誇りをみると、愛着度が強まるにつれて、【そう思う】は増加し、愛着をもっている<そう思う>という層では80.8%に達している。

図9-3-5 区への愛着度別／区に対する気持ち／足立区に誇りをもっている



(4) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）

問37 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

区政への意見、要望を自由に記述していただいたところ、668人から延べ792件の回答を得られましたので、一部抜粋してご意見を掲載いたします。

■区政全般に関する意見・要望（98件）

- ・区民の気持ちに寄り添う区政、対応をお願いします。「足立区に住んで良かった」と思える暮らしが出来るようにしてほしい。
- ・本調査で足立区が様々な取り組みをしていることがよくわかりました。財政難の中、改革はとても厳しいと思いますが、たくさんのアイデアを収集し、よりよい足立区になるよう頑張ってください。
- ・アンケートをやってみて、足立区には色々な政策や制度があると知った。ホームページなどは、足立区に興味がある人しか見ないと思うので、もっと興味を持たせるためのきっかけ作りが必要だと思いました。

■医療・福祉（72件）

- ・夜間診療や救急診療の受け入れができる病院が少ない。
- ・大きな病院が少ないので、医療の整備に力を入れてほしい。大学病院や医療、福祉の施設も誘致してほしい。
- ・生活保護や福祉を受ける者への審査・決定は厳格にしなければならない。受給者がどのくらいいるのか、どのような状況なのか開示するべき。きちんと調査して、不正受給を防いでほしい。

■交通機関・道路の整備（65件）

- ・東京なのに交通の便が悪い。はるかぜ等のミニバスを充実させてほしい。
- ・安心して暮らせる足立区であってほしい。道路や歩道で整備されている所とされていない所の差があり、道路が狭いため歩道を歩いても怖い。歩道に電柱があったりして歩行しづらい。
- ・歩行者、自転車、車が安全に通行できるよう、自転車専用レーンを作してほしい。

■マナーについて（59件）

- ・歩きタバコ、ごみのポイ捨てが多い。空き缶、ボトルの投げ捨ても多い。とても危ないので取締りを！
- ・自転車利用者のマナーが悪すぎる。規則やルールを含めて、はっきりと教えるべき。大人が守らないから、子供達もまねて同じような行動をしている。自転車の乗り方を大人にも教えるべきだし、罰則等考える時期になっているように思う。
- ・公園での喫煙、昼間の飲酒、ベンチの私物化を取り締まってほしい。夏休みや冬休みに公園で学生が騒ぎ、迷惑している。

■治安対策（48件）

- ・最近Aメールを登録したばかりですが、頻繁にくる犯罪・不審者情報に驚きました。ひったくりが多いようですが、治安が今よりもずっと良くなるための工夫をさらにしていただければと思います。
- ・不審者や交通違反者が多いのもっとパトロールや取締りを厳しくして欲しい。歩行者として安心して歩けません。
- ・毎日のように、不審者ありのメールが入ってくる。子どもが安心して遊ぶことができません。パトロールを強化するなど、子どもが安心して遊べる地域づくりを期待しています。
- ・住宅地の街灯が暗い。夜の治安のためにも明るくしてほしい。

■都市開発（44件）

- ・ある程度、駅周辺の開発は行ってほしいが、住宅街に関しては安全を重視して、今までの街並みを守っていくようにしてほしいです。
- ・入居者の少ない団地等を整備し、大学病院を作る。もしくは商業施設を作ることはできないだろうか。
- ・住宅街の中の商店がどんどん減り、駅前の大型店ばかりになった。地元の商店の振興にも力を注いでほしい。

■子育て支援（39件）

- ・働く親を持つ小学生の放課後サービスが不足していると感じる。保育園の質は向上してきたと感じるが、安心して預けられる学童保育が不足している。学童保育など、放課後サービスの質を向上していただけることを切望します。
- ・保育園を増やすなど、待機児童問題を早く解決してほしい。
- ・子供を預ける先が少なく、仕事を継続したいが続けていけるか不安です。女性が安心して働ける環境はまだまだ整っていないと実感します。

■職員の対応（37件）

- ・窓口にいる方が、とても親切な方もいれば無愛想で事務的な対応の人も多く、こんなに対応の違いがあるのは不思議です。
- ・区役所の昼休みは、交代制として要員を減らさないでほしい。12～13時に出向いても、職員が不足していて十分な対応をしてくれない。
- ・役所の対応が、以前よりもどこの窓口も親切でうれしく思います。

■学校教育（30件）

- ・社会のルール、マナー、公共の中の個人のあり方、思いやりや助け合いの大切さ等、学校教育の中で身に付けていけるようお願いしたい。
- ・教育レベルの水準をより上げていただきたい。生徒と教師のモチベーション向上プログラムの構築を図ってほしい。
- ・学校で生徒のいじめ等が起きない、安心して通える学校教育に期待しています。

■環境対策・公園（26件）

- ・住宅が増えて、緑が少なくなるのはさみしい。
- ・公園の遊具が少ない気がします。また、ボール投げ禁止等、我々が子供の頃に比べていろいろと制限が多い気がします。
- ・公園があまり無いことに驚いています。防犯に重点をおきつつ、緑の多い住みやすい街づくりを期待します。

■足立区のイメージ（25件）

- ・私は足立区民として足立区に誇りをもっていますが、あまり良いイメージをもっていない人が多いと思います。治安の良い、暮らしやすい区となるよう、区を中心に対策を推進してください。
- ・足立区＝治安が悪いというイメージを払拭出来ていないと思います。人に勧めたくなるような魅力的な街にするためにも、治安を良くすることが急務だと思います。
- ・足立区は現在も治安が悪いという印象が残っています。ビューティフル・ウィンドウズ運動を通して、区の印象を良くしてほしい。

■高齢者支援・介護（24件）

- ・高齢者が増え、施設や介護者が足りない現実と今後、自宅介護が更に増えることを踏まえて支援策を考えていただきたいです。
- ・高齢者支援施策を充実してほしい。介護施設を増やしてほしい。

■防災対策（21件）

- ・災害に強い区を目指してほしい。
- ・災害のときの避難場所をはっきり表示していただければありがたいです。

■資源環境対策（18件）

- ・河川等に大型ごみや企業ごみが投棄されている。もっと区と国が連携して監視体制をとってほしい。
- ・資源ごみの管理をしっかりして欲しい。ごみを出しているそばから持ち去る人がいるので厳しく取り締まって欲しい。貴重な資源を失うようで不満です。

■生涯学習（16件）

- ・子育て世代が子連れ、または託児利用で参加出来るイベントをもっと地域学習センターでやってほしい。
- ・生涯学習できるよう、社会人でも参加しやすい夜間講座等を開催してほしい。
- ・スポーツ施設を充実させてほしい。

■保健衛生対策（12件）

- ・野良猫が多く、糞尿の臭いで困っている。野良猫を減らす取り組みをしてほしい。
- ・女性の検診を充実させてほしい。

■障がい者支援（11件）

- ・障がいのある人が通う施設や働ける場所等を増やして欲しいです。
- ・若年の障がい者が社会に出るための施設や支援がもっと増えるといいなと思います（例えば一人暮らしできる住居や交流の場など）。

■雇用促進（11件）

- ・若い人たちに安定した仕事があり、自立した生活ができるよう、雇用を推進してほしい。
- ・高齢者や難病者に就業支援をお願いいたします。

■地域活動支援（9件）

- ・新しい人と昔ながらの人がうまく付き合うことが柔軟にできる、地域づくりを強く希望します。
- ・有料でもいいので、東京芸大のおとあそび親子教室や電機大の理科教室などを定着させて、大学と地域住民の交流を図ってほしい。

■議員・職員数について（6件）

- ・区会議員の数がまだまだ多過ぎると思う。区の職員の数を削減した方がよい。

■区の行事について（3件）

- ・イベント等をもっと区、街ぐるみで行えばさらに活発化するのでは？
- ・足立の花火大会をいつも楽しみにしている。

■その他（118件）

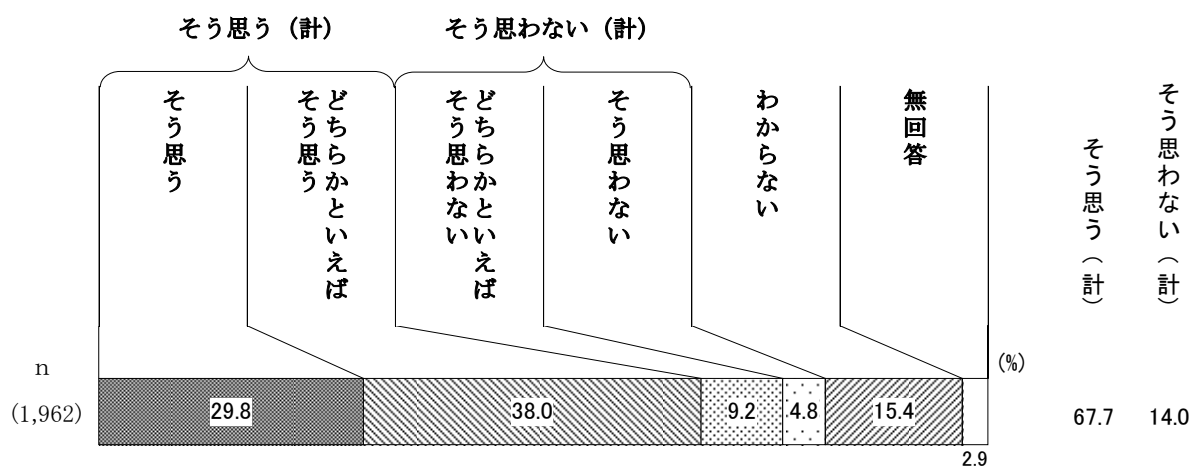
- ・東京オリンピックへの協力について情報の提供をお願いします。足立区の取り組みを理解したいと思います。
- ・区政については今まで関心がなかったのですが、この世論調査に回答してみて、足立区のことを全然分かっていないと実感しました。今後はもう少し関心を持って、もっと足立区について知っていきたいと思います。

(5) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

■ 7割近くの方が有効な内容だと思っている

問38 今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。(○は1つだけ)

図9-5-1 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度

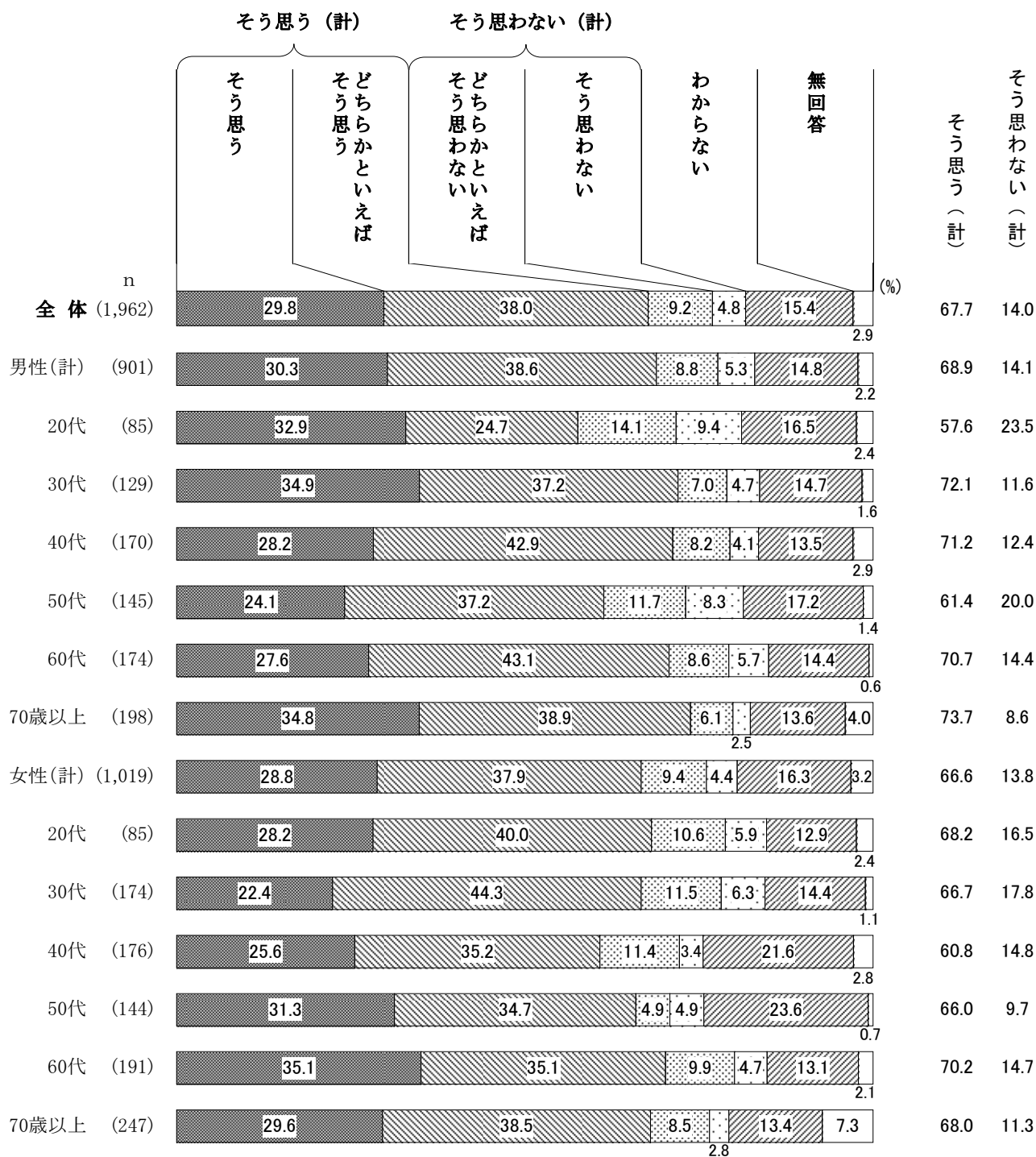


本調査の質問内容が、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】が67.7%となっている。

性別でみると、【そう思う】は、男性68.9%、女性66.6%となっている。

性・年代別でみると、【そう思う】は、男性の30代、40代、60代、70歳以上、女性の60代で70%以上を示している。

図9-5-2 性別、性・年代別／本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度



第4章 使用した調査票

平成25年度（第42回）足立区政に関する世論調査

ご回答にあたって

1. 調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によっては、回答していただく方や○をつける数を指定しておりますので、（ ）内等のことわり書きをよくお読みください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
6. この調査票は、無記名式となっています。調査票と返信用封筒には、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。
7. このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。
8. お聞かせいただいたご意見は、すべて個人が特定できないよう統計的に処理いたします。お名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**9月25日（水）**までにご投函ください（切手を貼る必要はありません）。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。



〔調査主体〕 足立区政策経営部広報室区政情報課
担当：区政情報係
足立区中央本町1-17-1

〔お問合せ先〕 お問い合わせコール あだち
3880-0039

（受付時間：午前8時～午後8時／年中無休）

〔調査受託機関〕 株式会社 サーベイリサーチセンター

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。(〇は1つだけ)

1. 男 性	45.9%	2. 女 性	51.9	無回答	2.1
--------	-------	--------	------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか。(〇は1つだけ)

1. 20～24歳	4.0%	6. 45～49歳	7.8	11. 70～79歳	16.5
2. 25～29歳	4.7	7. 50～54歳	7.4	12. 80歳以上	6.7
3. 30～34歳	6.9	8. 55～59歳	7.5	無回答	1.5
4. 35～39歳	8.6	9. 60～64歳	9.0		
5. 40～44歳	9.8	10. 65～69歳	9.6		

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。(〇は1つだけ)

1. 1年未満	2.7%	3. 5～10年未満	7.5	5. 20年以上	65.7
2. 1～5年未満	10.3	4. 10～20年未満	12.1	無回答	1.7

F 4 あなたのお住まい(住居)は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 一戸建て持家	42.7%	6. 社宅・公務員住宅・寮	0.9
2. 一戸建て借家	2.4	7. 間借り・住み込み	0.5
3. 分譲マンション	19.8	8. その他()	0.8
4. 賃貸マンション・アパート	18.2	無回答	1.5
5. 公団・公社・都営住宅・区営住宅	13.3		

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(〇は1つだけ)

1. 自営業・事業主	10.8%	6. 学 生	1.4
2. 自由業(開業医、弁護士、芸術家など)	1.5	7. 無 職(年金生活を含む)	22.5
3. 会社員・公務員	31.9	8. その他()	2.3
4. パート・アルバイト	13.0	無回答	1.6
5. 主に家事に従事(専業主婦など)	15.1		

F 6 あなたの就労場所（就学場所）は次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

1. 自 宅	10.8%	5. 茨城、神奈川、埼玉、千葉	9.6
2. 足立区内	28.8	6. その他（ ）	1.4
3. 足立区外の東京22区	45.5	無回答	0.3
4. 23区以外の東京	3.6		

F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

1. ひとり暮らし	14.8%	4. 祖父・祖母	2.1	7. 兄弟・姉妹	7.3
2. 配偶者	60.4	5. 子ども	43.1	8. その他（ ）	2.9
3. 父・母	16.5	6. 孫	3.1	無回答	1.7

F 8 あなたご自身は、次の1から12のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

※「子ども」は同居・別居を問いません

◎ 独身で子どもがいない	・・・・・・・・・・・・・・・・	1	22.5%
◎ 離別・死別などにより配偶者はいないが子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	・・・	2	0.3
一番上の子どもが小学生	・・・・・・・・	3	0.4
一番上の子どもが中学生	・・・・・・・・	4	0.4
一番上の子どもが高校・大学生	・・・	5	0.8
一番上の子どもが学校卒業	・・・・・・・・	6	8.8
◎ 配偶者がいて子どもがいない	・・・・・・・・・・・・・・・・	7	12.5
◎ 配偶者がいて子どもがいる			
一番上の子どもが小学校入学前	・・・	8	7.4
一番上の子どもが小学生	・・・・・・・・	9	5.1
一番上の子どもが中学生	・・・・・・・・	10	3.4
一番上の子どもが高校・大学生	・・・	11	5.1
一番上の子どもが学校卒業	・・・・・・・・	12	24.1
無回答			9.2

次のページからも引き続きお答えください ⇒



お住まいの地域について、おうかがいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	そう 思う	どちら かとい えば そう 思う	どちら かとい えば そう 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら ない	無 回 答
ア. 通勤や通学などの交通の便がよい	32.7%	35.7	12.2	12.4	2.5	4.4
イ. 子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている	12.9	34.4	12.3	8.7	25.9	5.9
ウ. 地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている	8.9	32.0	17.8	11.0	26.2	4.2
エ. 利用しやすい公園がある	30.9	35.5	12.5	10.8	6.7	3.6
オ. 普段の買い物が便利である	40.6	36.2	11.2	9.1	0.7	2.2
カ. 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている	7.1	22.1	26.8	37.5	3.8	2.8
キ. 快適で安全なまちづくりが進められている	6.5	37.0	25.0	17.8	10.7	3.1
ク. 景観・街並みが魅力的になってきている	6.0	31.4	28.1	23.3	8.0	3.3

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	減少					増加	
	減 ら か に 明 ら か に 減 っ て い る	ど ち ら か と い え ば 減 っ て い る	い ま ま と 変 わ ら な い	ど ち ら か と い え ば 増 え て い る	明 ら か に 増 え て い る	わ か ら ない	無 回 答
ア. ごみやタバコのポイ捨て	13.9%	39.6	30.3	5.4	2.4	6.3	2.1
イ. ペットの糞	9.9	33.5	32.9	8.1	5.5	7.6	2.5
ウ. まちなかの花や緑	2.7	7.9	47.8	26.1	5.5	8.0	2.1
エ. 防犯パトロール	2.9	7.7	41.4	21.8	6.5	17.6	2.1

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(〇は1つだけ)

1. 暮らしやすい	23.7%	3. どちらかといえば暮らしにくい	16.4
2. どちらかといえば暮らしやすい	55.7	4. 暮らしにくい	3.2
		無回答	1.1

(問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に)

問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(〇は3つまで)

1. 自然が少ないこと	12.2%
2. 公共施設や介護・医療施設が不十分なこと	21.9
3. 交通の便が悪いこと	42.7
4. 買い物がしにくいこと	25.8
5. 子育て環境が悪いこと	7.0
6. 教育環境が整っていないこと	5.2
7. 住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと	44.0
8. 職場や学校から遠いこと	7.3
9. 災害対策が不十分なこと	9.4
10. 治安が良くないこと	31.3
11. 家の広さなどの居住環境が悪いこと	9.6
12. 地域の人間関係が希薄なこと	18.0
13. 行政のサービスが良くないこと	10.4
14. その他()	8.6
無回答	0.3

問4 あなたは、足立区に今後も住みたいと思いますか。(〇は1つだけ)

1. ずっと住みたい	37.0%	4. わからない	14.8
2. 当分は住みたい	40.0	無回答	1.0
3. 区外に転出したい	7.3		

大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいたします

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。（○は1つだけ）

1. 災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している	22.1%
2. 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある	46.3
3. 特に用意していない ⇒ 問6へ	29.2
無回答	2.4

（問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に）

問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

（○はあてはまるものすべて）

1. 水	92.1%	10. 消火器	23.9
2. 食料（缶詰、アルファ米、 インスタント食品など）	89.0	11. ペット対策用品（ケージ・エサ等）	6.8
3. あかり（ろうそく・懐中電灯等）	82.0	12. 水の確保用品（ポリタンク・水袋等）	26.0
4. 情報収集手段（携帯ラジオ等）	56.8	13. 救助用工具（バール・ハンマー等）	11.0
5. 医薬品（常備薬を含む）	40.3	14. ヘルメット	16.6
6. 衣類	24.3	15. 救急セット	21.4
7. 生理用品	18.0	16. 避難ロープ	8.3
8. 簡易トイレ	19.0	17. 防災袋（非常用持出袋）	34.6
9. 電池・予備バッテリー	50.9	18. その他（ ）	2.9
		無回答	0.3

（問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に）

問5-1-1 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

回答例	1週間分以上	3日以上 1週間分未満	1日以上 3日分未満	1日分程度	1日分未満	無回答
ア. 水	10.9%	27.6	43.9	12.6	4.0	1.0
イ. 食料	6.5	25.6	49.1	13.7	3.9	1.1

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

《 問7へお進みください 》

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいたします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか。(〇は1つだけ)

1. 町会・自治会からもらう	13.6%	5. 考えていない	37.3
2. 知人、親戚からもらう	3.8	6. その他（	8.6
3. 区役所からもらう	9.1	無回答	1.0
4. 通常どおりスーパーなどで購入する	26.5		

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか。(〇は1つだけ)

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

1. すべての家具類に対策を行っている	3.6%	3. 対策をしている家具類は少ない	36.4
2. 対策をしている家具類が多い	24.3	4. 対策を行っていない	34.3
		無回答	1.4

(問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方へ)

問7ー1 どのような理由からですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 方法がわからない	12.8%
2. 金具などが高価である	11.3
3. 家具にキズをつけたくない	7.4
4. 建物の壁にキズをつけたくない	21.5
5. 建物に取り付ける場所がない	15.4
6. 室内に危険性のある家具類がないため不要である	22.4
7. 面倒である	27.1
8. 手が届かない等手助けがないと取り付けができない	13.5
9. 地震で家具が倒れたり移動するとは思わない	5.2
10. (賃貸のため)勝手に取り付けられない	20.8
11. その他（	8.4
無回答	1.7

第4章 使用した調査票

問8 足立区では、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度を設けています。この制度を知っていますか。

(○は1つだけ)

※ 助成の対象者 ①60歳以上の方を含む世帯、②一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、
③世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯

1. 知っていて、既に利用した	0.9%	4. 知らない	85.2
2. 知っているが、利用したことはない	7.5	無回答	2.8
3. 知っているが、対象とならないので利用できない	3.6		

問9 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。(○は5つまで)

1. 町会・自治会等地域の防災力向上に係る支援	23.7%
2. 子どもへの防災教育の充実	12.9
3. 講演会等による普及啓発や区主催の訓練	1.9
4. 耐震診断・耐震改修事業などの促進	17.5
5. 木造密集地域等災害危険箇所の解消	13.3
6. ライフラインやエネルギーの確保	55.5
7. 津波対策	6.6
8. 関係機関・他自治体等との応援体制の充実	10.7
9. 災害に関する情報提供体制の充実	24.7
10. 災害時医療体制の充実	40.3
11. 帰宅困難者対策	19.2
12. 避難所の管理運営体制の充実	16.6
13. 避難所施設の設備等の充実	32.6
14. 高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実	30.0
15. 女性の視点に立った防災対策	9.5
16. 災害時のペット対策	8.7
17. 水・食料等災害用備蓄の充実	56.8
18. 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	50.6
19. その他 ()	1.1
20. 特にない	1.5
無回答	2.7

区の情報発信のあり方について、おうかがいいたします

足立区では、あだち広報やホームページ、メール配信システム(A-メール)等で区の情報を発信するほか、25年度からはツイッターやフェイスブックなどによる情報発信も開始しました。

問10 あなたは、足立区に関する情報をどのような手段で入手していますか。

(○はあてはまるものすべて)

1. あだち広報	79.7%	8. 新聞(区内紙、一般紙)	17.9
2. ときめき	45.7	9. テレビ、ラジオ	17.3
3. あだち わたしの便利帳	26.0	10. JCN足立(ケーブルテレビ)	10.2
4. インターネット	24.2	11. 人から聞く	12.5
(区のホームページ、A-メール、 ツイッター、フェイスブック)		12. 防災無線	5.0
5. ポスター、チラシ	12.8	13. その他()	0.5
6. 区民事務所などの窓口	5.4	14. 特に入手していない	6.9
7. 町会・自治会掲示板・回覧板	33.9	無回答	2.0

問11 あなたは、区が発信するどのような情報が必要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 国保・年金・税などに関する届出や証明に関する情報	53.8%
2. 検診や生活支援など健康や福祉に関する情報	61.7
3. 出産や育児、就学など子どもや教育に関する情報	24.6
4. イベントやスポーツ施設、図書館など生涯学習や余暇活動に関する情報	27.5
5. 災害や気象に関する情報	52.0
6. 光化学スモッグや大気測定などの測定値情報	24.0
7. ごみ・リサイクルなど環境に関する情報	39.6
8. その他()	2.6
9. 特にない	5.2
無回答	2.9

問12 あなたは、必要な時に必要とする区の情報を得られていますか。(○は1つだけ)

1. 十分に得られている	3.3%	3. 得られないことが多い	14.8	5. わからない	19.8
2. ある程度得られている	57.2	4. まったく得られない	2.5	無回答	2.4

(問12で「3. 得られない～」、または「4. まったく～」とお答えの方に)

問12-1 どのような理由からですか。(○は1つだけ)

1. 情報が探しにくい	52.9%	4. 情報の内容がわかりにくい	16.8
2. 情報量が少ない	17.4	5. その他()	6.2
3. 情報伝達が遅い	5.3	無回答	1.5

健康について、おうかがいたします

足立区では、患者数が多く重症になると生活の質が低下してしまう糖尿病対策に、重点的に取り組むこととしました。

問13 あなたは、糖尿病という病気を知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている	78.8%	3. 知らない	0.6
2. 詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある	19.7	無回答	0.9

※ 糖尿病とは血液中のブドウ糖の濃度（血糖値）が高くなり、その状態が続いてしまう病気です。インスリンという血糖値を調節するホルモンの量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。日本人の糖尿病の大部分は、過食・肥満・運動不足・ストレスといった生活習慣や遺伝が要因となっているため、予防が大切です。

問14 以下の項目の中で、糖尿病が進行するとあらわれる病気や障がいであると、あなたが思うものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 神経障がい (手足のしびれ)	32.3%	5. 脳梗塞	29.3	10. 足の壊疽	61.3
2. 網膜症	29.1	6. 心筋梗塞	30.8	11. その他()	0.9
3. 白内障	25.0	7. 口の渇き	49.6	12. わからない	5.5
4. 腎不全	35.9	8. 人工透析	44.2	無回答	2.0
		9. 失明	73.2		

問15 あなたは、食事の際に野菜から食べ始めることが、糖尿病の予防に効果があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている	41.8%	3. 知らない	26.6
2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある	30.7	無回答	0.9

※ 糖尿病が進行して起こる様々な合併症は、食後に血糖値が急上昇し、血管を傷つけることが原因で起こります。このような血糖値の急上昇を抑えるためには、食事の最初に野菜を良くかんで食べることが効果的です。

問16 1日の野菜摂取量の目標は350g以上（調理前の生の状態で）です。あなたは、毎日350g以上の野菜が摂取できていますか。(〇は1つだけ)

※ 野菜350gとは、1例をあげると、レタス1枚、きゅうり1本、プチトマト2個、にんじん1/2本、たまねぎ1/2個の合計に相当する量です。

1. できている	11.1%	3. あまりできていない	38.9	5. わからない	3.4
2. まあできている	29.5	4. できていない	16.5	無回答	0.8

問17 あなたの体調や習慣についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

	あてはまる	あてはまらない	無回答
ア. 現在の健康状態はよい	69.6%	26.0	4.4
イ. 疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	19.2	75.3	5.5
ウ. 習慣的にタバコを吸っている	22.9	72.0	5.0
エ. 安心して受診できる医療機関が身近にある	65.4	31.4	3.2

問18 あなた自身が健康維持のために実行している、または心がけているものをお答えください。
(○はあてはまるものすべて)

1. 毎年健康診断を受けている	62.5%
2. がん検診を定期的に受けている	14.9
3. 毎日朝ごはんを食べている	68.1
4. 毎食、野菜料理（野菜料理：サラダ・お浸し・野菜の煮物・野菜炒め・ 具たくさん味噌汁など）を食べるように心がけている	45.1
5. 主食、主菜、副菜をそろえて食べるように心がけている	42.0
6. 食品の表示（添加物、消費期限など）を見て購入している	42.1
7. 食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、 食中毒予防のための注意をしている	52.3
8. 健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある （ウォーキングや体操など）	35.0
9. その他（ ）	4.4
10. 特になし	5.1
無回答	0.6

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、おうかがいたします

問19 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動（※）」という取り組みを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。



イメージキャラクター「ビュー坊」

1. 知っていて、活動を実践している	3.6%	4. 知らない	
2. 知っているが、特に何も行ってない	15.3	（初めて聞いた）	59.0
3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	20.5	無回答	1.5

問20 あなたは、平成24年の足立区内の刑法犯認知件数（※）が、都内ワーストを脱却し、37年ぶりに1万件を下回ったことを知っていますか。（○は1つだけ）

※ 警察が犯罪について、被害の届出等によりその発生を確認した件数。ただし、交通違反等を除きます。

1. 知っている	29.7%	2. 知らない（初めて聞いた）	68.3	無回答	1.9
----------	-------	-----------------	------	-----	-----

問21 あなたは、お住まいの地域の治安（※）について、どのように感じていますか。

（○は1つだけ）

※ 犯罪が少なく、世の中の秩序が保たれている状態のことです。

1. 良い	5.6%	3. どちらかといえば悪い	29.6	5. わからない	15.4
2. どちらかといえば良い	40.5	4. 悪い	7.6	無回答	1.4

（問21で「1. 良い」、または「2. どちらかといえば良い」とお答えの方に）

問21-1 どのような点で区内の治安が良いと感じますか。（○は2つまで）

1. テレビや新聞などで犯罪発生のニュースが少ないから	21.8%
2. 犯罪の発生件数が減っているということを聞いたから	16.7
3. 自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから	64.5
4. 青パトなど自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから	24.0
5. 道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくいと感じられるから	27.6
6. 区全体の防犯に取り組む意識、活動が活性化してきていると感じられるから	10.1
7. その他（ ）	1.7
無回答	1.3

問21-2へ

(問21で「3. どちらかといえば悪い」、または「4. 悪い」とお答えの方に)

問21-2 どのような点で区内の治安が悪いと感じますか。(〇は2つまで)

1. 殺人、強盗、放火などの凶悪犯罪の発生が多いから	20.0%
2. 自転車盗難、空き巣など生活に身近な犯罪が多発しているから	51.9
3. 子どもに対する「不審な声かけ事案等」の発生が多いから	17.0
4. 街路灯が少なく、暗い路地や公園が多いから	23.3
5. 深夜の公園やコンビニに若者が集まっていることが多いから	34.8
6. 隣近所の連帯感がなくなり、相互に安全を守る意識が欠けているから	18.9
7. その他（ ）	10.2
無回答	0.5

ここから再び、すべての方におうかがいたします

問22 あなたが、治安対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。

(〇は2つまで)

1. 犯罪の発生や検挙情報など生活安全に関する情報の提供	19.6%
2. 防犯カメラなど防犯設備の設置等に対する支援	51.5
3. 地域住民による防犯パトロール活動への支援（防犯用品の貸与等）	10.9
4. 防犯講習会の開催	1.6
5. 街頭キャンペーンやイベントの実施	2.0
6. 安全に配慮した道路、公園の整備	42.3
7. 安全・安心パトロールカー（青パト・青バイ）による防犯パトロール	43.7
8. その他（ ）	2.2
9. 特になし	3.4
無回答	2.0

問23 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。(〇は1つだけ)

1. いつも鍵をかけている	73.5%
2. 鍵をかけることが多い（時々鍵をかけ忘れることがあるを含む）	8.6
3. 鍵をかけることは少ない	1.9
4. 鍵はかけていない（錠がついていない、錠が壊れているを含む）	0.6
5. 自転車を持っていない、使っていない	13.5
無回答	2.0

環境・地域活動について、おうかがいたします

問24 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。（〇はあてはまるものすべて）

1. ごみと資源の分別を実行している	87.0%
2. くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている	41.1
3. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	52.9
4. 環境に配慮した製品を選んで使っている	12.7
5. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	57.1
6. その他（ ）	1.1
7. 特にない	3.2
無回答	2.7

問25 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。（〇はいずれも、あてはまるものすべて）

内 容	この1年間に 参加された活動	引き続き、また は今後参加したい と思う活動
1. 町会や自治会の運営に関する活動	11.8%	8.9
2. 町会や自治会、老人会、子ども会などのイベントや催し物	14.3	14.0
3. 花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物	22.8	26.0
4. ボランティアやNPO（民間の非営利活動の組織）などの活動	3.7	6.7
5. まちの美化活動（ごみ拾い、門掃き、公園の清掃など）	8.2	10.8
6. 自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置などの緑化活動	7.4	10.4
7. 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	5.5	7.6
8. お囃子、獅子舞など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	0.9	3.8
9. 家族、地域の健康づくりを支援する活動（健康講座に友人を誘う、講座で得た知識を周囲の人に伝えるなど）	3.6	6.6
10. 特に参加していない・特にない	41.2	24.7
無回答	18.3	31.6

問26 あなたは、区役所が区民・団体等と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか。（〇は1つだけ）

1. そう思う	8.0%	4. そう思わない	9.1
2. どちらかといえばそう思う	22.1	5. わからない	47.7
3. どちらかといえばそう思わない	9.2	無回答	4.1

「孤立ゼロプロジェクト」等について、おうかがいいたします

問27 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか。

（○は1つだけ）

※ 「孤立ゼロプロジェクト」とは地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

1. 知っていて、内容も概ね理解している	8.7%	3. 知らない（初めて聞いた）	68.3
2. 聞いたことはあるが、内容はわからない	21.2	無回答	1.9

（問27で「1. 知っていて、内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問27-1 プロジェクトのことをどのように知りましたか。（○はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	67.1%	4. 近所の方から聞いた	8.8
2. 町会・自治会の方から聞いた	34.1	5. その他（ ）	14.1
3. 民生委員の方から聞いた	11.2	無回答	0.6

問28 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動を中心となって支援している「地域包括支援センター（※）」を知っていますか。（○は1つだけ）

※ 「地域包括支援センター」とは足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

1. 知っていて、業務内容も概ね理解している	14.1%	2. 聞いたことはあるが、詳しくはわからない	30.5
		3. 知らない（初めて聞いた）	53.1
		無回答	2.3

（問28で「1. 知っていて、業務内容も概ね理解している」とお答えの方に）

問28-1 「地域包括支援センター」のことをどのように知りましたか。

（○はあてはまるものすべて）

1. あだち広報	52.5%	4. 近所の方から聞いた	10.9
2. 町会・自治会の方から聞いた	16.7	5. その他（ ）	42.4
3. 民生委員の方から聞いた	9.1	無回答	1.1

問29 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか。（○は1つだけ）

1. 積極的に協力したい	1.7%	4. 興味がない、協力したくない	7.2
2. 負担にならない範囲で協力してもよい	16.9	5. わからない	26.0
3. 協力したいが、時間などに余裕がない	43.6	無回答	4.5

（問29で「1. 積極的に協力～」、または「2. 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に）

問29-1 どのような活動に協力したいですか。（○はあてはまるものすべて）

1. 調査活動（主に高齢者のみの世帯を訪問し「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査すること）	29.7%
2. 寄り添い支援活動（主に高齢者のみの世帯を定期的に訪問して体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかひの活動のこと）	43.7
3. 居場所づくりや活動の場での協力（住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなど）	41.2
4. 財政的協力（活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助）	8.0
5. その他（ ）	6.0
無回答	6.0

問30 あなたは、高齢者等の権利を守るしくみとして、「成年後見制度」を知っていますか。

（○は1つだけ）

1. 内容まで知っている	18.1%	3. 知らない	42.7
2. 名前は知っているが、内容はわからない	37.0	無回答	2.2

ユニバーサルデザインについて、おうかがいたします。

問31 ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、障がいの有無など個人の様々な状況に関わらず、できる限り多くの人が利用しやすいように配慮されたデザイン（設計）のことです。あなたは、ユニバーサルデザインについてどの程度知っていますか。（○は1つだけ）

1. 具体的な取り組み事例なども知っている	5.9%	4. 知らない	54.5
2. 言葉の意味は知っている	15.5	無回答	2.5
3. 言葉を聞いたことがある	21.5		

問32 あなたは、ユニバーサルデザインに関心をお持ちですか。（○は1つだけ）

1. 非常に関心がある	2.9%	3. 関心がない	21.8	無回答	5.7
2. 少しは関心がある	27.5	4. わからない	42.1		

（問32で「1. 非常に関心がある」または「2. 少しは関心がある」とお答えの方に）

問32-1 ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）に関することで、今後、あなたはどのような取り組みを行いたいですか。（○は3つまで）

1. 講座やシンポジウムなどに参加して、UDのことを勉強したい	19.8%
2. UDについて勉強したことを周りの人に伝えたい	5.7
3. 地域のお年寄りや障がいのある人などの手助けや心配りに努めたい	36.4
4. 地域の人と一緒に、日常生活上不便や不安に思われるところを見つけ、改善したい	29.0
5. 行政や事業者に生活者としての意見を提案したい	13.9
6. UDについては、普段から取り組んでいるので、改めて取り組む必要はない	0.7
7. UDの推進には協力するが、主体的には参加しない	28.5
8. その他（ ）	2.0
9. 特にない	11.4
無回答	1.5

問33 あなたは、ユニバーサルデザイン（以下「UD」と表記します）を推進していく上で、どのような取り組みが必要だとお考えですか。（○は3つまで）

1. UDを取り入れたまちづくりや施設整備	33.4%
2. UDに関する教育や人づくり	19.1
3. UDに関する情報提供（広報誌やホームページを活用）	24.2
4. UD普及啓発のための講演会やセミナーの開催	5.0
5. UDを取り入れた施設等の見学や体験事業	15.6
6. UDを推進していくための委員会の設置	4.6
7. その他（ ）	1.0
8. 特にない、わからない	38.4
無回答	12.8

足立区の取り組みについて、おうかがいたします

問34 足立区の取り組みについて、あなたの現状評価（満足度）と今後の取り組みの重要度について、最も近いものを選んでください。（〇はいずれも、それぞれ1つずつ）

区の取り組み	内 容	現状評価（満足度）				
		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	9.0%	50.7	19.8	5.5	15.1
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	4.9	47.6	23.8	7.5	16.2
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	5.2	49.0	26.6	4.1	15.1
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	3.4	46.7	28.4	3.9	17.6
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	5.6	47.8	25.1	4.5	16.9
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	8.4	51.3	21.0	4.5	14.8
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	6.2	43.4	30.0	7.6	12.8
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	6.3	43.9	27.1	6.7	16.0
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	8.7	52.4	21.3	4.0	13.6
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	6.7	34.9	28.9	14.0	15.4
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	4.5	43.4	28.1	6.3	17.6
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など	6.0	42.9	26.5	11.9	12.7
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	11.8	54.6	17.2	4.0	12.4

区取り組み	内 容
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など
二. 区政全体として	

現状評価（満足度）				
満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
5.6%	46.0	28.1	8.3	12.1
3.9	44.5	29.0	7.9	14.6
5.7	40.2	28.3	14.3	11.6
3.8	39.4	34.7	8.9	13.3
9.6	53.0	20.6	5.9	10.9
10.1	52.9	18.9	6.4	11.7
13.6	45.8	21.0	9.4	10.2
5.9	46.7	25.7	9.7	12.0
5.9	53.2	22.5	5.1	13.3

区での取り組み	内 容
ア. 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など
イ. 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
ウ. 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
エ. 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
オ. 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
カ. 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
キ. 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など
ク. 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
ケ. 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
コ. 低所得者対策	生活の援助や自立支援など
サ. 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
シ. 治安対策	防犯パトロールやビューティフル・ウィンドウズ運動、警察との連携など
ス. 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど

重要度				
重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
52.4%	28.4	3.3	2.3	13.6
50.8	30.4	3.5	1.4	13.9
23.0	47.2	11.3	4.6	13.9
16.9	47.9	14.0	6.3	14.9
17.9	42.6	17.0	7.7	14.8
21.0	46.8	13.0	5.0	14.1
49.2	34.0	3.5	1.6	11.8
43.7	35.2	4.4	2.5	14.1
42.7	39.4	4.0	0.8	13.1
32.4	37.1	11.3	5.4	13.9
25.5	43.0	11.3	4.6	15.5
54.9	29.6	2.3	0.9	12.2
41.7	39.4	4.3	2.4	12.1

区取り組み	内 容
セ. 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど
ソ. 住宅対策	良質な住宅の供給支援など
タ. 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など
チ. 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
ツ. 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など
テ. 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
ト. 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
ナ. 行政改革	区政の透明化や区民サービスの向上など

重要度				
重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
31.3%	45.9	8.4	2.2	12.2
27.7	43.2	12.2	4.0	12.9
49.7	34.4	3.8	0.5	11.7
54.9	30.5	2.4	0.3	11.9
33.3	44.2	8.9	2.7	10.9
32.6	45.1	8.5	1.9	12.0
38.5	38.9	9.0	1.6	11.9
42.3	38.4	6.0	1.0	12.3

問35 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると感じていますか。(〇は1つだけ)

1. そう思う	4.1%	4. そう思わない	10.7
2. どちらかといえばそう思う	27.5	5. わからない	34.6
3. どちらかといえばそう思わない	18.4	無回答	4.7

《 裏が最終ページです 》

問36 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
ア. 足立区に愛着をもっている	29.5%	44.2	10.3	8.3	4.2	3.6
イ. 足立区に誇りをもっている	14.1	31.1	25.1	16.9	8.4	4.5
ウ. 足立区を人に勧めたい	12.7	29.9	22.0	17.8	12.2	5.4

問37 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

問38 多数の質問にお答えいただき、ありがとうございました。最後におうかがいいたします。

今回の調査の質問内容は、区民のニーズや意識を把握するうえで有効な内容だと思いますか。

(○は1つだけ)

1. そう思う	29.8%	4. そう思わない	4.8
2. どちらかといえばそう思う	38.0	5. わからない	15.4
3. どちらかといえばそう思わない	9.2	無回答	2.9

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、
返信用封筒に入れて **9月25日(水)** までにご投函ください。



ご協力ありがとうございました

第42回 足立区政に関する世論調査

2014年3月発行

発 行 足立区

編 集 足立区政策経営部広報室区政情報課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111（代表）

実 施 （株）サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2-40-10
電話 03-3802-6724

印刷登録番号25-460

この報告書は再生紙を使用しています。



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室区政情報課